

Antenna House PDF Server V4.0

ユーザーズマニュアル



著作権について

本書とソフトウェア、及びそれらに記載されている内容は、著作権法によって保護されています。本書の内容の一部、または全部をアンテナハウス株式会社の書面による許可なく、複製、送信、情報検索のために保存すること、日本語以外の言語に翻訳することを禁じます。Adobe、Acrobat、および Distiller は、Adobe Inc. (アドビ株式会社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Word、Excel、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation (マイクロソフト株式会社) の米国およびその他に国における登録商標または商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

その他の会社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

製品の保証について

ユーザーが、本ソフトウェア、及びマニュアルを使用することによって生じた、または使用できることによって生じたすべての損害について、アンテナハウス株式会社、またはその代理人が有形または無形の責任を負うことは一切ありません。

一般的な注意事項

本書で使用している図版は、それぞれ典型的な例であり、実際にソフトウェアを利用している最中の画面、または実物と必ずしも一致しない場合があります。

あらかじめご了承ください。

本書、及びソフトウェアに記載されている事項は、将来改良の為、予告なく変更されることがあります。

目次

著作権について	i
製品の保証について	i
一般的な注意事項	i
はじめに	1
PDF Server について	2
PDF Server のエディション構成について	3
ユーザーサポートについて	4
PDF Server を利用するためには必要なシステム	5
オペレーティングシステム（O S）	5
Microsoft Office	6
ハードウェア	7
PDF Server のインストール	8
Ver.3.x からのバージョンアップ	9
PDF Server のインストール	11
PDF Server 評価版から正規版への変更	20
PDF コンバーターについて	22
PDF Server のアンインストール	30
PDF Driver のアンインストール	31
PDF Server について	32
PDF Server の概要	33
入力ファイル	35
出力ファイル	37
PDF Server のシステム構成	38
PDF Server サービス（AH PDF Server V4 Service）	39
PDF コンバーター	40
PDF Server コントロールセンター	41
PDF スプリッタ	42
ログビューア	43
変換設定編集ツール	44
Antenna House PDF Driver Ver.8.0	45
PDF Server コマンド【プロフェッショナル／コマンドライン版のみ】	46
QR コード作成ツール	47
PDF Server コマンド GUI【プロフェッショナル／コマンドライン版のみ】	48

ライセンス情報表示ツール【コマンドライン版のみ】	49
ソフトウェア間の連携について	50
通信ポートを変更するには	50
PDF Server のエディションと評価版について	51
PDF Server の運用について	52
PDF Server を動作させるコンピュータのハードウェア環境について	52
運用規模の推定	54
メインテナンスについて	55
PDF Server についての基礎知識	56
タスクについて	56
基本的なファイル変換の流れ	58
テキストファイル変換	59
イメージファイル変換	60
オフィスファイル変換（Office 使用）	61
オフィスファイル変換（直接変換）	62
アプリケーション変換	63
PDF 変換	64
自動ログオンと PDF Server の自動起動	65
PDF Server の自動起動	66
自動ログオン	68
再起動	69
自動再起動	70
サービス停止による再起動	76
タスク設定のテクニック	78
PDF 編集の簡略化	79
PDF/A、PDF/X 変換	81
Web 表示に最適化	84
OCR	85
QR コード（二次元バーコード）	88
QR コードの貼り付け	89
QR コードの読み取り	90
閲覧制限期限	93
結合	95
トリガーファイル	96
タスクの連動	97
タスクの連動について留意する事	97

PDF Server コマンド [プロフェッショナル版/コマンド版]	99
PDF Server コマンドの注意事項.....	99
コマンドライン実行機能のマルチプロセス対応について	101
Microsoft Office 文書の PDF ファイルへのマルチプロセス変換についての注意	104
コマンドの起動スイッチ／オプション	105
コマンド終了時の状態の取得.....	110
コマンドの使用例.....	112
【重要】 PDF Server の制限事項.....	117
PDF Server 全般についての制限事項	118
PDF Server が取り扱うことができるファイルのフルパスについての制限事項.....	119
オフィス変換(Office 使用)による Microsoft Office ファイル変換時の制限事項.....	121
オフィス変換(直接変換)による Microsoft Office ファイル変換時の制限事項.....	123
アプリケーション変換時の制限事項	125
PDF Driver 設定の制限事項	127
OCR の制限事項	128
TIFF の制限事項	129
ログの制限事項	130
PDF Server コマンドの制限事項.....	131
その他の制限事項.....	132
PDF Server の設定	133
PDF Server V 4.0 コントロールセンター【プロフェッショナル版／スタンダード版のみ】	134
監視タスクの設定	137
PDF Server の監視タスクで使用するフォルダの設定.....	138
PDF Server が出力することができるファイル形式	139
監視タスクの作成／編集.....	140
タスク基本情報の設定	141
監視時間設定	143
入力ファイル設定	145
処理対象ファイル形式.....	146
成功時の入力ファイル処理方法.....	148
失敗時の入力ファイル処理方法.....	149
出力ファイル設定	150
ファイル出力先	151
ファイル出力先の追加.....	156
無効／除外ファイル設定	157

ファイル結合／分割設定	160
トリガーファイル設定	164
変換設定	166
変換設定ツールの起動	167
変換設定の作成／編集	169
入力設定	170
オフィス設定 (Office 使用)	171
Word 設定 (Office 使用)	172
Excel 設定 (Office 使用)	175
PowerPoint 設定 (Office 使用)	178
オフィス設定 (直接変換)	181
基本設定 (直接変換)	182
Word 設定 (直接変換)	184
Excel 設定 (直接変換)	186
PowerPoint 設定 (直接変換)	188
アプリケーション変換設定	189
PDF Driver 設定	191
テキスト設定	194
マスク設定	197
領域指定ツールを利用した領域指定	201
領域指定ツールによるマスク領域の指定	202
領域指定ツールによるマスク領域の修正	205
領域指定ツールによるマスク領域の削除	206
OCR 設定	207
OCR 処理設定	208
QR コードのデータ書式について	211
OCR エンジン設定	212
OCR 領域設定	214
領域指定ツールを利用した OCR 領域指定	217
領域指定ツールによる OCR 領域の指定	219
領域指定ツールによる OCR 領域の修正	222
領域指定ツールによる OCR 領域の削除	223
出力設定	224
PDF 設定	225
基本設定	226
高压縮設定	228

開き方設定	231
文書情報設定	235
セキュリティ設定	238
閲覧制限設定	245
ヘッダ設定	248
フッタ設定	251
テキストウォーターマーク設定	254
イメージウォーターマーク設定	258
QR コード貼付設定	263
TIFF 設定	266
JPEG 設定	268
テキスト設定	270
PDF Server V4.0 コマンド GUI 【プロフェッショナル／コマンドライン版のみ】 ..	272
PDF Server の共通設定	278
PDF Server のログ	284
PDF コンバーターを使ったダイアログ自動応答	285
PDF スプリッタ 【プロフェッショナル／スタンダード版のみ】 ..	287
ライセンス情報表示ツール	292
トラブルシューティング	294
付録	301
ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字	302
日付のフォーマットオプションについて	303
時刻のフォーマットオプションについて	304
PDF Server の対応画像形式について	305
PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」の印刷設定	306
Antenna House PDF Driver 8.0 の印刷設定について	308
一般	310
PDF バージョン	314
色	318
圧縮	322
フォント	325
セキュリティ設定	327
透かし	333
開き方	336
情報	340

はじめに

「Antenna House PDF Server V4.0」（以降、「PDF Server」と略す）は、指定したフォルダ内のドキュメントをあらかじめ設定した内容で自動的にPDFファイルなどに変換する事ができるフォルダ監視型のサーバーサイドソフトウェアです。本マニュアルでは、製品の導入から設定方法、制限事項など、製品を利用するための重要な情報が記載されております。

「PDF Server」は、可能な限りどなたでも簡単に操作できるようにデザインされていますが、効果的にご利用いただくためにも、使用する前に本マニュアルを良くお読みください。また、本マニュアルは、本製品をお使いになるユーザーが、ご利用になられているWindowsオペレーティングシステムに関する最低限の操作方法（マウスの操作方法等）や用語（クリック、ドラッグ、フォルダ等）を既に修得／理解されていることを前提に作成されています。そのため、Windowsオペレーティングシステムの使用方法についての説明が、省略されています。

Windowsオペレーティングシステムの使用方法について詳しくは、それぞれのマニュアル、関連書籍等を参照してください。

PDF Server について

「PDF Server」は、ローカルディスクまたはネットワーク上のフォルダを定期的に監視し、

- 取得した画像ファイル／PDF ファイルを対象に OCR (Optical Character Recognition/Optical Character Reader : 光学文字読み取り) 処理を施し、得られたテキストを埋め込んだ PDF ファイル、またはテキストファイルを出力
- 取得した Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) 文書、TEXT ファイルを PDF ファイルに変換
- 取得した一太郎文書ファイルを PDF ファイルに変換
- 取得／生成した PDF ファイルの編集／加工

を行う、ファイル変換サーバーアプリケーションです。

PDF Server のエディション構成について

PDF Server には、以下に示す 3 つのエディションがあります。エディションによって利用可能な機能が異なります。

- **スタンダード**

フォルダ監視による変換機能のみを利用できるエディションです。また、同時に起動できる監視タスクの数が、最大 5 個までに制限されています。

- **プロフェッショナル**

PDF Server のすべての機能を利用できるエディションです。スタンダード版の機能に加え、コマンドライン実行機能をご利用いただくことができます。

- **コマンドライン**

文書管理システムなどに組み込みやすくするためにプロフェッショナル版からコマンドライン実行機能と設定アプリケーションを抜き出したものです。

ユーザーサポートについて

電子メールによるサポートとなります。製品についてお問い合わせ頂く場合には、ライセンス証書に記載されているサポート窓口の電子メール宛、必要事項を記載の上、お問い合わせください。

重要

お客様が、製品のユーザーサポートを受けるためには、弊社との間で「保守契約」を締結していただく必要があります。製品に添付されている保守契約に関する書類をご確認ください。（製品購入から1年間は、無償で保守サービスを提供しております。）ご不明な点については、購入先代理店の担当者にお問い合わせください。

PDF Server を利用するためには必要なシステム

PDF Server を利用するためには、以下に示すコンピュータシステムが必要です。ソフトウェアをインストールする前にお使いのコンピュータシステムが以下に示す条件を満たしていることを確認してください。

オペレーティングシステム（OS）

Microsoft Windows Server 2022

Microsoft Windows Server 2025（すべて日本語版）

注意

- PDF Server の対応OSは、日本語版OSです。日本語以外のOSに日本語リソースを導入した環境での動作保証は行っておりません。
- PDF Server を利用するには、OSにWindows GUI環境（デスクトップ・エクスペリエンス）が必要です。
- プラットフォーム動作保証に関する仕様変更により、PDF Server が対応するOSは、マイクロソフト社のメインストリームサポート期間内のものに限ります。（メインストリームサポートが終了したOSはサポート対象外となります。）

https://www.antenna.co.jp/news/2021/platform_20210426.html

Microsoft Office

Microsoft 365

Microsoft Office 2021

Microsoft Office 2024 (すべて日本語版)

注意

- Microsoft Office 文書の PDF ファイルへの変換に Microsoft Office 製品を用いる場合には、上記の Microsoft Office 製品のうち、いずれか一つだけをインストールする必要があります。
- PDF Server が対応している Microsoft Office 文書は、Word (docx／doc)／Excel (xlsx／xls)／PowerPoint (pptx／ppt) 文書だけです。
- PDF Server が対応している Microsoft Office は、日本語版です。日本語版以外の Microsoft Office での動作保証は行っておりません。
- プラットフォーム動作保証に関する仕様変更により、PDF Server が対応する OS は、マイクロソフト社のメインストリームサポート期間内のものに限ります。(メインストリームサポートが終了した OS はサポート対象外となります。)

https://www.antenna.co.jp/news/2021/platform_20210426.html

ハードウェア

- **CPU**

上記 OS が正常に動作する Intel 系の CPU、および 100% の互換性を持つプロセッサ

- **メモリ**

上記 OS が推奨するメモリ以上（これに加えて 2GB 以上の空き容量を推奨）

- **ハードディスク**

システムドライブに本製品のインストールに必要な 500MB 以上の空き容量

重要

- ここで示すハードウェア要件は「最低限」のものであり、ご利用になる OS によっては条件を満たさないケースもあり得ます。ご利用になられている OS の動作環境については、十分に留意してください。
- ここで示すハードディスク容量には、PDF Server が作成する PDF ファイルなどの容量は含みません。
- PDF Server は Windows 11 などのクライアント OS には対応しておりません。
- PDF Server は変換効率を上げるため、利用できるリソースを最大限使用して動作します。PDF Server を Web サーバーやデータベースサーバなど他のシステムと同一マシン上で併用する事は、速度低下や異常停止などの動作につながり、安定して動作させることが困難になります。できるだけ、PDF Server 専用に PC をご用意下さい。
- アプリケーション変換を利用する場合には、PDF Server を動作させるコンピュータに変換対象となるドキュメントを作成したアプリケーションソフトをインストールする必要があります。
- アプリケーション変換を利用する場合、ご利用になるアプリケーションソフトがサーバーOS で動作するか、また、ライセンス上、サーバーOS 上での利用が問題ないかについては、必ずお客様ご自身にて、ご確認ください。ライセンス違反等の問題が発生いたしましたら当社は一切関知いたしません。

PDF Server のインストール

PDF Server をインストールする前にインストール先のコンピュータが、ソフトウェアが動作するために必要な条件を満たしていることを確認して下さい。(詳細については、「[PDF Server を利用するためには必要なシステム](#)」の項を参照して下さい。)

Ver.3.x からのバージョンアップ

PDF Server V4.0 では、付属する Antenna House PDF Driver も Ver.8.0 に更新されています。PDF Server 共通設定を継続して利用する場合には、以下の方法に従って作業します。

1. Antenna House PDF Driver (5.0/6.0/7.5) をアンインストールします。
2. インストールフォルダ内に保存されている設定ファイル「pdfserver_v3.ini」を適当なフォルダにコピーします。特に、PDF Server V3.0 改訂 6 版以前、および V3.5 の初版～改訂 9 版までの製品がインストールされている場合、「pdfserver_v3.ini」はアンインストール時に削除されてしまいますのでご注意ください。
3. PDF Server V3.x をアンインストールした後、本製品をインストールします。
4. 【コマンドライン版のバージョンアップ時を除く】
手順 2 で移動、またはコピーした設定ファイル「pdfserver_v3.ini」を「**pdfServer.ini**」にリネームした後、PDF Server のインストールフォルダに上書きコピーします。

注意

- メジャー バージョンアップのため、PDF Server のインストールフォルダが「C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V4」に変わっており、タスク/変換設定ファイルのコピーまたは移動していただく必要があります。
- OCR エンジンなどの更新により変換設定が変化しております。V3.x で使用していた変換設定は、変換設定ツールを用いて更新（変換設定を開いて表示するだけで結構です）していただくことを推奨致します。

重要

- PDF Server V3.x でカスタマイズした PDF ドライバの印刷設定を継続して利用する場合には、Antenna House PDF Driver Ver.5.0/6.0/7.5 の印刷設定ファイルを Ver.8.0 の印刷設定保存フォルダにコピーします。

Antenna House PDF Driver Ver.5.0/6.0/7.5/8.0 の印刷設定が保存されているフォルダは、それぞれ以下の通り：

Ver.5.0 :

```
%USERPROFILE%\AppData\Roaming\AntennaHouse\PDF_Driver\5.0\CustomSettings
```

Ver.6.0 :

```
%USERPROFILE%\AppData\Roaming\AntennaHouse\PDF_Driver\6.0\CustomSettings
```

Ver.7.5 :

```
%USERPROFILE%\AppData\Roaming\AntennaHouse\PDF_Driver\7.5\CustomSettings
```

Ver.8.0 :

```
%USERPROFILE%\AppData\Roaming\AntennaHouse\PDF_Driver\8.0\CustomSettings
```

PDF Server のインストール

注意

- Word、Excel、PowerPoint など、Office 文書を「オフィス変換（Office 使用）」機能を用いて PDF ファイルに変換するには、製品が対応している Microsoft Office をインストールする必要があります。
- PDF Server をインストールするには、PDF Server 本体をインストールする前に PDF Driver Ver.8.0 を先にインストールする必要があります。

次に示す手順に従って PDF Server をインストールします。

1. コンピュータを再起動し、管理者権限を持つアカウントでログオンします。
2. ウィルス感染防止用などの常駐型を含む全てのアプリケーションを終了します。
3. まず最初に Visual C++ 2015-2022 Redistributable (x64) をインストールします。セットアッププログラムが「SetupVC_redistVC_redist.x64.exe」に保存されていますので、これをダブルクリックして起動します。

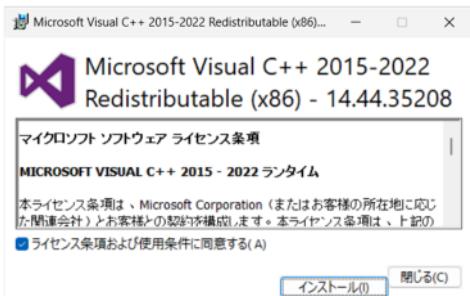


チェックボックス「ライセンス条項及び使用条件に同意する」をチェックし、【インストール】ボタンをクリックして、インストールを開始します。



プログレスバーが表示された後、「セットアップ完了」画面は表示されたらいnstall完了です。【閉じる】ボタンをクリックして画面を閉じます。ご利用になられている環境によっては、システムの再起動が必要な場合があります。表示されるメッセージに従って、対応してください。

4. 続いて Visual C++ 2015-2022 Redistributable (x86) をインストールします。同様にセットアッププログラムが「SetupVVC_redistVVC_redist.x86.exe」に保存されていますので、これをダブルクリックして起動します。



チェックボックス「ライセンス条項及び使用条件に同意する」をチェックし、【インストール】ボタンをクリックして、インストールを開始します。



プログレスバーが表示された後、「セットアップ完了」画面は表示されたらインストール完了です。【閉じる】ボタンをクリックして画面を閉じます。

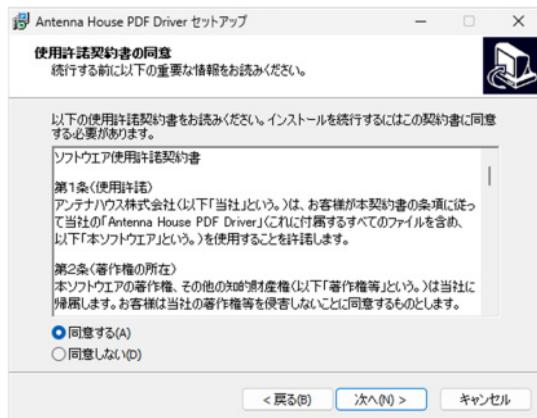
ご利用になられている環境によっては、システムの再起動が必要な場合があります。表示されるメッセージに従って、対応してください。

5. Office ファイルを PDF ファイルに変換するためのプリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」をインストールします。インストーラを実行する前に他のアプリケーションがすべて終了していることを確認して下さい。(動作しているものがあればすべて終了します。)

6. フォルダ「SETUP¥PDFDriver8.0」に保存されているドライバのセットアッププログラム「**setup_ahpd8.0.exe**」をダブルクリックして起動します。
 Antenna House PDF Driver セットアップウィザードの画面が表示されますので、
 【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。

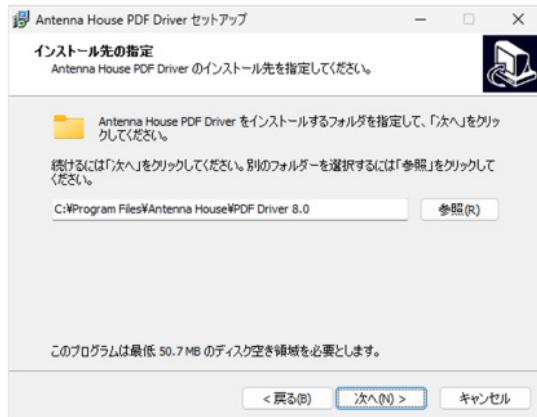


7. 「使用許諾契約書の同意」画面が表示されます。



ソフトウェア使用許諾契約書の内容を確認し、ラジオボタン【同意する】を選択した後、【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。

8. インストール先の選択画面が表示されます。



必要に応じて設定を変更し、【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。

9. 「Office アドインの登録」画面が表示されます。



設定を変更せず、ラジオボタン【登録する】を選択したまま、【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。

10. 「プログラムグループの指定」画面が表示されます。



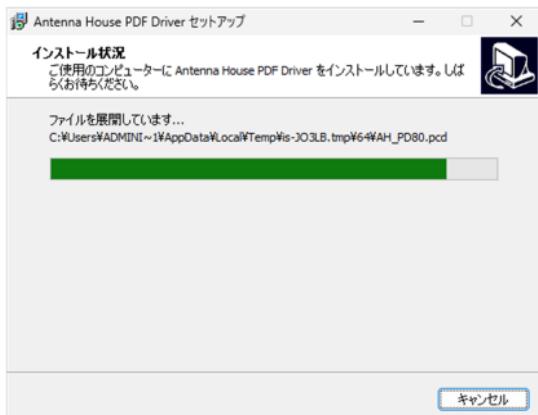
必要に応じて設定を変更し、【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。

11. 「インストール準備完了」画面が表示されます。



【インストール】ボタンをクリックして PDF ドライバのインストールを開始します。

12. 引き続きモジュールのインストールが行われます。

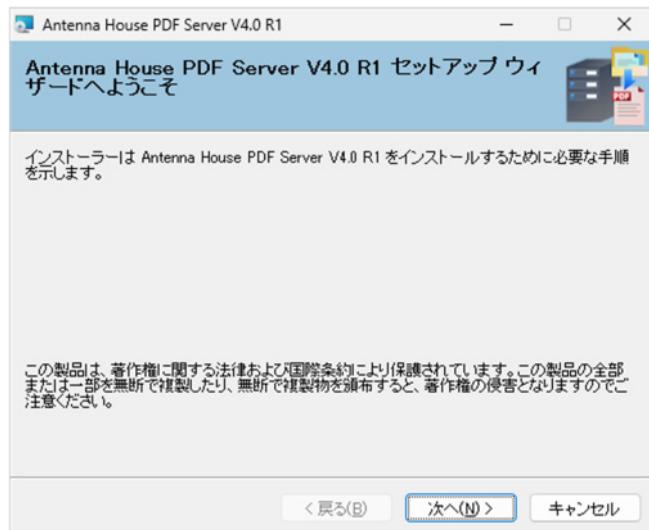


13. しばらくすると、Antenna House PDF Driver のインストール完了を示す画面が表示されます。



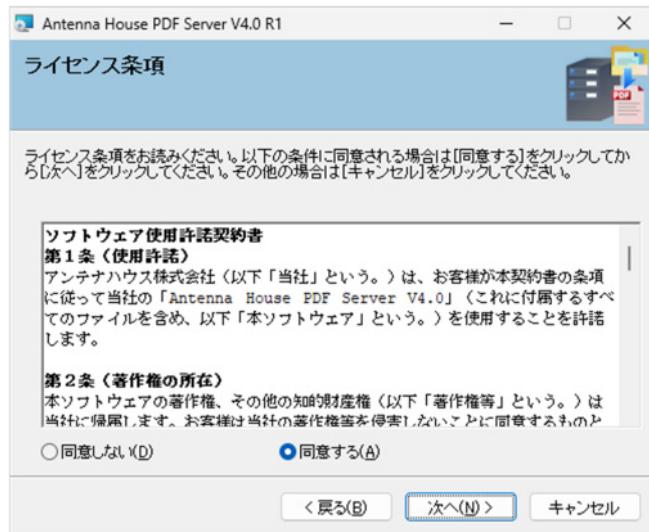
ご利用になられている環境によっては、システムの再起動が必要な場合があります。表示されるメッセージに従って、対応してください。

14. 続いて PDF Server スタンダード/プロフェッショナル版の場合には「**SETUP¥PDFServer4.0¥PSV4.0.0-SetupInstaller.msi**」、コマンドライン版の場合には「**SETUP¥PDFServer4.0_Command¥PSC4.0.0-SetupInstaller.msi**」アイコンをダブルクリックして PDF Server V4.0 のセットアッププログラムを起動します。



PDF Server V4.0 のセットアップウィザード画面が表示されますので、【次へ】ボタンをクリックし、作業を進めます。

15. ライセンス条項画面が表示されます。



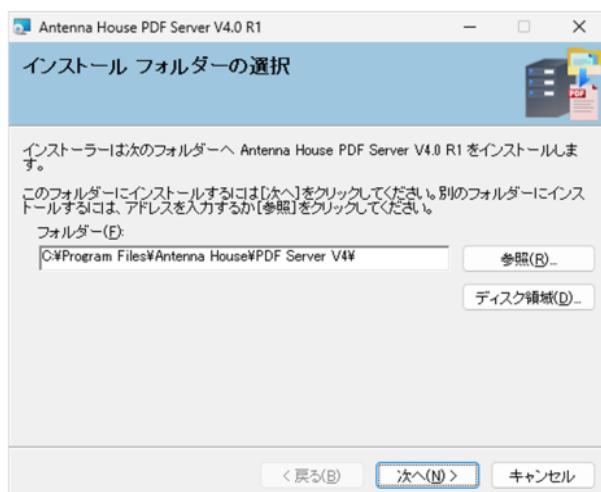
ラジオボタン【同意する】をクリックして選択した後、【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。

16. インストールするエディションのラジオボタンをクリックして選択した後、【次へ】ボタンをクリックして作業を進めます。



上の例では、「プロフェッショナルエディション」を選択しています。

17. 製品のインストール先フォルダを指定します。



初期状態には、フォルダ C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V4 が選択されています。また、【ディスク領域】ボタンをクリックするとシステムに接続されているディスクとその空き容量の一覧が表示されます。



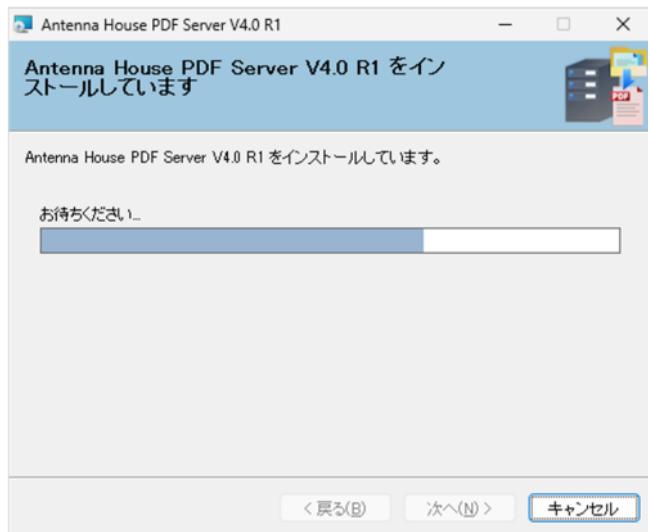
PDF Server のインストール先を選択する際の助けとしてください。

18. インストールの確認画面が表示されます。

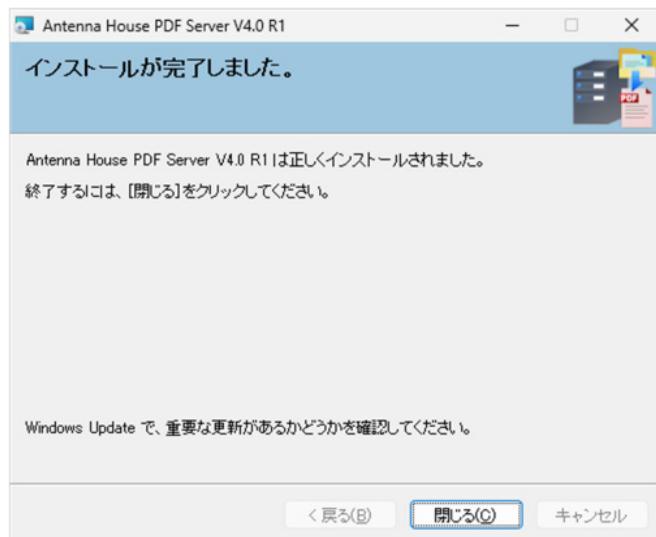


今までの設定に誤りがなければ、【次へ】ボタンをクリックしてインストールを開始します。設定を修正したい場合には、【戻る】ボタンをクリックして必要な修正をします。

19. PDF Server V4.0 のモジュールのインストールが行われている様子を示すプログレスバーが表示されます。



20. PDF Server V4.0 のインストールが完了したことを示す画面が表示されます。



【閉じる】ボタンをクリックしてこの画面を閉じます。

21. コンピュータの再起動を行うか否かを尋ねるダイアログが表示されます。



【はい】を選択して、コンピュータを再起動してください。

PDF Server 評価版から正規版への変更

PDF Server をはじめてインストールした直後は、評価版として動作します。インストールした PDF Server を正規版として動作させるためには、正規版のライセンスファイルをシステムの所定の場所にコピーする必要があります。

ここでは、ライセンスファイルのインストール手順を説明します。

重要：評価版について

評価版は、製品購入前に変換品質などを事前に評価いただくためのものです。

評価版には、以下の制限事項があります。

- インストールしてから 30 日を過ぎると利用できなくなります。
- 評価版による出力結果には評価版であることを示す「透かし」が挿入されます。
- 入手できる評価版は『PDF Server V4.0』のスタンダード・プロフェッショナル版のみです。コマンドライン版を評価される場合にはプロフェッショナル版のコマンドライン機能にてお試しください。

※ 評価版用のライセンスファイルはインストーラが自動で作成します。

また以下の行為は禁止されています。

- 評価版を実運用業務や開発業務など、評価以外の目的で使用すること。
- 評価版による出力結果に挿入される「透かし」を削除すること。

注意

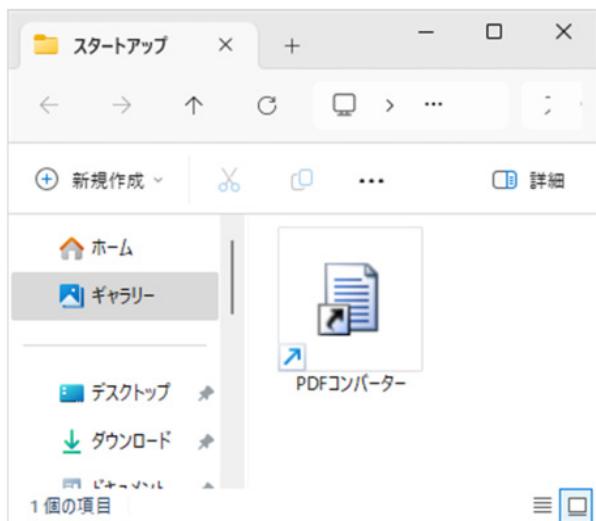
- コマンドライン版をご購入になられたお客様で、事前に製品をプロフェッショナル版にて評価いただいている場合、インストールされているプロフェッショナル版をアンインストールした後、改めてコマンドライン版をインストールして頂く必要があります。製品のアンインストールについては、「PDF Server のアンインストール」の項をご覧ください。
- PDF Server V4.0 は、これより古い製品のライセンスファイルでは動作しません。PDF Server V4.0 へのアップグレードについては、弊社営業、または保守窓口までお問い合わせください。

PDF Server を正規版に変更するには：

1. 購入された PDF Server のパッケージに含まれている「License」フォルダにあるライセンスファイルを用意します。(ライセンスファイル名は「**svplic.dat**」です。)
2. PDF Server 本体を停止してコントロールセンターを閉じます。
3. PDF コンバーター/PDF スプリッタは、停止しなくても構いません。その後、ライセンスファイルをエクスプローラ等でインストールフォルダにコピーします。インストールフォルダは製品インストール時に変更していなければ以下のフォルダになります。
C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V4\
4. 通常、コピーを行う際、“このフォルダにはすでに「**svplic.dat**」が存在します。”という警告ダイアログが表示されます。これは既に評価用のライセンスファイル(もしくは保守期間が切れたライセンスファイル)が存在するためです。この場合には、「上書きコピー」を行います。
5. スタンダード版／プロフェッショナル版の場合には、コントロールセンターを再起動すると正式版として起動します。

PDF コンバーターについて

PDF コンバーター (PDFConverter.exe) は、Microsoft Office を用いた Office 文書の PDF ファイルへの変換や一太郎などのアプリケーション文書ファイルを PDF ファイルに変換する際に使用する常駐ソフトウェアです。Microsoft Office 文書やその他のアプリケーションの文書ファイルを変換する際に利用されます。また、PDF コンバーターは、その動作中にスクリーン上に表示されるダイアログへの自動応答機能を有しています。そのため、コンピュータにログオンする際に自動的に起動するよう、そのショートカットファイルが「スタートアップ」フォルダに登録されます。



通常使用する場合には、このままでも構いませんが、以下に示す状況では PDF コンバーターの起動方法を手動で変更する必要があります。

- ▼ [オフィス/アプリケーション変換を行わない場合](#)
- ▼ [クライアントOSなどでユーザー アカウント制御が有効な場合](#)
- ▼ [PDF Server を動作させるコンピュータでリモートデスクトップサーバーを動作させる場合](#)

ここでは、それぞれの状況に応じた PDF コンバーターの起動方法の変更方法について説明します。

オフィス変換(Office 使用)/アプリケーション変換を行わない場合

PDF コンバーターは Microsoft Office や各種アプリケーションの文書ファイルを PDF ファイルに変換するための常駐ソフトウェアです。従って、オフィス変換 (Office 使用) / アプリケーション変換を行わない場合には、PDF コンバーターは必要ありません。

PDF Server のインストーラは、インストールの際に PDF コンバーターのショートカットファイルを全ユーザー共通の「スタートアップ」フォルダ

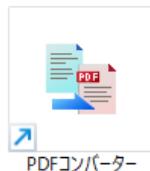
`%ProgramData%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup`
に作成します。

PDF コンバーターが必要ない場合は、スタートアップフォルダからショートカットファイルを削除することで次回からログオン時に自動起動されなくなります。

PDF コンバーターのショートカットファイルをスタートアップから削除するには、

1. Window キー + R を押して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 表示される「ファイル名を指定して実行」画面の「名前」フィールドに
「shell:common startup」 と入力した後、「OK」ボタンをクリックします。
3. 全ユーザー共通の「スタートアップ」フォルダが開きます。

このフォルダ内の PDF コンバーターのショートカットファイルを削除します。



TIPS

現在のユーザーの「スタートアップ」フォルダを開く場合には、コマンド
「shell:startup」 と入力します。

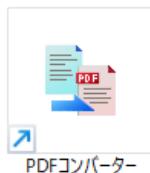
リモートデスクトップによる遠隔操作を行う場合

PDF コンバーターは、製品の仕様上、1台のコンピュータ上で1つだけ起動し常駐させておく必要があります。インストール後の初期状態ではスタートアップによりログオン時に起動されるように設定されます。リモートデスクトップを利用せず、コンソールから直接操作する分には初期設定で問題ありませんが、リモートデスクトップによってネットワーク上の端末がログオンする場合、既に起動しているのとは別の PDF コンバーターを起動しようとして多重起動の警告メッセージが表示されます。

これを回避するには、「タスク スケジューラ（タスク）」に PDF コンバーターを登録する事で解決します。

以下にタスクの設定方法を説明します。

1. タスク スケジューラへ登録する前に「[オフィス変換（Office 使用）/アプリケーション変換を行わない場合](#)」を参照して、スタートアップフォルダから PDF コンバーターのショートカットを削除しておきます。

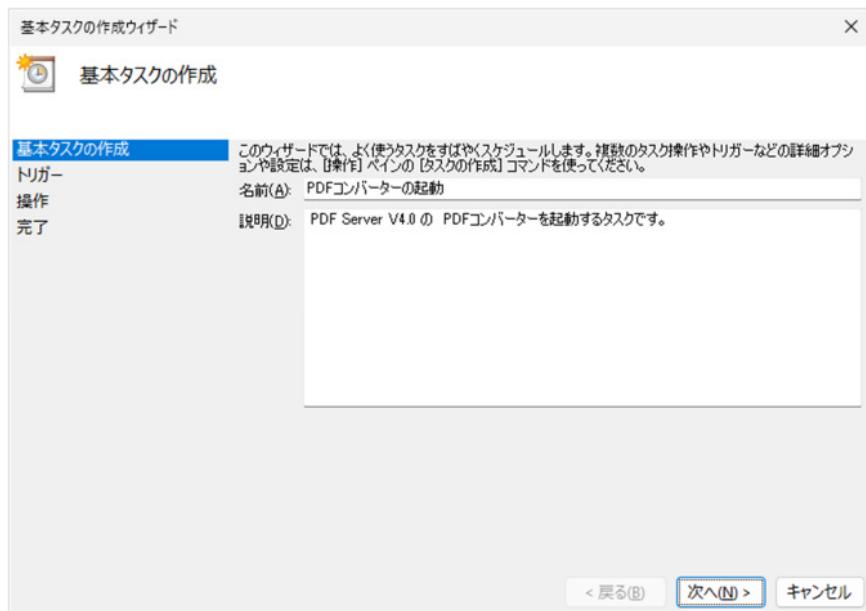


2. Windows キー + R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
3. 「名前」フィールドに「**taskschd.msc /s**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してタスク スケジューラを起動します。

4. タスク スケジューラが起動したら、一番右のペインにある「基本タスクの作成…」をクリックします。

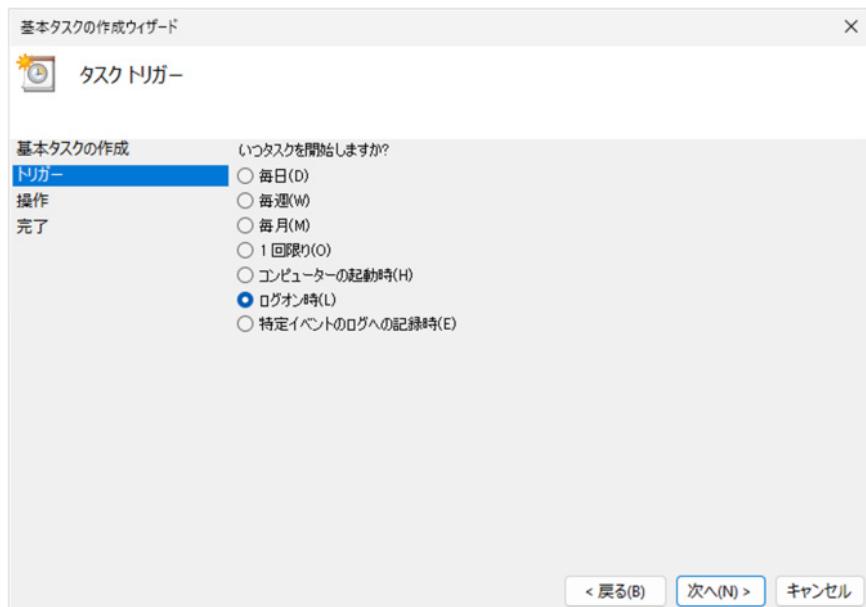


5. 以下のようなウィンドウが表示されるので、「名前」と「説明」を自分が分かりやすいユニークなものを入力します。

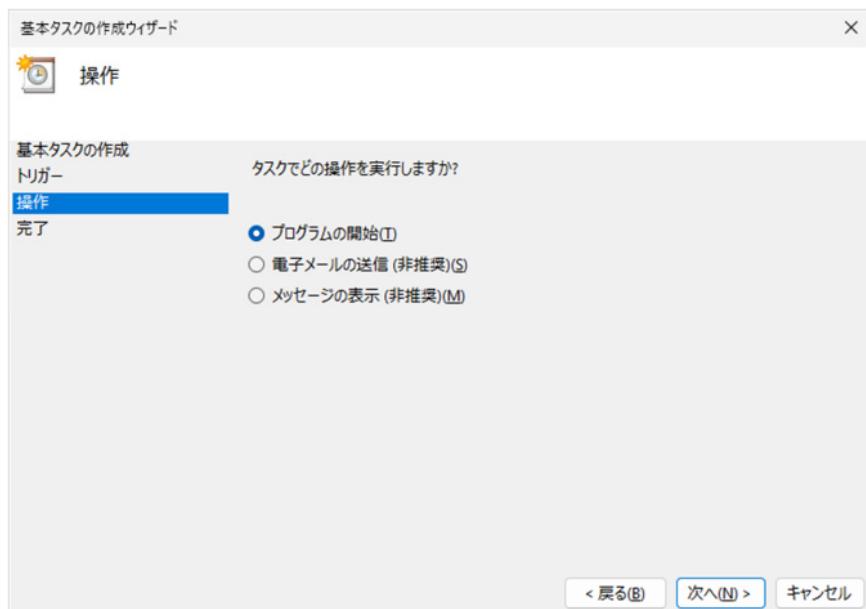


入力内容に関しては任意の内容で構いません。入力後、「次へ」ボタンをクリックします。

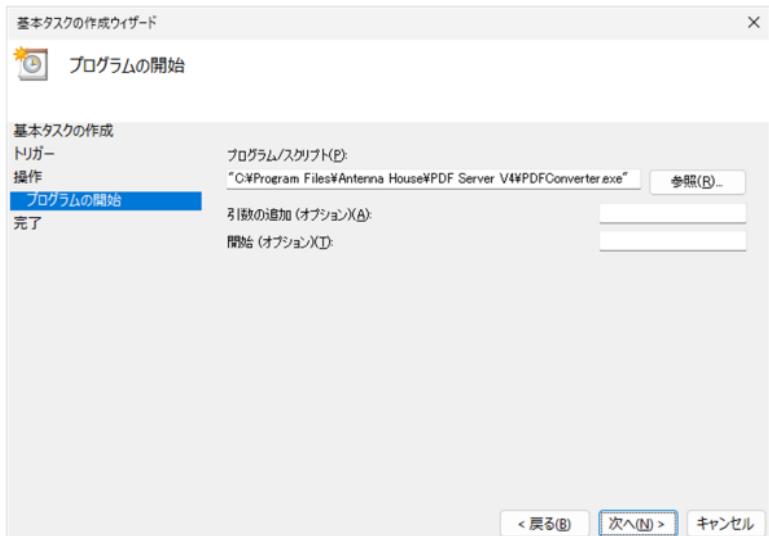
6. 以下のようなウィンドウが表示されるので、「ログオン時」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。



7. 以下のようなウィンドウが表示されるので、「プログラムの開始」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。



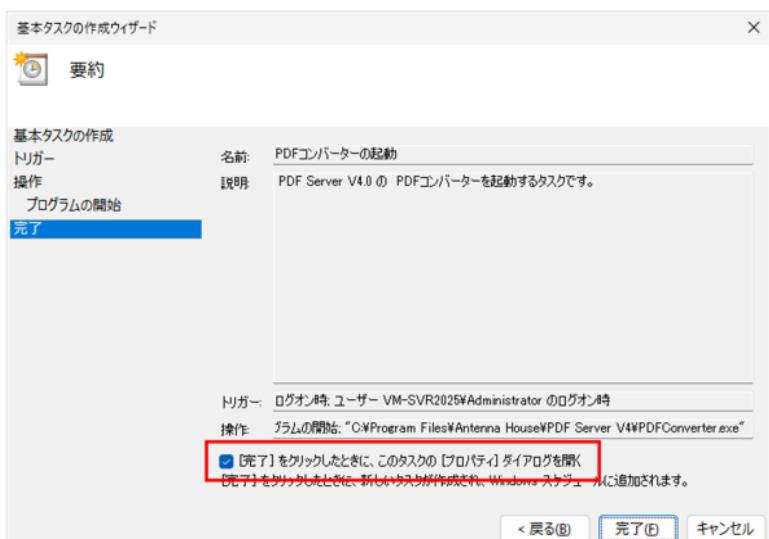
8. 以下のようなウィンドウが表示されるので、「プログラム/スクリプト」を入力、または参照して「次へ」ボタンをクリックします。他の項目は入力しません。



インストール先フォルダを変更していなければ、PDF コンバーターが保存されているパスは以下の通りです。パス名にスペースが入っているので、入力時にはダブルクォーテーション（"）で囲む必要があります。注意して下さい。（「参照…」ボタンをクリックして表示される画面を用いてファイルを選択した場合は自動的に付加されます。）

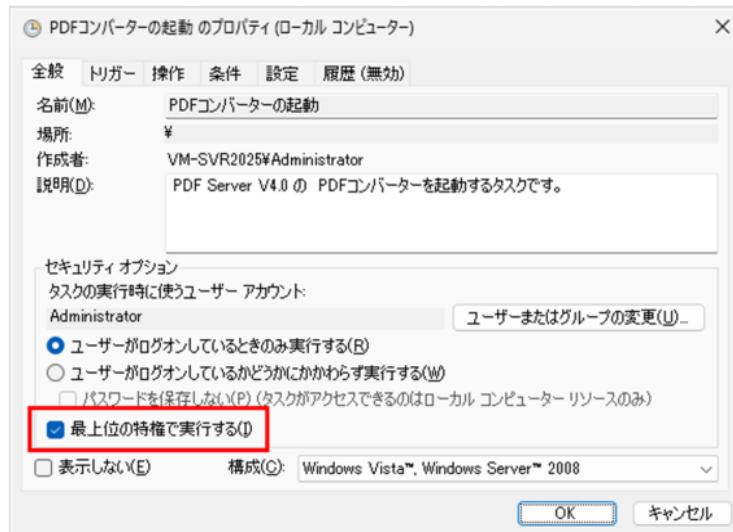
C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V4\PDFConverter.exe

9. 以下のようなウィンドウが表示されます。



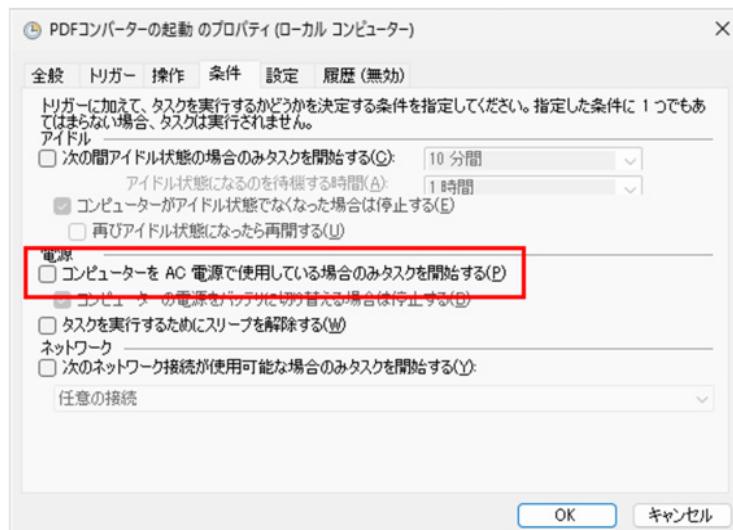
「[完了]」をクリックしたときに、このタスクの「[プロパティ]」ダイアログを開く」にチェックを入れて、「完了」ボタンをクリックします。

10. 以下のようなウィンドウが表示されます。

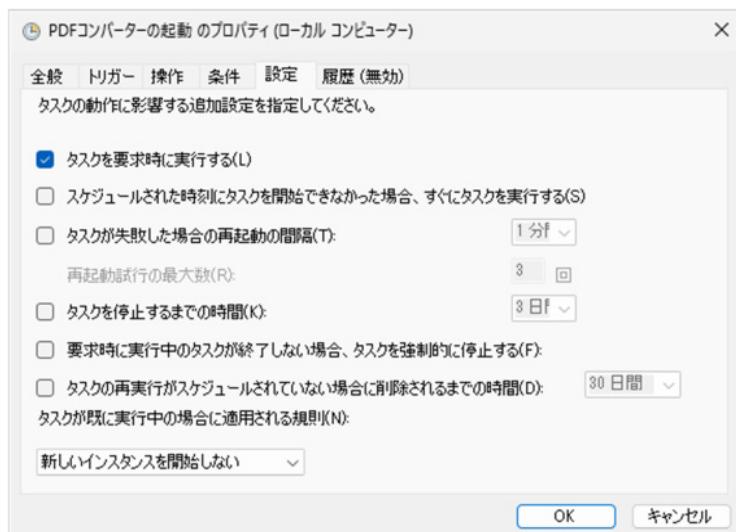


「最上位の特権で実行する」にチェックを入れます。

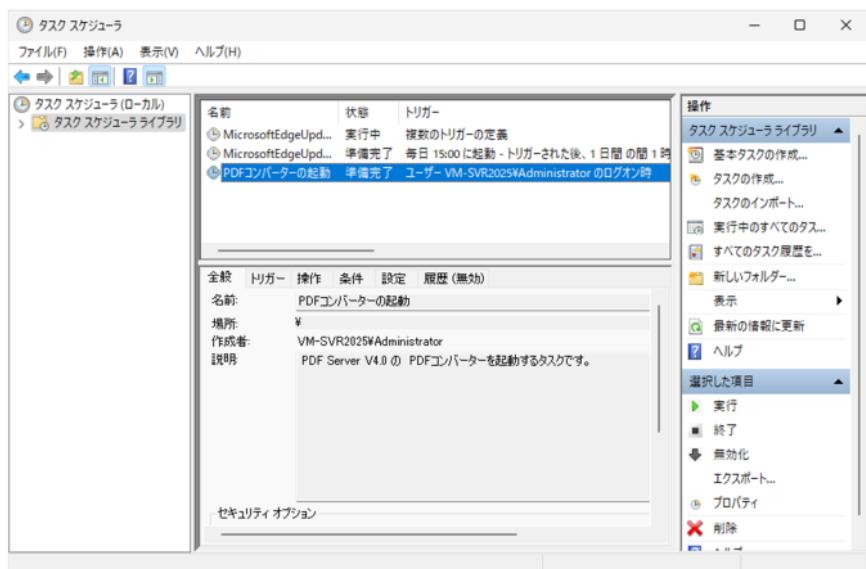
11. 「条件」タブをクリックし、「コンピュータを AC 電源で使用している場合のみタスクを開始する」のチェックを外します。



12. 「設定」タブをクリックし、「タスクを要求時に実行する」以外の項目のチェックを外して、「OK」ボタンをクリックします。



13. タスクスケジューラのメイン画面に戻って一番左のペイン内の「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックし、中央のペインに作成したタスクがあることを確認します。



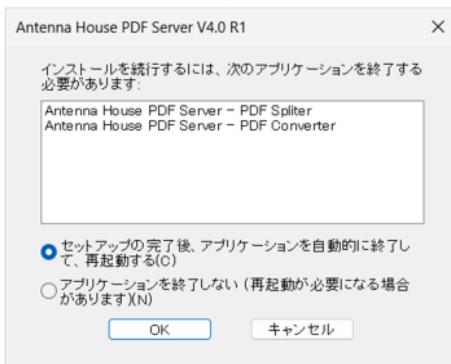
PDF Server のアンインストール

以下の手順に従って、PDF Server をアンインストールします。

1. PDF コンバーター/PDF スプリッタが停止していることを確認します。これらが動作している場合には、タスクトレイにあるそれぞれのアイコンを右クリックして表示されるメニューから【終了】を選択して、終了させます。
2. Windows キー + R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
3. 「名前」フィールドに「**appwiz.cpl**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してコントロールパネル「プログラムと機能」を開きます。
4. 表示されるリストから、「Antenna House PDF Server V4.0」を選択した後、「アンインストール」ボタンをクリックして、アンインストールを実行します。
5. アンインストール作業の進行状況を示すダイアログが表示されるので、終了するまでの暫くの間、待機します。
6. タスクスケジューラを使って PDF コンバーターを起動するように設定している場合には、アンインストール完了後、タスクスケジューラに登録されている該当タスクを削除します

注意

PDF コンバーター/PDF スプリッタが動作している状態のままアンインストールを実行すると以下のダイアログが表示される場合があります。



このダイアログが表示された場合、以下の操作を行ってアンインストール作業を続けます。

- I. 動作している PDF コンバーター/PDF スプリッタを終了します。
- II. ラジオボタン「アプリケーションを終了しない」を選択した後、【OK】ボタンをクリックします。

PDF Driver のアンインストール

アプリケーションが起動していないことを確認します。もし、起動しているアプリケーションがあれば、すべてを終了させます。

1. Windows キー+R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 「名前」フィールドに「**appwiz.cpl**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してコントロールパネル「プログラムと機能」を開きます。
3. 表示されるリストから、「Antenna House PDF Driver V8.0」を選択した後、「アンインストール」ボタンをクリックして、アンインストールを実行します。
4. アンインストール作業の進行状況を示すダイアログが表示されるので、終了するまでの暫くの間、待機します。作業途中に「ファイル削除の確認」ダイアログが表示された場合、【OK】ボタンをクリックして選択したアプリケーション、及び全ての機能を削除して下さい。
5. アンインストール完了後、「メインテナンスの完了」画面が表示されます。【完了】ボタンをクリックして終了します。
6. 「メインテナンスの完了」画面で、コンピュータを再起動する必要があるとのメッセージが表示される/されないに関わらず、アンインストール作業終了後、一旦コンピュータを再起動します。

PDF Server について

ここでは PDF Server について、構成や動作のしくみ、変換方法について基本的な事について解説します。まずは PDF Server がどのようなソフトウェアシステムであるかについて理解して下さい。

PDF Server の概要

PDF Server はフォルダ監視型の PDF 自動変換ソフトウェアです。さまざまなフォーマットのドキュメントを PDF や TIFF、JPEG に自動的に変換することができます。

「PDF Server」は、ローカルディスクまたはネットワーク上のフォルダを定期的に監視し、

- 取得した画像ファイル (JPEG/JPEG2000/PNG/Multi-TIFF/TIFF/Windows BMP) ／ PDF ファイルを対象に OCR (Optical Character Recognition/Reader : 光学文字読み取り) 処理を施し、得られたテキストを埋め込んだ PDF ファイルを生成／テキストファイルを出力
- 取得した Microsoft Office 文書 (Word、Excel、PowerPoint)、TEXT ファイルを PDF ファイルに変換
- 取得した一太郎文書を PDF ファイルに変換
- 取得／生成した PDF ファイルの編集／加工

を行うことなどができます。この一連の処理を「監視タスク」と呼ぶ一つの処理設定とし、複数の監視タスクを実行することが可能です。

また、Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) 文書ファイル (拡張子“.doc”、“.docx”、“.xls”、“.xlsx”、“.ppt”、“.pptx”) および一太郎文書ファイル (拡張子“.jtd”)、TEXT ファイル (拡張子“.txt”)、XML ファイルについても PDF ファイルに変換することができます。

NOTE

監視フォルダに登録された読み取り専用属性／隠しファイル属性が設定されているファイルは、これらの属性を解除した後、移動されます。

重要

- オフィス変換(Office 使用)機能を用いて、Office／一太郎文書を PDF ファイルに変換するには、PDF Server が動作するコンピュータに必ずログインしなければなりません。これは、この機能が製品付属の PDF 生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver V8.0」を用いて Office／一太郎文書ファイルを Microsoft Office、一太郎を用いて『印刷』することによって実現していることによります。
- オフィス変換(直接変換)機能を用いて出力された PDF ファイルの見かけなどの体裁が、オフィス変換(Office)変換を用いて出力されたものと異なる場合があります。
- 処理対象となる入力ファイル名に半角の「, (カンマ)」、「; (セミコロン)」が含まれると正常に変換できない可能性があります。無用なトラブルを避けるためにもファイル名、またファイルのフルパスにこのような文字が含まれないようにすることを強くお薦めします。
- PDF Server は、セキュリティが設定されている(パスワードが設定されている)PDF ファイルを扱うことができません。監視フォルダにセキュリティが設定されている PDF ファイルを投入しないでください。

入力ファイル

PDF Server は以下のドキュメントを対象に PDF 変換することができます。

- **Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) ファイル**

Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) 文書ファイル (拡張子“.doc”、“.docx”、“.xls”、“.xlsx”、“.ppt”、“.pptx”) を PDF ファイルに変換することができます。

オフィス変換 (Office 使用) 機能を用いて PDF 変換を行う場合には、それぞれのファイル形式に対応する Microsoft Office ソフトウェアがインストールされている必要があります。オフィス変換 (Office 使用) 機能は、Microsoft Office のサーバーサイド機能を利用して変換を行います。

オフィス変換 (直接変換) 機能を用いて PDF 変換を行う場合には、弊社独自技術によって Office 文書ファイルを直接 PDF ファイルに変換します。そのため、Microsoft Office ソフトウェアのインストールは必要はありません。

- **一太郎ファイル**

株式会社ジャストシステムの一太郎文書ファイル(拡張子：JTD) を PDF ファイルに変換することができます。変換を行うには、一太郎がインストールされている必要があります。

- **アプリケーションファイル**

アプリケーションファイルとは、PDF Server の入力対象外のドキュメントの内、シェル印刷対応のアプリケーションを利用して変換を行う事ができるファイルを言います。

「シェル印刷」ができるアプリケーションファイルは、ファイルのコンテキストメニュー（ファイルアイコンをマウスの右ボタンでクリックして表示されるメニュー）内に「印刷」という項目が表示されるファイルです。ワープロソフトなどは、ほとんど対応していますが、グラフィック、DTP ソフトや CAD ソフトなど、基本的に印刷実行時に印刷範囲を別途指定するなど、オプション設定が必要なファイルは対応していない事が多いので注意が必要です。

- **画像ファイル**

ビットマップ (Windows)、JPEG、JPEG2000、PNG、TIFF ファイル (マルチページ TIFF 対応) を PDF ファイルに変換する事ができます。ほとんどの場合は問題ありませんが、一部の形式 (特に TIFF ファイル) について扱えない場合があります。詳細については巻末の付録 [「PDF Server の対応画像形式について」](#) を参照して下さい。

- **テキストファイル (TXT/XML)**

テキストファイルも PDF ファイルに変換可能です。対応している文字コードは、Shift-JIS、EUC、UTF-8、UTF-16 です。対応していない文字コードのテキストを PDF 変換すると文字化けが生じますので注意して下さい。

- **PDF ファイル**

PDF ファイルの編集（セキュリティやウォーターマークの設定など）を行うことができます。また、PDF ファイルを TIFF ファイルや JPEG ファイルに変換することができます。

出力ファイル

PDF Server は入力したファイルに対して以下のようなファイルに変換、もしくは出力することができます。

- **PDF ファイル**

PDF Server では Microsoft Office ファイル、一太郎ファイルやアプリケーションファイルを PDF ファイルに変換できます。変換だけではなく各種編集（ヘッダ／フッタの追加、ウォーターマークの追加、OCR の実行など）も行う事ができます。Microsoft Office ファイル、一太郎ファイルやアプリケーションファイルの変換には、製品に同梱されている PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver V8.0」を利用して PDF 変換を行います。

Office や PDF Driver を使用せず、直接 Office 文書を PDF ファイルに変換することもできます。

- **TIFF ファイル**

TIFF（マルチページ TIFF 対応）を出力できます。また、カラー画像処理方法や圧縮方法を設定できます。

- **JPEG ファイル**

PDF など複数ページのドキュメントも 1 ページずつ JPEG に変換します。オプションでフォルダを作成してその中に JPEG ファイルを作成する事もできます。

- **テキストファイル**

テキストファイルは出力された PDF の文書情報や、OCR 結果のテキストのみを出力します。OCR テキストについては PDF Server で実行された OCR テキストのみ出力されます（他社製品や PDF Driver で作成したテキストは出力されません。）

PDF Server のシステム構成

PDF Server は、以下に示すソフトウェアで構成されています。

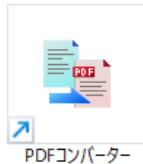
- [PDF Server サービス](#)
- [PDF コンバーター](#)
- [PDF Server コントロールセンター](#)
- [PDF スプリッタ](#)
- [ログビューア](#)
- [変換設定編集ツール](#)
- [Antenna House PDF Driver Ver.8.0](#)
- [PDF Server コマンド \[プロフェッショナル版／コマンド版\]](#)
- [QR コード作成ツール](#)
- [PDFServer コマンド GUI \[プロフェッショナル版／コマンド版\]](#)
- [ライセンス情報表示ツール【コマンドライン版のみ】](#)

以下、それぞれのソフトウェアの概要について説明します。

PDF Server サービス (AH PDF Server V4 Service)

PDF Server の中核となる Windows サービスソフトウェアです。通常のアプリケーションソフトウェアと異なり、専用の管理コンソールから起動や停止を行います。また、PDF Server の場合には、PDF Server V4.0 コントロールセンターからも起動や停止が可能です。このソフトウェアはバックグラウンドで動作するため、管理コンソールやコントロールセンターなどを使用して稼働状況を把握します。

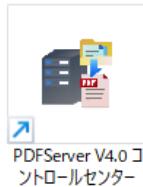
PDF コンバーター



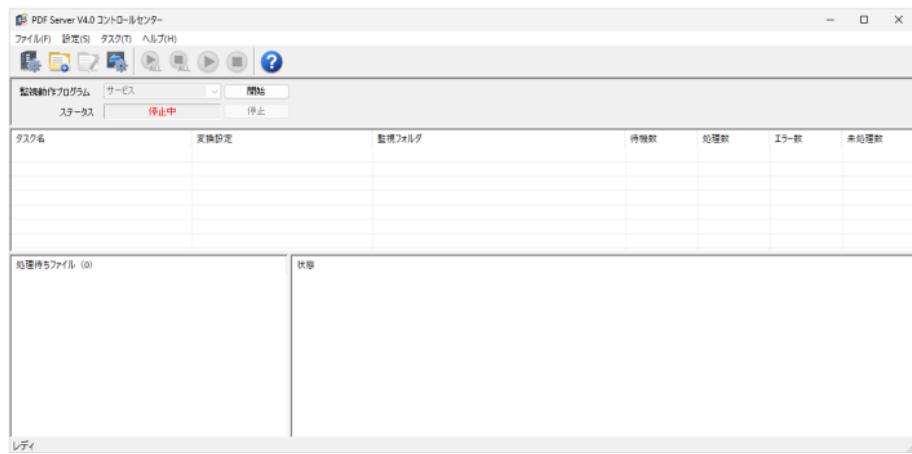
PDF コンバーターは、以下の 2 つの機能を担う常駐プログラムで、起動後、タスクトレイにアイコンとして表示されます。

- **Office ファイル/一太郎ファイル/アプリケーションファイルの PDF ファイルへの変換を行う**
PDF コンバーターは、PDF Server からの指示によって、オフィス変換（Office 使用）／アプリケーション変換による Office ファイル/一太郎ファイル/アプリケーションファイルの PDF ファイルへの変換動作を行います。（PDF コンバーターが動作していない状態で、オフィス変換（Office 使用）／アプリケーション変換による Office ファイル/一太郎ファイル/アプリケーションファイルの PDF ファイルへの変換を行うとエラーを生じ、変換動作が行われません。）
- **PDF Server が動作中に表示されるダイアログに自動応答する**
オフィス変換（Office 使用）／アプリケーション変換による Office ファイル/一太郎ファイル/アプリケーションファイルの PDF ファイルへの変換を行う際、セキュリティが設定されているなどするとダイアログが表示され、ユーザーによって操作されるまで処理が停止してしまうことがあります。PDF コンバーターは、予めクリックするダイアログのボタンを登録しておき、これが表示された際に自動的にこれをクリックして応答させることで、処理の中断を回避するものです。

PDF Server コントロールセンター



PDF Server サービスの開始/停止、変換/タスクの設定、動作状況のモニタなどを行う制御アプリケーションです。



PDF Server コントロールセンター ウィンドウ

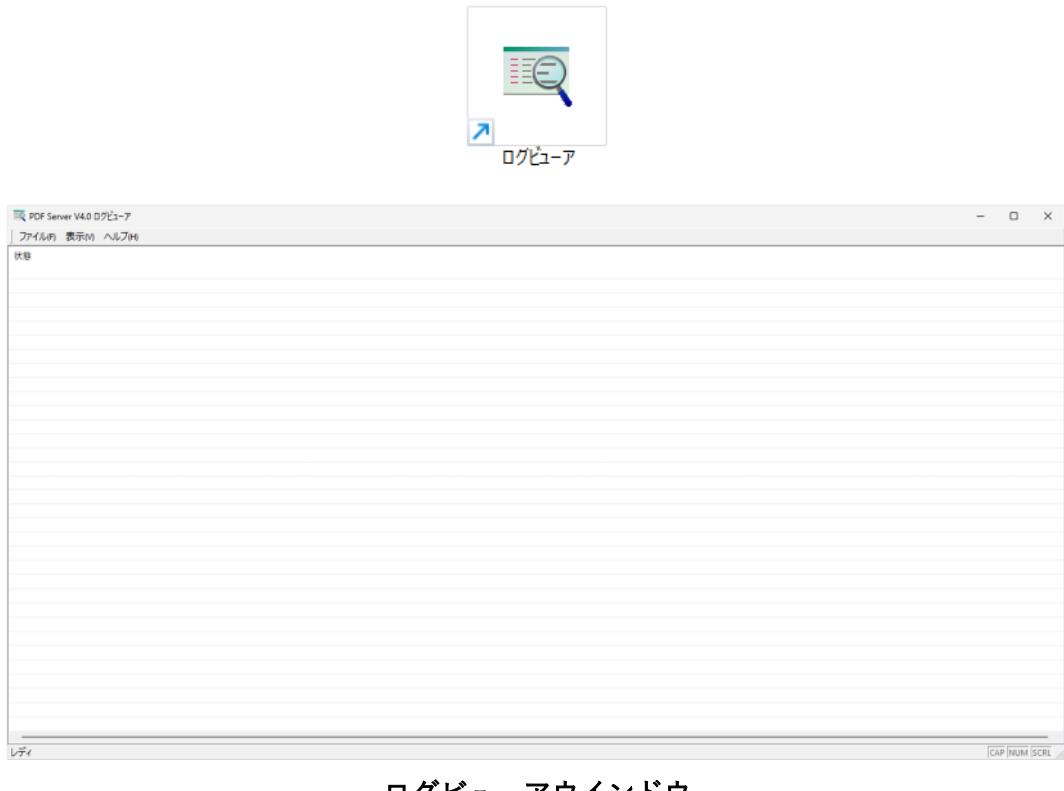
リアルタイムに近い形でのモニタリングが可能ですが、その分システムリソースを消費するため処理速度の低下の一因となります。特に必要がなければ、普段は閉じておくことを推奨します。

PDF スプリッタ



複数ページを持つ PDF ファイルについて、ファイル中の QR コードを区切りとしてファイルを分割する常駐型の支援ソフトウェアです。イメージスキャナなどを用いて一括して取り込んで作成された PDF ファイルを文書毎に独立した PDF ファイルに分割して監視フォルダに投入する際に利用します。

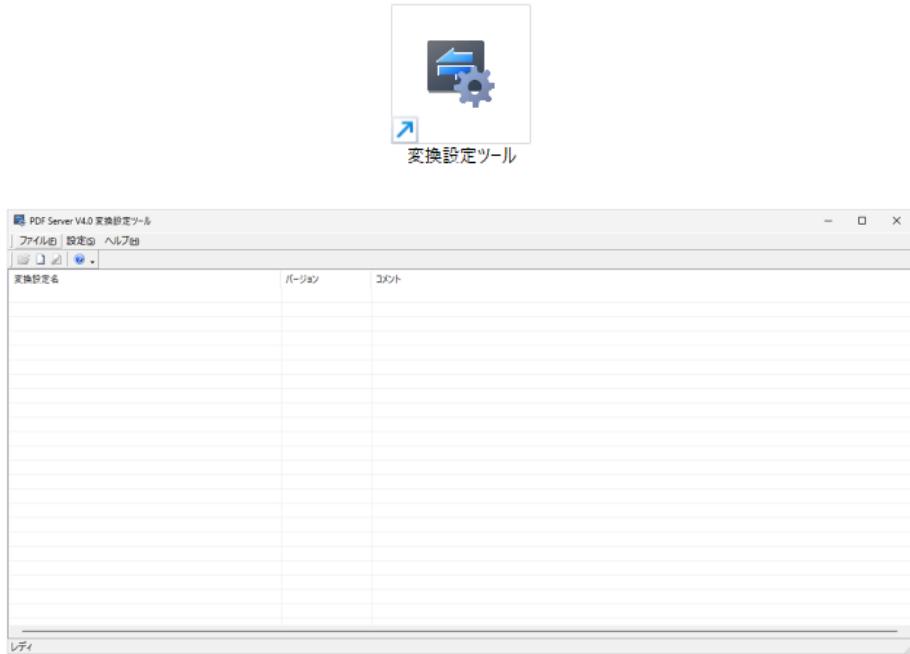
ログビューア



ログビューアウインドウ

PDF Server が動作中に出力するログを表示するためのアプリケーションです。

変換設定編集ツール



変換設定ツールウィンドウ

PDF Server で用いる、変換設定を作成/編集するアプリケーションです。変換設定は、監視タスクに設定するもの以外に、処理対象となるファイルと同じ名称の変換設定ファイルを同時に投入することで、同じ監視タスクでも個別に変換設定ファイルを指定することも可能になっています。

監視フォルダに処理対象となるファイルと同じ名称の変換設定ファイルを同時に投入することで、対象となる監視フォルダに設定されている変換設定ではなく、投入した変換設定ファイルに従った変換処理を行うことができます。このアプリケーションを用いて、その際に利用する変換設定ファイルを作成することができます。

Antenna House PDF Driver Ver.8.0

オフィス変換（Office 使用）／アプリケーション変換による Office ファイル／一太郎ファイル／アプリケーションファイルの PDF ファイルへの変換を行う際に使用する PDF 生成仮想プリンタドライバです。PDF Server では、対象となる文書ファイルを作成したアプリケーションで開き、PDF ドライバをプリンタに指定して印刷することによって PDF ファイルへの変換を実現しています。

PDF Server に付属しているプリンタドライバ「Antenna House PDF Driver Ver.8.0」は、PDF Server 専用版です。通常のアプリケーションを使用している際にプリンタに指定して利用することはできますが、その場合には評価版として機能します。そのため、出力される PDF ファイルのすべてのページには評価版を用いて出力されたことを示す「透かし」が設定されます。

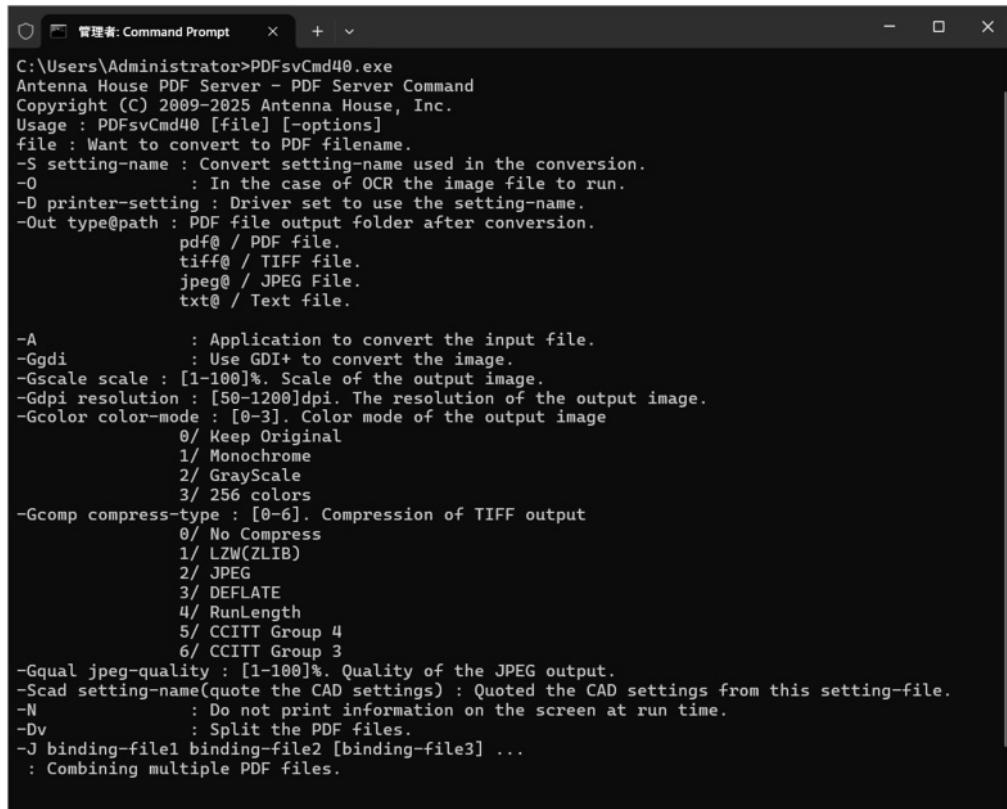
重要

正常に動作しなくなる可能性がありますので、瞬簡シリーズなど弊社の他の製品に付属している「Antenna House PDF Driver Ver.8.0」をインストールしないで下さい。

PDF Server コマンド【プロフェッショナル／コマンドライン版のみ】

PDF Server コマンドは、PDF Server の機能をコマンドプロンプトや他のアプリケーションから起動できるようにしたアプリケーションソフトウェアです。PDF Server が持つ機能を別のシステムから呼び出して使用したい場合などに利用します。

プログラム名は「PdfsVCmd40.exe」で、コマンドプロンプトで「PdfsVCmd40」と入力して、Enter キーを押下するとコマンドヘルプが表示されます。



```
C:\Users\Administrator>PdfsVCmd40.exe
Antenna House PDF Server - PDF Server Command
Copyright (C) 2009-2025 Antenna House, Inc.
Usage : PDFsvCmd40 [file] [-options]
file : Want to convert to PDF filename.
-S setting-name : Convert setting-name used in the conversion.
-O : In the case of OCR the image file to run.
-D printer-setting : Driver set to use the setting-name.
-Out type@path : PDF file output folder after conversion.
    pdf@ / PDF file.
    tiff@ / TIFF file.
    jpeg@ / JPEG File.
    txt@ / Text file.

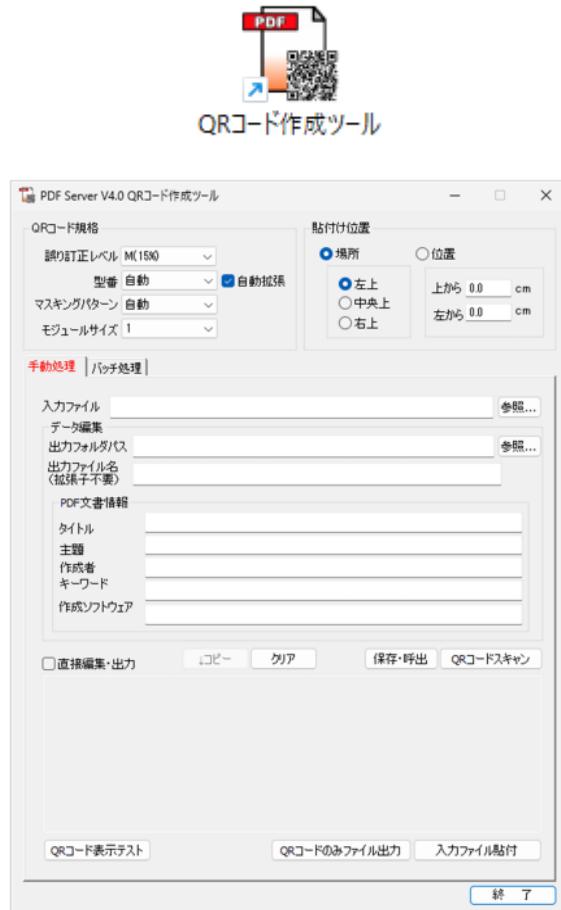
-A : Application to convert the input file.
-Ggdi : Use GDI+ to convert the image.
-Gscale scale : [1-100]%. Scale of the output image.
-Gdpi resolution : [50-1200]dpi. The resolution of the output image.
-Gcolor color-mode : [0-3]. Color mode of the output image
    0/ Keep Original
    1/ Monochrome
    2/ GrayScale
    3/ 256 colors
-Gcomp compress-type : [0-6]. Compression of TIFF output
    0/ No Compress
    1/ LZW(ZLIB)
    2/ JPEG
    3/ DEFLATE
    4/ RunLength
    5/ CCITT Group 4
    6/ CCITT Group 3
-Gqual jpeg-quality : [1-100]%. Quality of the JPEG output.
-Scad setting-name(quote the CAD settings) : Quoted the CAD settings from this setting-file.
-N : Do not print information on the screen at run time.
-Dv : Split the PDF files.
-J binding-file1 binding-file2 [binding-file3] ...
    : Combining multiple PDF files.
```

コマンドヘルプの例

重要

- インストール時にシステム環境変数「Path」に PDF Server のインストールパスを追加しています。そのため、カレントディレクトリの場所によらず実行できます。
- 単純に PDF ファイルへの変換を行うだけであれば、変換対象となるファイルを指定するだけで同じフォルダに PDF ファイルを出力できます。オプションスイッチによって出力先の指定、OCR、ドライバの設定なども指定することができます。また、PDF Server サービスで用いている変換設定を利用することも可能です。ただし、結合処理だけは変換と同時に実行できないため、結合を行うときだけは専用のオプションスイッチと結合対象となる PDF ファイルを指定して実行します。

QR コード作成ツール



QR コード生成ツール画面

QR コードを作成し、BMP ファイルとして出力したり、指定した PDF ファイルの先頭ページに作成した QR コードを貼り付けたりするユーティリティソフトウェアです。PDF スプリッタを利用する場合に用います。

PDF Server コマンド GUI 【プロフェッショナル／コマンドライン版のみ】



PDF Server V4.0 コマンド GUI ウィンドウ

PDF Server コマンドプログラムと関係する「PDF Server 設定」と PDF Server コマンドプログラムの動作テストを GUI (グラフィック・ユーザー・インターフェイス) で簡単に行うことができるソフトウェアです。

ライセンス情報表示ツール【コマンドライン版のみ】



ライセンス情報表示ツールウィンドウ

PDF Server コントロールセンターがないコマンドライン版で、ライセンス情報を確認するための専用ユーティリティです。

注意

「ライセンス情報表示ツール」は、プロフェッショナル版／スタンダード版には含まれていません。

ソフトウェア間の連携について

PDF Server は、いくつかのソフトウェアが適宜連携しながら動作しています。

基本的にそれぞれのソフトウェアは、独立しています。PDF ドライバを除いたソフトウェアは、ソフトウェア間を TCP/IP で通信して連携動作しており、各ソフトウェアが用いている通信ポートは以下の通りです。PDF Server を正常に動作させるためには、他のソフトウェアがこれらの通信ポートを使用していないことが必要になります。

IP アドレス	ポート番号	通信内容
127.0.0.1	9901	サービス
127.0.0.1	9902	コントロールセンター
127.0.0.1	9903	マネージャ
127.0.0.1	9904	コンバーター

通信ポートを変更するには

前項に上げた通信ポートが既に別のソフトウェアで使用されており、変更が困難な場合には、PDF Server が利用している通信ポートを変更する必要があります。

以下の手順に従って、PDF Server が使用する TCP/IP のポート番号を変更します：

1. PDF Server のすべての監視タスク/サービス、PDF コンバーターを停止/終了します。
2. メモ帳 (Notepad.exe) など、適当なテキストエディタを用いて、PDF Server の環境設定ファイル 「**pdfserver.ini**」を開きます。「**pdfserver.ini**」の保存場所は、%PROGRAMFILES%¥Antenna House¥PDF Server V4¥pdfserver.ini です。
3. 「**pdfserver.ini**」の以下の項目を環境に合わせて編集します。なお、以下に示すポート番号は初期設定値です。

項目	対応するソフトウェア
service_socket_port=9901	PDF Server サービス
cs_socket_port=9902	コントロールセンター
manager_socket_port=9903	マネージャ
converter_socket_port=9904	PDF コンバーター

4. 変更した設定に誤りがないことを確認した後、これを保存し PDF Server の監視タスク/サービス、PDF コンバーターを開始/起動します。

PDF Server のエディションと評価版について

PDF Server には、以下に上げる 3 つのエディションが用意されております。

エディション	機能概要	同時起動タスク数
スタンダード版	PDF Server の標準的な機能であるフォルダ監視によるファイル変換機能を利用できます。	5
プロフェッショナル版	スタンダード版の機能に加え、コマンドライン変換機能、IN/OUT モードを利用できます。	無制限
コマンド版	プロフェッショナル版のコマンドライン変換機能を独立させたものです。 (フォルダ監視によるファイル変換機能は利用できません。) PDF Server の変換エンジンをコマンドプロンプトから利用できます。 一部の機能については、マルチプロセスに対応しています。	なし

PDF Server の運用について

お客様が運用を予定している処理内容によって、PDF Server を動作させる環境のシステム構成を設計する必要があります。ここでは、どの様なことに注意してシステム構成をすべきかについて解説します。

PDF Server を動作させるコンピュータのハードウェア環境について

PDF Server を快適に動作させるためには、以下に示すようなシステム構成が推奨されます：

画像の PDF 変換/OCR 処理を主目的とする場合：

C P U なるべく高速なマルチコアプロセッサー

メモリ 8GB 以上

その他 PDF Server とこれに必要なソフトウェア以外をインストールしない
(PDF Server 専用機として用いる)

MS-Office/アプリケーション文書の PDF 変換を主目的とする場合：

C P U なるべく高速なマルチコアプロセッサー

メモリ 2GB 以上

その他 PDF Server とこれに必要なソフトウェア以外をインストールしない
(PDF Server 専用機として用いる)

安定して動作させるためにも以下に示す事項を順守して下さい。必ず守らなければならぬわけではありませんが、場合によっては、システム全体の動作が不安定になり、サポートできない場合があります。

- ・ 同じコンピュータ上で他のシステム（特に Web システム）を動作させない。
- ・ 同じコンピュータ上で SQL Server や Oracle など、エンタープライズ系の RDB エンジンを動作させない。
- ・ できるだけ常駐ソフトウェアを利用しない。

コマンドライン実行機能を使って複数の処理を同時に実行する場合：

C P U なるべく高速なマルチコアプロセッサー

メモリ 8GB 以上

その他 PDF Server とこれに必要なソフトウェア以外をインストールしない
(PDF Server 専用機として用いる)

コマンドライン実行機能により、並行して複数の処理を同時に行うことができます。PDF 変換はシステムに大きな負荷をかける処理であるため、複数を同時に実行する場合、以下の条件内に収まるようにすることを推奨しております：

- ・ コンピュータに搭載されている CPU のコア数 - 1 \geq 同時実行数
- ・ コンピュータに搭載されている物理メモリの総量 \geq 同時実行数 \times 3 GB

運用規模の推定

サーバーの性能によって 1 台の PDF Server で 1 日に処理可能なファイル数には限りがあります。1 日に処理しなければならないファイルによって、必要な PDF Server の台数を決定する必要があります。

まず、PDF Server の評価版などを利用して、PDF 変換するための時間がどれくらい掛かるかを予測してください。これは対象となるファイルの種類や大きさ／ページ数や変換設定の内容によっても異なります。なるべく実際と同じ状況で測定して予測することをお勧めいたします。

PDF Server で、時間を要する処理としては、OCR、オフィス／アプリケーション変換(Office ソフトウェアなどの起動に時間を要するため)、結合処理などがあります。仮に 1 時間におよそ 240 ファイル処理できるとすると、一般的な勤務時間である AM 9:00～PM 6:00 まで(9 時間)動作させた場合には 2,160 ファイル程度、24 時間では、5,760 ファイル程度を処理できることになります。

これを基にして、PDF Server を利用するユーザー数とそのユーザーがどの程度の頻度で変換処理を行うかを考えます。ここであげる人数は、PDF Server を利用するユーザー数で組織に所属するユーザーの総数ではありません。変換処理に即時性を求めるのであれば、ここで上げた台数以下でも運用は可能です。このように、運用する前には、ある程度の事前調査や利用者に向けたヒアリング調査が必要になります。

10 人程度が、1 時間あたり 20 ファイルほどの頻度で利用する

→ 1 台で対応可能です

100 人程度が、1 時間あたり 20 ファイルほどの頻度で利用する

→ 2, 3 台程度を想定する必要があります

1,000 人程度が、1 時間あたり 20 ファイルほどの頻度で利用する

→ 5 台程度を想定する必要があります

また、変換方法を工夫することによっても、余裕を作ることも可能です。たとえば、業務時間 (AM 9:00～PM 6:00) と就業後 (PM 6:00～AM 8:00) の 2 つに分け、緊急性が低いものは就業後に処理させることで、サーバーに対する負荷を平均化させます。

注意

この方法をとった場合、就業後に処理させるファイル数が、3,000 ファイルを超えると一晩では処理できなくなりますので、注意が必要です。

メインテナンスについて

PDF Server は、その仕様上、時々メインテナンスを行う必要があります。PDF Server を安定して動作させるためにもこれに留意して下さい。

定期的にコンピュータを再起動する

特に「オフィス変換 (Office 使用)」／「アプリケーション変換」機能を用いて Office/アプリケーション文書ファイルの PDF 変換を行っている場合には、1日1回程度、コンピュータを再起動することを推奨します。これは、Microsoft Office やアプリケーションを起動する際に何らかのトラブルが生じた場合、システムが停止してしまう恐れがあるためです。Microsoft Office や各種アプリケーションは、PDF Server とは異なるプロセスで動作するため、これらで何か異常が発生しても PDF Server 側から検知することができません。メモリ上に何らかのオブジェクトが残っているとそれがボトルネックとなり、徐々に速度低下などが起こり、最悪な場合、システムがハングアップして停止してしまうこともあります。そうならないようにするためには、PDF Server を利用しない時間帯に電源を落としたり、深夜など決められた時刻にOSを再起動するなどしたりします。このような処置を施すことで、確実にトラブルを減らすことができます。

PDF Server についての基礎知識

PDF Server は、フォルダ監視型の自動ドキュメント変換ソフトウェアです。これを運用するには、その動作方法と設定について知る必要があります。設定方法や考え方は、それぞれ、これをどの様に運用するかによって異なります。これを見誤ると期待した能力を発揮させることも出力結果も得ることができません。ここでは、PDF Server を利用するに当たり、最低限知っておくべき事項について説明します。

タスクについて

PDF Server は、「タスク」と呼ばれる設定を行うことで運用します。タスクは、最低 1 つ以上設定する必要があります。（プロフェッショナル版についてはその設定数に上限はありません。スタンダード版の場合、同時稼働可能なタスク数は最大 5 個までです。）また、PDF Server の起動／停止に要する時間は、動作させるタスク数に比例して増加します。また、同時に動作させるタスク数に比例してシステムリソースの消費量が増加するため、処理速度の低下を招きますので、コンピュータの処理能力と変換頻度に応じた適切な設定を行う必要があります。

タスクでは、監視するフォルダや変換したファイルを出力するフォルダの設定を行います。変換／編集については、タスクに関連付けられた「変換設定」によって設定します。

タスクには、以下の項目を設定する必要があります。

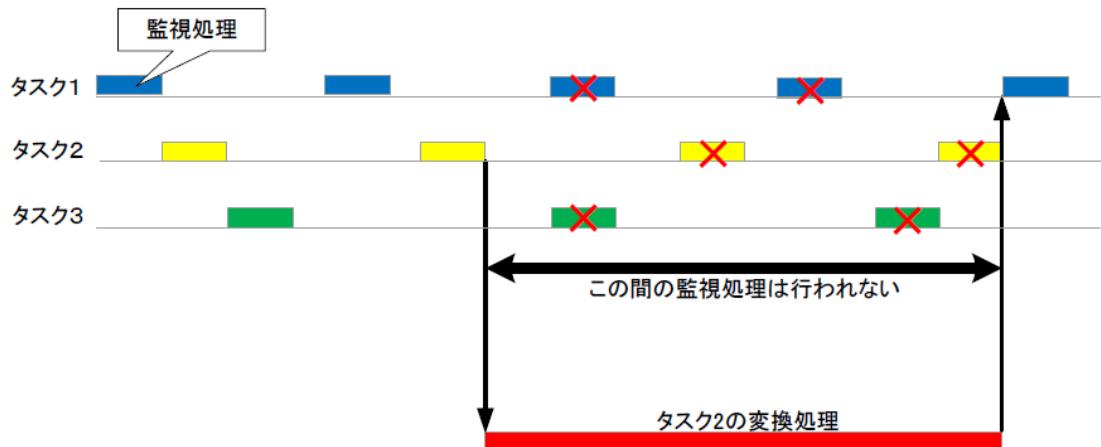
- タスクの名称
- 使用する変換設定
- 監視フォルダのパス
- 監視時間
- 一度に変換を行うファイル数
- 処理対象ファイルの種類
- 出力ファイルの種類

監視フォルダは、サブフォルダを含めて同じ階層にあるフォルダをタスク間で共有することができません。例えば、ドライブのルートディレクトリ（「D:¥」など）を監視フォルダに設定してしまうとそのドライブにあるいかなるフォルダも他のタスクの監視フォルダに設定できなくなります。一方、出力フォルダについてはタスク間で共有可能です。

タスク設定で特に重要なのは、「監視時間」と「ファイル検索数」です。タスクを 1 つだけしか設定せずに運用するのであれば問題が発生することがありませんが、複数のタスクを稼働させる場合には注意が必要になります。

PDF Server は、監視フォルダを監視している状態（変換処理を行っている状態）には、マ

ルチスレッドで監視を行っています。しかし、動作中のタスクが変換対象のファイルを見つけるとそこで他のタスクを一旦ペンドィング（待ち）状態にし、見つけられたファイルの変換作業が終了するまで監視動作を行いません（監視動作を一時停止状態にします）。変換処理が終了すると、監視動作はペンドィング状態から解除され、動作中のすべてのタスクについて監視動作を再開します。ここで変換動作は、基本的に「早い者勝ち」となります。



監視動作がこのような仕様となっていることを踏まえると、タスク数が増えるに連れ、よく考えて設定しないと何時までたっても変換処理が始まらない可能性も出てきます。特にすべてのタスクについて同じ時間間隔で監視するように設定するとそのような事態が発生する可能性が高くなります。これは、同時に監視動作が行われる場合、最初に内容のチェックを行った監視フォルダにファイルが存在すると「早い者勝ち」という原則によってその他の監視フォルダについて内容のチェックが行われない状況となるからです。そのため、監視間隔に余裕を持ってタスクが相互に監視動作を行えるような時間設定をすることが不可欠になります。そして、できる限り1分間に3タスク以内の監視動作となるように調節して下さい。例えば、5タスク以上を設定し、すべてのタスクについて監視時間を10秒に設定した場合、CPUの使用率が常時ほぼ100%となり、高い負荷がかかった状態での動作となってしまいます。このような状態では、変換処理を連続して安定して行うことが困難です。（監視時間間隔をより短くすれば、それだけ頻繁に監視動作を行うようになり、システムへの負荷が増大することとなります。）

一度に変換を行うファイルの数は、「ファイル検索数」で設定します。（初期状態では、100に設定されています。）一度に多数のファイルを監視フォルダに投入するような使い方を想定している場合には、検索数を減らすことで、変換処理を平均化することができます。この「ファイル検索数」は、「ファイルの結合」を対象とした設定です。（1回の検索数を「5ファイル」に固定すると1度の処理で5ファイル以上のファイルを結合することができません。）結合処理を行わないタスクであれば、検索数を数ファイル程度に収めることでタスク間の処理ファイル数のばらつきを抑えることができるかと思われます。これについては、運用状況に応じて調整してみてください。

基本的なファイル変換の流れ

PDF Server は変換するファイルによって変換方法が異なります。ここでは入力ファイル別に主な設定部分と変換順序について説明します。

テキストファイル変換

テキストファイルは以下の流れで変換します。



それぞれのフェーズでは以下の設定を利用します。

【テキスト→PDF 変換】

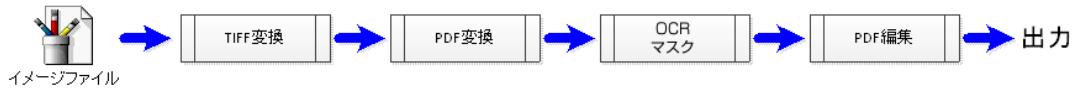
設定は[変換設定] → [入力設定] → [テキスト設定]で行います。テキストファイルはワープロデータと異なり、文字情報しかなく、使用するフォントや用紙などの情報を一切持ちません。そのため、最低限の文字情報を設定します。

【PDF 編集】

設定は[PDF ファイル設定]以下のメニューで行います。テキストファイルに限らず、すべての入力ファイルを PDF に変換する場合の最終的な設定となります。

イメージファイル変換

ビットマップや TIFF、JPEG、PNG、JPEG2000 などのイメージファイルは以下の流れで変換を行います。



変換処理の流れを統一化するため、一度プレーンな TIFF ファイルに変換します（画像の解像度やサイズなどは変更しません）

その後、OCR を行う場合には、TIFF に統一された画像ファイルを PDF ファイルへ変換し、必要に応じてマスク処理を行った上で OCR 処理が実行され、最後にテキストファイル同様に PDF の編集を行います。

【OCR 設定】

イメージファイルと PDF ファイルは OCR を行う事ができます。OCR とはイメージから文字を読み取って、出力 PDF ファイルの上に文字情報を重ねてあたかもそこに文字があるような感じで透明なテキストを置きます。これにより PDF ファイルがテキスト検索ができるようになります。設定は[OCR 設定]以下で行います。

【マスク設定】

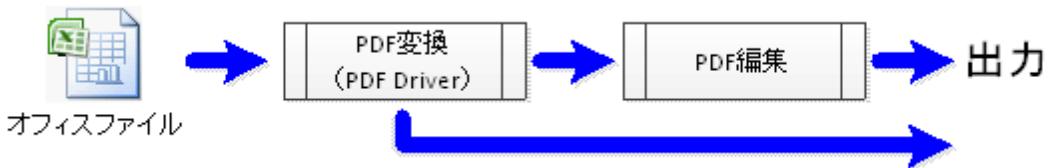
マスクとは PDF から指定範囲のテキストを削除したり、画像を塗りつぶして消去する処理の事です。[変換設定] → [入力設定] → [マスク設定]で行います。

注意：設定により対象となる PDF ファイルは、以下のいずれかとなります。

- ・ 画像だけからなるページを持つ PDF ファイル
- ・ 全ての PDF ファイル（但し、元の PDF ファイルにあったテキストやベクトルデータが失われます。）

オフィスファイル変換（Office 使用）

Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint) ファイルを以下の流れで変換します。ただし、変換にはそれぞれのソフトウェア (Microsoft Office、64-bit 版の利用を推奨) が PC にインストールされ、正常に動作する必要があります。



PDF 変換には Microsoft Office ソフトウェアを利用して PDF Driver で変換（出力）を行います。この処理は PDF コンバーターで行うため、PDF コンバーターが起動（常駐）している必要があります。

【オフィス変換設定】

オフィス設定（Office 使用）は[変換設定] → [入力設定] → [オフィス設定（Office 使用）] 以下で行います。Word/Excel/PowerPoint それぞれ個別に設定があります。

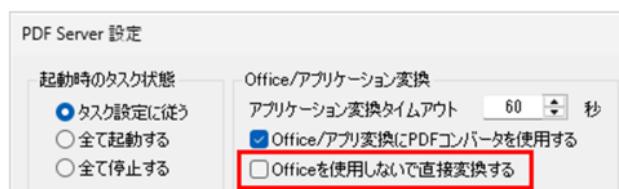
【PDF Driver 設定】

オフィス/アプリケーション変換で使用する PDF Driver は[変換設定] → [入力設定] → [PDF Driver 設定]にて設定を行うことができます。詳細については「[付録：PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」の印刷設定](#)」の項を参照してください。PDF Driver で設定されている設定がプリセットされ、選択されたものが利用されます。

重要

この機能は、対象となる Office 文書ファイルを製品付属の PDF 生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver 8.0」を用いてコンピュータにインストールされている Microsoft Office で印刷することによって実現しています。そのため、この機能を利用するには、必ずコンピュータにログインしなければなりません。

この機能を利用するには、「PDF Server 設定」画面のチェックボックス「**Office を使用しないで直接変換する**」のチェックマークが外れている必要があります。また、この機能は「オフィス変換（直接変換）」と同時に設定／使用することはできません。



「PDF Server 設定」画面の「Office/アプリケーション変換」オプション

オフィスファイル変換（直接変換）

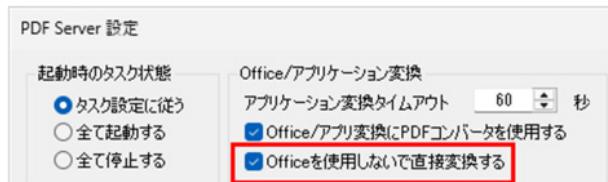
Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint) ファイルを弊社独自技術「Office Server Document Converter (OSDC)」を用い、以下の流れで変換します。



オフィスファイル変換（Office 使用）とは異なり、PDF Server が動作している PC へのログイン／Microsoft Office のインストール、PDF コンバーターの起動（常駐）を必要としませんが、PDF 変換結果が Microsoft Office を用いて出力したものと異なる場合があります。

重要

この機能を利用するには、「PDF Server 設定」画面の「Office/アプリケーション変換」のチェックボックス「Office を使用しないで直接変換する」にチェックマークが付いている必要があります。（初期状態では、チェックされていません。）また、この機能は「オフィス変換（Office 使用）」と同時に設定／使用することはできません。



「PDF Server 設定」画面の「Office/アプリケーション変換」オプション

アプリケーション変換

各種アプリケーションで作成されたファイルは以下の流れで行います。



オフィスファイルと同様、変換にはそれぞれのファイルを作成したソフトウェアが必要となります。

アプリケーション変換は、PDF Driver を利用して、文書を作成したアプリケーションから印刷を行うことで PDF へ変換しています。この処理は PDF コンバーターで行うため、PDF コンバーターが起動（常駐）している必要があります。

【アプリケーション変換設定】

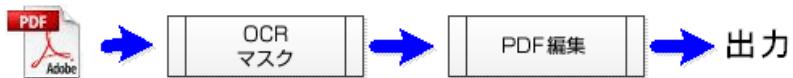
変換するアプリケーションの種類を設定するのは [変換設定] → [入力設定] → [アプリケーション変換設定] で行います。設定は拡張子を登録することで行います。イメージファイルは登録できません。テキストファイルとオフィスファイルの拡張子は警告が出ますが登録可能です（赤文字で表示されます）。アプリケーション変換は、汎用的な処理であるため個々のアプリケーションについて詳細な設定は行う事ができません。

注意

「入力ファイル設定」で対象となるオフィスファイルを選択した状態で、且つアプリケーション変換設定でも Office ファイルの拡張子を登録している場合、アプリケーション設定が優先されます（オフィス設定（Office 使用）が無視されます）ので注意してください。

PDF 変換

PDF は基本的に OCR と PDF 編集を以下の流れで行います。



PDF の OCR は基本的にそのページが「画像ファイル」1枚だけで構成されているファイルが対象です。（主にイメージスキャナで出力したものです。）対象外の PDF も OCR が可能ですが、この場合は一度ビットマップに変換してから行うので、時間を要し、場合によつては出力される PDF ファイルのサイズがかなり大きくなり、元々持っていたテキストなどの情報が画像に置き換えられてしまいます。

PDF 編集でマスク処理が指定されていても、OCR が指定されていない場合は、PDF 編集の中でマスク処理が実行されます。

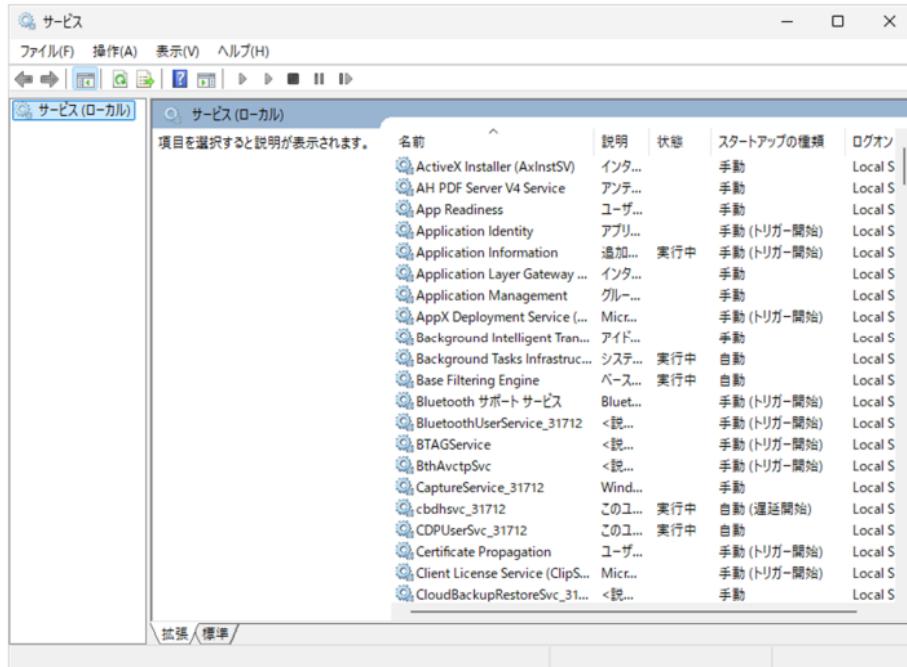
自動ログオンと PDF Server の自動起動

PDF Serverにおいて、オフィス/アプリケーション変換を行う場合はログオンした状態でないと実行する事はできません。サーバーOSではデフォルトで自動ログオンする事ができないため、日常の運用の中で再起動を自動で行うケース（Windows Updateなども含みます）が存在する場合には自動ログオンと PDF Server の自動起動の設定を行う必要があります。なお、「オフィス変換（Office 使用）」／「アプリケーション変換」機能を用いて PDF 変換を行う場合には、PDF コンバーターの自動起動も必要ですが、こちらについては「[PDF コンバーターについて](#)」の項を参照して下さい。

PDF Server の自動起動

PDF Server の本体はサービスなので、こちらを自動起動にします。

1. Windows キー + R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 「名前」フィールドに「**services.msc**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してサービスを起動します。



3. 表示された画面中のサービス「AH PDF Server V4 Service」をダブルクリックするか、マウスの右ボタンクリックで表示されるメニューから「プロパティ」を選択してこれを開きます。

4. 「全般」タブをクリックし、「スタートアップの種類」で「自動」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



自動ログオン

以下の手順にしたがって、レジストリ エディターを使用して自動ログオン機能を有効にします。

1. Windows キー + R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 「名前」フィールドに「**Regedit.exe**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してレジストリ エディターを起動します。
3. レジストリ 内 の `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon` サブキーを見つけます。
4. 「編集」メニューの「新規」を用いて、以下の 4 つの値を作成します。

種類	名前	値
文字列値	AutoAdminLogon	1
文字列値	DefaultDomainName	ドメイン名 ^{※1}
文字列値	DefaultUserName	ユーザー名
文字列値	DefaultPassword ^{※2}	パスワード

※1 コンピュータをドメインに参加させている場合、DefaultDomainName 値を追加する必要があります。その際の値のデータは、ドメインの完全修飾ドメイン名 (FQDN) として設定する必要があります (例: somewhere.com)。

※2 DefaultPassword 値が存在しない場合には、値を追加する必要があります。

5. レジストリ エディターを終了します。
6. コンピュータを終了します。
7. コンピュータを再起動します。これで、自動的にログオンできます。

注意

この方法では、レジストリにログインユーザー名/パスワードを**平文**のテキスト形式で保存するためセキュリティリスクとなる可能性があります。

【参考】Windows で自動ログオン機能を有効にする

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/troubleshoot/windows-server/user-profiles-and-logon/turn-on-automatic-logon>

再起動

オフィス/アプリケーション変換を行うと別プロセスで変換対象ファイルに対応するソフトウェアを起動します。この場合、個々のソフトウェアは PDF Server の管理下にないため、何かトラブルが起こった場合はユーザーが手動で確認する必要があります。また、リソースの開放が不十分だった場合、動作に対して徐々に影響が出てくる可能性があります。場合によってはそれが原因で PDF Server 自体も停止してしまいます。そのような事を未然に防ぐ意味で運用サイクルにシステムの自動再起動や PDF Server サービスが停止してしまった場合のリカバリ方法を説明します。

注意

自動でシステムの再起動を行う時は PDF Server が変換処理を行っていない時間に行われるよう設定して下さい。

自動再起動

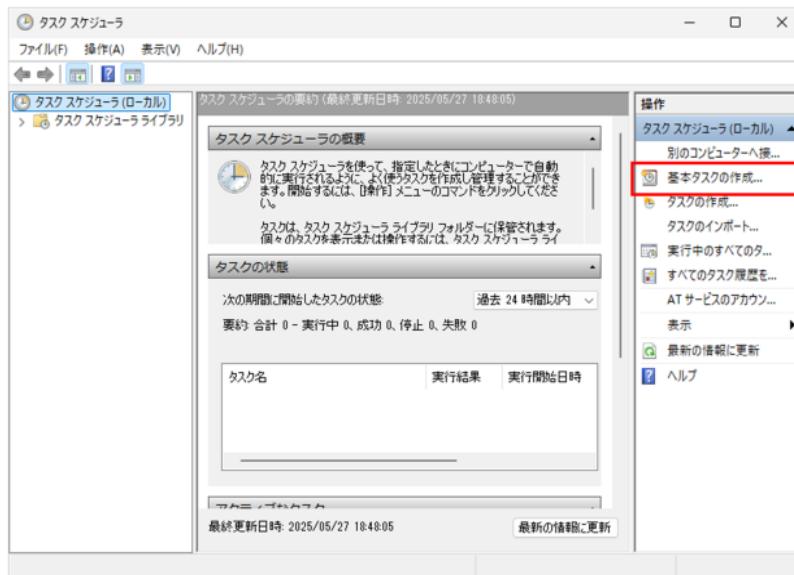
OS を任意のタイミングで自動的に再起動するには、タスク スケジューラで「**restart.bat**」を起動することで行います。このバッチファイルは以下の動作を行っています。

1. PDF Server サービスの停止と待機
2. shutdown コマンドによるシステムのシャットダウン

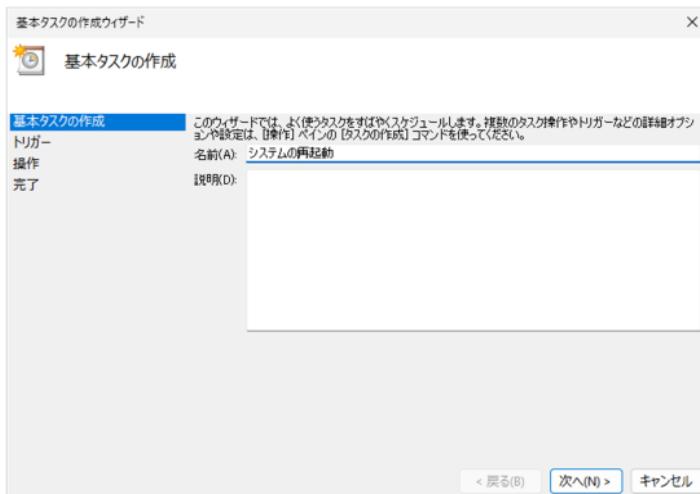
なお、このバッチファイルは、入手された製品パッケージの「Sample¥Restart」フォルダにあります。

OS を再起動するタスクを設定するには：

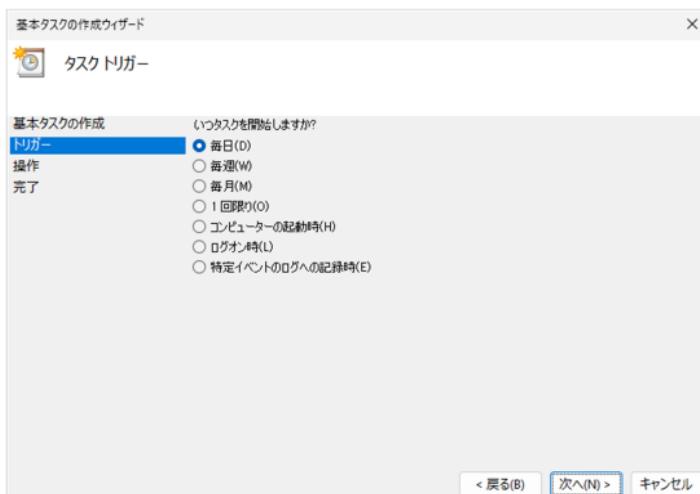
1. Windows キー + R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 「名前」フィールドに「**taskschd.msc /s**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してタスク スケジューラを起動します。
3. タスク スケジューラが起動したら、一番右の「操作」ペインにある「基本タスクの作成…」をクリックします。



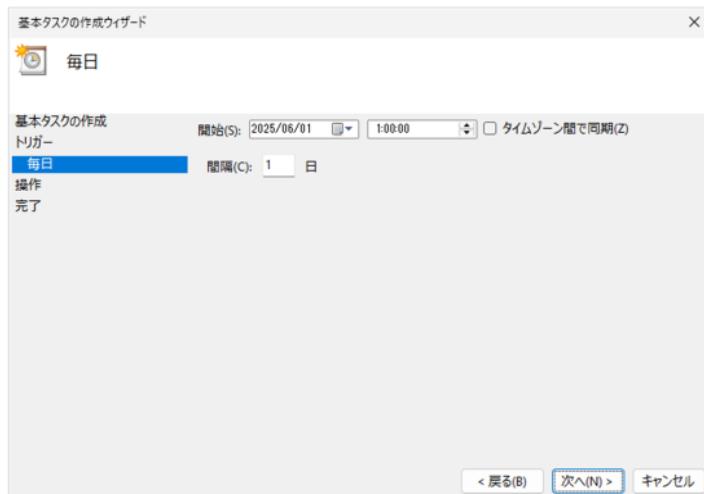
4. 「基本タスクの作成」画面が表示されます。「名前」と「説明」に自分が分かりやすいユニークなものを入力します。入力内容に関しては任意の内容で構いません。入力後、「次へ」ボタンをクリックします。



5. 「タスクトリガー」画面が表示されます。「毎日」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

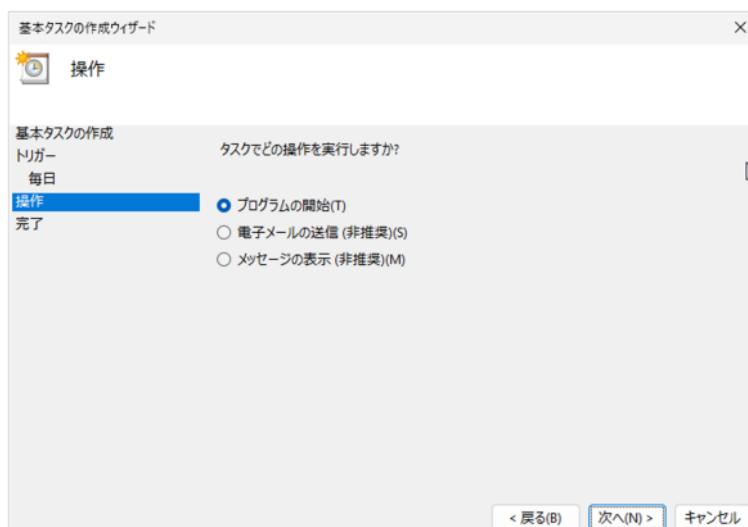


6. 「毎日」画面が表示されます。「開始」の日付（設定当日で構いません）と再起動する時刻（24 時間表記）を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

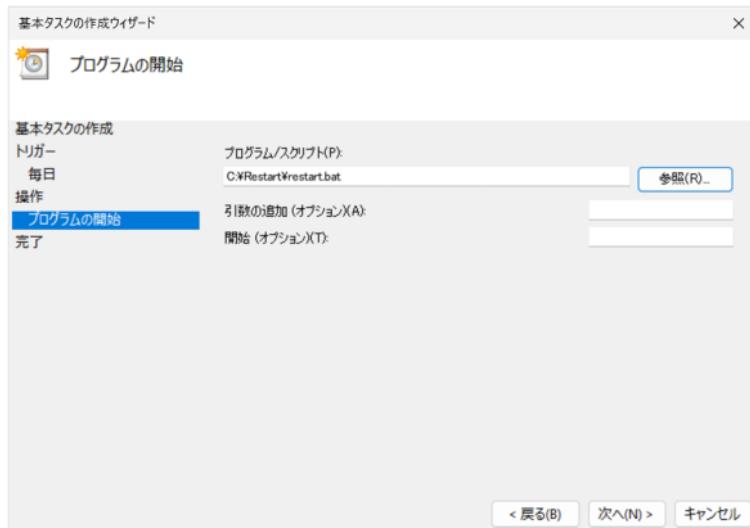


※ 「間隔」は「1日」のままにします。

7. 「操作」画面が表示されます。「プログラムの開始」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。



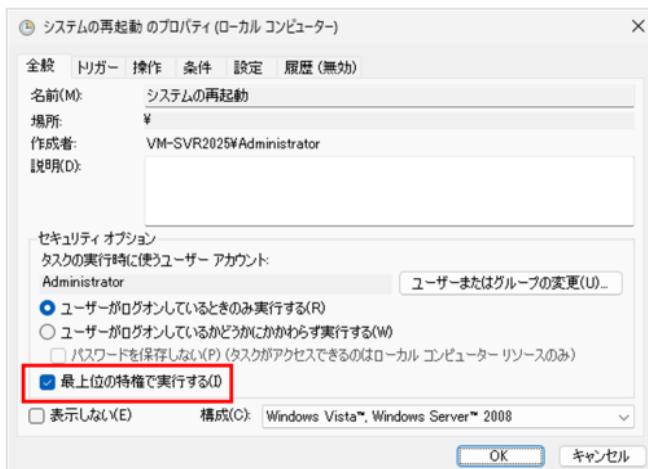
8. 「プログラムの開始」画面が表示されます。「プログラム/スクリプト」に「restart.bat」のフルパスを入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンを押下して表示される「開く」画面を用いて選択します。



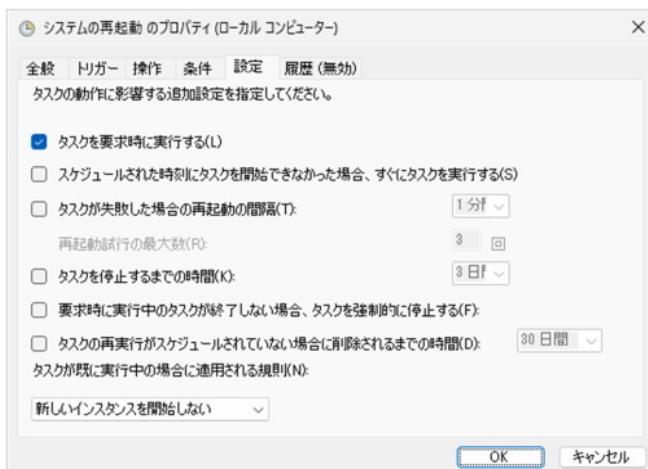
9. 「要約」画面が表示されます。チェックボックス「[完了]」をクリックしたときに、このタスクの「[プロパティ]」ダイアログを開くにチェックマークを付けた後、「完了」ボタンをクリックします。



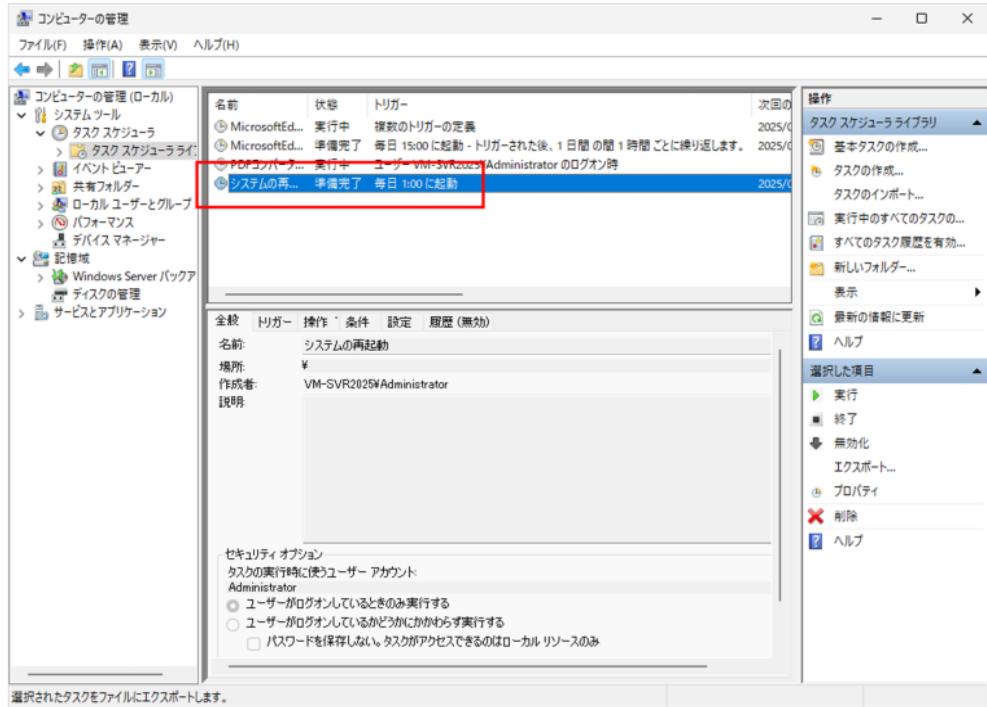
10. 「(手順4で設定したタスクの名前) のプロパティ」画面が表示されます。チェックボックス「最上位の特権で実行する」にチェックマークを付けます。



11. 「設定」タブをクリックし、「タスクを要求時に実行する」以外の項目のチェックマークを外した後、「OK」ボタンをクリックします。



12. タスクスケジューラのメイン画面に戻って一番左のペイン内の「タスク スケジューラ ライブアリ」をクリックして中央のペインに表示される中に作成したタスク名があれば登録完了です。

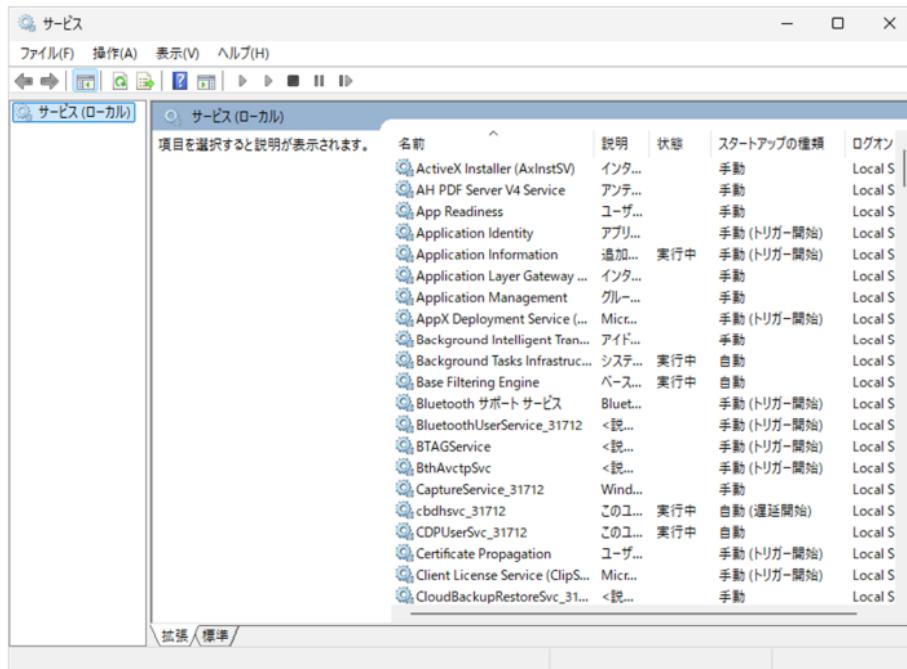


サービス停止による再起動

PDF Server サービスは、リソースの都合などの外的要因により異常停止するケースがあります。この場合、通常のアプリケーションとは異なり、エラーで停止したか否かはコントロールパネルやサービスの管理コンソールなどを確認しないとわかりません。状況によっては再度「開始」しても、すぐに停止してしまう可能性もあります。

ここでは、PDF Server サービスがエラーで停止した場合、自動で PDF Server サービス/OS を再起動する方法を説明します。

1. Windows キー+R キーを押下して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 「名前」フィールドに「**services.msc**」と入力した後、「OK」ボタンを押下してサービススナップインを起動します。



3. リスト中のサービス「AH PDF Server V4 Service」をダブルクリックするか、マウスの右ボタンクリックで表示されるメニューから「プロパティ」を選択して開きます。



4. 「回復」タブをクリックし、「アカウント」を選択します。「最初のエラー」に「サービスを再起動する」を、「次のエラー」と「その後のエラー」には「コンピュータを再起動する」を選択します。そして、「エラーで停止した時の操作を有効にする」にチェックを入れて「OK」ボタンをクリックします。



タスク設定のテクニック

タスク設定には単独で機能するものと、他の設定に影響されて機能したり機能しなかったりするものなどがあります。PDF Server のタスク設定ではある程度、柔軟に設定ができるよう極力エラーや警告を出す事はしていませんが、その分状況によってどういう動作になるのかはある程度経験も必要です。ここでは、タスク設定を行うに当たって特に知って欲しい事柄について説明します。

PDF 編集の簡略化

PDF Server では、各ファイルを PDF に変換した後、最後に変換設定の[PDF 設定]にしたがって PDF 編集を行います。

PDF の編集が必要ない場合や、PDF Driver の PDF 変換結果をそのまま利用したい場合、以下の設定により編集処理を省略することができます。

1. [変換設定] → [入力設定] → [オフィス設定] → [PDF Driver 設定]で、「出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない」にチェックを入れます。この項目にチェックが入っていると、オフィス／アプリケーション変換では、PDF Driver による PDF 変換のみが行われ、[出力設定] → [PDF 設定] 以下の設定が適用されずに出力されます。
(PDF Driver の印刷設定 (PDF バージョン、セキュリティ設定など) を維持した PDF 出力となります。)。この時、OCR や結合などは動作しないので注意して下さい。
2. 「MS-Office/アプリケーション変換で使用する設定」で PDF Driver の印刷設定を選択します。新たに作成したい場合や既存の設定を変更する場合には、「設定」ボタンをクリックして PDF Driver の設定画面を呼び出します。PDF Driver の設定のうち、「作成後の PDF を表示」や「保存」設定は PDF Server では無視されます。PDF Driver で主に設定可能な項目は以下の通りです。

MEMO

PDF Driver の設定の詳細については、PDF Driver のマニュアルを参照して下さい。PDF Driver のマニュアルは、「スタート】メニュー→「すべてのプログラム」→「Antenna House PDF Driver 8.0」→「利用ガイド」からアクセスできます。

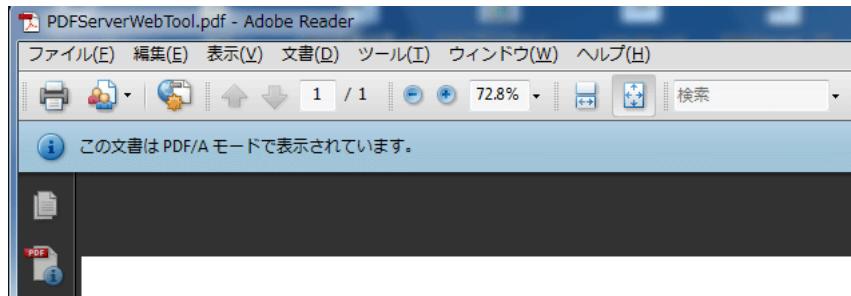
- PDF バージョンの指定
- Web 表示用に最適化
- 圧縮方法設定
- フォントの埋め込み設定
- セキュリティ設定
- テキスト・イメージウォーターマーク設定
- PDF の開き方
- PDF 情報の設定

注意

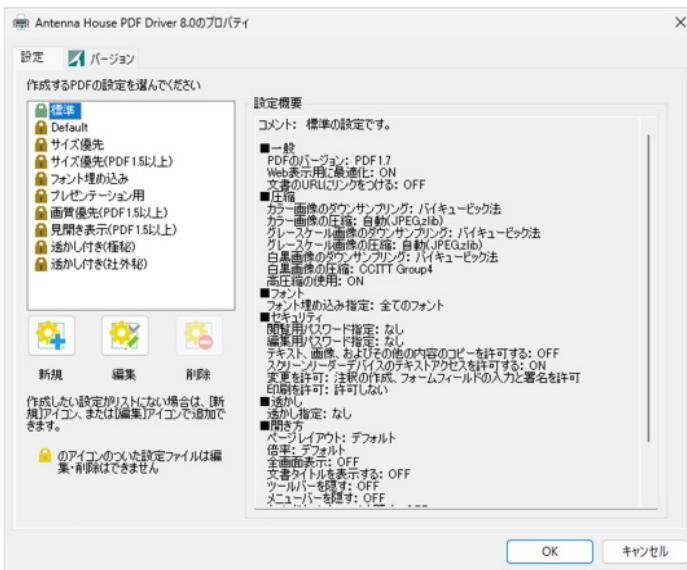
「出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない」にチェックが入っていると、Excel 設定の「対象シート」を「全シート」、「出力方法」で「シートを 1 つのブックにまとめる」を選択した場合、シートの結合が行われませんので注意して下さい。

PDF/A、PDF/X 変換

PDF/A とは、PDF 1.4 仕様に基づく、電子文書の長期保存用の形式です。また、PDF/X とは、ISO15930 で定義された、円滑な印刷工程を実現することを目的とした標準 PDF のサブセットです。PDF Server では PDF Driver の機能を利用して、オフィス／アプリケーション変換のみ、PDF/A、PDF/X 変換に対応しています。



1. 「[PDF 編集の簡略化](#)」を参照して、「出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない」の設定を行います。
2. PDF Driver の設定画面を表示して「新規」ボタンをクリックします。



3. 「一般」タブ画面が表示されます。この時、「設定の名称」フィールドには、選択していた設定名に括弧付きの数字を付した名称が設定されています（図の場合には「標準(1)」）。印刷設定を保存する際には、この画面で編集します。

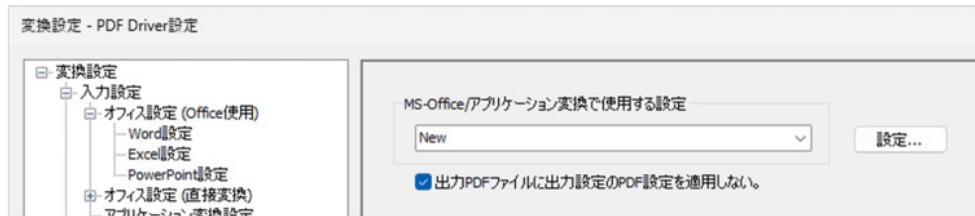


一度保存した印刷設定の名前は、変更できません。ご注意ください。

4. 「PDFバージョン」タブ画面を表示した後、「PDFのバージョン」を PDF/A の場合には「PDF/A-1b」、または「PDF/A-2b」を選択、PDF/X の場合には、「PDF/X-1b:2005」などを選択した後、出力インテントのプロファイル、仕上がり／裁ち落としサイズなどを設定し、「OK」ボタンをクリックして「一般」タブ画面の「設定の名称」フィールドに設定されている名称で PDF Driver の印刷設定を保存します。



5. [変換設定] → [入力設定] → [オフィス設定] → [PDF Driver 設定]の「MS-Office/アプリケーション変換で使用する設定」を手順4で保存した設定名(図の場合には、「New」)に変更して「OK」ボタンをクリックします。



「出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない。」のチェックを忘れた場合には PDF/A や PDF/X で出力されませんので注意して下さい。

PDF Driver の設定の詳細については、PDF Driver のマニュアルを参照して下さい。PDF Driver のマニュアルは、「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 → 「Antenna House PDF Driver 8.0」 → 「利用ガイド」からアクセスできます。

Web 表示に最適化

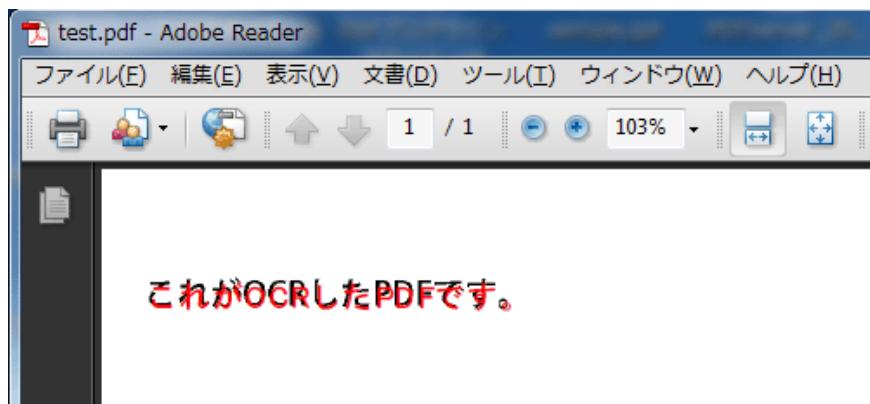
当初 PDF は、最初から最後まで読み込まないと Acrobat Reader などのビューワーで表示することができませんでした。ファイルサイズが小さい場合には問題となりませんが、ページ数が増えるなどして大きくなると、ファイルを最後まで読み込むための時間が掛かり表示まで待たされる事になります。ローカルディスク上にあるファイルを表示する場合であれば問題ありませんが、インターネット上にある PDF ファイルを Web ブラウザで表示する場合、通信速度によってはかなりの時間を持つ事になってしまいます。これを読み込んだデータから順次表示できるようにするのが「Web 表示に最適化（リニアライズ）」と呼ばれる機能です。PDF ファイルがリニアライズされているか否かは、Adobe Reader など、PDF ビューアを使ってファイルのプロパティ情報画面で確認することができます。Web 表示に最適化されているからと言って、ファイルサイズが小さくなる訳ではありません（通常、ファイルサイズはほとんど変わりません）ので注意して下さい。読み込んだ順に表示できるようにデータを再構成しているだけです。

出力する PDF ファイルを Web 表示に最適化するには、[変換設定] → [出力設定] → [PDF 設定] → [基本設定] にて行います。下図のように「Web 表示用に最適化する」にチェックを入れるだけです。



OCR

OCR (Optical Character Reader、または Optical Character Recognition) とは画像内のデータを読み取り、文字の形状に基づいて文字を識別して実際の文字データに変換する事です。PDF Server では OCR した文字をテキストファイルとして出力します。また、PDF の場合は画像の上に文字情報を重ねてセットします。



OCR テキスト埋め込みイメージ（実際には透明な OCR テキストを赤字で表示した例）

PDF Server では以下のファイルが OCR 設定の対象となっています。

- イメージファイル（ビットマップ/JPEG/TIFF/PNG/JPEG2000）
- 画像が 1 枚のみの PDF ファイル、またはすべての PDF ファイル（設定による）

MEMO

- 画像が 1 枚のみの PDF ファイルとは、紙原稿をイメージスキャナを使って読み込んで作成された PDF ファイルの事です。ただし、高压縮 PDF ファイルは対象外となっていますので注意して下さい。
- 条件付きですが、すべての PDF ファイルで OCR を実行する事が可能です。詳細については「[すべての PDF で OCR テキスト付き PDF を作成する](#)」の項を参照して下さい。

OCR 設定は、[変換設定] → [入力設定] → [OCR 設定]以下で行います。



OCR を実行するかどうかは[変換設定] → [入力設定] → [OCR 設定] → [OCR 処理設定]にて行います。



「OCR」処理の項目で「全ページ OCR 処理を行う」もしくは「指定ページのみ OCR 処理を行う」を選択します。

OCR エラーの無視

「OCR エラーが発生した場合も無視して PDF を作成する」をチェックした場合、PDF Server は OCR でエラーが発生した場合でも、これを無視して PDF を作成するようになります。

すべての PDF ファイルで OCR テキスト付き PDF を作成する

「すべての PDF ファイルで OCR テキスト付き PDF を作成する」にチェックをいれるとすべての PDF ファイルを対象に OCR 処理を行うようになります。これは PDF Server で OCR 対象外も含めた PDF ファイルに対して有効になります。この項目がチェックしてある場合、PDF Server は入力ファイルが PDF だった場合、ページ単位で一度ラスターイメージに変換してから OCR を実行してそれを PDF にし、結合します。

このオプションを有効にすることで、どんな PDF でも OCR 処理することができますが、ラスターイメージに変換するため、以下のデメリットがあります。

- ・ ファイルサイズが、元のファイルよりかなり大きくなる
- ・ ラスターイメージ化されるためテキストやベクトルデータがすべて失われる
- ・ 処理に時間がかかる
- ・ 高圧縮 PDF ではなくなってしまう

QR コード（二次元バーコード）

QR コードとは、1994 年に株式会社デンソーの開発部門（現：株式会社デンソーウェーブ）が開発したマトリックス型二次元バーコードです。QR とは Quick Response に由来し、高速読み取りができるように開発されたものです。元々は物流タグとしての利用が想定されていましたが、現在では携帯電話での読み取りなど広く一般に普及しています。

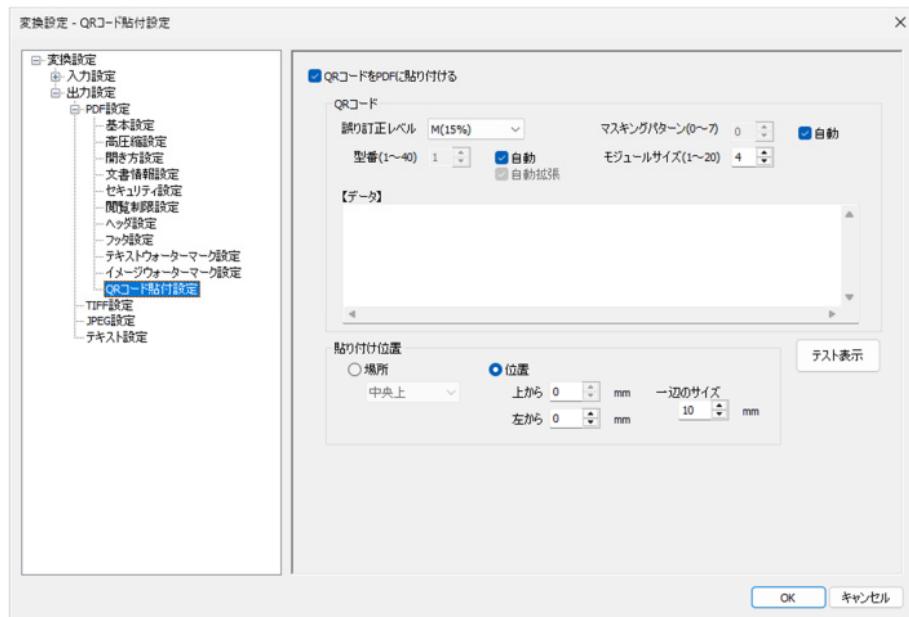


QR コードの例

PDF Server では QR コードを作成して PDF に貼り付ける事や、QR コードを利用しての自動振り分けが可能となっています。

QR コードの貼り付け

PDF Server では出力する PDF ファイルに任意の QR コードを貼り付けて出力する事ができます。設定は[変換設定] → [出力設定] → [PDF 設定] → [QR コード貼付設定]で行います。



データに関してはフリーフォーマットになります。ただし、現状ではデータの差し込みができませんので変換設定画面で入力した固定データのみとなります。

QR コードの読み取り

PDF Server は、画像や PDF ファイルをスキャンしたときに QR コードが確認でき、且つその内容が PDF Server 用フォーマットだった場合、その内容にしたがって処理を行います。PDF Server 用フォーマットでない場合や、PDF Server 用フォーマットであっても内容に誤りがあった場合などには、タスク/変換設定が使用されます。なお、マルチ TIFF や PDF で複数ページを持つ場合には先頭ページのみをスキャンします。

QR コードの仕様

PDF Server で読み取り、実行できる項目は以下の通りです。

- 出力先フォルダ
- 出力ファイル名（拡張子は含まない）
- PDF の文書情報（タイトル/主題/作成者/キーワード/作成ソフトウェア）

QR コードの仕様は、以下のようになっています。

ヘッダ；データ；データ；データ；データ

ヘッダ： ヘッダ文字列「**PSV**」を記述します。（半角固定値）

これがない場合、PDF Server 用ではないものと見なし、タスク/変換設定を優先して処理します。

セパレータ： セミコロン（;）をヘッダやデータの区切り文字とします。

データ： 「**識別子=値**」の形式で記述します。内容については、下表を参照して下さい。

識別子（半角）	設定内容
FNAME	出力ファイル名（拡張子は含みません。）を設定します。禁止文字（"/"など）が含まれる場合はエラーとなり、タスク設定されているものを利用します。
OUTDIR	出力（保存）フォルダを設定します。フォルダが存在しない場合はエラーとなり、タスク設定されているフォルダに出力（保存）します。
TITLE	PDF の文書情報「タイトル」をこの値で設定します。
SUBTITLE	PDF の文書情報「サブタイトル」をこの値で設定します。
AUTHOR	PDF の文書情報「作成者」をこの値で設定します。
KEYWORD	PDF の文書情報「キーワード」をこの値で設定します。
PRODUCER	PDF の文書情報「作成」をこの値で設定します。

【 QR コード用データの例 】

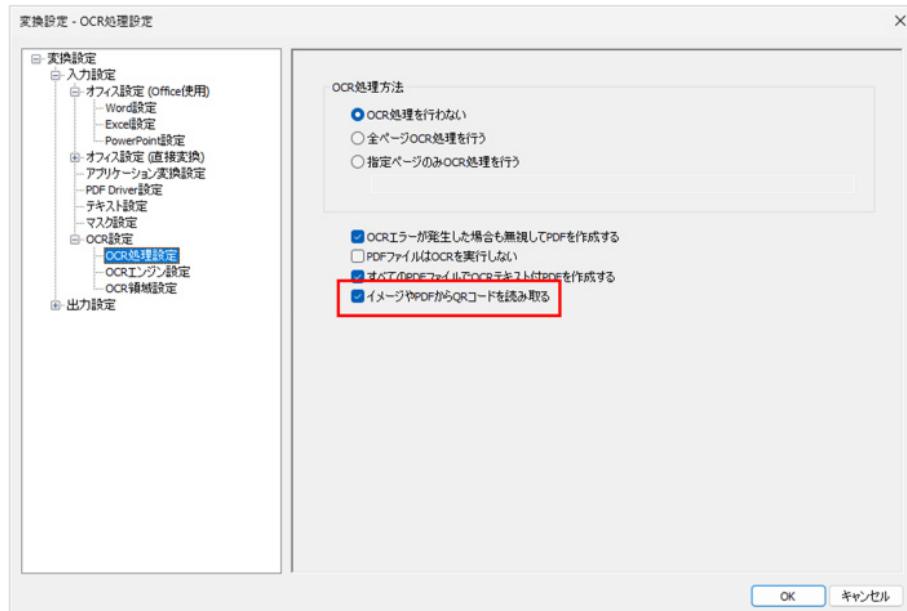
```
PSV;OUTDIR=D:¥pdfserver¥out;FNAME=output_pdf;TITLE=Title;SUBTITLE=SubTitle;AUTHOR=Creater Name;KEYWORD=keyword;PRODUCER=Software
```

注意

各識別子に対応するデータすべてが必要なわけではありません。1つ以上の識別子のデータがあれば構いません。

QR コードの読み取り設定

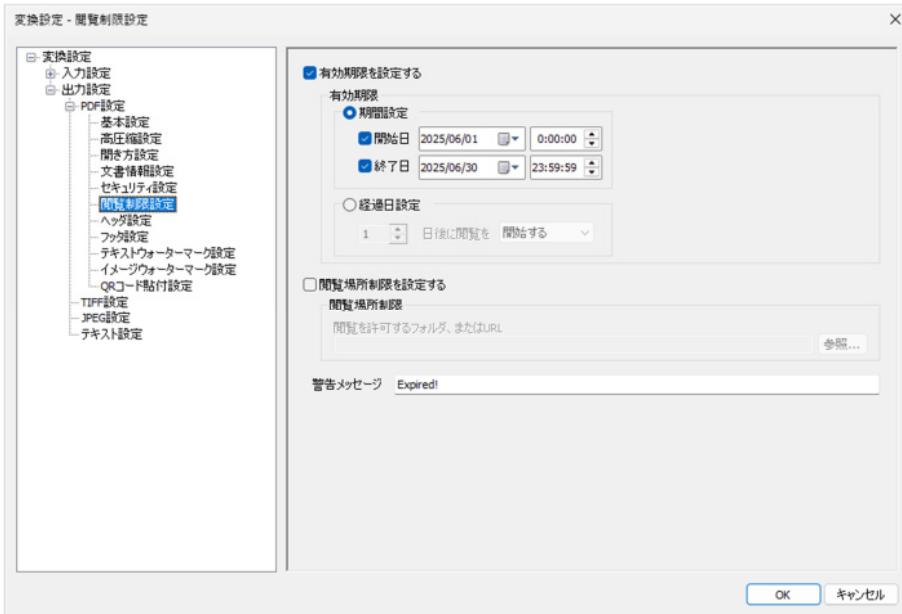
QR コードの読み取り設定は [変換設定] → [入力設定] → [OCR 設定] → [OCR 处理設定] で行います。



「イメージや PDF から QR コードを読み取る」にチェックを入れれば設定完了です。入力ファイルに QR コードが確認できなかった場合には、通常通り、タスク/変換設定にしたがって処理します。

閲覧制限期限

PDF Server では、出力 PDF ファイルに有効期限、または閲覧可能なファイルの保存場所を設定する事ができます。この機能は、PDF ファイルに JavaScript を埋め込む事によって実現しています。設定は、[変換設定] → [出力設定] → [PDF 設定] → [閲覧制限設定]で行います。



注意

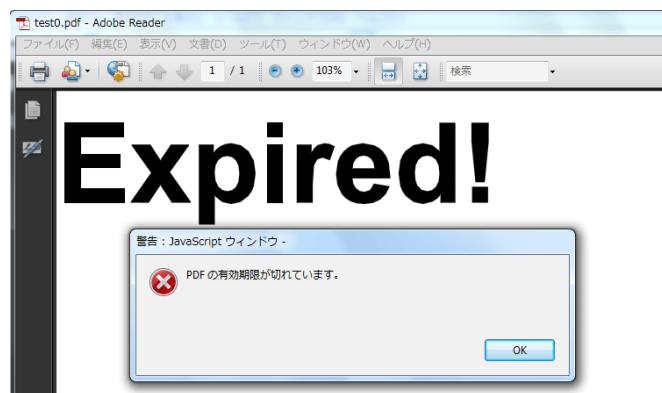
- 「閲覧制限設定」機能は、セキュリティを目的としたものではありません。PDF ファイルを設定された期間以外に開いたときなど、予め設定した条件が有効なものではないことを明確にするためのものです。
- 「閲覧制限設定」機能は、Acrobat JavaScript によって実現しています。PDF ファイルを閲覧するソフトウェアには、Acrobat JavaScript をサポートしていないものがあり、そのようなソフトウェアを用いて閲覧する場合には、正しく機能しません。

有効期限の場合、「期間設定」もしくは「経過日設定」のいずれかで設定します。

「期間設定」では「開始日」または「終了日」、もしくはその両方を設定し、その該当する期間だけ PDF ファイルの閲覧を許可します。

「経過日設定」は PDF ファイルに変換した日を起点にして設定した日数後に閲覧開始、または閲覧終了するかを設定します。閲覧開始は午前 0 時、閲覧終了は午後 23 時 59 分がリミットです。

閲覧場所を制限する場合、閲覧を許可するファイルの保存場所（フォルダパス、もしくは URL）を設定します。（フォルダパスを設定する場合には、フィールド右の「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを利用できます。）有効期限切れや閲覧を許可された場所以外に保存されている PDF ファイルを表示すると以下のように「警告メッセージ」フィールドに入力した文字列が表示されます。



Adobe Reader などのビューアー側で「JavaScript」が無効だった場合、また Acrobat JavaScript をサポートしていないビューアーで閲覧した場合には以下のようなメッセージが表示されます。



これは閲覧の有効期限がまだ切れていないが、有効期限が設定してある PDF ファイルの場合も同様です（JavaScript を有効にすると閲覧できます）

注意

- 有効期限を判定するための日時は、閲覧する PC に内蔵されている時計を用いています。当然のことですが、この時計の日時が正確ではないと期待通りに機能しません。
- 環境によっては、閲覧条件を満足する状態で有効期限が設定されている PDF ファイルを開いた時に一瞬だけ警告メッセージ（上記の場合は「Expired!」）が見える場合がありますが、これは製品の仕様です。

結合

PDF Server では、入力ファイルに対して「結合」ができますが、この結合処理は PDF Server の中では特殊な処理となっています。結合は対象となるファイルを全て PDF に変換したうえで結合し、変換設定の[PDF 設定]に従い PDF の編集を行います。通常の場合と変換フローが変わるため、状況によってできない場合と、思い通りにいかないケースもあります。結合処理を行う場合はなるべく「結合」のみに絞ってタスクを設定する事をお勧めします。

ファイル結合に関する主な制限は以下の通りです。

- 分割設定と同時に実行することができません。
- サブフォルダを検索している場合は期待通り結合できません（※）
- QR コード読取設定が有効な場合は結合できません。
- オフィス/アプリケーション変換で、PDF Driver に「セキュリティ」設定を行った場合は結合に失敗します。
- 入力が PDF ファイルの場合、セキュリティが設定されていると結合に失敗します。

注意

結合はファイル検索されたファイル（キューイングされたファイル）を対象に実行します。結合後の設定はソートされた最初のファイルの設定が優先的に利用されます（PDF の文書設定など）そのため、サブフォルダの場合、出力フォルダは最初のファイルの出力フォルダ設定が適用されてしまうため、仕様上、期待通りにならないことがあります。

トリガーファイル

トリガーファイルとは、変換終了後に出力される変換結果を格納したファイルで、出力されるファイル単位で順次作成されます。

他のシステムで PDF Server の出力ファイルを監視する場合、出力ファイルは出力途中からフォルダ内に存在するため、出力ファイルの有無だけを監視しても何時処理が終了したのかを正しく判断することができません（出力途中だとファイルサイズがゼロだったり、ロックされていたりするため処理ができません）

トリガーファイルはファイルの出力が完了した時点で出力され、変換が完了した日時と結果（成功/失敗）が記録されています。トリガーファイルを監視する事によって早い段階で次の処理へ移行可能です。

出力について トリガーファイルは以下のように出力されます。

- 出力ファイル名と同じファイル名で作成されます。（拡張子は任意で設定します。）
- 結合を行った場合は最終的に結合して出力されたファイル名で作成されます。
- 分割を行った場合は、分割したファイル数だけ出力されます。

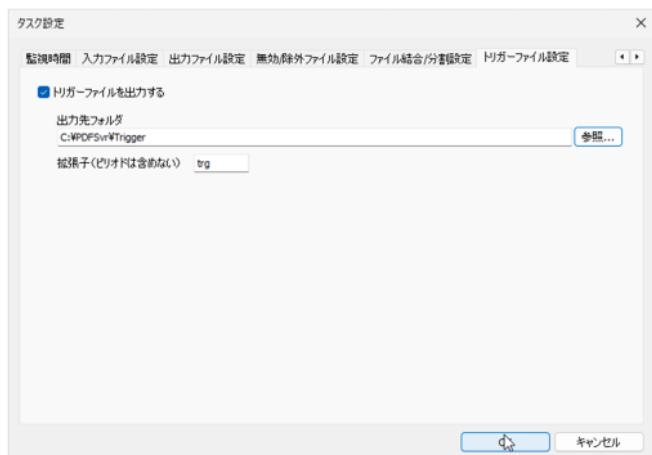
トリガーファイルの内容

トリガーファイルの中身はテキストファイルで、以下のようなフォーマットになっています。

```
[information]
creation=YYYY/MM/DD hh:mm:ss .....①
status=success (failure) .....②
① 変換完了日時
② 完了ステータス (success:成功 / failure:失敗)
```

設定

設定はタスク設定の[トリガーファイル設定]タブ画面で行い、出力先フォルダと拡張子を設定します。



タスクの連動

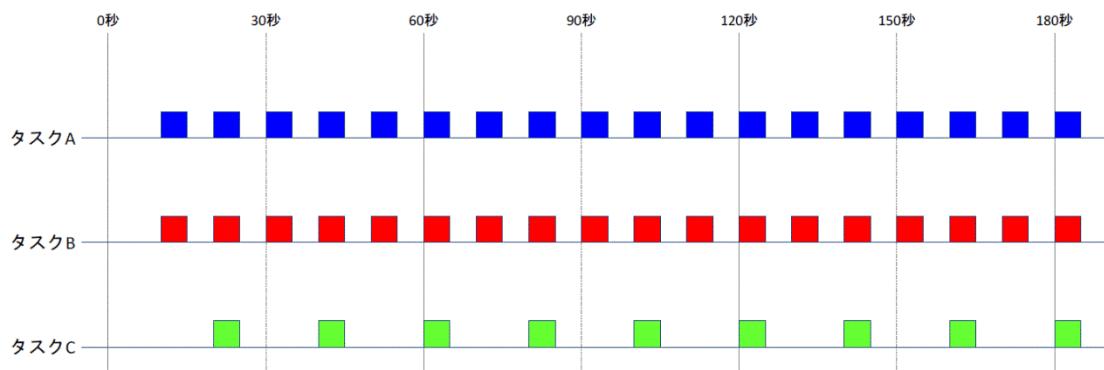
PDF Server では、タスク同士の設定は基本的に独立しています。ただし、出力フォルダや失敗時移動先フォルダなどを別タスクの監視フォルダに設定すると、擬似的に複数のタスクを連動させる事ができます。ただし、あくまでもタスク間の設定は連動しないので、動作させるタスク数に応じて、設定に工夫が必要です。

タスクの連動について留意する事

「[タスクについて](#)」にあるように、複数のタスクが動作している場合、変換動作は基本的に“早い者勝ち”です。そのため、すべてのタスクで監視時間と同じ、もしくは殆ど差が無い時間に設定すると状況によっては、後のタスクの変換処理が始まりません。そのため、タスクの連動も考えた監視時間の設定が必要となります。

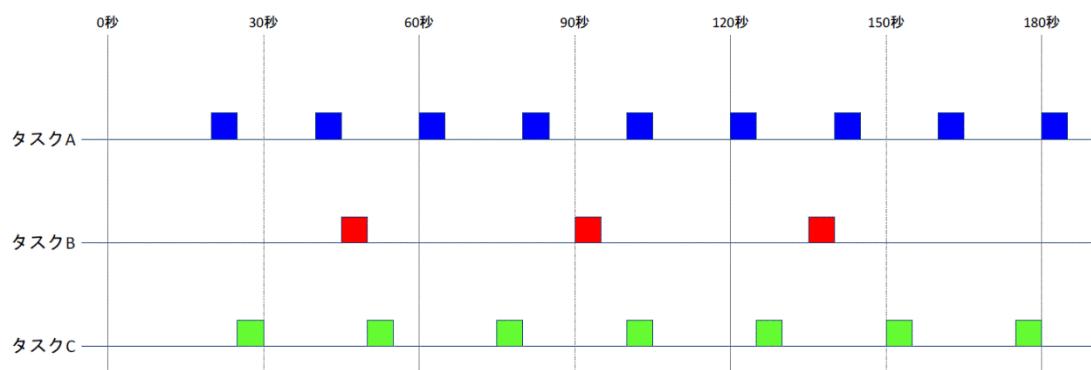
例えば、タスク A、B、C があったとして、タスク A の出力フォルダがタスク C の入力フォルダだったとします。この場合、以下のような監視時間ですと、図に示す通り、ほぼタスク A とタスク B で常に処理が行われている状態になります。PDF Server は早い者勝ち、尚且つタスク設定順に起動がかかるので、状況によってはタスク C になかなか変換処理が回ってこない可能性があります。

タスク A → 10 秒 タスク B → 10 秒 タスク C → 20 秒



考え方としては、それぞれのタスクの監視動作が同じタイミングで始まらないようにする事がベストです。また、監視時間の間隔もタスクが増えれば増えるほどあける必要があり、タスク同士がなるべく同じタイミングで監視動作を行わないようにするため、以下のように工夫します。これならタスク A が終った頃にタスク C が起動される事が多くなるため、タスク B も気にしつつ、連携しやすいと言えます。

タスク A → 20 秒 タスク B → 45 秒 タスク C → 25 秒



監視時間については、運用後にも負荷によって変更する事が最終的に適切な動作につながります。一番良いのは連動タスクのみ（上記例ではタスク A とタスク C）で設定を行う事です。多数設定したタスクで動作を均衡化するのは非常に難しい事だけは常に留意する必要があります。

PDF Server コマンド [プロフェッショナル版/コマンド版]

ここでは、PDF Server コマンドの概要とその活用方法を説明します。

PDF Server コマンドの注意事項

PDF Server コマンドは、評価版・正規版を問わず、PDF Server のプロフェッショナル版、またはコマンド版のいずれかがインストールされている環境で使用できます。

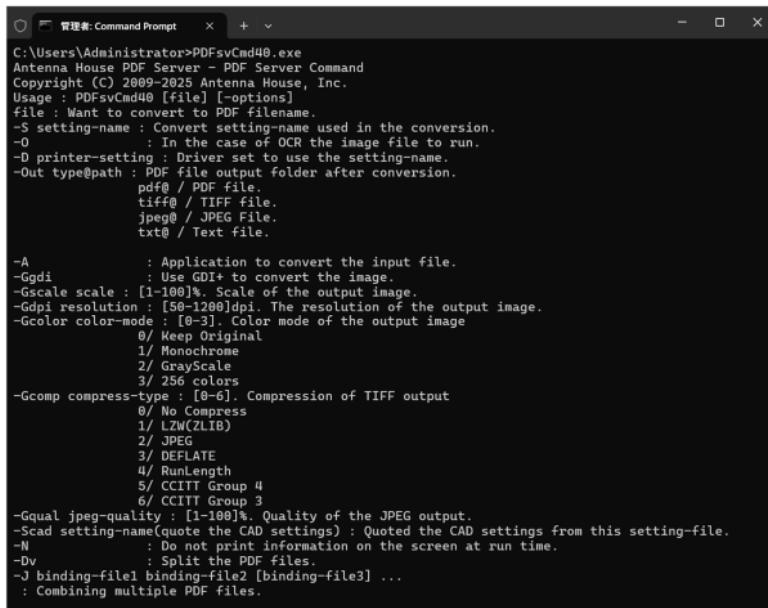
PDF Server コマンドは、PDF Server をフォルダ監視型のアプリケーションとしてではなく、入力ファイル名などをパラメータとしたコマンドを実行することにより任意のタイミングで PDF ファイル変換などの処理を実行できるようになります。

重要

PDF Server のコマンドは、PDF Server のサービス「AH PDF Server V4 Service」が動作中には使用することができません。使用する際には、サービス「AH PDF Server V4 Service」が停止している必要があります。

注意

インストール時にパス情報が、環境変数「Path」の末尾に自動的に追加されるため、どこのフォルダがカレントフォルダであっても動作します。「コマンド プロンプト」を起動して「pdfsvcCmd40」と入力して実行（Enter キーを押下する）とコマンドヘルプ（下図）が表示されます。



```
C:\Users\Administrator>PDFsvCmd40.exe
Antenna House PDF Server - PDF Server Command
Copyright (C) 2009-2025 Antenna House, Inc.
Usage : PDFsvCmd40 [file] [-options]
file : Want to convert to PDF filename.
-S setting-name : Convert setting-name used in the conversion.
-O : In the case of OCR the image file to run.
-D printer-setting : Driver set to use the setting-name.
-Out type@path : PDF file output folder after conversion.
    pdf@ / PDF file.
    tiff@ / TIFF file.
    jpeg@ / JPEG File.
    txt@ / Text file.

-A : Application to convert the input file.
-Ggdi : Use GDI+ to convert the image.
-Gscale scale : [1-100]%. Scale of the output image.
-Gdpi resolution : [50-1200]dpi. The resolution of the output image.
-Gcolor color-mode : [0-3]. Color mode of the output image
    0/ Keep Original
    1/ Monochrome
    2/ GrayScale
    3/ 256 colors
-Gcomp compress-type : [0-6]. Compression of TIFF output
    0/ No Compress
    1/ LZW(ZLIB)
    2/ JPEG
    3/ DEFLATE
    4/ RunLength
    5/ CCITT Group 4
    6/ CCITT Group 3
-Gqual jpeg-quality : [1-100]%. Quality of the JPEG output.
-Scad setting-name(quote the CAD settings) : Quoted the CAD settings from this setting-file.
-N : Do not print information on the screen at run time.
-Dv : Split the PDF files.
-J binding-file1 binding-file2 [binding-file3] ...
    : Combining multiple PDF files.
```

PDF Server コマンドで行うことができる事

PDF Server コマンドは G U I (グラフィカル・ユーザー・インターフェース) を持たないコンソールアプリケーションです。通常の PDF Server と大きく異なるのは「常時監視型」ではなく、コマンドラインとして任意のタイミングで変換を実行できます。そのため、他ソフトウェアから PDF Server を呼び出して変換を実行できる事が一番の特長となっています。ただし、PDF Server コマンドを実行するには「PDF Server サービス (AH PDF Server V4 Service)」が「停止」していないと実行できませんので注意が必要です（同時実行はできません）。

PDF Server コマンドは、引数（パラメータ）によって動作を制御します。また、その処理内容によっては複数の PDF Server コマンドを同時に実行（マルチプロセス）できます。そのため、PDF Server コマンドを利用するにはある程度、引数の組み合わせでどのように動作するか、マルチプロセスに対応しているのかを知っておく必要があります。

コマンドライン実行機能のマルチプロセス対応について

コマンドラインでマルチプロセス（同時実行）出来る機能は以下の通りです。

処理の内容	オプション
PDF ファイルの結合	-J 結合ファイルリスト
画像ファイルの PDF ファイルへの変換	
PDF ファイルの画像ファイルへの変換	-Ggdi-Gscale 縮小率 -Gdpi 解像度 -Gcolor 出力カラー -GComp 圧縮方法
Microsoft Office 文書 (DOC/DOCX/XLS/XLSX/PPT/PPTX) の PDF ファイルへの変換	

これらについて、並行して複数の処理を同時に行うことが出来ます。変換対象となる文書／画像ファイルの内容（ファイルサイズや構成、解像度など）によっては、大量のリソース（特に C P U やメモリ）を必要とする場合があるため、以下の要件を複数のコマンドを同時に実行する場合の推奨条件とします：

- 同時に稼働させるプロセス数を実行するコンピュータに搭載されている C P U のコア数より少なくする。
- 稼働させる 1 プロセスあたり 2GB 以上の空きメモリ量を確保する。

なお、以下の処理についてはマルチプロセスに対応しておりません。

処理の内容	オプション
変換設定を指定した変換処理	-S 変換設定名
OCR を実行してから PDF に変換する	-O
PDF ファイルをページ単位に独立したファイルに分割する	-Dv
アプリケーション変換を使って PDF に変換する	-A
出力ファイル形式がテキストの場合	-Out TXT@C:¥TMP

NOTE

PowerPoint／一太郎は、複数の文書を同時に印刷することが出来ません。その為、複数の PowerPoint 文書／一太郎文書を同時に PDF ファイルに変換しようとしても、1 ファイルごと連続して変換されることになります。

注意

マルチプロセス非対応のオプションが含まれるコマンドが実行されている最中に他のコマンドを実行した場合、実行エラーが生じ、そのコマンドは実行されません。

システム環境変数「PSV40_MAX_COMMANDS」

野放団に複数の PDF Server のプロセスを実行するとシステムリソースの枯渇が生じ、最悪の場合、システムクラッシュなど重篤な障害が発生しかねません。そのような事態を防ぐために同時実行なプロセス数を設定するシステム環境変数「**PSV40_MAX_COMMANDS**」を用意しました。この設定数以上のプロセスを起動するとエラーとすることができます。なお、初期状態ではこのシステム環境変数は設定されていません。

重要

初期状態（システム環境変数「**PSV40_MAX_COMMANDS**」が未設定の状態）では、同時実行できるのは、最大「4」プロセスまでです。

Microsoft Office 文書の PDF ファイルへのマルチプロセス変換についての注意

オフィス変換(Office 使用)によるオフィス文書の PDF ファイルへのマルチプロセス変換を正常に動作させるためには、同時に実行される処理の数以上、モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンタが、設定されている必要があります。

注意

製品インストール直後の状態には、このプリンタは 1 つだけしか設定されていません。この状態でオフィス文書の PDF ファイルへのマルチプロセス変換を実行するといずれか 1 つの処理だけが成功するだけで、他の処理が失敗してしまいます。

プリンタの追加は、製品フォルダの「SETUP」 > 「PrinterTool」フォルダに保存されているツール「**AHPD8_AddDelete.exe**」を用いて行います。ツールの使用方法の詳細については、付属のマニュアルを御覧ください。

コマンドの起動スイッチ／オプション

以下にコマンドの起動スイッチ／オプションを示します。起動スイッチ／オプションは、スイッチの後、パラメータを記述することで指定します。

```
PdfsvCmd40.exe 入力ファイル名
[-S 変換設定]
[-O]
[-D ドライバ設定]
[-Out 出力ファイル形式@出力フォルダのパス]
[-A]
[-Ggdi]
[-Gscale 縮小率]
[-Gdpi 解像度]
[-Gcolor 出力カラー]
[-Gcomp 圧縮方法]
[-N]
[-Dv]
[-J 結合ファイル名 1 結合ファイル 2 ...]
```

スイッチ	パラメータ	動作
	入力ファイル名	PDF ファイルへの変換対象となるファイル名（拡張子を含む）を指定する。指定可能なファイル数は、1 つのみ。同時にスイッチ [-J] が指定されている場合以外、このパラメータは必須である。（スイッチ [-J] が指定されている場合に入力ファイル名を指定するとエラーとなる。）スイッチ [-Out] を指定せずに入力ファイルとして PDF ファイルを指定した場合、何も行わずコマンドを終了する。
-S /S	変換設定名	【マルチプロセス非対応】変換に使用する PDF Server の変換設定名を指定する。未登録の変換設定名など、登録されていないものを指定した場合、エラーとなる。
-O /O	なし	【マルチプロセス非対応】入力ファイルが画像、または PDF の場合、OCR 処理を実行する。なお、入力ファイルが、画像や PDF 以外の場合、このスイッチ [-O] は無視される（OCR 処理は行われない）。

スイッチ	パラメータ	動作
-D /D	プリンタドライバの印刷設定ファイル名	入力ファイルが、Office 文書ファイルや画像以外のアプリケーション文書ファイルの場合、PDF 作成時のプリンタドライバの印刷設定を指定する。それ以外（画像ファイルなど）の場合、このスイッチは無視される。なお、該当する印刷設定が存在しない場合、印刷設定「標準」を使用して PDF ファイルを作成する。このスイッチ[-D]と同時にスイッチ[-S]が、指定されている場合、変換設定で指定されているプリンタドライバの印刷設定ではなく、このスイッチ[-D]で指定した印刷設定が使用される。
-Out	出力ファイル形式と出力先フォルダのパス	<p>【出力ファイル形式が TEXT の場合、マルチプロセス非対応】出力するファイル形式と出力先フォルダのパスを「出力ファイル形式@出力フォルダ」として指定する。出力フォルダの指定がない場合には、処理対象となるファイルが保存されているフォルダを出力先として処理する。また、指定した出力フォルダが存在しない場合には、指定したフォルダを新たに作成する。出力フォルダのパスに半角スペースが含まれる場合、「"出力ファイル形式@出力フォルダ"」のように出力するファイル形式と出力先フォルダのパスを指定する文字列をダブルクオーテーションで括る必要がある。</p> <p>設定例： -Out TIFF@C:¥temp TIFF ファイルをフォルダ「C:¥temp」に出力</p>

出力ファイル形式	説明
PDF	PDF ファイル
TIFF	TIFF ファイル
JPEG	JPEG ファイル
TXT	TEXT ファイル

出力ファイル形式

スイッチ	パラメータ	動作
-A /A	なし	【マルチプロセス非対応】入力ファイルが画像ファイル以外の場合、入力ファイルの拡張子に関連付けられているアプリケーションによるアプリケーション変換を実行する。なお、入力ファイルが画像ファイルの場合には、アプリケーション変換することなくエラーとして処理される。
-Ggdi	なし	このスイッチを指定すると PDF ファイルから画像ファイルへの変換に GDI+が利用される。
-Gscale	倍率 (%)	出力される画像ファイルの縮小率を%単位で指定する。なお、設定可能な値の範囲は、1～100%の整数値。
-Gdpi	解像度 (dpi)	出力される画像ファイルの解像度を dpi 単位で指定する。なお、指定可能な値の範囲は、50～1200dpi。
-Gcolor	カラーモード	出力される画像ファイルのカラーモードを番号で指定する。 ※ TIFF ファイル出力時のみ有効
-Gcomp	圧縮方法	出力される TIFF ファイルの圧縮方法を番号で指定する。 ※ TIFF ファイル出力時のみ有効
-Gqual	品質	出力される JPEG ファイルの品質を%単位で指定する。なお、このオプションは JPEG ファイル出力時のみ有効。
-N /N	なし	何も表示することなくコマンドを実行する。なお、このスイッチ[-N]を指定して実行した場合に設定したパラメータにミスなどがあっても、コマンドヘルプを表示しない。
-Dv	なし	【マルチプロセス非対応】入力ファイルが、PDF ファイルの場合、ページ毎に独立したファイルに分割して出力する。このスイッチと併用可能なスイッチは、[-N]、[-Out]のみで、それ以外のスイッチとの併用はできない。また、出力ファイルとして PDF 以外を指定した[-Out]スイッチは、無視される。

スイッチ	パラメータ	動作
-J / J	半角スペースで区切った結合対象 PDF ファイルリスト、または結合設定ファイル	このスイッチに続いて指定された複数の PDF ファイル（拡張子必須）、もしくは結合対象となる PDF ファイルのフルパスを 1 行に 1 つ記録したテキストファイル「結合設定ファイル」を先頭から順に結合し、最初のファイルの名前の先頭に文字列「cmb_」を付加した名前の PDF ファイルとして出力する。また、出力先フォルダに出力ファイルと同名のファイルが存在する場合には、上書き保存する。パラメータとして指定可能なのは、PDF ファイルのみで、これ以外の種類のファイルや指定した PDF ファイルが存在しない場合や複数の PDF ファイルが指定されていない場合、エラーとなる。

番号	カラー モデル
0	入力ファイルと同じカラー モデルの画像として出力する。
1	白黒 2 値画像として出力する。
2	256 階調グレースケール画像として出力する。
3	256 色インデックスカラー画像として出力する。

カラー モデル番号

番号	圧縮方法
0	圧縮しない
1	LZW (ZLIB) 圧縮
2	JPEG 圧縮
3	DEFLATE 圧縮
4	ランレングス圧縮
5	CCITT Group4 (G4 FAX)
6	CCITT Group3 (G3 FAX)

圧縮方法番号

注意

無効な起動スイッチ／オプションを指定してコマンドを実行した場合、コマンドヘルプが表示されます。

```
C:\$PdfsCmd40.exe
PDF Server V4.0 Commandline Application
Copyright (C) 2009-2025 Antenna House, Inc.
Usage : pdfsvcmd300 [file] [-options]
file : Want to convert to PDF filename.
-S setting-name : Convert setting-name used in the conversion.
-O : In the case of OCR the image file to run.
-D printer-setting : Driver set to use the setting-name.
-Out type@path : PDF file output folder after conversion.
    pdf@ / PDF file.
    tiff@ / TIFF file.
    jpeg@ / JPEG File.
    txt@ / Text file.
-A : Application to convert the input file.
-Ggdi : Use GDI+ to convert the image.
-Gscale scale : [1-100]%. Scale of the output image.
-Gdpi resolution : [50-1200]dpi. The resolution of the output image.
-Gcolor color-mode : [0-3]. Color mode of the output image
    0/ Keep Original
    1/ Monochrome
    2/ GrayScale
    3/ 256 colors
-Gcomp compress-type : [0-6]. Compression of TIFF output
    0/ No Compress
    1/ LZW(ZLIB)
    2/ JPEG
    3/ DEFLATE
    4/ RunLength
    5/ CCITT Group 4
    6/ CCITT Group 3
-Gqual jpeg-quality : [1-100]%. Quality of the JPEG output.
-Scad setting-name(quote the CAD settings) : Quoted the CAD settings from this setting-
file.
-N : Do not print information on the screen at run time.
-Dv : Split the PDF files.
-J binding-file1 binding-file2 [binding-file3] ...
    : Combining multiple PDF files.
```

コマンドヘルプ

- スイッチは、大文字小文字を区別しません。
- 入力ファイルのパスなど、パラメータ文字列に半角スペースが含まれる場合には、パラメータ文字列をダブルクオーテーション（“ ”）で括る必要があります。

コマンド終了時の状態の取得

コマンド実行後、終了時の状態を示すエラーコードが、環境変数「%ERRORLEVEL%」に保存されます。変数の値は、コマンドプロンプトで「echo %ERRORLEVEL%」を実行することで確認できます。以下にコマンド実行後の状態コードと表示されるメッセージとその内容を示します。

コード	メッセージとその内容
0	Conversion is completed successfully. 正常に終了しました。
1	コマンドヘルプ（前ページ参照）を表示 パラメータに誤りがあります。
2	PDF file for input, does nothing. 入力ファイルが PDF ファイルです。何も行いません。
101	The conversion failed. PDF 変換に失敗しました。
102	Input file was not found. 指定された入力ファイルが見つかりません。
103	The input file type can not be converted. 指定された入力ファイルは変換できない形式のファイルです。
104	Security is taking the input PDF file. 指定された PDF ファイルにセキュリティが設定されているため処理できません。
105	Enough to combine files. 結合するには、複数のファイルを指定してください。
106	Files are found in the combined file. 結合対象ファイルが見つかりません。
107	Both have been designated as a text file or PDF file or PDF file in a on-binding. 結合ファイルとして PDF ファイル以外か、PDF ファイルと結合設定ファイル（テキストファイル）が指定されています。
108	The driver does not respond to time-out. PDF ドライバが応答しません。（タイムアウトしました）
109	Could not find the convert settings. 指定された変換設定が見つかりません。
110	Took advantage of the optional features supported. 未対応のオプションを指定しました。
201	I can not convert the application, or failed to convert. アプリケーション変換ができないか、変換に失敗しました。

コード	メッセージとその内容
202	PDF Driver is not installed. PDF ドライバがインストールされていません。
901	License file not found. ライセンスファイルが見つかりません。
902	Trial expired on date YYYY/mm/DD. 評価版の有効期限が切れました。
903	Expires to maintain.(YYYY/mm/DD) 保守期限が終了しています。
904	License file is abnormal. ライセンスファイルが異常です。
905	To PDF Server service is running. PDF Server サービス(AH PDF Server V4 Service)が動作しています。
906	This edition is not available. このコマンドは、使用しているエディションでは動作しません。
908	Too many command running. Try again later. 実行中のコマンドが多すぎます。しばらくしてからもう一度お試しください。

注意

稀に変換に失敗した時に上の一覧表にないコード（負の値や非常に大きい数）が出力される場合があります。この時得られる値は、PDF 変換の失敗（コード：101）の原因を示すサブコードを示します。PDF 変換の失敗の原因には、数多くの事象があるため通常はコード「101」で代表しておりますが、特に異常な事象が生じた場合、サブコードを返す仕様となっております。このようなエラーコードが出力された場合には、「101:PDF 変換の失敗」が発生したものと認識して下さい。また、サポート窓口にお問い合わせ頂く際には、このサブコードも合わせてお知らせ下さい。

コマンドの使用例

入力ファイルのみを指定する

```
> Pdfsvcm40 test.xls
```

引数に入力ファイルのみを指定すると、PDF Server のデフォルト状態（単純に PDF に変換するだけ）で入力ファイルを PDF へ変換します。入力ファイルはイメージ、テキスト、Microsoft Office ファイルなどです。変換された PDF ファイルは入力ファイルと同じフォルダに出力されます。

OCR を実行してから PDF に変換する（マルチプロセス非対応）

```
> Pdfsvcmd40 test.bmp -O
```

引数の入力ファイルの後に [-O] オプションを付加すると、OCR を実行して PDF に変換します。ただし、入力ファイルはイメージ（画像）ファイルのみで、それ以外のファイル（例えばテキストファイルなど）を指定した場合にはオプションは無視（OCR を実行できないため）されます。変換された PDF ファイルは入力ファイルと同じフォルダに出力されます。

PDF ドライバの設定を指定して PDF に変換する

```
> Pdfsvcmd40 test.doc -D 透かし付き(社外秘)
```

引数の入力ファイルの後に [-D] オプションを付加し、その後にドライバの印刷設定名（上の例では「透かし付き(社外秘)」）を入力すると、その印刷設定を利用して PDF 変換します。このオプションが有効になるのは、入力ファイルが Microsoft Office ファイルです（PDF ドライバを利用して変換するものののみ）。指定したドライバの印刷設定名が誤っている場合には、「Default」設定を用いて変換します。変換された PDF ファイルは入力ファイルと同じフォルダに出力されます。

アプリケーション変換を行って PDF に変換する（マルチプロセス非対応）

```
> Pdfsvcmd40 test.jtd -A .....①  
> Pdfsvcmd40 test.jtd -A -D 透かし付き(社外秘) .....②
```

引数の入力ファイルの後に [-A] オプションを付加するとアプリケーション変換を行います（上記は一太郎ファイルの場合の例です）。

アプリケーション変換を行う時には、変換対象となる文書ファイルの拡張子に関連付けたアプリケーションがインストールされている必要があります（インストールされていない場合の動作保証はされていません）。また、変換時に PDF ドライバの設定を利用したい場合は上記例の②のように [-D] オプションを併用することができます。[-D] オプションが設定されていない場合には「Default」設定を用いて PDF 変換を行います。アプリケーション変換を用いて「Microsoft Office ファイル」を変換することもできますが、通常の変換と異なる結果になる場合がありますので注意して下さい。変換された PDF ファイルは入力ファイルと同じフォルダに出力されます。

なお、アプリケーション変換はマルチプロセスに対応しておりません。アプリケーション変換が実行されている最中に他の PDF Server コマンドを実行することはできません（エラーになります）。

変換設定を利用して変換を行う（マルチプロセス非対応）

```
> Pdfsvcmd400 test.doc -S 変換設定 1
```

引数の入力ファイルの後に [-S] オプションを付加し、その直後に変換設定名を入力すると、変換時にその変換設定を利用します。変換設定は別途「設定編集ツール」を用いて作成します。この場合は PDF だけではなく、TIFF や JPEG、OCR テキストファイルの出力も行う事ができます。変換設定の全てが有効になる訳ではありませんが（詳細についてはユーザーズマニュアルを参照して下さい）、ほとんどの PDF Server の機能が利用できます。変換された PDF ファイルは入力ファイルと同じフォルダに出力されます。なお、変換設定を利用した変換はマルチプロセスに対応しておりません。変換設定を利用した変換処理が実行されている最中に他の PDF Server コマンドを実行することができません（エラーになります）。

出力ファイルの出力先フォルダを指定する

```
> Pdfsvcmd40 test.ppt -Out c:\pdfserver\out
```

引数の入力ファイルの後に[-Out]オプションを付加し、その後に出力先フォルダのパスを指定します。これは他の[-O] [-D] [-A] [-T]各オプションとも併用できます（オプションの指定順序は問いません）。変換後の出力ファイルは[-Out]オプションの後に指定したフォルダパスに出力されます。[-T]オプションの場合、タスク設定よりも[-Out]オプションの方が優先となりますので注意して下さい。PDF以外の TIFF や JPEG,テキストファイルもすべて[-Out]オプションで指定したフォルダパスに出力されます。なお、出力ファイル形式がテキストの場合には、マルチプロセスに対応しておりません。これらの形式のファイルが出力される処理が実行されている最中に他の PDF Server コマンドを実行することができません（エラーになります）。

複数の PDF ファイルを結合する

```
> Pdfsvcmd40 -J test1.pdf test2.pdf test3.pdf test4.pdf
```

PDF Server コマンドでは「結合」だけが変換と同時に行う事ができません。結合を行うにはコマンドの後に[-J]オプションを入力し、その後に結合したい PDF ファイル（結合できるのは、セキュリティが設定されていない PDF ファイルのみです）を列挙して入力します。結合された PDF ファイルは最初に指定された PDF ファイルと同じフォルダに出力されます。また[-Out]オプションを指定した場合は入力された任意のフォルダパスに出力されます。出力ファイル名は最初に指定したファイル名の頭に「cmb_」を付加したもの（上記例の場合は「cmb_test1.pdf」です）となります。

その他のオプションや注意事項

- PDF Server コマンドには[-N]オプションという特殊なオプションがあります。このオプションはコマンド実行状態の標準出力を抑制します。(つまり、Windows ターミナルに変換過程の情報を一切表示しません。) このオプションは他のどのオプションと組み合わせても利用可能ですが、Windows ターミナルに表示されないだけで変換動作には何も関係がありません。動作ログに関しては[-N]オプションの有無に関わらず、通常の「log」フォルダに出力されます。
- コマンドラインの引数は半角スペースで区切りますが、ファイルパスなどに半角スペースが含まれる場合にはパスなどをダブルクオーテーション (") で囲む必要がありますので注意して下さい。
- [-T]オプションと[-O]、[-A]、[-D]各オプションを同時に指定した場合、[-T]オプションが優先され、他のオプションはすべて無視されます。これらのオプションを同時に使用する事は避けて下さい。また、アプリケーション変換時のタイムアウト時間設定については PDF Server 設定 (Pdfservr.ini) の値を使用します。

他のアプリケーションから呼び出して利用する場合の注意事項

Web アプリケーションなど、他のアプリケーションから PDF Server コマンドを使用する場合、以下の事に注意して下さい。

- MS-Office ファイルやアプリケーション変換で PDF ファイルへの変換を同時に複数実行する場合、実行する数に応じた仮想プリンタが設定されている必要があります。製品に付属のツールを用いて設定して下さい。
- PDF Server コマンドやフォルダなどに適切なアクセス権限を与えて下さい。アクセス権限がないと PDF Server コマンドを実行できなかったり、変換したファイルが出力されなかったりする恐れがあります。

マルチプロセスで利用する場合の注意事項

複数の PDF Server コマンドを同時に実行する場合、並行して実行されるプロセス数に応じたシステムリソースが必要になります。特に PDF ドライバを用いた Microsoft Office 文書の PDF 変換やサイズの大きな画像の PDF 変換を行う場合には大量のリソースを必要とします。メモリ不足によるエラーや C P U 負荷の増大によるレスポンスの悪化といった無用なトラブルの発生を避けるためにも、以下の条件を考慮して運用することをお薦めします。

- 同時に稼働させるプロセス数を実行するコンピュータに搭載されている C P U のコア数より少なくする。
- 稼働させる 1 プロセスあたり 2GB 以上の空きメモリ量を確保する。
- 初期設定では同時実行可能なコマンド数は「4」です。この設定はシステム環境変数「PSV40_MAX_COMMANDS」を指定することで変更することができます。

【重要】PDF Server の制限事項

PDF Server は、いろいろなソフトウェアを組み合わせて利用しています。そのため、いくつかの制限事項が存在します。ここではそれらについて説明します。なお、最新の情報はアンテナハウスの Web サイト上に公開しています。何か疑問などありましたら、まずはそちらの方も合わせてご確認ください。

【PDF Server よくいただくご質問】

<https://www.antenna.co.jp/support/faq-sys/psv/>

PDF Server 全般についての制限事項

- PDF Server が扱える PDF ファイルは ISO 32000-2 の仕様に準拠した PDF1.3～PDF1.7、PDF2.0 形式の PDF ファイルです。
- PDF Server が扱えるファイルのパス長はフルパスで最大 210 文字までです。制限を超えないよう、パスの長さを調整してください。詳しくは「[PDF Server が取り扱うことができるファイルのフルパスについての制限事項](#)」を参照してください。
- 監視／出力フォルダとしてネットワークフォルダを利用することはできますが、その際には UNC (Universal Naming Convention) 形式でパスを設定すると同時にアクセス権限の設定は正しく行って下さい。設定が正しくないとアクセスが拒否され、ファイルの入出力が行えません（エラーが発生してしまいます）。また、ファイアウォールの設定についても必要な場合は設定して下さい。
- PDF Server は、アクティブディレクトリを使用している環境下での動作確認を行っておりません。
- 変換処理中にコントロールセンターの「停止」ボタンなどを使って PDF Server サービス (AH PDF Server V4 Service) を停止しないで下さい（監視処理中であれば構いません）。PDF Server は変換処理に区切りがつくまで停止処理を行わずに変換処理の終了まで待っていますが、タイミングによっては途中で強制終了する可能性があります。可能ならば動作中のタスクを全て終了してから停止させて下さい。
- コントロールセンターは常時表示しなくても PDF Server は変換処理を行います。必要がない時は閉じておくことをお勧めします。
- タスク動作中に監視フォルダ内のファイルやサブフォルダの移動や削除など、監視フォルダについて追加以外の操作を絶対に行わないで下さい。動作保障しかねます。
- TIFF や JPEG の PDF 変換を行う時にシステム稼働状態を監視する場合、停止判定時間はなるべく長めに設定して下さい。変換ファイルサイズとシステムのリソースの状態によっては、停止していない場合でも停止と判断されるケースがあります。特にファイルサイズが大きな場合は注意して下さい。長時間に渡る変換を行う場合には稼働監視設定を OFF にすることをお勧めします。
- 他のサーバーソフトウェアやいろいろなアプリケーション、Web システムなどとの併用は、異常動作の原因となりますので避けて下さい。正常な動作を保証できない場合があります。
- 入力ファイルが PDF ファイルの場合、パスワードなどのセキュリティが設定されているものは編集などを行う事ができないため、処理が失敗します（エラーとして処理されます）。また、PDF Server では、PDF ファイルに設定されているセキュリティの解除や再設定をすることはできません。

PDF Server が取り扱うことができるファイルのフルパスについての制限事項

PDF Server が取り扱えるファイルのパス長はフルパスで最大 210 文字までです。PDF Server の設定項目で、ファイル名／フォルダに関する物について、ファイル名とフォルダパスの長さがフルパスで 210 文字までに収まるように調整してください。

フルパスに影響を与える設定

フルパスに影響を与える設定は以下の通りです。

PDF Server 設定：

作業フォルダのパス

初期状態では、作業フォルダは以下のパス（31 文字）に設定されています。

`C:\ProgramData\pdfserver4\work`

注意

PDF Server は、作業フォルダ配下にサブフォルダを作成し、そこに入力ファイルと同じ名前の一時ファイルを作成しながら動作します。そのため作業フォルダのパス長に加え 10 文字が必要になります。つまり、初期状態では、作業フォルダのパス長が 41 文字となりますので、これを考慮に入れて調整してください。

タスク設定：

基本情報

- 監視フォルダのパス

入力ファイル設定

- 成功時のファイルの移動先フォルダパス + 同名の別名時の数字付与（括弧付き）
- 失敗時のファイルの移動先フォルダパス + 同名の別名時の数字付与（括弧付き）

出力ファイル設定

- 出力先パス
- ファイル名の設定（各要素間にはアンダースコア“_”が入ります）

フォルダ名と連番（桁数）	FOLDER_9999
指定文字列と連番（桁数）	XXXX_9999
指定文字列と日付と連番（桁数）	FOLDER_YYYYMMDD_9999
指定文字列と元ファイル名	XXXX_FILE

- ・ファイル名の設定（特殊）

OCR 結果（指定文字数）と 日付（任意）と連番（任意）	OCR (_YYYYMMDD) (_9999)
---------------------------------	------------------------------

- ・重複時の処理

数値をつけ別名にする

上記各種出力ファイルと 数値（括弧付き）	OUTNAME (9)
-------------------------	-------------

無効/除外ファイル設定

- ・無効時/場外時の移動先フォルダパス + 同名の別名時の数字付与（括弧付き）

トリガーファイル設定

- ・出力先フォルダのパスと拡張子

変換設定：

出力設定

JPEG 設定

ファイル名のフォルダを作成し、その中へファイル名に連番を付加して出力する。

[出力ファイル設定に基づいたファイル名のフォルダ]/999.jpg

テキスト設定

1 ページずつ別ファイルに出力する（ページ連番の桁数）

出力ファイル設定に基づいたファイル名 + 999

オフィス変換(Office 使用)による Microsoft Office ファイル変換時の制限事項

- オフィス変換 (Office 使用) は、弊社製品「Antenna House PDF Driver API」で行います。オフィス変換 (Office 使用) については、PDF Driver API の制限事項が該当いたしますので、留意してください。
PDF Driver API の制限事項については、以下を参照してください。
<https://www.antenna.co.jp/pdfdriver-api/v80/pda-manual/pdausers/ahpda80-product-guide-6.html>
- PDF Server のオフィス変換 (Office 使用) はログオンした状態で利用してください。必ずログオンしたアカウントで動作させている PDF コンバーターを経由した変換を行ってください。なお、PDF Server の監視サービスを含む Windows サービスや ASP、ASP.NET、DCOM などから直接利用した場合の動作保証は致しかねます。

補足事項

PDF Server のオフィス変換 (Office 使用) による「Microsoft Office ファイル変換」での PDF 変換機能には弊社製品「Antenna House PDF Driver API」を使用しております。これは Office のオートメーションを利用して実現していますが、以下に示すようにマイクロソフト社は、無人の非対話型クライアント アプリケーションまたはコンポーネント (ASP、ASP.NET、DCOM、および NT サービスを含む)からの Microsoft Office アプリケーションのオートメーションに関して、推奨もサポートも行っていません。

参考：Office のサーバーサイドオートメーションについて

<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/office-%E3%81%AE%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%89-%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6-48bcfe93-8a89-47f1-0bce-017433ad79e2>

- **オフィス変換 (Office 使用) で利用する Microsoft Office のライセンスについて**
オフィス変換 (Office 使用) をご利用になられる場合には、Microsoft Office のライセンスについてもご注意ください。「Office のライセンスのないクライアント」から PDF Server のオフィス変換 (Office 使用) を利用することはライセンス違反になります。「オフィス変換 (Office 使用) を利用するすべてのクライアント」にライセンス認証済みの Office がインストールされている必要があります。Office のライセンスについての詳細は Microsoft 社にお問い合わせください。なお、Office のライセンス違反等の問題が発生いたしましたとしても当社は一切関知いたしません。

- PDF サーバーの実行中は、ユーザーによる手動操作、何らかのシステムによる自動での操作を問わず、Office アプリケーションの操作は一切行わないでください。
- パスワードが設定されている Office 文書ファイルは、正しく処理できません。トラブルを避けるためにもパスワードが設定された文書ファイルは投入しないで下さい。
- 原則としてマクロが設定されている等の理由により、開いた時にダイアログが表示されるような文書ファイルは投入しないようにして下さい。PDF Server は、表示されるダイアログに応答があるまで待機するため、その間、処理が停滞します。

注意

マクロが設定されている Office ファイルについて、PDF Server がこれを開いた時の動作は、Office アプリケーションのセキュリティセンターの「マクロの設定」に従って行います。運用中に問題が生じた場合には、各 Office アプリケーションのセキュリティセンター、「マクロの設定」をご確認下さい。

- 動作タスクが多いとリソースの関係でオフィス変換が失敗する事があります。このような場合、メモリを増設するか、消費するメモリ量を減らすために同時に稼働するタスク数を減らしてみて下さい。この障害を切り分けるには、一度全てのタスクを停止してひとつだけタスクを起動し、エラーになったファイルの変換を実行してみます。変換できる場合には、リソース不足が原因となっている可能性が高いです。
- Excel ファイル変換時にグラフオブジェクトがあるシートを「アクティブシート」以外の設定で出力すると変換に失敗する事があります。
- Office ファイルを別々のタスクでオフィス変換（Office 使用）機能とアプリケーション変換機能の両方で変換した場合、変換タイミングによってはどちらかの印刷設定の影響で、出力された PDF ファイルが意図しないものになる事があります。アプリケーション設定は、オフィス変換（Office 使用）と併用するための機能ではありません。これらを両方使用した事により出力された PDF ファイルに関しては保障できません。また、復旧されない場合は一度「PDF コンバーター」を終了して再起動させます。
- PowerPoint ファイルを変換した場合、変換途中で PDF ファイルが開き、変換エラーとなるケースがあります。この場合、PDF ドライバの印刷設定の「一般」タブ画面にある「作成後 PDF を表示」のチェックを外した設定を作成し、そのドライバ設定をタスク設定で適用すると変換途中で PDF ファイルが開かなくなります。
- PowerPoint ファイルの変換において、かなりの確率で失敗する場合は、そのファイルを PowerPoint を開き、「オプション」→「詳細設定」→「印刷」から「バックグラウンドで印刷する」のチェックを外して保存したものを変換します。

オフィス変換(直接変換)による Microsoft Office ファイル変換時の制限事項

- PDF Server のオフィス変換（直接変換）は、弊社独自技術「Office Server Document Converter (OSDC)」を用いております。この機能によって Office の印刷機能を利用することなく、Microsoft Word/Excel/PowerPoint 文書ファイルを解読しそのページアップ（組版）を真似て PDF ファイルを出力します。この機能を用いた PDF 変換では、Microsoft Word/Excel/PowerPoint で作成したページレイアウトに関して、文書内容により再現性にバラツキが生じるため、オフィス変換（直接変換）機能を用いて出力された PDF ファイルの見かけなどの体裁が、元ファイルとなる Office 文書と異なる場合があります。
- PDF 変換の際、PDF Server が動作しているシステムにインストールされているフォントを用いて PDF ファイルに変換します。そのため、システムにインストールされていないフォントが用いられている Office 文書を変換して出力した PDF ファイルの見かけなどの体裁が意図したものと異なる場合があります。
- システムにインストールされていないフォントが使用されている箇所は、以下の表に示す規則に沿った代替フォントを用いて変換されます。

書体	欧文書体	和文書体
セリフ体	Times New Roman	IPA 明朝※ (MS 明朝)
サンセリフ体	Arial	IPA ゴシック※ (MS ゴシック)
等幅フォント	Courier New	IPA 明朝※ (MS 明朝)

※ IPA フォント (IPA 明朝/IPA ゴシック) がインストールされていない環境では、代替フォントとして、それぞれ MS 明朝/MS ゴシックが使用されます。

NOTE

IPA フォント (IPA 明朝/IPA ゴシック) とは、[一般社団法人「文字情報技術促進協議会」](#)が公開している“JIS X 0213：2004”をサポートし、商用・非商用に限らず無償で利用可能な日本語フォントです。なお、IPA フォントは、以下の URL からダウンロードできます。

<https://moji.or.jp/ipafont/ipa00303/>

重要

オフィス変換（直接変換）の制限事項は、「Office Server Document Converter (OSDC)」に準じます。詳しくは以下を参照してください。

Word 変換 <https://www.antenna.co.jp/sbc/manual/sbc-doc.html>

Excel 変換 <https://www.antenna.co.jp/sbc/manual/sbc-xls.html>

PowerPoint 変換 <https://www.antenna.co.jp/sbc/manual/sbc-ppt.html>

※PDF Server では一部該当しない内容がありますのでご了承ください。

アプリケーション変換時の制限事項

- アプリケーション変換をご利用になられる場合には、変換に利用するアプリケーションのライセンス規約をご確認ください。サーバーサイドでの利用が禁止されていたり、サーバーOS上で利用するためのライセンスが必要になる可能性があります。ライセンス違反等の問題が発生いたしましたが当社は一切関知いたしません。ご不明な点については、当該アプリケーションの製造/販売元などにご確認いただき、お客様ご自身の責任において運用して頂きますようお願いします。
- 変換したいドキュメントのアプリケーションの制限などは特にありませんが、そのアプリケーションの動作環境が、PDF Serverと同じとは限らないため使用には注意して下さい。特にサーバーOSに対応していないアプリケーションについては注意が必要です。
- アプリケーション変換はシェルの印刷機能を利用した汎用的なPDF変換となり、その挙動は文書ファイルの拡張子に関連付けられているアプリケーションに依存することになります。そのため、すべての文書をPDF変換ができることや安定的な稼働を保証するものではないことにご注意ください。運用開始する前に変換したい文書について、評価版などで実際に変換可能か否かご確認いただくことを推奨いたします。特に連続稼働などを検討されている場合には事前にその動作について十分に検証していただきますようお願いいたします。
- アプリケーションによっては「シェル印刷機能」がないもの（エクスプローラでドキュメントアイコンを右クリックして表示されるコンテキストメニューに「印刷」の項目がないもの）は変換できません。そのようなソフトウェアの代表的なものとして、DTP/CADソフトなどがあります。シェル印刷機能がないソフトウェアは印刷実行時に対話型処理（例えば印刷範囲指定など）が必要なものです。
- アプリケーション変換ではMicrosoft Officeの文書ファイルの拡張子も登録できます。PDF Serverではオフィス変換よりも先にアプリケーション変換を行うため、登録した場合は、アプリケーション変換の方が優先されます。アプリケーション変換を使えばPDF Serverが対応してない古いバージョンのOfficeを使って変換することができますが、印刷設定に関してはOfficeソフトウェアのものが使用されますのでExcelなどは全シート印刷ができないなど、制限があります。また、そのような古いOfficeは、PDF Server対応しているOS上での動作保証がされていません。使用する際には注意して下さい。
- アプリケーションが評価版であっても印刷機能が使用できればPDF Serverで変換は可能です。ただし、中には印刷時に確認のためのダイアログを表示してユーザーの応答が必要なソフトウェアもあります。その場合、そのダイアログに応答しないとタイムアウトでエラーになってしまふので注意して下さい。

- アプリケーション変換実行時は該当するアプリケーションが自動で起動して PDF に変換後、終了します。そのため、画面上にドキュメントが表示されるので注意してください。
- 表計算ソフトなど、ドキュメントに複数シートが含まれる場合、通常はアクティブ（一番手前に選択されているシート）なシートを対象に変換を行います。また、ページ範囲指定など変換に関する情報はアプリケーションやドキュメントに保存されている設定で行いますので、必要に応じてアプリケーション側で設定を行って下さい。

PDF Driver 設定の制限事項

- プリンタドライバ設定の「出力 PDF ファイルの設定を PDF Driver のみで行う」にチェックを入れていない場合（通常の場合）、PDF Driver の設定でセキュリティ設定を行わないで下さい。その後の PDF 編集ができなくなって変換処理が失敗します。
- PDF Driver 設定のオプション「出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない。」にチェックマークを付けていない場合（通常の場合）、PDF Driver の印刷設定と変換設定の PDF 設定で同じ項目の設定を行った場合、文書情報などは PDF Server の設定が優先されます。また、一部の設定（ウォーターマークなど）は、双方の設定が有効となりますので、このオプションを有効にする場合には注意が必要です。特にフォントの埋め込み等の設定を行わない場合、使用する印刷設定は「Default」が良いと思われます。

OCR の制限事項

- OCR 处理を行ったファイルで、PDF 設定の「高压縮設定」を行うと失敗する事があります。
- マルチ TIFF ファイルで分割を行ったとき、OCR 处理の設定でページ数指定をしていった場合は、分割後のファイルが対象になるために 1 ページ目の指定がないと OCR 处理が行われません。

TIFF の制限事項

- 「LZW (ZLIB) 圧縮」など、圧縮設定を無効にすると入力ファイルによっては、サイズの大きい TIFF ファイルが出力されます。
- 入力画像の圧縮方式や色深度・解像度によっては変換に失敗する事があります。ユーザーズマニュアルの巻末に対応画像フォーマットについての一覧表があるので参考の上、確認して下さい。

ログの制限事項

- 処理のタイミングによってログの表示が前後する事があります。これは、製品の仕様です。変換処理を優先するため、ログ出力処理の優先順位は、他の処理より低くなっています。
- 初期状態では、ログファイルは、自動的に削除されません。そのまま利用すると出力するログファイルによってディスク容量が無駄に消費されることになりますので、PDF Server 設定を用いて定期的に削除するように設定して下さい。(ログファイルは、インストールフォルダの「log」フォルダ内に保存されます。)
- PDF Server 設定で「変換エラー発生時にデバッグ用に一時データを保存する。」を有効にした場合、変換エラーが発生した際に、入力ファイルやタスク設定、変換設定、システムの OS やメモリ等のハードウェア情報や発生時のプロセス情報を収集してインストールフォルダの「log¥backup」フォルダに保存します。機密情報を含むデータ等が残る可能性があるので、運用上問題になる場合はこの設定を使用しないでください。
- 「log¥backup」フォルダの情報を障害調査で弊社サポート宛てにお送りいただける場合は、共有してもよい内容か十分ご確認の上お送りください。

PDF Server コマンドの制限事項

- 画像ファイルを変換した場合、エラーメッセージらしきものが 출력されることがあります。これは画像ライブラリが output するもので、特に PDF Server が output するものではありません。その場合でもステータスコードが「0」でファイルが output されていれば問題はありません。
- 出力するフォルダに有効なアクセス権限がないと変換ファイルが output されません（特に Web アプリケーション）。また、場合によっては実行時に権限が必要になる場合がありますので、権限偽装などの実装が必要になる場合もあります。

その他の制限事項

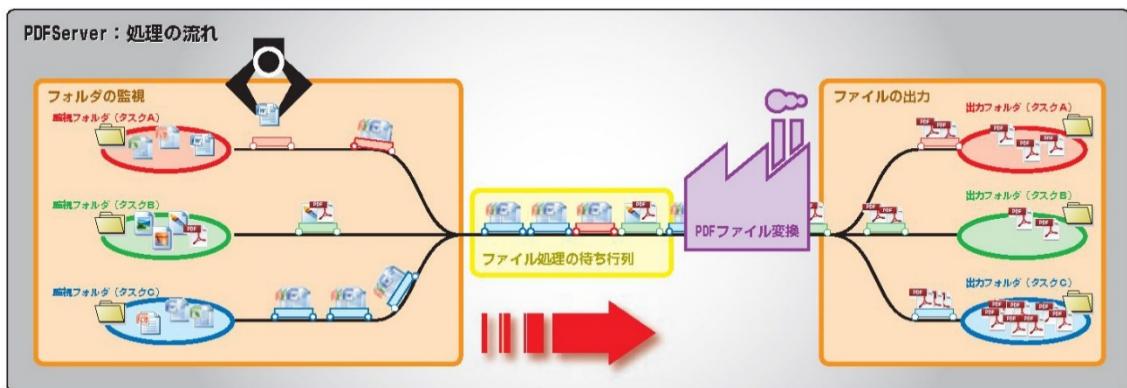
- フルパスで 260 文字以上となるファイルを監視フォルダに投入した場合、これらのファイルは監視プログラムで移動／削除できないため監視フォルダに残ったままとなり、コントロールセンターの未処理数にカウントされ続けることとなりますので、注意してください。
- PDF Server は VMWare などの仮想マシン上でも動作します。しかし、その場合、実機で動作させるよりも動作速度が遅いため、設定するスペックなどには、十分に気をつけて下さい。
- PDF Server の変換処理中に Word/Excel/PowerPoint やアプリケーション変換に登録している拡張子に関連付けられているアプリケーションを起動して作業しないで下さい。これらのアプリケーションを使った変換が行われる場合、変換終了時に対象となるアプリケーションを終了させます。また、変換動作に影響を及ぼす可能性もありますので注意して下さい。
- リモートデスクトップを利用する場合は注意が必要です。特にオフィス/アプリケーション変換を利用する場合には、必ず「[PDF コンバーターについて](#)」を参照して必要な設定を行って下さい。また、複数の端末からリモートデスクトップを使ってログオンし、コントロールセンターをそれぞれの端末で実行した場合、最初に起動したもの以外は、強制的に終了させられます。リモートデスクトップを使って PDF Server の遠隔操作を行う場合は、必ず 1 台の端末のみで操作してください。
- 高圧縮 PDF は、PDF2.0 を処理することができません。入力した場合は変換エラーになります。

PDF Server の設定

PDF Server を運用するには、「タスク」と呼ぶ監視／出力フォルダに関する設定と「変換設定」と呼ぶ「タスク」が使用する変換処理設定を登録します。

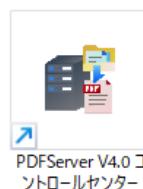
監視フォルダ（入力フォルダ）とは、PDF Server によって処理する対象となるファイル（画像ファイル、Microsoft Office ファイル等）を保存するフォルダです。

このフォルダは「タスク」に設定されたスケジュールに基づき定期的に PDF Server によって監視されます。登録された「タスク」を実行すると監視フォルダへアップロードされたファイルは、「タスク」に割り当てられた「変換設定」に従った処理が施され、出力フォルダに目的のファイルが出力されます。

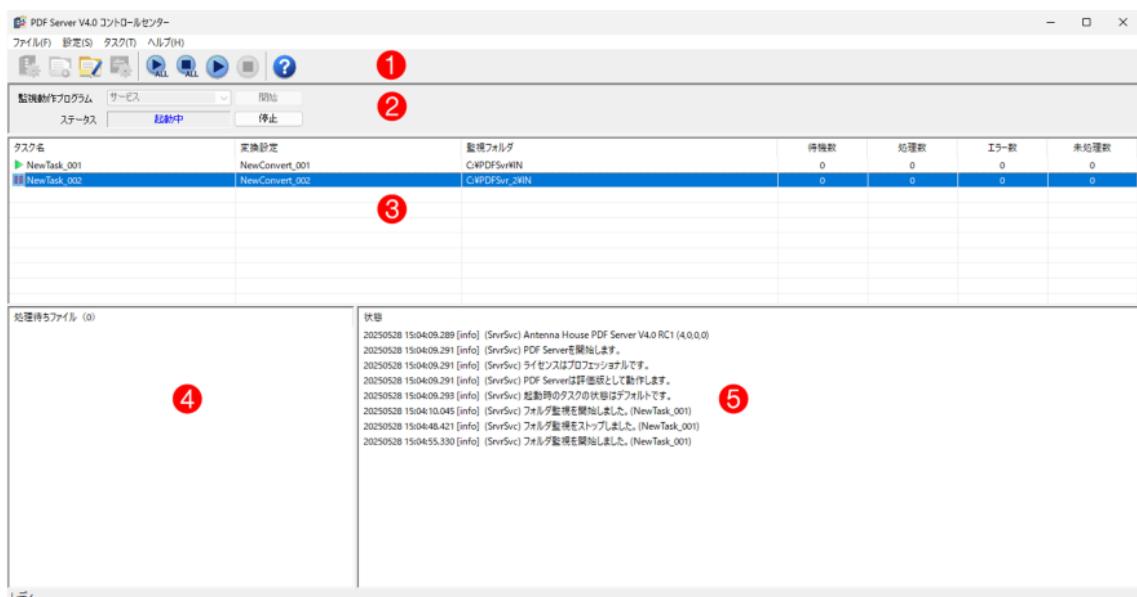


PDF Server V 4.0 コントロールセンター【プロフェッショナル版／スタンダード版のみ】

タスク／変換設定を行うには、PDF Server V4.0 コントロールセンターを用います。デスクトップに作成されているショートカット「PDF Server V4.0 コントロールセンター」をダブルクリックして、「PDF Server V4.0 コントロールセンター」を起動します。



「PDF Server V4.0 コントロールセンター」ショートカットアイコン



PDF Server V4.0 コントロールセンターウィンドウ

MEMO

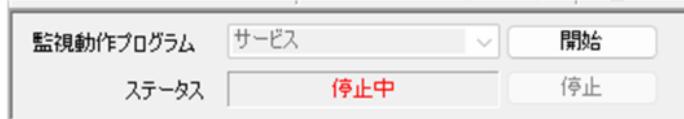
「PDF Server V4.0 コントロールセンター」は、フォルダ監視に関する設定や制御、ログ表示などを行なうアプリケーションです。コントロールセンターは、コマンドライン版では利用することはできません。

① ツールボタン

このエリアのボタンを使って PDF Server のタスク設定／変換設定、並びにタスクの開始／終了します。

	「PDF Server 設定」ダイアログを表示し、タイムアウトやシステム監視などに関する設定を行います。
	「タスク設定」ダイアログを表示し、新規にタスク設定を行います。選択しているタスクについての「タスク設定」ダイアログを表示します。
	「PDF Server V4 変換設定ツール」を起動し、タスクに割り当てる変換設定の作成／編集を行います。登録されているすべてのタスクを「開始」します。
	登録されているすべてのタスクを「開始」します。 このボタンが機能するには PDF Server サービスが動作している必要があります。
	登録されているすべてのタスクを「停止」します。 このボタンが機能するには PDF Server サービスが動作している必要があります。
	選択しているタスクを「開始」します。 このボタンが機能するには選択している監視タスクが停止している必要があります。
	選択しているタスクを「停止」します。 このボタンが機能するには選択している監視タスクが稼働している必要があります。
	PDF Server のバージョン／エディション情報など、プログラムについての情報を表示します。

② サービスコントロール部



このエリアを使ってサービス「AH PDF Server V4 Service」の制御（開始／停止）、及びその動作状況を表示します。

監視動作プログラム

サービス「AH PDF Server V4 Service」の動作を監視します。コンボボックス右の開始／停止ボタンを用いて、サービス「AH PDF Server V4 Service」の動作を制御します。

ステータス

サービス「AH PDF Server V4 Service」の現在の動作状況を示します。表示されるステータスは、以下の通りです。

停止中	プログラムが停止していることを示します。
起動動作中…	プログラムの起動シークエンスが進行中であることを示します。起動が完了すると表示が“起動中”に変わります。
起動中	プログラムが動作中であることを示します。
停止動作中…	プログラムの停止シークエンスが進行中であることを示します。プログラムが停止すると表示が“停止中”に変わります。

③ タスクリスト

このエリアに登録されているタスクについての情報がリスト表示されます。また、リスト中のアイテムをダブルクリックすると「タスク設定」ダイアログを表示してタスクの編集を行うことができます。

タスク名	監視タスク名を表示します。タスクの状態は、アイコンによって表されます。 ■ タスクが停止中であることを示します。 ▶ タスクが動作中であることを示します。
変換設定	タスクに割り当てられている変換設定名を表示します。
監視フォルダ	監視対象となるフォルダのフルパスを表示します。
待機数	タスク処理の対象となる待ち行列に登録されているファイル数を表示します。
処理数	既に処理が正常に完了したファイル数を表示します。
エラー数	今までに処理したものの内、エラー処理されたファイル数を表示します。
未処理数	監視フォルダ内に保存されているファイル数（ファイルの種類にはなりません）を表示します。

④ 処理待ちファイルリスト

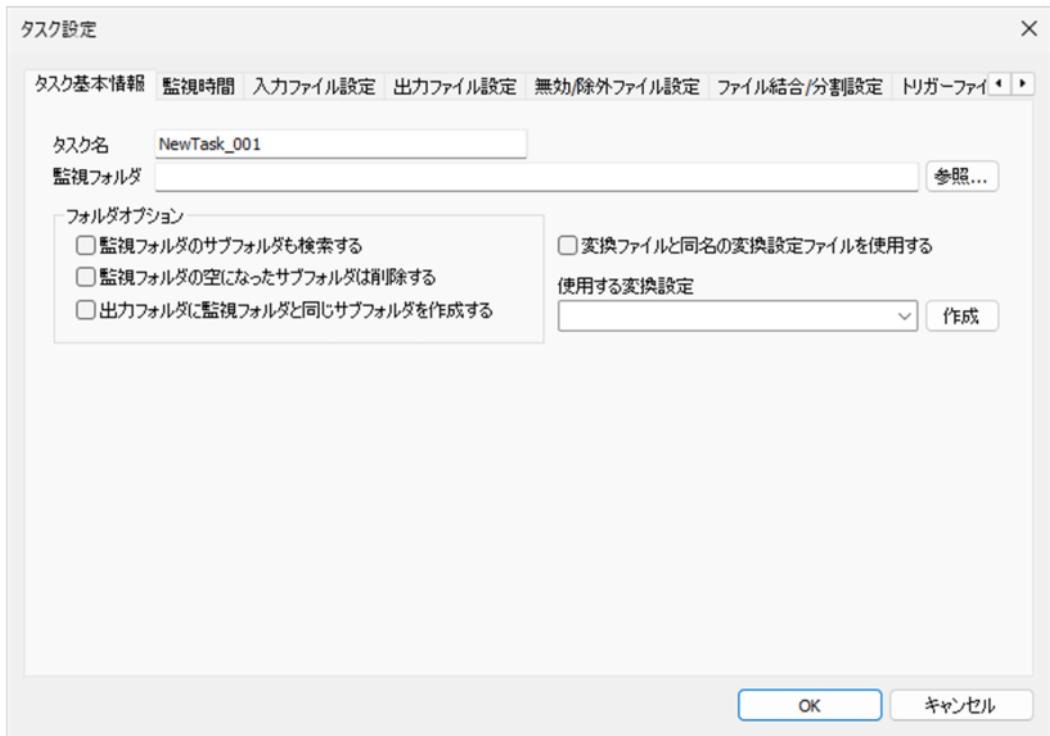
このエリアにキューイングされた処理待機中のファイルリストが表示されます。キューイングされたファイルは、リストの上から順に処理されます。

⑤ ログ表示領域

このエリアに PDF Server の最新の動作ログが表示されます。

監視タスクの設定

ここでは、PDF Server の監視タスクの設定方法について説明します。



PDF Server の監視タスクで使用するフォルダの設定

監視タスクの設定にあたり、監視対象とするフォルダなどを設定します。

監視フォルダ（入力フォルダ）、および各ファイルの出力先フォルダは Windows 共有が可能なフォルダであれば、PDF Server がインストールされているコンピュータのローカルディスク上にある必要はありません。必要に応じて以下のフォルダを作成して下さい。（名称は任意）

監視フォルダ	一つのタスクにつき監視フォルダ（入力フォルダ）を一つ指定します。（必須）
出力先フォルダ	PDF Server の処理によって出力されるファイルの保存先フォルダです。出力されるファイルは設定により異なります。各ファイル形式ごとに出力先を指定できますので、必要に応じて作成して下さい。なお、PDF Server が出力することができるファイル形式については、次項を参照してください。
移動先フォルダ	処理に成功した場合の元ファイルの移動先フォルダと、失敗した場合の元ファイルの移動先フォルダを指定できます。（設定により処理済ファイルを移動せず、削除することもできます。その場合、移動先フォルダを設定する必要はありません）

PDF Server が output することができるファイル形式

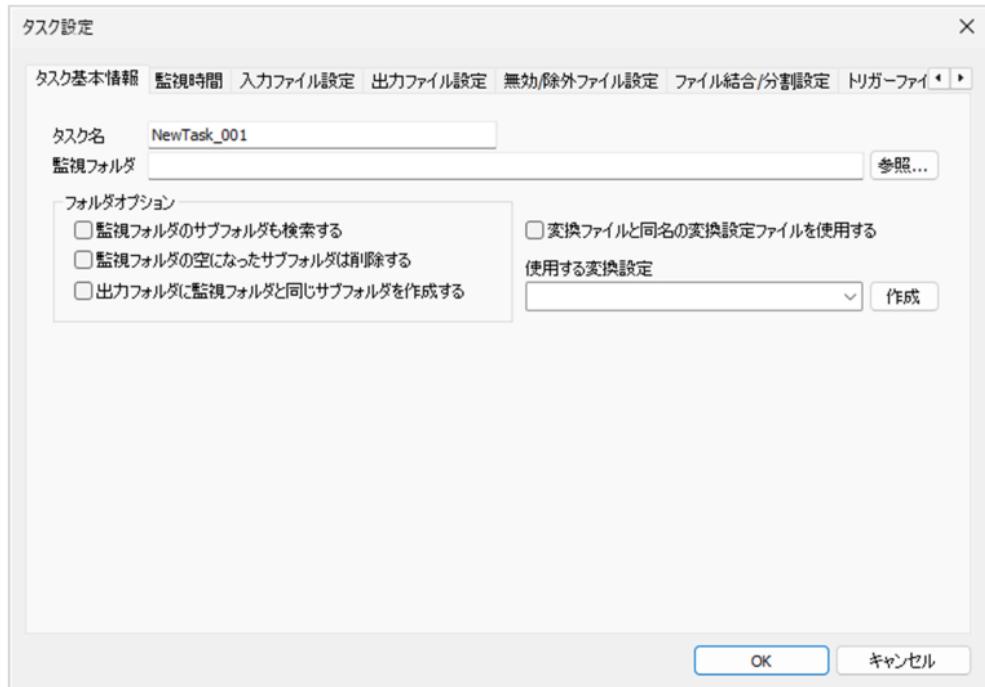
PDF Server が output することができるファイルは次の通りです。

PDF ファイル	画像ファイル、Microsoft Office ファイル、「アプリケーション変換設定」画面で登録されている拡張子を持つ文書ファイルから生成された PDF ファイル、またはオリジナルが PDF であったファイルです。OCR 処理を行った場合、OCR 処理によって得られたテキストが埋め込まれます。
TIFF ファイル	入力ファイルをマルチページの TIFF ファイルに変換して出力します。入力ファイルが画像ファイル以外の場合、一旦 PDF ファイルに変換した後、PDF ファイルのそれぞれのページを TIFF ファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きなもので、完了するまでに長時間を要したり、対象となる PDF ファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
JPEG ファイル	入力ファイルから作成された PDF ファイルのそれぞれのページを JPEG ファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きなもので、完了するまでに長時間を要したり、対象となる PDF ファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
テキストファイル	画像ファイルを OCR 処理した際に得られたテキストと PDF ファイルに設定されている文書情報をテキストファイルとして出力します。

監視タスクの作成／編集

次のいずれかの方法で「タスク設定」ダイアログを表示し、監視タスクを作成／編集します。

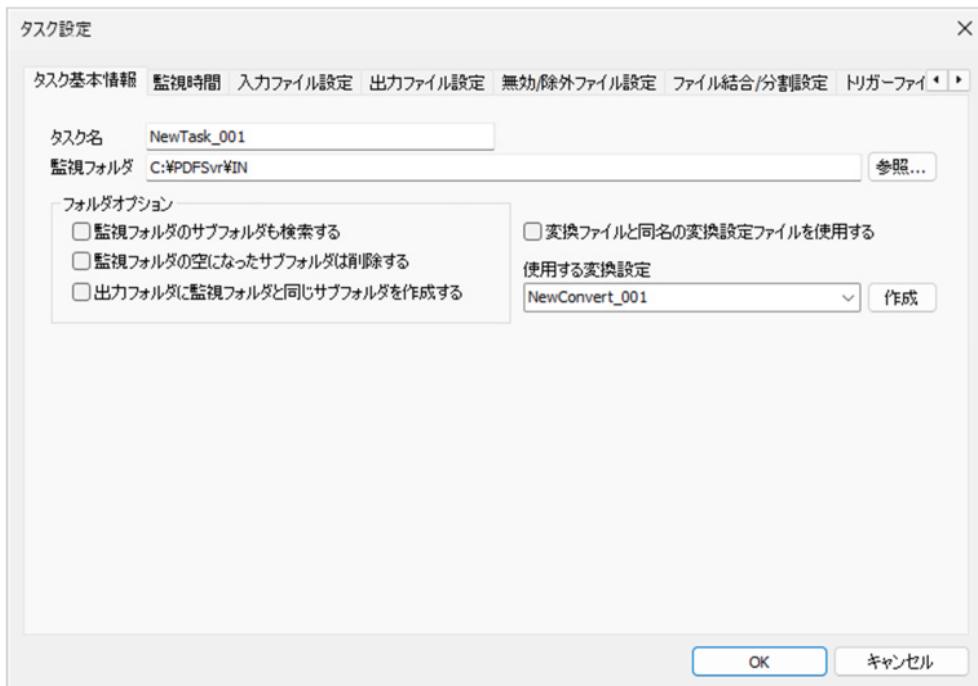
1. ツールバー上の「新規タスク設定」ボタンをクリックする。
2. 「設定」メニューの「タスク設定」から「新規...」を選択する。
3. リストに登録されているタスクを編集する場合には、以下のいずれかの方法をとります。
 - ① リスト中のタスクをダブルクリックする。
 - ② リスト中のタスクを選択した後、「設定」メニューの「タスク設定」から「編集...」を選択する。
 - ③ リスト中のタスクを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「編集...」を選択する。



「タスク設定」ダイアログ

タスク基本情報の設定

監視対象となるフォルダ（監視フォルダ）についての設定を行います。



「タスク基本情報」設定画面

1. 「タスク名」入力フィールドにこのタスクの名前を入力します。ここで設定した名前がコントロールセンターのタスクリストに表示されます。

注意

タスク設定は、「タスク設定名」フィールドに入力した文字列をファイル名として保存されるため半角文字『¥ / , ; : * ? " < > |"』を利用する事が出来ません。（これらの文字を入力した場合、次のメッセージが表示されます。）

《エラーメッセージ表示例》

もし、タスク設定名にこれらの文字を用いたまま保存した場合、該当するすべての文字が自動的に「@」に置換されます。

2. 「監視フォルダ」入力フィールドに監視フォルダをフルパスで入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて設定します。

注意：

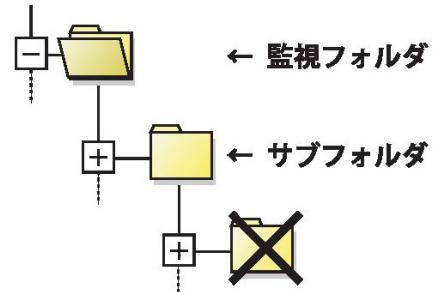
他のタスクの監視フォルダとして設定されているフォルダ、またそのサブフォルダを監視フォルダに設定することはできません。

3. 「フォルダオプション」エリアを用いて、監視フォルダのサブフォルダの扱いについてのオプション設定を行います。

監視フォルダのサブフォルダも検索する	監視フォルダ内にサブフォルダがあった場合、そのフォルダも監視対象にして、ファイルが存在した場合に処理を行います。
--------------------	--

注意

このオプションを設定した場合、処理対象となるのは監視フォルダのサブフォルダに保存されているファイルまでです。サブフォルダに含まれるフォルダ以下の階層に保存されているファイルは処理対象とはなりません。



監視フォルダの空になったサブフォルダは削除する	上記「監視フォルダのサブフォルダも検索する」オプションを有効にしていた場合、処理済の空フォルダを監視フォルダ内から削除します。
出力フォルダに監視フォルダと同じサブフォルダを作成する	上記「監視フォルダのサブフォルダを検索する」オプションが有効な場合、タスク実行時にその監視フォルダ内に存在する同一名のサブフォルダを各出力先フォルダに作成し、その中にファイルを出力します。

4. コンボボックス「使用する変換設定」を用いて、このタスクに割り当てる変換設定を選択します。なお、コンボボックス右の「作成」ボタンをクリックすると「PDF Server V4 変換設定ツール」ウィンドウを表示し、変換設定の作成／編集を行うことができます。

チェックボックス「変換ファイルと同名の変換設定ファイルを使用する」	これにチェックマークを付けるとコンボボックス「使用する変換設定」で指定された変換設定ではなく、監視フォルダに存在する変換対象となるファイルと同じ名前の変換設定ファイルを使用して変換処理を行います。
-----------------------------------	--

監視時間設定

タスクを実行する稼働時間と一回の監視フォルダの内容チェックで、タスク処理のキュー（待ち行列）に登録するファイルの最大数を設定します。



「監視時間」設定画面

稼働時間

1. 監視スケジュールを“常時”、“指定時間内”、“指定時刻に一度”的いずれかから選択します。
2. 選択したスケジュールの時間を、該当する時間指定項目から設定して下さい。

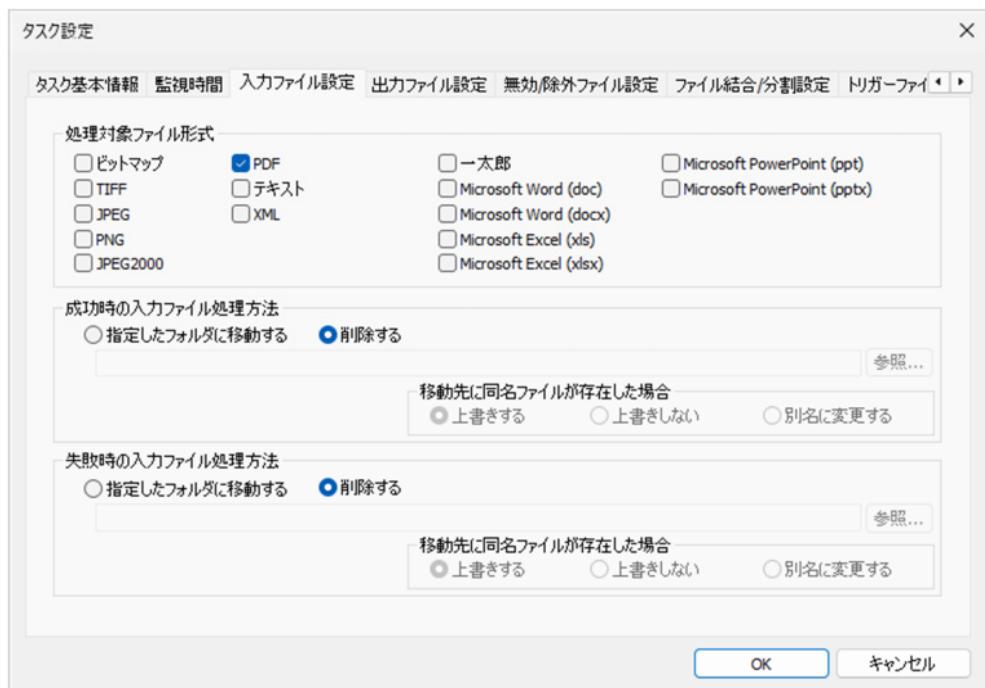
常時	指定した一定のインターバル（秒／分／時間）でタスクを実行します。指定可能な値の範囲は、1～9999 で、初期状態では、“60 秒”に設定されています。
指定時間内	開始時刻と終了時刻を指定し、その間、指定したインターバルでタスクを実行します。開始時刻と終了時刻、インターバル（秒／分／時間）を指定します。時刻は、24 時間表記、指定可能な値の範囲は、1～9999 です。初期状態では、9:00:00～18:00:00 の間を、60 秒おきにタスクを実行するように設定されています。
指定時刻に一度	一日に一度、指定した時刻にタスクを実行します。タスクの実行時刻を指定して下さい。時刻は、24 時間表記で指定します。初期状態では、9:00:00 に実行する様に設定されています。

ファイル検索

一回の監視タイミングで検知され新たにキュー（処理の待ち行列）に処理対象として登録される最大ファイル数を指定します。設定可能な値の範囲は、1～999999 で、初期状態には、“100”が設定されています。

入力ファイル設定

処理対象となる入力ファイルについての設定を行います。



「入力ファイル設定」画面

処理対象ファイル形式

このエリアに用意されているチェックボックスにチェックマークを付けて処理対象となるファイル形式を選択します。PDF Server は、以下にあげる形式のファイルを対象に処理します。

NOTE

PDF ファイルを処理する場合、ページの内容だけが、新たな PDF のページとして出力されます。そのため、元の PDF ファイルに設定されていた「しおり」、「注釈」、「フォーム」、「アクション」、「リンク」など、すべての付加情報は出力される PDF ファイルに引き継がれません。

ファイル形式	拡張子	備考
ビットマップ	.bmp	※
TIFF	.tif、.tiff	※
JPEG	.jpg、.jpeg	※
PNG	.png	※
JPEG2000	.j2k、.jp2	※
PDF	.pdf	
テキスト	.txt	
XML	.xml	
Microsoft Word	.doc、.docx	
Microsoft Excel	.xls、.xlsx	
Microsoft PowerPoint	.ppt、.pptx	

初期状態では、“PDF”だけが選択されています。

注意

PDF Server を使用するコンピュータに PDF 生成仮想プリンタ ドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」と Microsoft Word など、ファイル形式に対応するソフトウェアがインストールされていなければ、チェックボックスを利用することはできません。
対応画像ファイル形式の詳細については、付録「[PDF Server の対応画像形式について](#)」を参照してください。

成功時の入力ファイル処理方法

対象ファイルの処理に成功した場合の処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する	処理に成功したファイルの移動先フォルダのフルパスをラジオボタン下のフィールドに直接入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを用いて設定します。なお、このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダを指定しなければなりません。 移動先フォルダパスの入力例： C:¥PDF_sv¥成功
移動先に同名ファイルが存在した場合	移動先フォルダに既に同じ名称のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、上書きするが選択されています。
上書きする	そのまま上書き保存します。先に存在していた同じ名称のファイルは失われてしまいます。
上書きしない	上書き保存せず、移動対象となる入力ファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルは保持され、処理に成功した入力ファイルが失われてしまいます。
別名に変更する	ファイル名の「.拡張子」の直前に「(数字)」(数字は1から始まる連続する整数)を付加した別名のファイルとして保存します。 例:サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、…
削除する	処理に成功した対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。

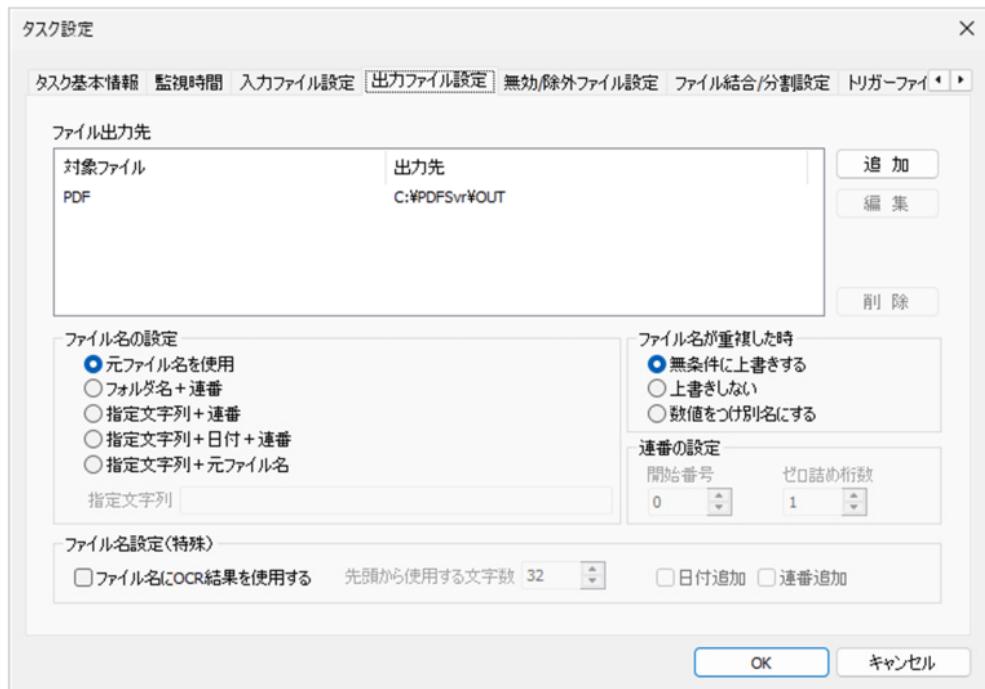
失敗時の入力ファイル処理方法

対象ファイルの処理に失敗した場合の処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する	処理に失敗したファイルの移動先フォルダのフルパスをラジオボタン下のフィールドに直接入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを用いて設定します。なお、このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダを指定しなければなりません。 移動先フォルダパスの入力例：C:\PDF_sv\エラー
移動先に同名ファイルが存在した場合	移動先フォルダに既に同じ名称のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、上書きするが選択されています。
上書きする	そのまま上書き保存します。先に存在していた同じ名称のファイルは失われてしまいます。
上書きしない	上書き保存せず、移動対象となる入力ファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルは保持され、処理に失敗した入力ファイルが失われてしまいます。
別名に変更する	ファイル名の「.拡張子」の直前に「(数字)」(数字は1から始まる連続する整数)を付加した別名のファイルとして保存します。 例:サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、 ...
削除する	処理に失敗した対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。

出力ファイル設定

PDF Server による処理の結果出力される PDF/TIFF/テキスト/JPEG ファイルの出力フォルダとファイル名についての設定を行います。



「出力ファイル設定」画面

ファイル出力先

PDF Server の処理によって出力するファイル形式とその出力先フォルダを設定します。初期状態では出力するファイル、出力先フォルダ共に設定されていませんので、1つ以上の出力ファイル形式とそのファイルの出力先フォルダを設定する必要があります。具体的な出力ファイルの登録方法については、「[ファイル出力先の追加](#)」の項で説明します。

出力ファイル形式

PDF Server が、出力可能なファイル形式は、以下の通りです。

PDF	監視フォルダに登録された処理対象ファイルから作成された PDF ファイルを出力します。OCR 処理を行う場合、OCR 処理によって得られたテキストが埋め込まれた PDF ファイルが出力されます。
TIFF	入力ファイルを TIFF ファイルに変換して出力します。入力ファイルが画像ファイル以外の場合、一旦 PDF ファイルに変換した後、PDF ファイルのそれぞれのページを TIFF ファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きなもので、完了するまでに長時間を要したり、対象となる PDF ファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
JPEG	入力ファイルから作成された PDF ファイルのそれぞれのページを JPEG ファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きなもので、完了するまでに長時間を要したり、対象となる PDF ファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
テキストファイル	画像ファイルを OCR 処理した際に得られたテキストと、PDF ファイルに設定されている文書情報をテキストファイルとして出力します。

ファイル名の設定

このオプションを用いて出力されるファイル名の設定を行います。

元ファイル名を使用	処理対象となる入力ファイルと同じ名前をファイル名に設定します。
フォルダ名 + 連番	監視フォルダの名前に連番を加えたものをファイル名に設定します。
指定文字列 + 連番	任意の文字列に連番を加えたものをファイル名に設定します。ファイル名の一部として設定する文字列はこのエリア最下部のテキストフィールド入力します。
指定文字列 + 日付 + 連番	任意の文字列に日付と連番を加えたものをファイル名に設定します。ファイル名の一部として設定する文字列はこのエリア最下部のテキストフィールド入力します。 例: Sample_20250208_001.pdf
指定文字列 + 元ファイル名	任意の文字列に処理対象となるファイルの名前を加えたものをファイル名に設定します。ファイル名の一部として設定する文字列はこのエリア最下部のテキストフィールド入力します。

ファイル名が重複した時

出力フォルダに既に同じ名前のファイルが存在する場合に出力されるファイルの処理方法を設定します。

無条件に上書きする	そのまま上書き保存します。以前、同じ名前で保存されていたファイルは失われてしまいます。
上書きしない	上書き保存せずに処理結果を破棄します。PDF Server の処理によって作成されたファイルは保存されません。
数値をつけ別名にする	ファイル名の「.拡張子」の直前に「(n)」(“n”は、1 から始まる連番) を追加します。なお、“n”は、常に 1 から順に詰められます。ファイル名が重複した時にファイル名に付加される連番の最大値は、「65535」です。「65535」の次は、「0」に戻ります。 例: Sample.pdf、 Sample(1).pdf、 Sample(2).pdf、 …

連番の設定

「ファイル名の設定」で設定するファイル名に「連番」を含む項目を選択した場合の連番についてのオプション設定を行います。

開始番号	連番の最初の番号を指定します。 例： 「フォルダ名+連番」で開始番号を 100 にした場合 入力_100.pdf、入力_101.pdf、入力_102.pdf…
ゼロ詰め桁数	連番の表示する桁数を、1 から 10 までの整数値で指定します。設定される連番が指定した桁数に満たない場合、連番の前に“0”を付けて桁数を合わせます。 例： 「フォルダ名+連番」で桁数を 3 にした場合（開始番号=0） 入力_000.pdf、入力_001.pdf、入力_002.pdf…

ファイル名設定(特殊)

チェックボックス「ファイル名に OCR 結果を使用する」にチェックマークを付けると、対象となるファイルの先頭ページの OCR 結果をファイル名に設定することができます。このオプションを有効にした場合、他のファイル名設定オプションよりもこのファイル名設定オプションが優先して実行されます。

先頭から使用する文字数	ファイル名として設定する OCR によって得られたテキストの先頭からの文字数を指定します。初期状態では、32 文字に設定されています。
日付追加	OCR 結果によって設定されるファイル名に日付を加えます。 例： OCR 文字列_20250208.pdf
連番追加	OCR 結果によって設定されるファイル名に「連番の設定」エリアでの設定にしたがって連番を加えます。

注意

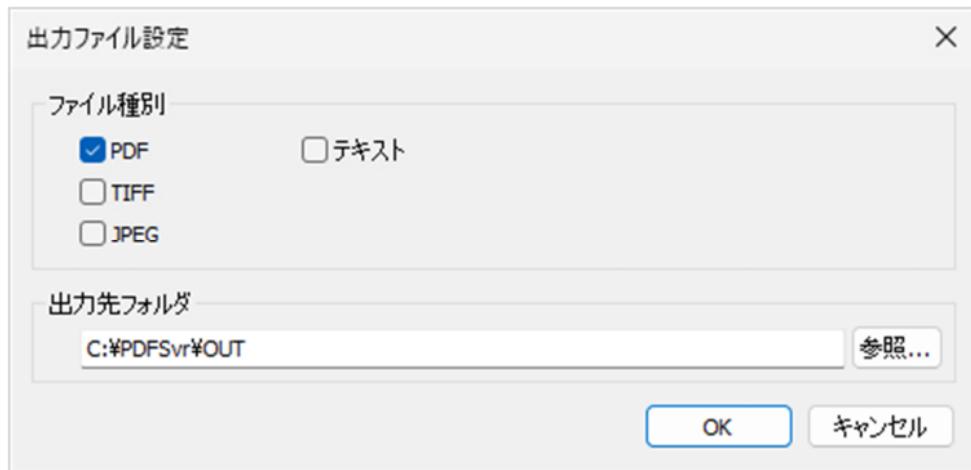
以下の場合、通常の方法によるファイル名が設定されます。

- ・ 処理対象が、Office ファイルなど、OCR 処理の対象とならないファイル形式の場合
- ・ OCR 処理によってテキストが得られない場合

ファイル出力先の追加

以下に示す手順を繰り返して、PDF Server の処理によって出力されるファイルのファイル形式と出力先フォルダを設定します。

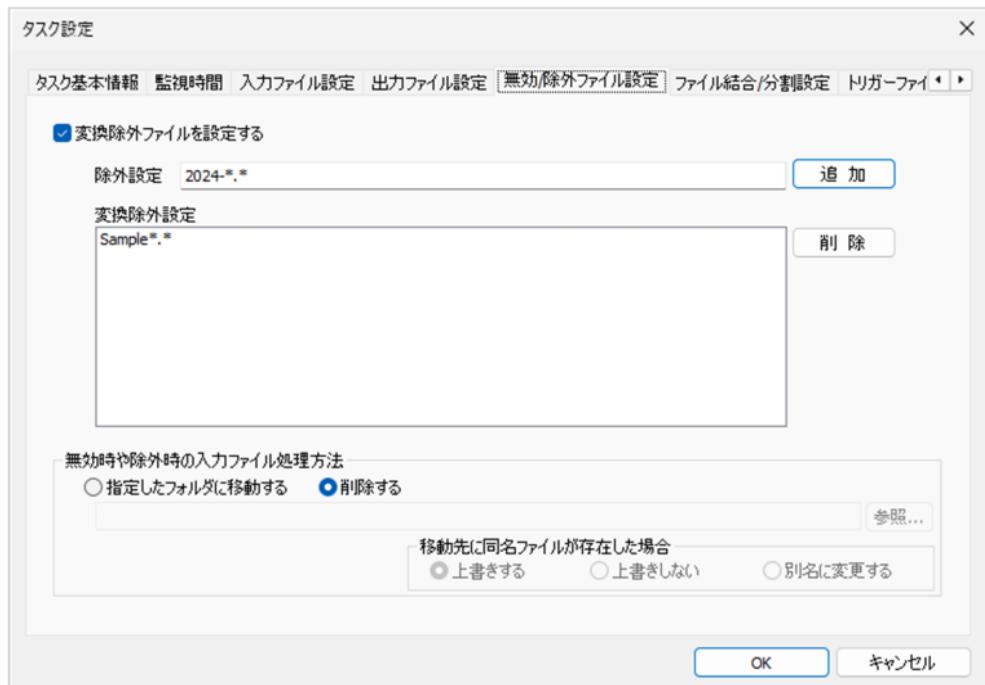
1. 出力ファイルとその出力先を登録するには、ファイル出力先リスト右の「追加」ボタンをクリックして表示される「出力ファイル設定」ダイアログを用います。



2. 「ファイル種別」エリアの出力したいファイル形式のチェックボックスにチェックマークを付けます。
3. 「出力先フォルダ」フィールドにファイルの出力先のフルパスを直接入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて設定します。
4. 設定内容を確認した後、「OK」ボタンをクリックして「ファイル出力先」リストに追加登録します。

無効／除外ファイル設定

監視フォルダに保存されているファイルの内、変換対象から除外するファイル名のパターンを指定します。この画面で指定したパターンに一致する名前を持つファイルは、変換対象から除外され、指定したフォルダに移動、または削除され、タスクの待ち行列に登録されません。



「無効／除外ファイル設定」画面

変換除外ファイルを設定する

登録したパターンに一致する名前を持つファイルを変換対象から外す場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

除外設定

このフィールドに変換対象から除外するファイル名のパターンを入力した後、「追加」ボタンをクリックして、フィールド下の「変換除外設定」リストに登録します。除外するファイル名のパターンは、不特定の文字列を示すワイルドカード (*) を使って設定します。以下に設定例を示します。

パターン	設定内容
10*.*	ファイル名が「10」で始まるすべてのファイル
* 1	ファイル名が「1」で終わるすべてのファイル
* AB *.*	ファイル名に「AB」が含まれるすべてのファイル
~\$*.DOC	ファイル名が「~\$」で始まる Word 文書ファイル

なお、除外対象ファイルとして「*.DOC」など、特定の拡張子のファイルを指定する設定、また「*.*」や「*」などすべてのファイルを指定する設定を行うことはできません。

注意

- 指定文字列に含まれるアルファベットの大文字・小文字は、区別されません。
- 読み取り専用属性／隠しファイル属性が設定されているファイルは、変換除外設定が有効／無効かによらず、除外処理されます。

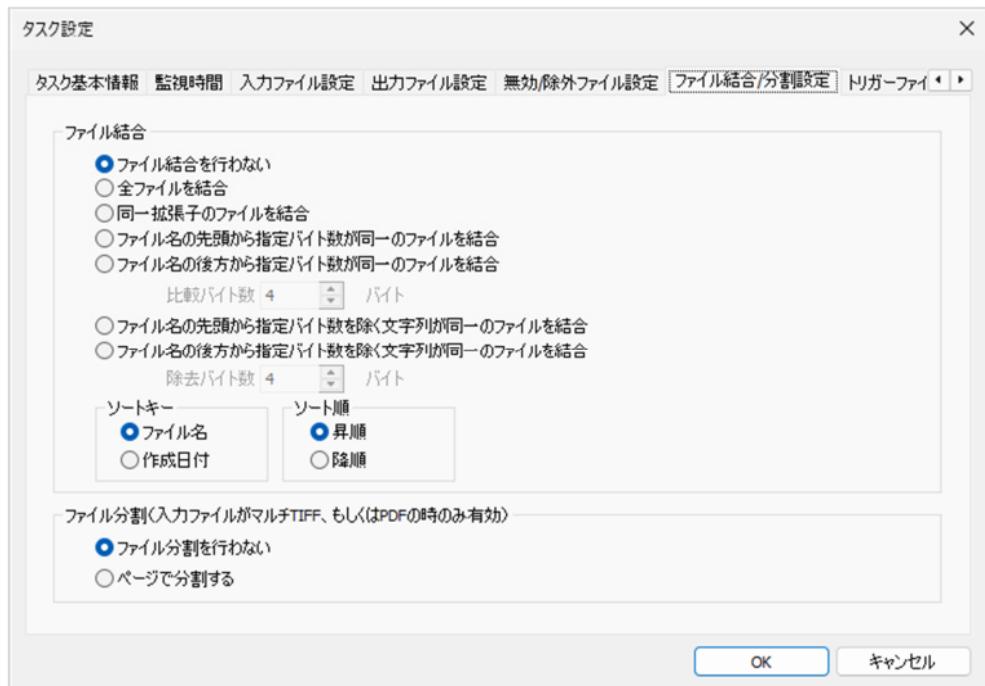
無効時や除外時の入力ファイル処理方法

変換除外設定に登録されている条件を満たす処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する	変換除外設定に登録されている条件を満たすファイルの移動先フォルダのフルパスをラジオボタン下のフィールドに直接入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて設定します。なお、このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダを指定しなければなりません。 移動先フォルダパスの入力例 C:\temp\除外
移動先に同名ファイルが存在した場合	移動先フォルダに既に同じ名称のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、上書きするが選択されています。
上書きする	そのまま上書き保存します。先に存在していた同じ名称のファイルは失われてしまいます。
上書きしない	上書き保存せず、移動対象となるファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルは保持され、処理に成功した入力ファイルが失われてしまいます。
別名に変更する	ファイル名の「.拡張子」の直前に「(数字)」(数字は1から始まる連続する整数)を附加した別名のファイルとして保存します。 例: サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、…
削除する	変換除外設定に登録されている条件を満たす対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。

ファイル結合／分割設定

出力される PDF ファイルについて、ファイル結合／分割についての設定を行います。



「ファイル結合／分割設定」画面

ファイル結合

PDF Server によって出力される複数の PDF ファイルを結合して一つの PDF ファイルとして出力する際の結合方法を設定します。初期状態では、「ファイル結合を行わない」が選択されています。

ファイル結合を行わない PDF ファイルの結合処理を行いません。

全ファイルを結合	1回の監視フォルダのチェックによって処理の待ち行列に追加される対象ファイルを処理し、一つの PDF ファイルとして出力します。
同一拡張子のファイルを結合	1回の監視フォルダのチェックによって処理の待ち行列に追加される対象ファイルの内、ファイルの拡張子ごとに結合した一つの PDF ファイルとして出力します。
ファイル名の先頭からの指定バイト数が同一のファイルを結合	処理対象となるファイル名の先頭から指定したバイト数(文字数)が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「比較バイト数」で先頭からの比較バイト数を 1～16 バイトの範囲で指定します。この時、「.拡張子」は比較対象に含まれません。 半角英数字 1 文字 = 1 バイト 全角文字 1 文字 = 2 バイト
ファイル名の後方からの指定バイト数が同一のファイルを結合	処理対象となるファイル名の末尾から指定したバイト数(文字数)が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「比較バイト数」で末尾からの比較バイト数を 1～16 バイトの範囲で指定します。この時、「.拡張子」は後方からの指定バイトに含まれません。 半角英数字 1 文字 = 1 バイト 全角文字 1 文字 = 2 バイト
ファイル名の先頭からの指定バイト数を除く文字列が同一のファイルを結合	処理対象となるファイル名の先頭から指定したバイト数(文字数)を除いた文字列が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「除去バイト数」で先頭からの除去バイト数を 1～16 バイトの範囲で指定します。この時、「.拡張子」は比較対象に含まれません。 半角英数字 1 文字 = 1 バイト 全角文字 1 文字 = 2 バイト

**ファイル名の後方
からの指定バイト
数を除く文字列が
同一のファイルを
結合**

処理対象となるファイル名の後方から指定したバイト数(文字数)を除いた文字列が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「除去バイト数」で後方からの除去バイト数を1～16バイトの範囲で指定します。この時、「.拡張子」は後方からの指定バイトに含まれません。

半角英数字1文字 = 1バイト

全角文字1文字 = 2バイト

ソートキー

ファイル結合を行う際のファイル結合順を決定するためのソートキーとしてファイル名／作成日付のいずれかから選択します。初期状態では、「ファイル名」が選択されています。

ソート順

「ソートキー」で指定した項目による並べ替えの順番を設定します。初期状態では、「昇順」に設定されています。

ファイル分割（入力ファイルがマルチ TIFF、もしくは PDF のときのみ有効）

マルチ TIFF ファイル、または PDF ファイルを処理する際、これを単ページの TIFF、または PDF ファイルに分割して処理するか否かについての設定を行います。初期状態では、「ファイル分割を行わない」が選択されています。

ファイル分割を行う場合、出力されるファイルの名前は、「出力ファイル設定」で設定したファイル名として設定される文字列に「_（アンダースコア）+ページ番号+d」を追加したものとなります。

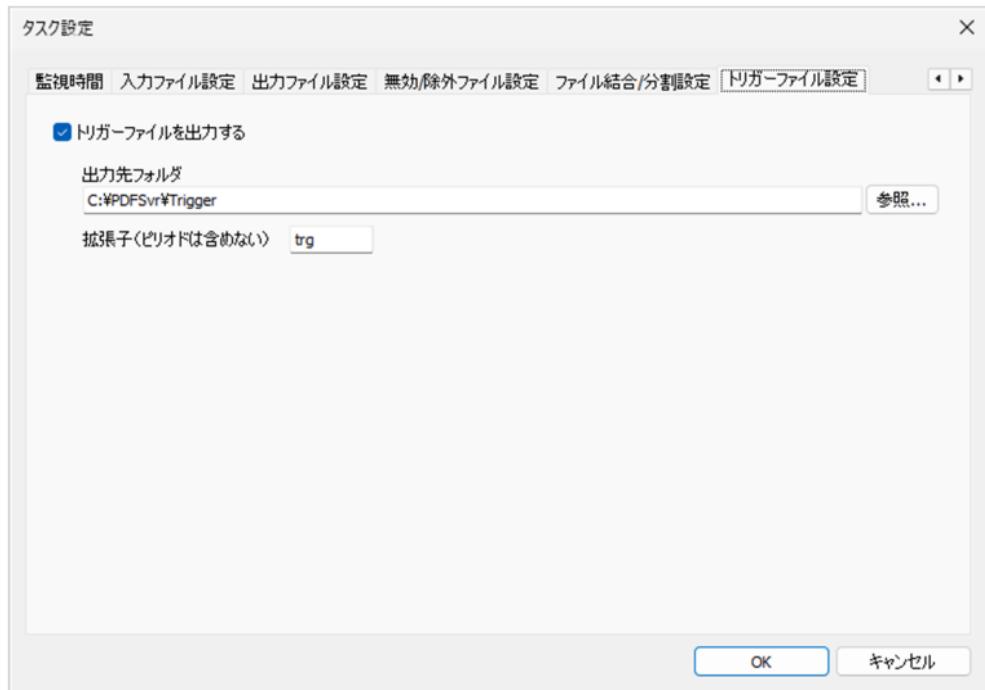
例： sample_1d.pdf、sample_2d.pdf、sample_3d.pdf…

注意

- ファイル結合と分割が同時に設定されている場合、ファイル結合が優先され、ファイル分割は無視されます。
- “d”は、ファイル分割処理されたファイルであることを示すための文字です。
- 1ページしか持たない TIFF/PDF ファイルを分割処理することはできません。分割処理が設定されているタスクによって 1ページしか持たない TIFF/PDF ファイルを処理しても、出力されるファイル名に「_（アンダースコア）+ページ番号+d」は追加しません。

トリガーファイル設定

処理が終了したタイミングを記録したトリガーファイルの出力について設定します。トリガーファイルは、PDF Server と他のソフトウェアを組み合わせて運用する場合に利用するものです。



「トリガーファイル設定」画面

トリガーファイルを出力する	トリガーファイルを出力する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。
出力先フォルダ	このフィールドにトリガーファイルの出力先となるフォルダのフルパスを直接入力するか、フィールド右の「参照…」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて、出力先フォルダを指定します。
拡張子	出力されるトリガーファイルの拡張子(最大3文字)を設定します。初期状態では、「trg」に設定されています。

注意

- ・ 入力する拡張子には「. (ドット)」は含みません。
- ・ トリガーファイル名は、出力される PDF ファイル名+ここで設定した拡張子となります。
- ・ トリガーファイルには、テキストでファイルの処理が完了した日付と時刻、変換の成功／失敗が記録されています。以下にその出力例を示します。

```
[information]
creation_date=2025/05/12 14:35:42
status=success
```

- ・ トリガーファイルは、1つのファイル処理が完了した後に出力します。ただし、ファイル結合／分割の場合には、ファイルの結合／分割が完了した時点で出力します。
- ・ トリガーファイルの出力先に同名のファイルが既に存在する場合には、上書き保存します。
- ・ 変換ファイルがエラー以外の要因（例：既に同名ファイルが存在する場合に上書きしないように設定した場合）で出力されなかった場合には、トリガーファイルも出力しません。

変換設定

ここでは、タスクに割り当てる変換設定の設定／編集方法について説明します。



「変換設定」ダイアログ

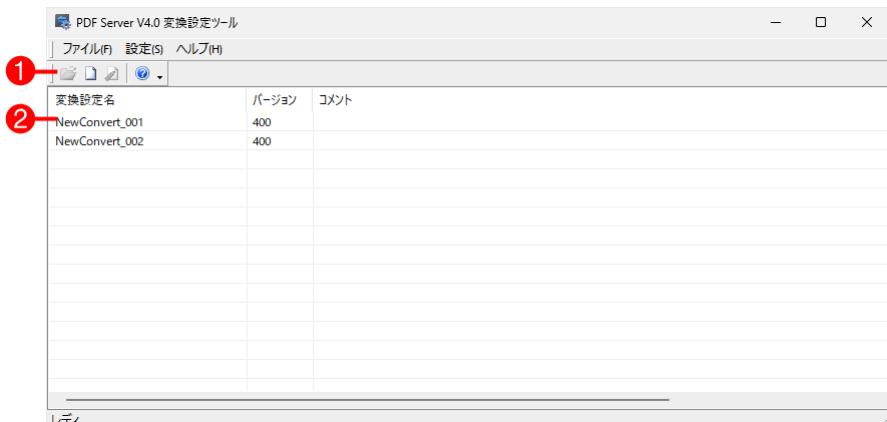
変換設定ツールの起動

以下のいずれかの方法を用いて PDF Server V4 変換設定作成ツールを起動し、変換設定ツールウィンドウを表示します。

1. PDF Server V4 コントロールセンターのツールバー上の「変換設定」ボタンをクリックする。



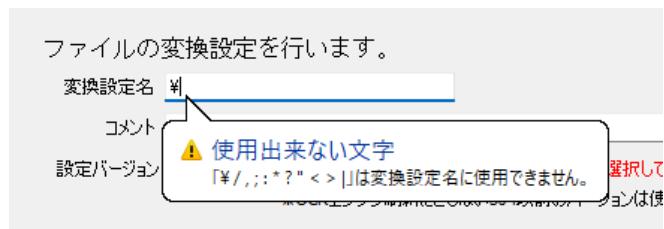
2. PDF Server V4 コントロールセンターの「設定」メニューから「変換設定」を選択する。
3. 「スタート」メニューから、「Antenna House PDF Server V4」→「変換設定ツール」を選択する。



変換設定ツールウィンドウ

注意

変換設定は、「変換設定名」フィールドに入力した文字列をファイル名として保存されるため半角文字「¥ / , ; : * ? " < > |」を使用することが出来ません。(これらの文字を入力した場合、次のメッセージが表示されます。)



① ツールボタン

このエリアのボタンを使って変換設定の操作等を行います。

	変換設定ファイル（拡張子：INI）が格納されているフォルダを指定するための「フォルダの参照」ダイアログを開きます。なお、コントロールセンターからこのツールを起動した場合、このボタンは機能しません。
	変換設定を新規に作成するために変換設定ダイアログを表示します。
	選択されている変換設定を開きます。
	バージョン情報など、変換設定作成ツールについての情報を表示します。

② 変換設定リスト

このエリアに登録済の変換設定名と変換設定に付加されているコメントがリスト表示されます。

登録されている変換設定を右クリックして表示されるコンテキストメニューを用いて変換設定を編集／削除することができます。

変換設定の作成／編集

次のいずれかの方法で「変換設定」ダイアログを表示し、変換設定を作成／編集します。

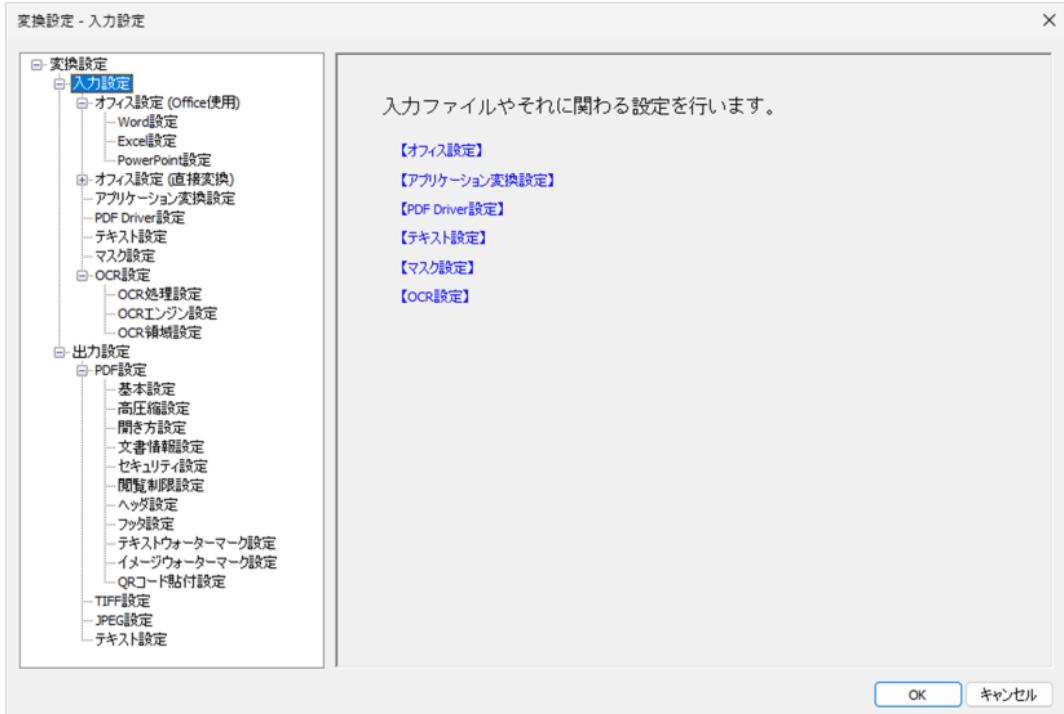
1. ツールバー上の「変換設定の新規作成」ボタンをクリックする。
2. 「設定」メニューから「新規...」を選択する。
3. リストに登録されているアイテムをダブルクリックするか、アイテムを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「変換設定を編集する...」を選択する。



「変換設定」ダイアログ

入力設定

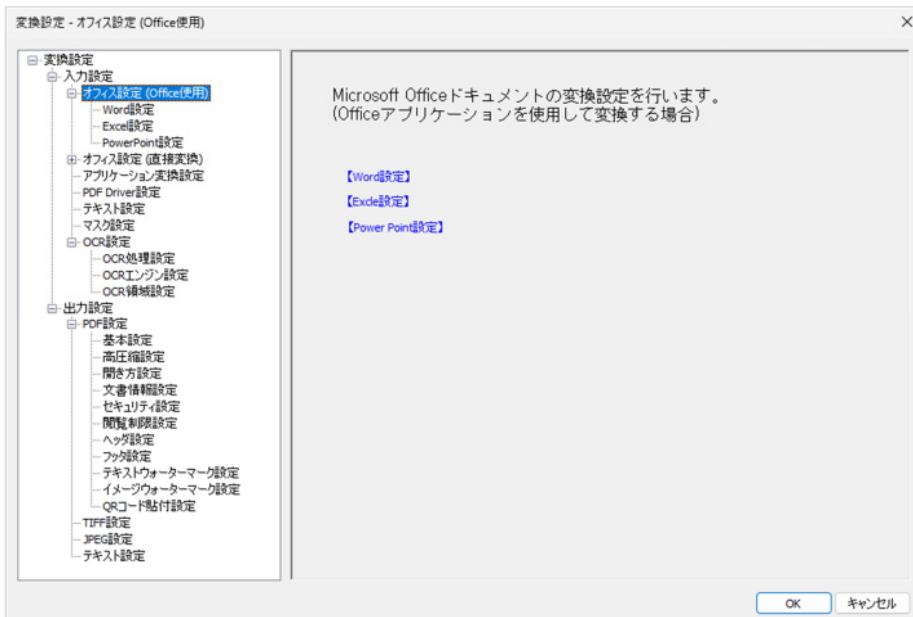
この画面のリンクをクリックするとリンクに対応する入力設定画面を表示します。



「入力設定」画面

オフィス設定 (Office 使用)

PC にインストールされている Office アプリケーションを用いて Word/Excel/PowerPoint ファイルを PDF ファイルに変換する際のオプション設定を行います。ページ上のリンクをクリックするとリンクに対応する Office アプリケーションについての設定画面を表示します。

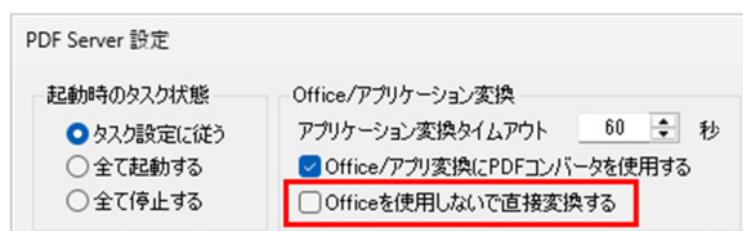


「オフィス設定 (Office 使用)」画面

重要

この機能は、対象となる Office 文書ファイルを製品付属の PDF 生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver 8.0」を用いてコンピュータにインストールされている Microsoft Office で印刷することによって実現しています。そのため、この機能を利用するには、必ずコンピュータにログインしなければなりません。

この機能を利用するには、「PDF Server 設定」画面のチェックボックス「Office を使用しないで直接変換する」が外れている必要があります。また、この機能は「オフィス変換 (直接変換)」と同時に設定／使用することはできません。



「PDF Server 設定」画面の「Office/アプリケーション変換」オプション

Word 設定 (Office 使用)

Microsoft Word ファイルの PDF 変換時に対象となる Word ファイルに設定されている変更履歴／コメントの出力についての設定を行います。



「Word 設定」画面 (Office 使用)

NOTE

「アプリケーション変換設定」画面で拡張子「DOC」、「DOCX」を登録してアプリケーション変換を有効に設定した場合、この画面での設定は無視されます。

変更履歴／コメントを出力する	Word 文書の内容だけではなく、文書に設定されている変更履歴／コメントも同時に PDF ファイルに出力します。なお、このオプションは「アドイン変換を行う」と同時に選択できません。
アドイン変換を行う	PDF Driver の Office 用アドインを用いて PDF ファイルに変換します。なお、このオプションは「変更履歴／コメントを出力する」と同時に選択することができません。
元の Word ファイルを添付する	出力する PDF ファイルに変換対象となる Word ファイルを添付ファイルとして埋め込みます。
しおりを出力する	Word 文書中に設定されている標準スタイル（「見出し 1」など）を「しおり」として設定します。
しおりの宛先を表示させる時の倍率	しおりの宛先を開いた時の PDF のページの表示倍率を設定します。
ファイルを開いたときに表示する階層	PDF ファイルを開いた直後に表示するしおりの階層を設定します。
リンクを出力する	Word 文書中に設定されているハイパーリンク（外部ファイルへのリンク、Web ページへのリンク、ドキュメント内のリンク、電子メールアドレス）を出力する PDF ファイルに設定します。
コメントをノート注釈に変換する	Word 文書中のコメントが PDF のノート注釈として出力されます。
相互参照と目次をリンクに変換する	Word 文書中の相互参照と目次が、リンクとして PDF ファイルに出力されます。
脚注をリンクに変換する	Word 文書中に設定されている脚注への参照が、リンクとして PDF ファイルに出力されます。

元文書の文書情報を使用する

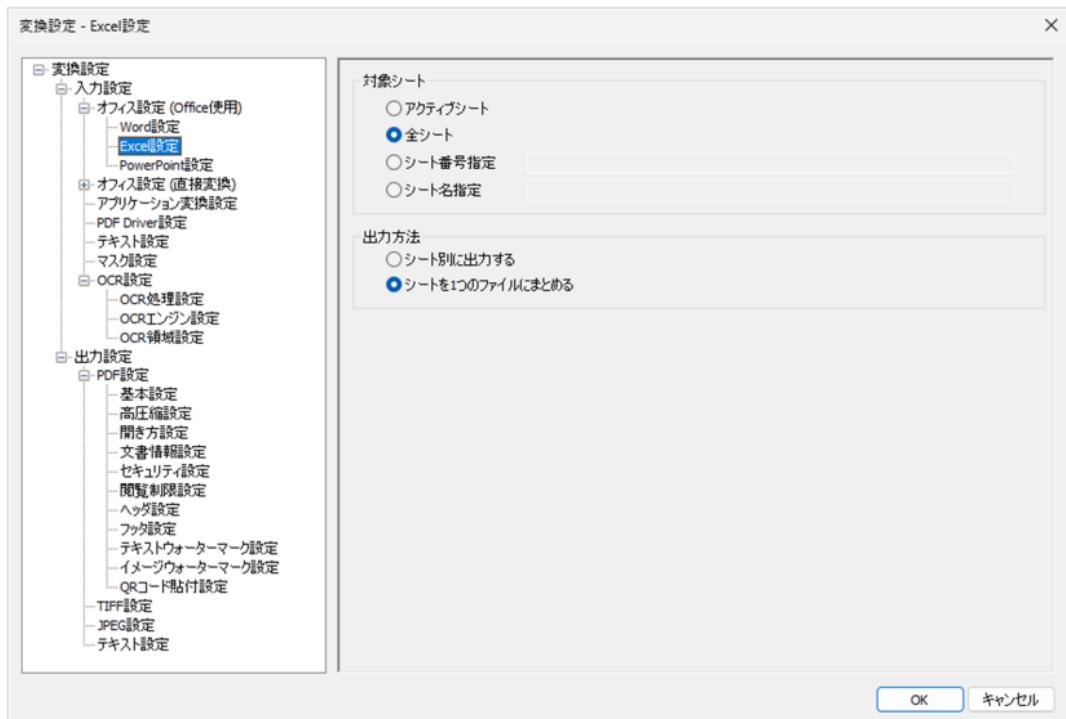
Word 文書の「プロパティ」に設定されている内容を出力する PDF ファイルの文書情報に設定します。

注意

- 「Microsoft Word」ファイルを PDF ファイルに変換するには、Microsoft Office Word が PDF Server をインストールしたコンピュータにインストールされている必要があります。
- ドライバ付属のアドインがインストールされていなかったり、Microsoft Office にアドインが登録されていない場合には、オプション「アドイン変換を行う」が選択されいても、通常の変換処理によって PDF ファイルが出力されます。（アドイン変換設定での指定は全て無視されます。）
- アドイン変換のオプション「元文書の文書情報を使用する」を利用する場合、「PDF Driver 設定」のオプション「出力 PDF ファイルに出力設定を適用しない」を「有効」にする必要があります。このオプションが無効の場合、Word ファイルの文書情報は、出力される PDF ファイルに反映されません。
- Word 文書作成時に「変更履歴の記録」を行なっていると、編集中に削除した部分も残っているため、これから出力した PDF ファイルでしおり／リンクがずれ、意図した部分に設定されないことがあります。

Excel 設定 (Office 使用)

Microsoft Excel ファイルの PDF 変換時に対象となる Excel ファイルのシートの取り扱いについての設定を行います。



「Excel 設定」画面 (Office 使用)

NOTE

「アプリケーション変換設定」画面で拡張子「XLS」、「XLSX」を登録してアプリケーション変換を有効に設定した場合、この画面での設定は無視されます。

対象シート

PDF ファイルへの変換対象となる Excel のシートを、ラジオボタンを使って指定します。

アクティブ

シート	変換対象となる Excel ファイルで、最後に保存されたときに最前面に表示されていたシートのみを変換します。
全シート	変換対象となる Excel ファイルの全てのシートを変換します。
シート番号指定	変換対象となる Excel ファイルのシート番号を指定して変換します。シート番号は Excel のシート見出し左端から「1,2,3,...」となります。指定方法は項目右のテキスト入力フィールドに、変換したいシート番号をカンマ区切りの半角数字で入力します。複数シートの範囲指定は、その指定する範囲の先頭シート番号と末尾シート番号を“- (ハイフン)”で繋ぎます。 入力例 1,5-10,3 変換されるシート 1,3,5,6,7,8,9,10
シート名指定	変換対象となる Excel ファイルのシート名を指定して変換します。指定方法は、項目右のテキスト入力フィールドに変換対象とする Excel のシートと同一名をコロン (:) で区切って入力します。入力するシート名は完全に一致している必要があります。 入力例 Report: Summary 変換されるシート シート名が「Report」、「Summary」に完全に一致するシート

注意

- シート名に「,」(カンマ)、「"」(ダブルクオーテーション) が含まれている場合には、期待した結果が得られない場合があります。
- ファイル名が「[」で始まる場合、Excel のバージョンによっては変換が途中で停止する場合があります。
- 「Microsoft Excel」ファイルを PDF ファイルに変換するには、Microsoft Office Excel が PDF Server をインストールしたコンピュータにインストールされている必要があります。

出力方法

Excel ファイルに含まれる複数のシートを出力する際のオプション設定を行います。

シート別に出力する	Excel ファイル中の出力対象となるシートごとに異なる PDF ファイルとして出力します。
シートを1つのブックにまとめる	Excel ファイル中の出力対象となるすべてのシートを1つの PDF ファイルにまとめて出力します。

PowerPoint 設定 (Office 使用)

Microsoft PowerPoint ファイルの PDF 変換時に、対象となる PowerPoint ファイルの印刷オプションの設定を行います。



「PowerPoint 設定」画面 (Office 使用)

NOTE

「アプリケーション変換設定」画面で拡張子「PPT」、「PPTX」を登録してアプリケーション変換を有効に設定した場合、この画面での設定は無視されます。

印刷設定

PowerPoint ファイルの PDF 変換時にこのエリアで設定した条件で PDF ファイルを作成します。設定項目とその内容は以下の通りです。

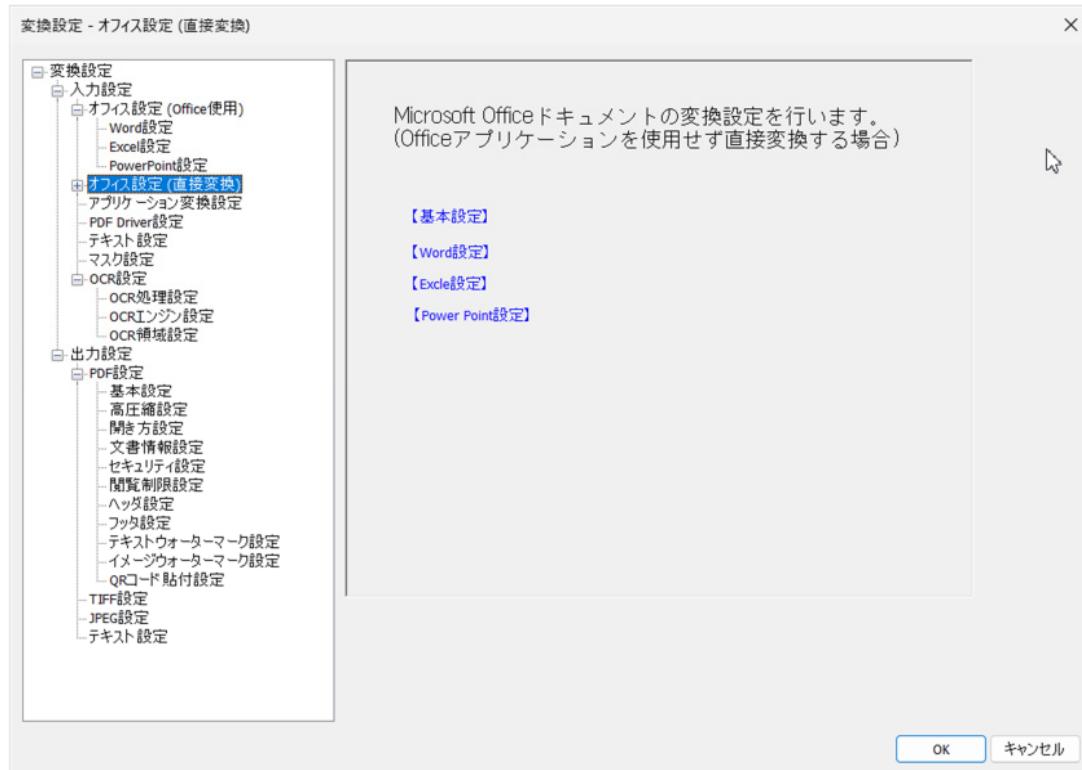
色	PDF ファイルを出力する場合のカラー モードを、コンボボックスから“カラー”、“白黒”、“グレースケール”より指定できます。												
印刷対象	PDF ファイルを出力する場合のスライドの形態を、コンボボックスから PowerPoint の“スライド”、“配布資料”、“ノート”、“アウトライン表示”より指定できます。この項目で“配布資料”を指定した場合、「配布資料」エリアで出力形態の詳細を指定します。												
スライドに枠をつける	このチェックボックスにチェックを入れると、PDF ファイルに出力する場合、スライドに枠をつけて出力します。												
非表示スライドを印刷する	このチェックボックスにチェックを入れると、PowerPoint で非表示に設定されているスライドも出力されます。												
用紙サイズに合わせる	このチェックボックスにチェックを入れるとスライドを用紙サイズに合わせて出力します。												
配布資料	「印刷対象」コンボボックスで“配布資料”を指定した場合の出力オプションを指定します。												
1 ページあたりのスライド数	PDF ファイルの 1 ページにレイアウトするスライドの数をコンボボックス (2、3、4、6、9) から指定します。												
並べ方	PDF ファイルの 1 ページにレイアウトするスライド数が 4、6、9 のいずれかの場合、スライドのレイアウト方向を横位置（横方向）または縦位置（縦方向）のいずれかから指定できます。 <table border="1"><thead><tr><th>スライドの数</th><th>4</th><th>6</th><th>9</th></tr></thead><tbody><tr><td>横位置のレイアウト</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>縦位置のレイアウト</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	スライドの数	4	6	9	横位置のレイアウト				縦位置のレイアウト			
スライドの数	4	6	9										
横位置のレイアウト													
縦位置のレイアウト													

注意

オフィス変換（Office 使用）機能を用いて「Microsoft PowerPoint」ファイルを PDF ファイルに変換するには、Microsoft Office PowerPoint が PDF Server をインストールしたコンピュータにインストールされている必要があります。

オフィス設定（直接変換）

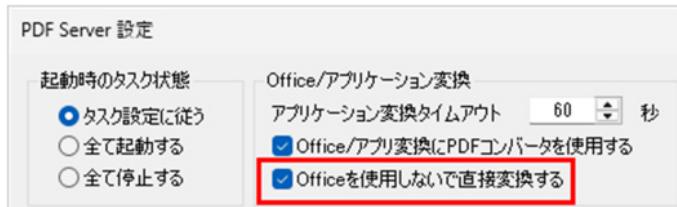
Office アプリケーションを用いることなく Word/Excel/PowerPoint ファイルを PDF ファイルに直接変換する際のオプション設定を行います。ページ上のリンクをクリックするとリンクに対応する Office アプリケーションについての設定画面を表示します。



「オフィス設定（直接変換）」画面

重要

この機能を利用するには、「PDF Server 設定」画面の「Office/アプリケーション変換」のチェックボックス「Office を使用しないで直接変換する」にチェックマークが付いている必要があります。(初期状態では、チェックされていません。) また、この機能は「オフィス変換 (Office 使用)」と同時に設定／使用することはできません。



「PDF Server 設定」画面の「Office/アプリケーション変換」オプション

基本設定（直接変換）

Office ファイルの直接 PDF 変換について、Word/Excel/PowerPoint すべてに共通する項目についての設定を行います。



「基本設定- オフィス設定（直接変換）」画面

フォント埋め込み

出力する PDF ファイルへのフォントの埋め込みについての設定を行います。

フォントを埋め込まない	フォントの埋め込みを行いません。
すべてのフォントを埋め込む	文書中で使用されているすべての埋め込み可能なフォントを出力する PDF ファイルに埋め込みます。

変換の中止条件

以下の条件に一致する事象が発生した場合に Office 文書の PDF 変換を中止します。

警告が発生したら中止する	変換時に警告が発生した場合、PDF 変換を中止します。
回復可能エラーが発生したら中止する	変換時に回復可能なエラーが発生した場合、PDF 変換を中止します。
致命的エラーが発生したら中止する	変換時に回復可能なエラーが発生した場合、PDF 変換を中止します。

出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない

出力される PDF ファイルに「出力設定」の「PDF 設定」以下の設定を適用しない場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

重要

「出力設定」の「PDF 設定」を適用する場合、以下の設定が保持されないことがあります。

PDF バージョン

Office 文書の直接 PDF 変換で出力される PDF ファイルの PDF バージョンを指定します。

タグ付き PDF を生成する

Office 文書の直接 PDF 変換で出力される PDF ファイルをタグ付き PDF ファイルとして出力します

Web 表示用に最適化する

Office 文書の直接 PDF 変換で出力される PDF ファイルを Web 表示用に最適化して出力します

ICC プロファイル（フルパス）を指定してください

Office 文書の直接 PDF 変換で出力される PDF ファイルを設定する ICC プロファイルファイルのフルパスを入力して指定します。出力する PDF ファイルの PDF バージョンとして PDF/A を選択した場合には、必ず指定しなければなりません。PDF バージョンとして PDF/A を選択したにも関わらず ICC プロファイルの指定がない場合には「**JapanColor2001Coated.icc**」を使用して処理されます。

Word 設定（直接変換）

Word 文書ファイルの直接 PDF 変換についての設定を行います。



「Word 設定（直接変換）」画面

アウトライン

アウトラインをしおりに出力しない	アウトライン階層のある Word 文書ファイルを PDF 変換する際、アウトライン階層を PDF の「しおり」に反映します。初期状態では、このオプションは選択されていません。
しおりに反映するアウトラインの階層	しおりに反映するアウトラインの階層レベルを 0 ~ 9 の数値にて指定します。0 を指定した場合には、階層を生成しません。初期設定値は、「0」です。

変更履歴を出力する

Word 文書ファイルの内容だけではなく、文書に設定されている変更履歴も同時に PDF ファイルに出力します。初期状態では、このオプションは選択されていません。

索引ページ

リンクを張らない	索引ページのページ番号に本文中で索引として登録した用語／見出し語（索引語）へのハイパーアリンクを張りません。
索引ページまでの登録文字列へのリンクを張る	先頭ページから索引ページまでの間にある索引語へのハイパーアリンクを張ります。
索引ページより後にある登録文字列も対応する (ただし処理時間は倍になる)	索引ページよりも後にある索引語についてもハイパーアリンクを張ります。処理には先頭ページから索引ページまでの間にある索引語へのハイパーアリンクを張るときの約2倍の時間を要します。

Excel 設定（直接変換）

Excel 文書ファイルの直接 PDF 変換についての設定を行います。



「Excel 設定（直接変換）」画面

ヘッダ／フッタで、ページ番号を全シートで連番／ページ数を全シート合計にする

ヘッダ／フッタで設定されるページ番号を全シートを通した連番とし、ページ数を全シートの合計とします。初期状態で、このオプションは選択されていません。

シート番号

指定したシートを順番に出力する

指定したシート番号の順に。シート番号は Excel のシート見出し左端から「1,2,3,...」となります。指定方法はチェックボックス右のテキスト入力フィールドに、変換したいシート番号をカンマ区切りの半角数字で入力します。複数シートの範囲指定は、その指定する範囲の先頭シート番号と末尾シート番号を“- (ハイフン)”で繋ぎます。

入力例 1,5-10,3

変換されるシート 1,3,5,6,7,8,9,10

アクティブシートを先頭に出力する (以降はシート順序どおりにアクティブシート抜きで出力)	アクティブシート (Excel ファイルを開いたときに表示される操作対象となっているシート) を先頭に、以降はアクティブシートを除いてシートの順番通りに出力します。
選択状態のシートだけを出力する	選択状態となっているシートだけを出力します。

指定したセル範囲を出力する

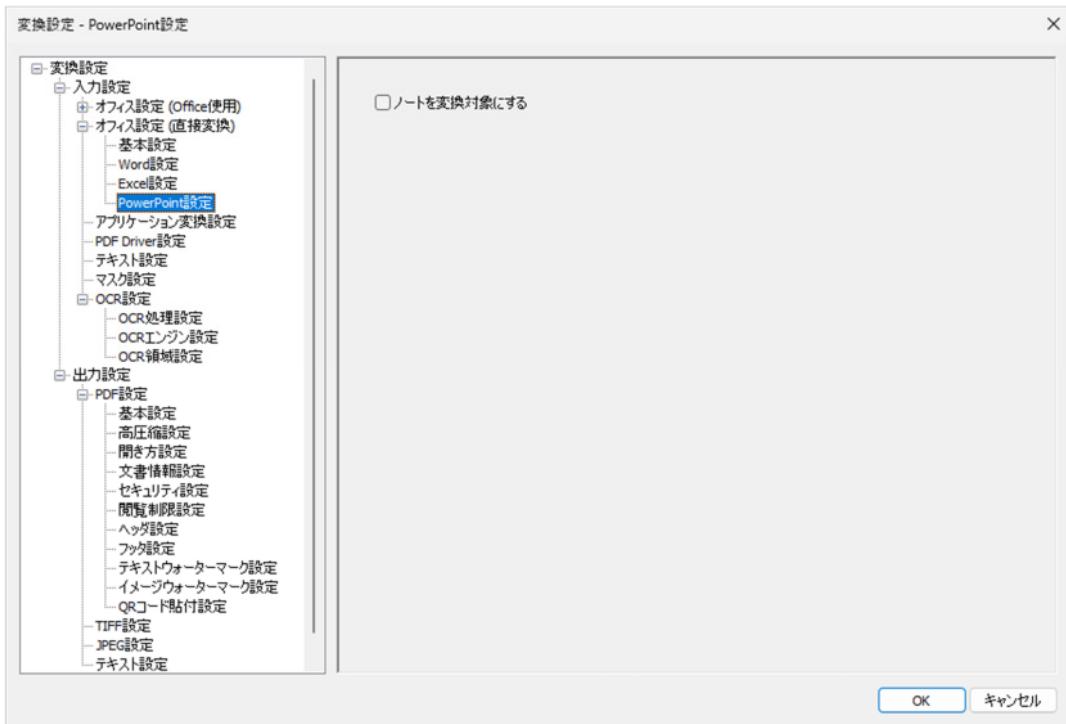
- ※ Excel 文書ファイル中の指定したシートの指定したセル範囲だけを PDF ファイルに出力します。指定方法はチェックボックス右のテキスト入力フィールドに『シート名!セル範囲』の形式の文字列で指定します。
- ※ シート名とセル範囲間は「!」で区切ります。セル範囲は、Excel でのセル範囲指定と同様、「列名行番号:列名行番号」の形式で指定します。
- ※ このオプションが選択された場合、『シート番号』設定は無視されます。
- ※ Excel 文書ファイル中に指定されたシートがない場合には、無視します。

シート単位で分割する

シート単位で分割して PDF ファイルを出力します。

PowerPoint 設定（直接変換）

PowerPoint 文書ファイルの直接 PDF 変換についての設定を行います。



「PowerPoint 設定（直接変換）」画面

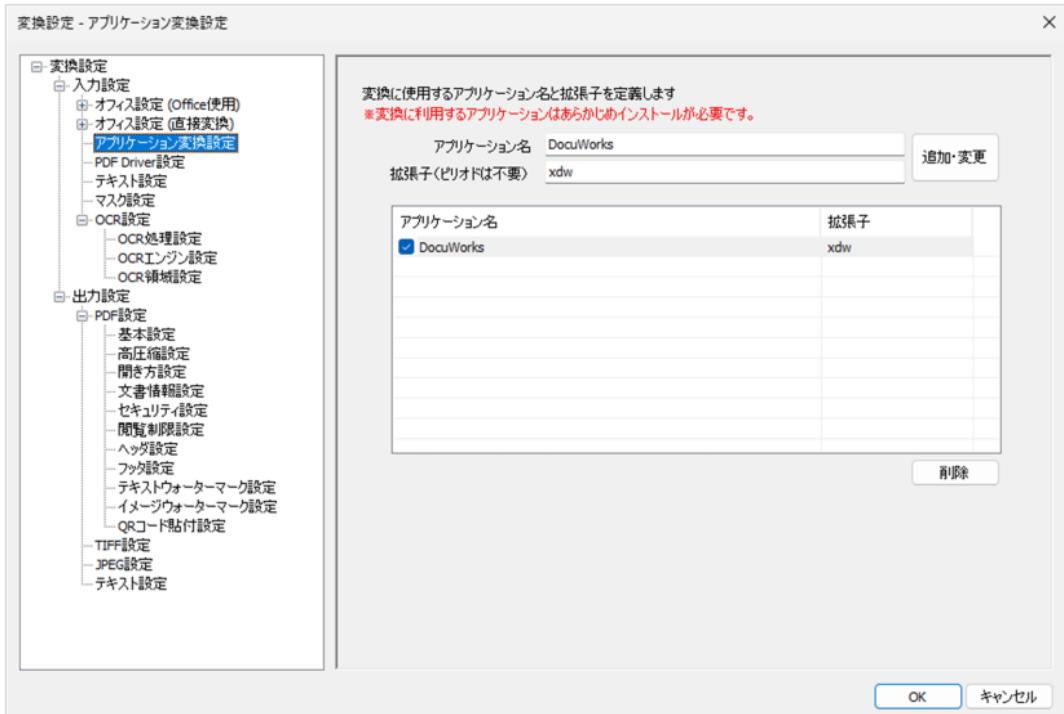
ノートを変換対象にする

PowerPoint 文書ファイルの「ノート」を変換対象として PDF ファイルを出力します。

初期状態では、このオプションは選択されていません。

アプリケーション変換設定

指定した拡張子の文書ファイルを PDF ファイルに変換します。



「アプリケーション変換設定」画面

重要

- この機能は、登録した拡張子に関連付けられているアプリケーションの印刷機能を用いて、製品付属の PDF 生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver 8.0」で印刷することで実現しています。関連付けられているアプリケーションによっては、印刷処理を行う際にダイアログが表示されるなどして、この方法を用いることができない場合があります。その場合には、この機能を使用せず、他の方法を用いて PDF ファイルを作成してください。
- この機能を利用するには、この画面で登録した拡張子の文書ファイルを印刷できるアプリケーションを PDF Server を動作させるコンピュータにインストールし、その拡張子とインストールするアプリケーションを関連付ける必要があります。
- この機能を利用する場合には、必ずコンピュータにログオンする必要があります。

- 拡張子「DOC」、「DOCX」、「PPT」、「PPTX」、「XLS」、「XLSX」を登録するとこれらの拡張子と関連付けられている Microsoft Office を用いて、Office 文書の PDF ファイルへの変換を試みます。これにより、PDF Server が対応している Office より古いバージョンである Office XP/2003/2007/2010/2013 などの Office 文書への対応が可能となります。しかし、この方法は緊急回避的なものであり、アプリケーション変換機能が優先されるため、オフィス文書設定 (Word/Excel/PowerPoint) 画面での設定はすべて無視されます。また、この処理により出力される結果が意図しない物となったり、処理の途中でエラーが生じるなどして出力できない場合があります。これについては、あらかじめご了承ください。
- 画像ファイルの拡張子（「BMP」、「JPG」、「JPEG」、「J2K」、「J2P」、「PNG」、「TIF」、「TIFF」）、「PDF」は、システム拡張子として登録されているため、これらを登録することはできません。

アプリケーション名・拡張子の登録／変更	「アプリケーション名」、「拡張子」それぞれのフィールドに変換対象となるアプリケーション名と拡張子を入力した後、「追加・変更」ボタンをクリックして登録／変更を行います。
アプリケーション名・拡張子の登録削除	リスト中の削除対象となる項目をクリックして選択した後、「削除」ボタンをクリックして登録を削除します。
アプリケーション変換の有効／無効の切り替え	チェックマークが付いている拡張子のファイルについてアプリケーション変換を実行します。

PDF Driver 設定

Microsoft Office ファイル、「アプリケーション変換設定」画面で登録されている拡張子を持つ文書ファイルから PDF ファイルを作成するために使用するプリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」が PDF ファイルを出力する際に用いる印刷設定を指定します。



「PDF Driver 設定」画面

NOTE

JPG/PNG などの画像ファイルは、直接 PDF ファイルに変換されるため、画像ファイルを変換して出力される PDF ファイルには「プリンタドライバ設定」画面で設定されているオプションは適用されません。

<p>「MS-Office/アプリケーション変換で使用する設定」コンボボックス</p>	<p>このコンボボックスを用いて、文書ファイルから PDF ファイルを作成する際に用いる「Antenna House PDF Driver 8.0」の印刷設定を選択します。</p>
<p>「設定…」ボタン</p>	<p>文書ファイルから PDF ファイルを作成する際に用いる「Antenna House PDF Driver 8.0」の印刷設定を作成／編集するための「Antenna House PDF Driver 8.0 のプロパティ」ダイアログボックスを表示します。</p>
	 <p>「Antenna House PDF Driver 8.0 のプロパティ」ダイアログ</p>
<p>出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない</p>	<p>出力される PDF ファイルの設定（圧縮／フォントの埋め込み／透かし／セキュリティ設定など）を PDF Server の変換設定によってではなく、PDF Driver の印刷設定によって行う場合にチェックマークをつけます。このオプションを選択すると出力設定の PDF ファイルに関する設定（開き方／文書情報／セキュリティなど、変換設定ダイアログの「PDF 設定」以下の設定項目）、タスク設定のファイル結合／分割設定が無視されます（機能しません）。</p>

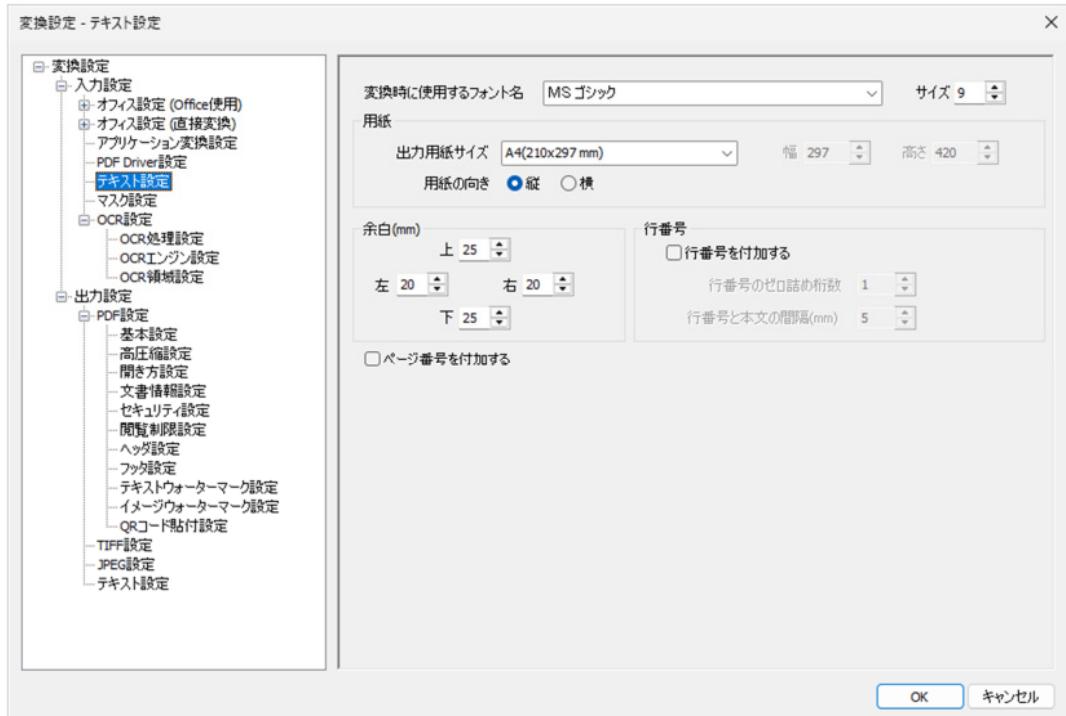
「Antenna House PDF Driver 8.0」の印刷設定についての詳細は、[付録：PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」](#)の項を参照してください。

NOTE

Word 文書をアドイン変換する際のオプション「元文書の文書情報を使用する」は、PDF Driver 設定のオプション「出力 PDF ファイルに…」を有効にしないと機能しません。

テキスト設定

テキストファイルを PDF ファイルに変換する際のオプション設定を行います。



「テキスト設定」画面

変換時に使用するフォント名

ページ上のテキストに使用するフォントとそのサイズを指定します。

フォント名	「フォント名」コンボボックスから、使用するフォント名を選択します。初期状態では、「MS ゴシック」に設定されています。
サイズ	「サイズ」フィールドに使用するフォントサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8~72 で、初期状態では 9 ポイントに設定されています。

用紙

出力する PDF ファイルのページの用紙サイズとその向きを指定します。

出力用紙サイズ	<p>用紙のサイズを「出力用紙サイズ」コンボボックスで指定します。あらかじめ設定されている用紙サイズは右表の通りです。初期状態では、A4 サイズに設定されています。</p> <p>このコンボボックスで「任意」を選択すると出力用紙サイズの幅／高さを mm 単位で設定することができます。なお、用紙の幅／高さとして設定できる値の範囲は、1～9,999 mm です。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>幅</th><th>高さ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A3</td><td>297</td><td>420</td></tr> <tr> <td>A4</td><td>210</td><td>297</td></tr> <tr> <td>B4</td><td>257</td><td>364</td></tr> <tr> <td>B5</td><td>182</td><td>257</td></tr> </tbody> </table> <p>(単位: mm)</p>		幅	高さ	A3	297	420	A4	210	297	B4	257	364	B5	182	257
	幅	高さ															
A3	297	420															
A4	210	297															
B4	257	364															
B5	182	257															
向き	<p>ラジオボタンを使って出力する PDF の用紙の向きを「縦（ポートレイト）」、「横（ランドスケープ）」いずれかから選択します。初期状態では「縦」に設定されています。</p> <p>「横」を指定した場合、上のリストにある用紙サイズの「幅」、「高さ」の数値が入れ替わることになります。</p>																
余白 (mm)	<p>テキストを出力する PDF ファイルのページの上下、左右端部の余白を mm 単位で指定します。余白は、0～50 の範囲の数値を「上」、「下」、「左」、「右」の各フィールドに入力することによって行います。初期状態では、それぞれ 25、25、20、20 (mm) に設定されています。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 左: 20 mm 右: 20 mm </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> ABCDEFGHIJKLMNOPQRS TUVWXYZABCDEFHGIJKL MNOPQRSTUVWXYZABC EFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ KLMNOPQRSTUVWXYZABC QRSTUVWXYZABCDEFHGIJKL KLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFHGIJKL </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 上: 25 mm 下: 25 mm </div>															

行番号

出力するテキスト各行の先頭に行番号を付加する場合、チェックボックス「行番号を付加する」にチェックマークを付けます。

行番号のゼロ詰め桁数	行番号を表示する桁数を、1から10までの整数値で指定します。設定される連番が指定した桁数に満たない場合、連番の前に“0”を付けて桁数を合わせます。
行番号と本文の間隔 (mm)	行番号と本文の間隔をmm単位で設定します。設定可能な値の範囲は、1～999mmです。

ページ番号を付加する

出力するPDFファイルにページ番号を付加する場合、チェックボックス「ページ番号を付加する」にチェックマークを付けます。

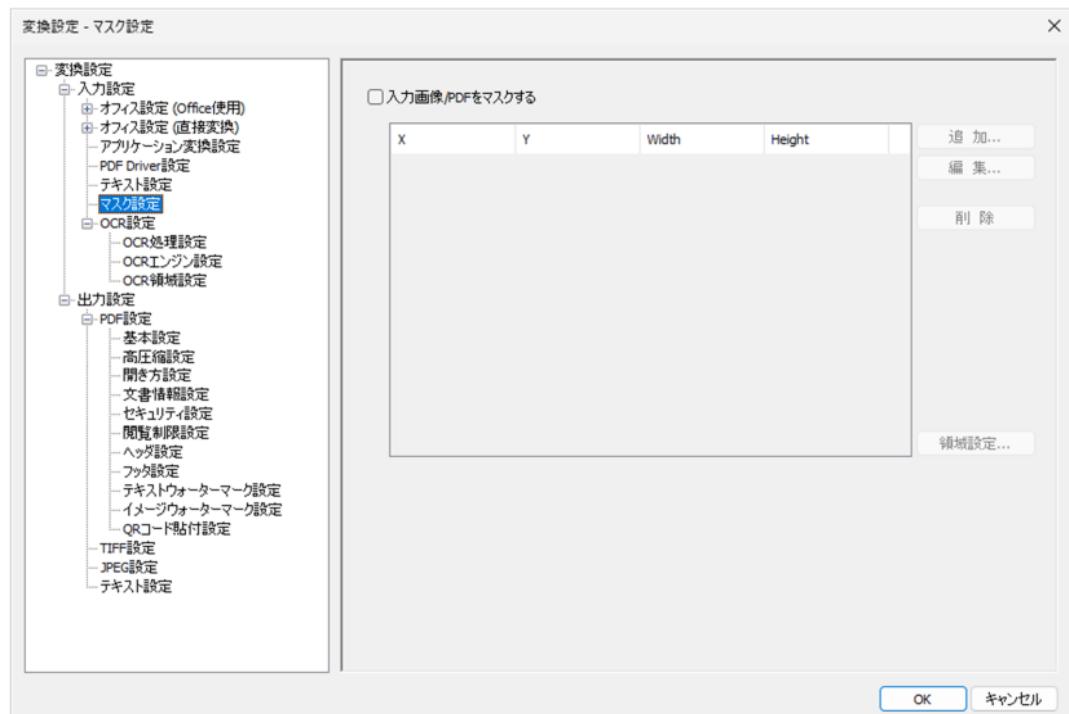
マスク設定

対象となる画像または PDF ファイルについて、マスク領域として指定した矩形範囲を白く塗りつぶして出力します。マスク処理を OCR 処理と同時に行った場合、マスク領域が白く塗りつぶされているため、OCR 処理によってこの領域から有意なテキストを得ることができません、また PDF ファイルからは、元文書にあったテキストや画像が消えてしまいます。これは、その結果出力されるファイルにもマスクに該当する箇所のデータは出力されないことを意味します。

同時に処理によって出力される TIFF/JPEG ファイルも、マスク箇所が白く塗りつぶされた状態で出力されます。

注意

- マスク設定をせずに元の画像ファイルから出力する以外、出力されたファイルを使ってマスク箇所を復元することはできません。
- マスク処理は入力ファイルが画像ファイルと PDF ファイルの場合のみ行うことができます。Microsoft Office および TEXT ファイルなどの画像と PDF 以外のファイルを対象にマスク処理を行うことはできません



「マスク設定」画面

入力画像/PDF をマスクする

マスク設定を行う、またはマスク設定を有効にする場合にこのチェックボックスにチェックマークをつけます。

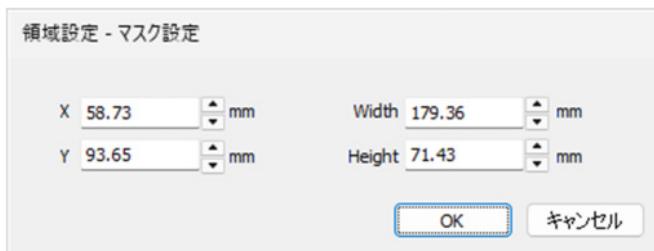
マスク座標

マスク領域の指定／編集には、座標を数値入力により指定する方法と専用のツールにより対象となる画像を視覚的に確認しながら、マスク対象となる領域をマウスでドラッグして指定する方法の2種類が用意されています。また、マスクは、最大で10箇所指定することができます。

追加

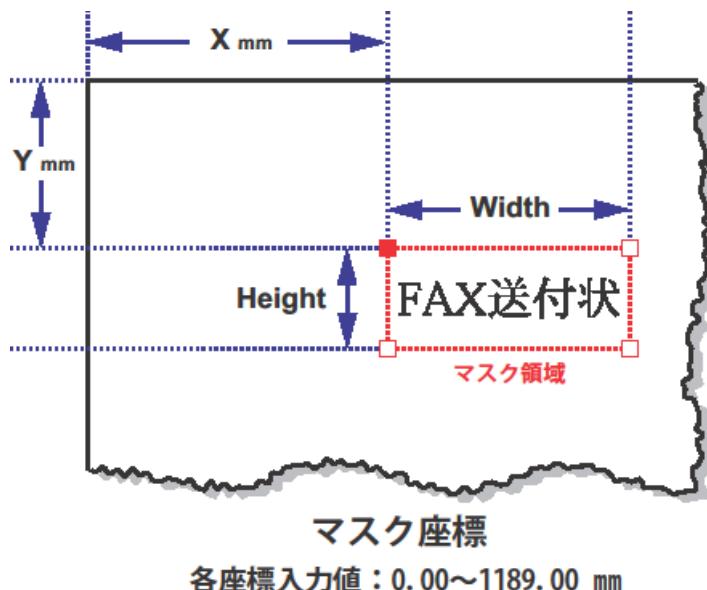
新たにマスク領域を追加するには

1. 「追加」ボタンをクリックして「領域設定 - マスク設定」ダイアログを開きます。



「領域設定 - マスク設定」ダイアログ

2. これらのフィールドを使って、マスクする箇所の矩形領域を指定します。座標は、ページ左上を原点とした矩形の左上角の座標(X, Y)とマスク領域の幅(Width)、高さ(Height)を0.00~1189.00までの数値(単位:mm)で指定します。



3. 設定に間違いないことを確認した後、「OK」ボタンをクリックしてマスク座標を決定します。ここで登録したマスク座標が、「マスク座標」リストに追加されます。



マスク座標			
X	Y	Width	Height
58.73	93.65	179.36	71.43
マスク座標を登録する			

編集

設定されているマスク領域を編集するには、

1. 「マスク座標」リスト中の対象となるマスク座標をクリックして選択した後、「編集」ボタンをクリックするか、リスト中のマスク座標をダブルクリックして「領域設定 - マスク設定」ダイアログを開きます。
2. マスクを追加した時と同様、各入力フィールドに数値を入力してマスク領域の設定を変更します。
3. 「OK」ボタンをクリックして変更したマスク領域設定を保存します。

削除

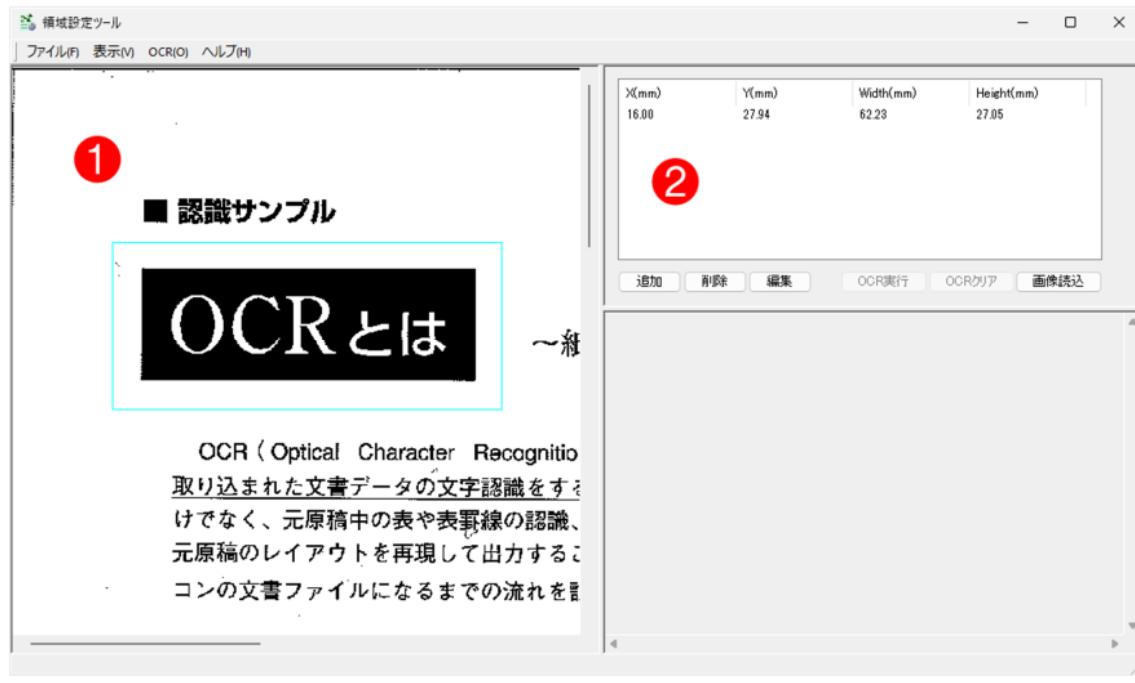
設定されているマスク領域を削除するには、

1. 「マスク座標」リスト中の削除対象となるマスク座標をクリックして選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックして削除します。

領域指定ツールを利用した領域指定

領域指定ツールを利用してマスク座標の領域を指定するには、「領域設定」ボタンをクリックして「領域指定ツール」ウィンドウを開きます。

領域指定ツールは、マスク領域を指定する場合のほか、OCR領域を設定する場合にも利用します。



①ワークエリア	領域指定する画像を表示し、マウスカーソルで操作して領域指定を行うエリアです。
②座標表示ペイン	現在設定されているマスク座標がここに表示されます。

領域指定ツールによるマスク領域の指定

1. 「領域設定」ボタンをクリックすると、ワークエリアが空白の「領域指定ツール」ウィンドウが開きます。座標表示ペインに設定されているマスク座標がリスト表示されます。
2. 「画像読込」ボタンをクリックして表示される「イメージファイルの選択」ダイアログを使って、領域を指定する際に使用する画像ファイルを開きます。既に座標表示ペインにマスク座標がリスト表示されている場合には、登録されている領域設定を初期化するか否かを確認するダイアログが表示されます。

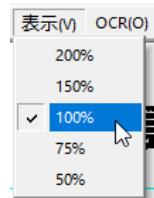


リスト初期化確認ダイアログ

3. 画像がワークエリアに表示されます。既にマスク座標が設定されている場合は、ワークエリア内にそれぞれのマスク領域が矩形で表示されます。

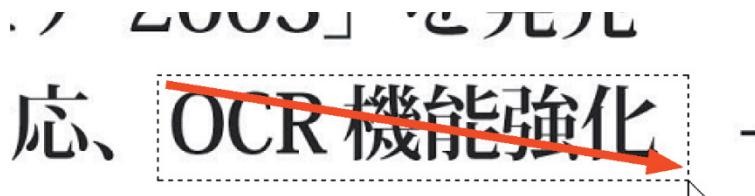


ワークエリアの表示倍率によっては、マスク領域が判別できない場合がありますので、その場合には、「表示」メニューを使ってワークエリアの表示倍率を変更してください。初期状態では、100%（実寸）表示されています。



表示メニュー

4. ワークエリア内で、マスクに指定する領域をドラッグして設定します。



5. ドラッグした矩形の座標が「座標表示ペイン」に追加されます。マスク領域は、最大10箇所まで設定することができます。
6. マスク領域の設定が終了したら、「ファイル」メニューから「終了」を選択するか、ウィンドウのクローズボックスをクリックすると領域設定ツールでの変更を適用するか否かを確認するダイアログが表示されます。



「はい」をクリックして、領域情報を変換設定に反映します。

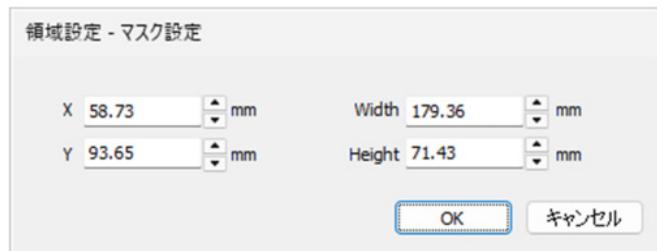
注意

画像ファイルを開くまで、「領域設定ツール」 ウィンドウのワークエリアを用いて、マスク領域の追加を行うことはできません。

領域指定ツールによるマスク領域の修正

既に設定されているマスク領域を修正します。

1. 座標表示ペインにリストアップされている修正対象となるマスクをクリックして選択します。対象となるマスクは、ワークエリア内で**赤色**の実線で表示されます。
2. 「編集」ボタンをクリックするか、リスト上の対象項目をダブルクリックして「領域設定 - マスク設定」ダイアログを表示し、マスク領域を修正します。

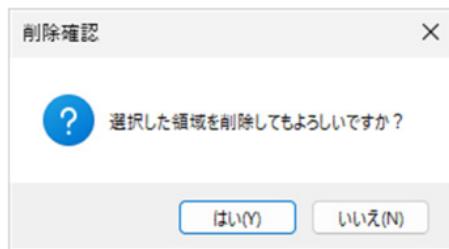


「領域設定 - マスク設定」ダイアログ

領域指定ツールによるマスク領域の削除

既に設定されているマスク領域を削除します。

1. 座標表示ペインにある削除対象となるマスクをクリックして選択します。ワークエリア内で選択されているマスクは、“**赤色**”の実線で表示されます。
2. 「削除」ボタンをクリックします。マスク領域の削除を確認するダイアログが表示されますので、削除する場合には「はい」ボタンをクリックして削除します



削除確認ダイアログ

OCR 設定

OCR 处理に関する設定を行います。ページ上のリンクをクリックするとリンクに対応する設定項目についての設定画面を表示します。



「OCR 設定」画面

OCR 处理設定



「OCR 处理設定」画面

OCR 处理方法	OCR 处理対象となるページを指定します。
OCR 处理を行わない	OCR 处理を行いません。このオプションは、画像ファイルを PDF ファイルに変換するだけの場合や TIFF ファイルの出力、ウォーターマークの設定等、OCR 以外の処理だけを行う場合などに利用します。
全ページ OCR 处理を行う	画像／PDF ファイルの全てのページを対象に OCR 处理を行います。
指定ページのみ OCR 处理を行う	<p>画像／PDF ファイル中の指定したページだけを対象に OCR 处理を行います。処理対象となるページは、以下に示す書式で指定します。</p> <p>範囲指定の方法</p> <p>n ページから m ページまで n-m n ページのみ n 設定例： 1, 5-10, 20-25</p> <p>上の設定例では、1 ページ、5～10 ページ、20～25 ページを対象に OCR 处理を施します。</p>

<p>OCR エラーが発生した場合も無視して PDF を作成する</p>	<p>通常、OCR 処理に失敗した場合、そのファイルについてのタスク処理が失敗したものとされ何もファイルを出力しませんが、このオプションを有効にすることで OCR エラーを無視して OCR 処理に成功したページを含む PDF ファイルなどの出力を行い、処理を継続します。初期状態では、このオプションは選択されていません。</p>
<p>PDF ファイルは OCR を実行しない</p>	<p>処理対象となるファイルが PDF ファイルの場合に OCR 処理を行わず（タスク設定の OCR 設定に関するすべての設定を無視して）、タスク処理を進めます。</p>
<p>すべての PDF ファイルで OCR テキスト付き PDF を作成する</p>	<p>処理対象が PDF ファイルの場合、そのページを一旦画像に変換し、それに対して OCR 処理を施して OCR テキスト付き PDF ファイルを作成します。このオプションを有効にした場合、処理対象に含まれていたすべてのテキストが OCR 処理によって認識されたテキストと入れ替わるため、テキストの精度やレイアウトがオリジナルの PDF ファイルより悪くなる可能性があります。また、複合機などから出力された高圧縮 PDF は、この処理によって標準的な PDF ファイルに変換されるため、元のファイルよりファイルサイズが大きくなります。</p>
<p>イメージや PDF から QR コードを読み取る</p>	<p>画像、PDF ファイルの先頭ページに存在する QR コードの内容に従って、PDF Server を動作させる場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。</p>

NOTE

通常、複数ページを有する文書について処理していて中途で OCR 処理にエラーが生じた場合、途中のページまで正常に処理されていたとしてもエラーとして扱われ、ファイルは一切出力されません。

注意

QR コードの読み取り機能を有効にしたタスクは、以下のように処理されます。

1. ファイル分割／結合機能についての設定が無効となります。
2. 複数の QR コードが認識された場合、有効となるのは最初に認識されたものとなります。
3. マルチページ TIFF や、PDF ファイルの場合、先頭ページの QR コードだけを対象として処理します。

QR コードのデータ書式について

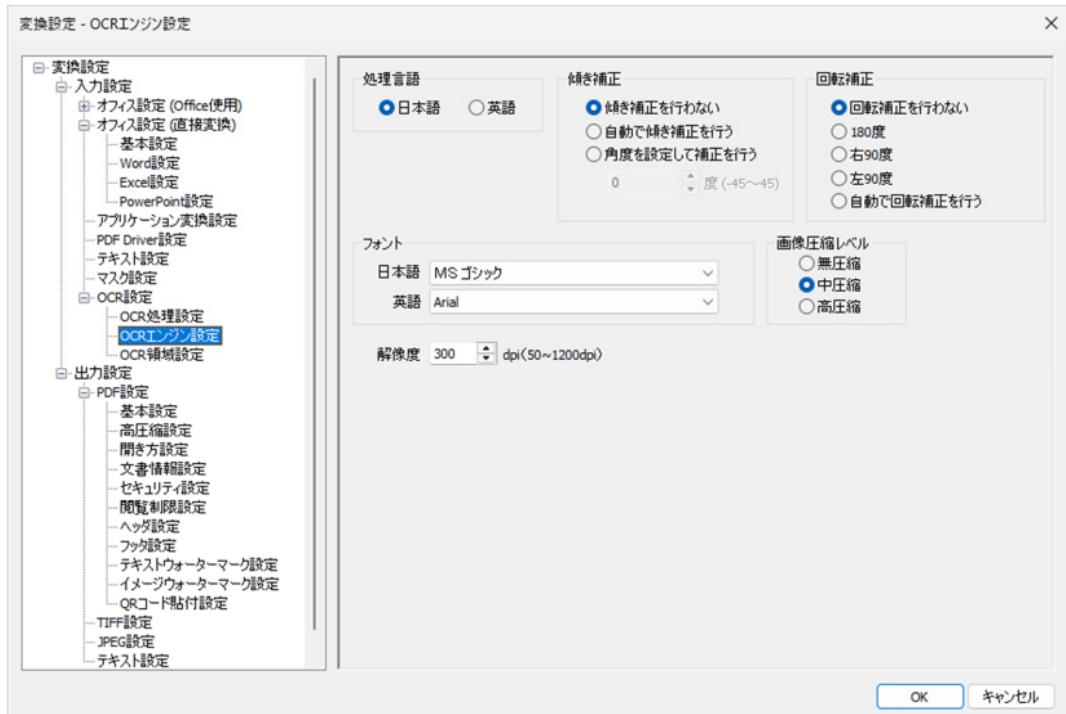
PDF Server が処理できる、QR コードのデータ形式は、ヘッダ「PSV」で始まり、「; (セミコロン)」でデータを区切った文字列の形をとります。

ヘッダ；データ 1；データ 2；データ 3；…

1. 先頭にヘッダ「PSV」を記述します。これが認識できない場合には、通常のタスク処理が行われます。
2. データは、「識別子=値」の形式で、必要なものを記述します。
3. ヘッダ、データに含まれる識別子の大文字／小文字は区別されません。
4. QR コードの内容に従って出力ファイル名／出力フォルダを指定して出力する際にエラーが生じた場合には、タスク設定に従った出力ファイル名／出力フォルダに保存されます。

識別子	設定内容
FNAME	出力ファイル名（拡張子を除く）を設定する。
OUTDIR	出力（保存）フォルダを設定する。
TITLE	PDF ファイルの文書情報のタイトルの値を設定する。
SUBTITLE	PDF ファイルの文書情報のサブタイトルの値を設定する。
AUTHOR	PDF ファイルの文書情報の作成者の値を設定する。
KEYWORD	PDF ファイルの文書情報のキーワードの値を設定する。
PRODUCER	PDF ファイルの文書情報の作成の値を設定する。

OCR エンジン設定



「OCR エンジン設定」画面

処理言語

OCR 处理の際、文字認識の対象となる言語を日本語、英語のいずれかから選択します。初期状態では、日本語が選択されています。

傾き補正

OCR 处理対象となる画像の傾きを補正する機能です。

傾き補正を行わない	OCR 处理する際、対象となる画像の傾きを補正しません。
自動で傾き補正を行う	OCR 处理する際に対象となる画像の傾きを自動補正します。初期状態では、このオプションが選択されています。
角度を設定して補正を行う	OCR 处理する際に指定した角度で対象となる画像の傾きを補正します。

回転補正

OCR 处理を行う際にページの向き（回転）を補正する機能です。

回転補正を行わない	OCR 处理を行う際に回転補正を行いません。初期状態では、このオプションが選択されています。
180 度/右 90 度/右 90 度	OCR 处理を行う際に対象となるページの向き（回転）を指定した角度で補正します。
自動で回転補正を行う	OCR 处理を行う際に対象となるページの向き（回転）を自動補正します。例えば、A4 横の原稿を A4 縦の画像として読み込んだ場合のようにページの向きを 90 度回転したい場合に用います。

フォント

OCR 处理によって埋め込むテキストに使用する日本語/英語フォントのそれぞれを設定します。

画像圧縮レベル

出力する PDF ファイル中に埋め込まれる画像の JPEG 圧縮レベルを指定します。

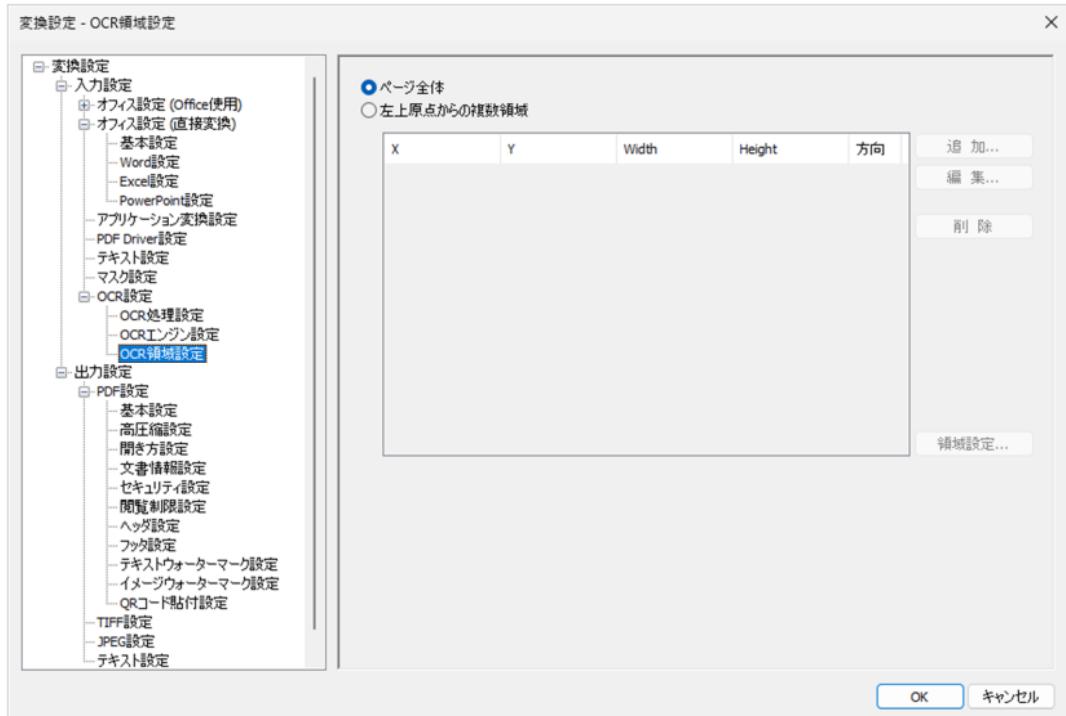
解像度

PDF ファイルのページを OCR 处理する際、一旦ビットマップ画像に変換し、これを対象として処理しますが、ここでは、その画像変換を行う時の解像度を設定します。設定できる値の範囲は、50～1,200dpi で、初期値は 300dpi です。

高解像度に設定するとそれに応じて処理に必要なメモリの量が増加するため、OCR 处理に時間が必要になります。

OCR 領域設定

OCR 処理を行う際、処理対象となるページ上の領域を指定します。



「OCR 領域設定」画面

注意

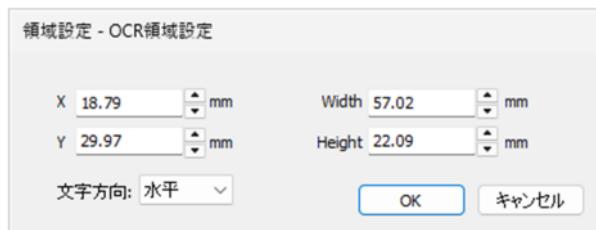
- OCR 処理が可能な領域は、最大で A3 サイズ（解像度：300dpi 時）までとなります。
- OCR 処理領域を指定する場合、その領域の一部、または全てが実際に処理を行う用紙サイズよりも外に位置する場合、そのファイルはエラーとして処理され、ファイルは出力されません。

ページ全体	ページ全体を対象に OCR 処理を行います。
左上原点からの複数領域	最大 10箇所の OCR 処理対象となる矩形領域を設定します。OCR 領域の指定／編集には、座標を数値入力により指定する方法と専用の領域指定ツールにより対象となる画像を視覚的に確認しながら、OCR 対象となる領域をマウスでドラッグして指定する方法の 2種類が用意されています。

追加…

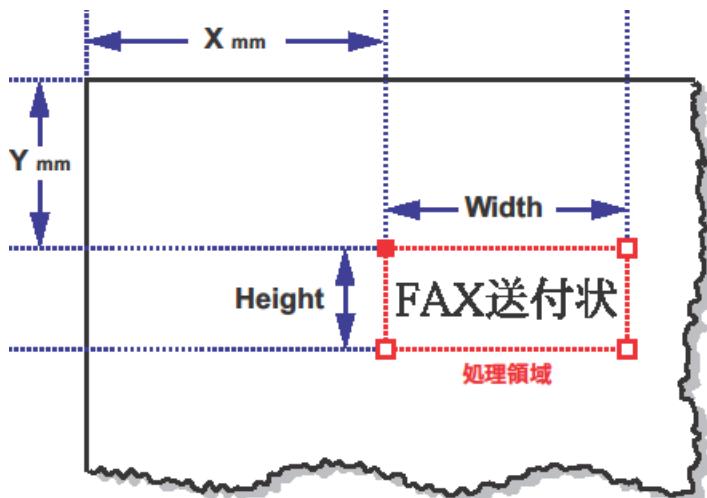
新たに OCR 領域を追加するには、ラジオボタン「左上原点からの複数領域」を選択した後

- 「追加」ボタンをクリックして「領域設定 - OCR 領域設定」ダイアログを開きます。



「領域設定 - OCR 領域設定」ダイアログ

- このダイアログを使って、OCR 処理を行う矩形領域と認識する文字の方向を指定します。矩形領域の座標は、ページ左上を基準に矩形の左上角の座標 (X, Y) と OCR 領域の幅 (Width)、高さ (Height) を 0.00～1189.00 までの数値 (単位: mm) で指定します。



左上を原点に領域を指定
座標入力値：X=0.00～1189.00, Y=0.00～1189.00

- 矩形領域の文字の方向が『横書き』の場合には、ポップアップリスト「文字方向」を **水平** に、『縦書き』の場合には、**垂直** に指定します。
- 設定に間違いがないことを確認した後、「OK」ボタンをクリックして OCR 領域の座標と文字の方向を決定します。ここで登録した OCR 領域の座標と文字方向が、「OCR 領域」リストに追加されます。

編集…

設定されている OCR 領域を編集するには、

1. 「OCR 領域」リスト中の対象となる OCR 領域をクリックして選択した後、「編集」ボタンをクリックするか、リスト中の OCR 領域をダブルクリックして「領域設定 - OCR 領域設定」ダイアログを開きます。
2. OCR 領域を追加した時と同様、各入力フィールドに数値を入力して OCR 領域の設定を、ポップアップリスト「文字方向」を使って、認識する文字の方向を変更します。
3. 「OK」ボタンをクリックして変更したマスク領域設定を保存します。

削除

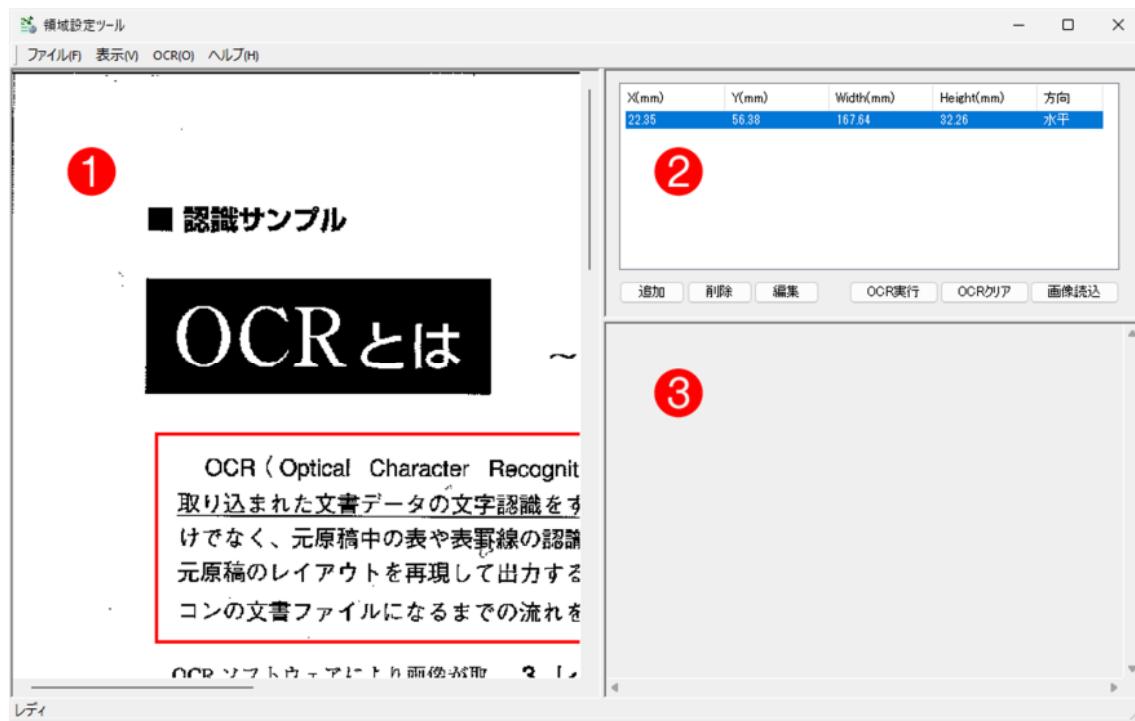
設定されているマスク領域を削除するには、

1. 「OCR 領域」リスト中の削除対象となる OCR 領域をクリックして選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックして削除します。

領域指定ツールを利用した OCR 領域指定

領域指定ツールを利用して OCR 処理領域を指定するには、「領域設定」ボタンをクリックして「領域指定ツール」ウィンドウを開きます。

領域指定ツールは、OCR 領域を指定する場合のほか、マスク領域を設定する場合にも利用します。



領域指定ツールウィンドウ

①ワークエリア	領域指定する画像を表示し、マウスカーソルで操作して領域指定を行うエリアです。
②座標表示ペイン	現在設定されている OCR 領域がここに表示されます。
③OCR 処理結果表示エリア	「OCR 実行」ボタンをクリックして座標表示ペインで選択されている OCR 領域を対象に行った OCR 処理結果が表示されます。なお、OCR 処理の際のオプションについて、「OCR」メニューの「設定」を選択して表示される「OCR エンジン設定」ダイアログを用いて行うことができます。

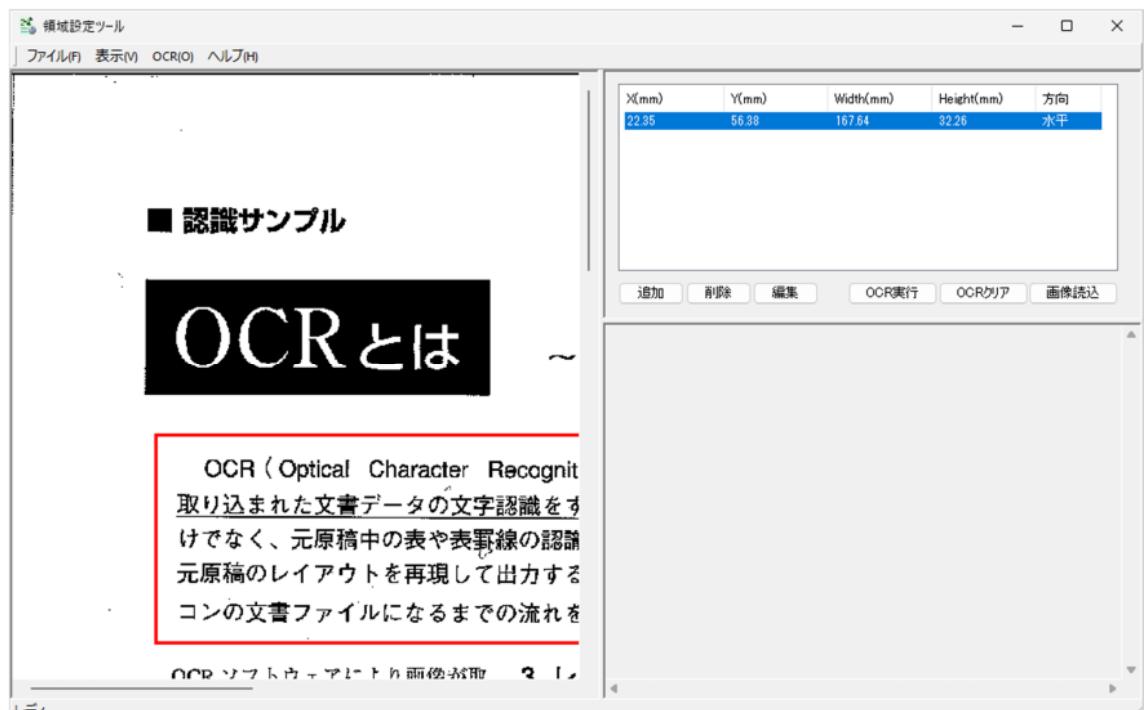


「OCR エンジン設定」ダイアログ

「OCR エンジン設定」ダイアログで設定できる項目の詳細については、[OCR エンジン設定](#)の項を参照して下さい。

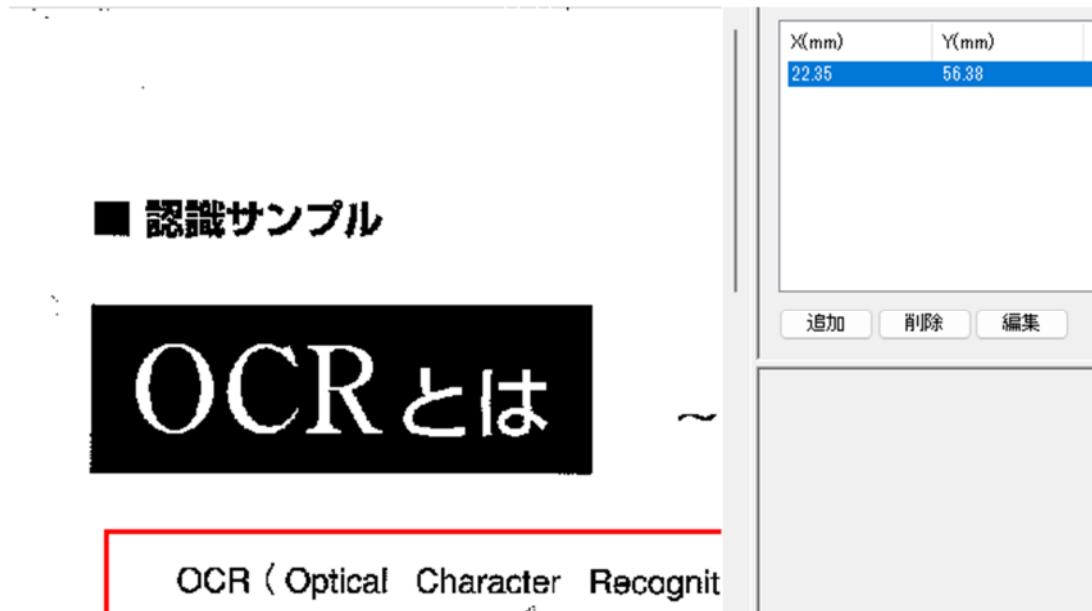
領域指定ツールによる OCR 領域の指定

1. 「領域設定」ボタンをクリックすると、ワークエリアが空白の「領域指定ツール」ウィンドウが開きます。また、既に OCR 領域が設定されている場合には、座標表示ペインに設定されている OCR 領域がリスト表示されます。
2. 「画像読込」ボタンをクリックして表示される「イメージファイルの選択」ダイアログを使って、領域を指定する際に使用する画像ファイルを開きます。既に座標表示ペインにマスク座標がリスト表示されている場合には、リストを初期化するか否かを確認するダイアログが表示されます。

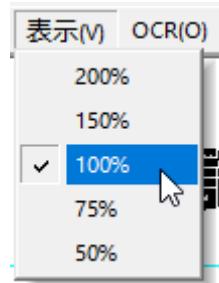


リスト初期化確認ダイアログ

3. 画像がワークエリアに表示されます。既に OCR 領域が設定されている場合には、ワークエリア内にそれぞれの OCR 領域が矩形で表示されます。

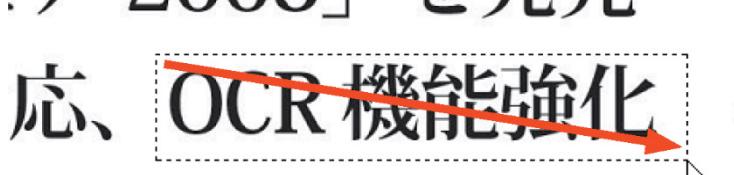


ワークエリアの表示倍率によっては、OCR 領域が判別できない場合がありますので、その場合には、「表示」メニューを使ってワークエリアの表示倍率を変更してください。初期状態では、100%（実寸）表示されています。



表示メニュー

4. ワークエリア内で、OCR 処理対象となる領域をドラッグして設定します。



5. ドラッグした座標が「座標表示ペイン」に追加されます。OCR 領域は、最大 10ヶ所まで設定することができます。なお、追加した領域の文字方向の初期値は**水平方向（横書き）**です。必要に応じて設定を変更して下さい。
6. OCR 領域の設定が終了したら、「ファイル」メニューから「終了」を選択するか、ウィンドウのクローズボックスをクリックして領域情報を変換設定に反映します。

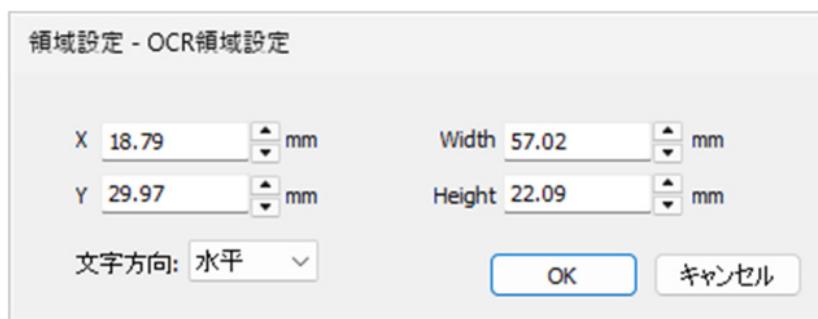
注意

- ・ 「領域設定ツール」のワークエリアに読み込めるのは、画像ファイルだけです。PDFファイルを読み込んで領域指定することはできません。
- ・ 画像ファイルを開くまで、「領域設定ツール」 ウィンドウのワークエリアを用いて、OCR 領域の追加を行うことはできません。

領域指定ツールによる OCR 領域の修正

領域指定ツールを用いて既に設定されている OCR 領域を修正します。

1. 座標表示ペインにリストアップされている修正対象となる OCR 領域をクリックして選択します。対象となる OCR 領域は、ワークエリア内で“赤色”的表示されます。
2. 「編集」ボタンをクリックするか、リスト上の対象項目をダブルクリックして「領域設定 - OCR 領域設定」ダイアログを表示し、OCR 領域と文字方向を修正します。



「領域設定 - OCR 領域設定」ダイアログ

領域指定ツールによる OCR 領域の削除

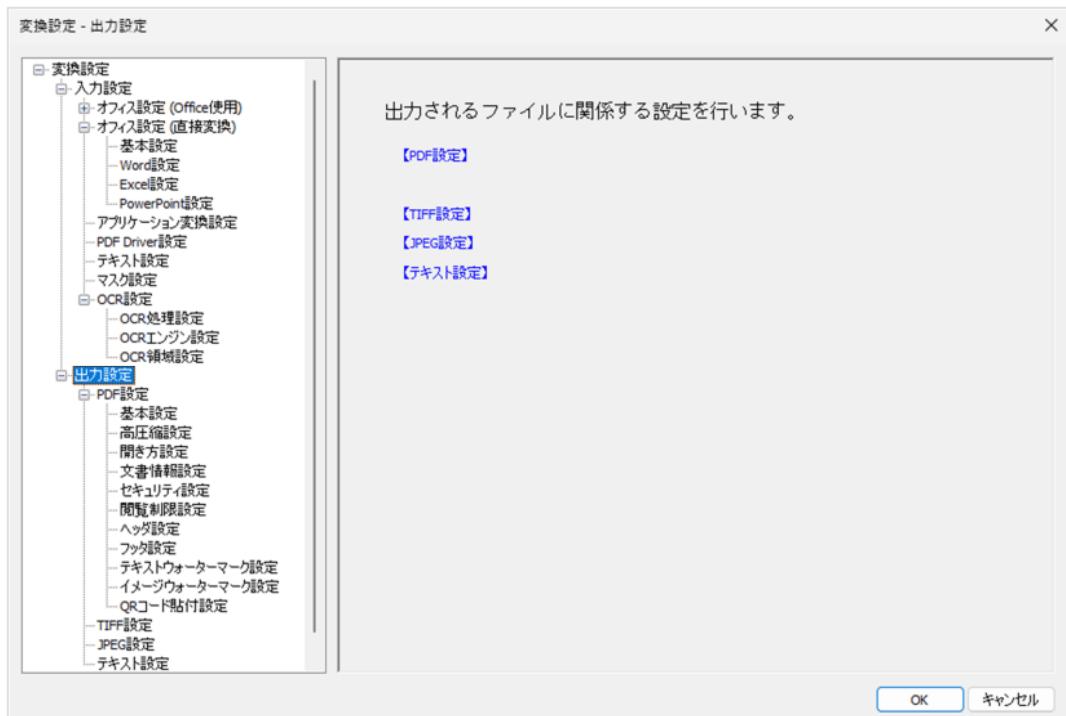
領域指定ツールを用いて既に設定されている OCR 領域を削除します。

1. 座標表示ペインにある削除対象となる OCR 領域をクリックして選択します。ワーカーエリア内で選択されているマスクは、“**赤色**”の実線で表示されます。
2. 「削除」ボタンをクリックします。OCR 領域の削除を確認するダイアログが表示されますので、削除する場合には「はい」ボタンをクリックして削除します。



出力設定

この画面のリンクをクリックするとリンクに対応する出力ファイルに関する設定画面を表示します。



「出力設定」画面

PDF 設定

この画面のリンクをクリックするとリンクに対応する PDF Server によって出力される PDF ファイルに関する設定画面を表示します。



「PDF 設定」画面

基本設定



「基本設定」画面

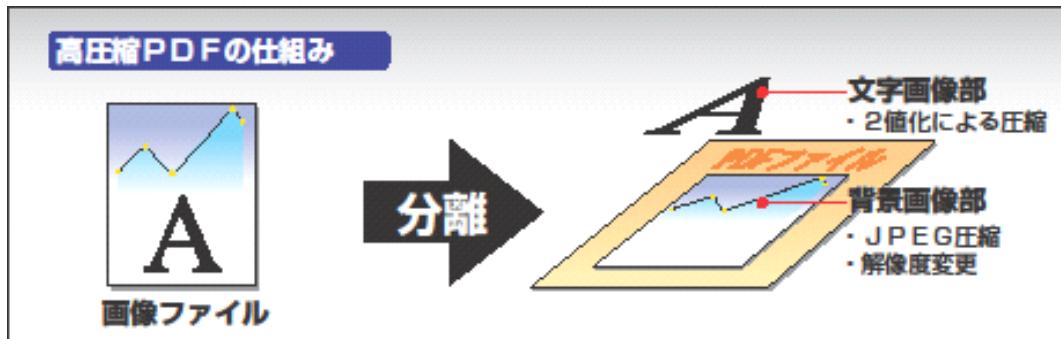
Web 表示用に最適化する	出力する PDF ファイルを Web 表示用に最適化 (リニアライズ) する場合、このチェックボックスにチェックマークをつけます。
しおり	OCR 処理によって得られたテキストの先頭から指定した文字数の文字列を PDF のしおりとして設定する場合、このチェックボックスにチェックマークをつけます。また、その際しおりとして設定する文字列を得られた OCR テキストの先頭からの文字数で指定します。指定可能な値の範囲は、1 ~ 256 です。初期値として 256 が設定されています。
サイズ変更	このコンボボックスを用いて、出力する PDF ファイルの全てのページの用紙サイズを指定したサイズに変更することができます。用紙サイズは、ページ外観の左上を基点として変更します。指定可能な用紙サイズは以下の表の通りです

指定可能な用紙サイズ

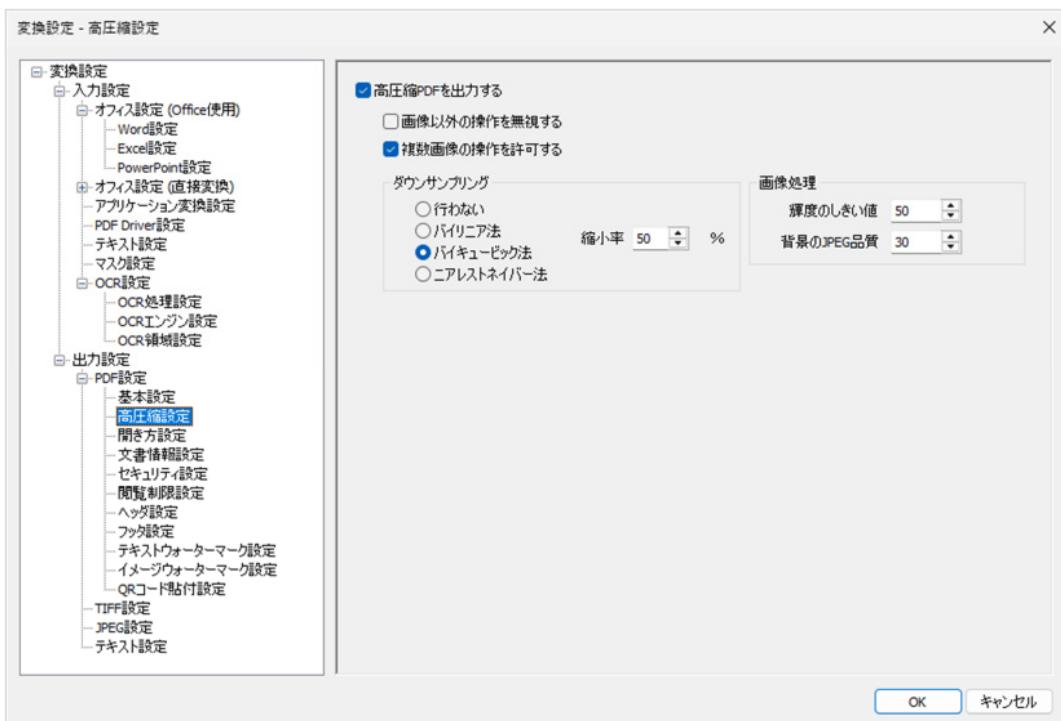
判型	サイズ
A3	297×429 mm
A4	210×297 mm
B4	257×364 mm
B5	182×257 mm
任意	「幅」 / 「高さ」 それぞれの フィールドに 1 ~9,999 の 数値を 1 mm単位で指定する ことができます。

高压縮設定

PDF Server ではインターネットを介して気軽にファイルをやり取りするためにファイルサイズをより小さくした PDF ファイル（高压縮 PDF）を作成することができます。



高压縮 PDF は、画像データの中から写真などの背景画像と文字画像とを分離し、文字画像に関しては 2 値化し、残った背景画像に関しては個別に JPEG 圧縮率や解像度変換の指定を行うことにより、重要な文字画像部分については十分に判読可能な解像度を確保するとともにデータサイズを小さくし、背景画像は必要最小限のデータに圧縮することで、生成される PDF ファイルの容量をより小さくする技術です。



「高压縮設定」画面

高压縮 PDF を出力する

カラー画像及び、グレースケール画像、またはページ上に 1 枚の画像だけが存在する PDF ファイルを高压縮 PDF で出力する場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

なお、この機能は、ページ上に 1 枚の画像だけが存在する PDF ファイルを対象としたものです。したがって、ページ上にパスやテキストなど、画像以外のオブジェクトを持つ PDF ファイルや、ページ上に複数の画像が存在する PDF ファイルを処理するとエラーが発生し、これらを高压縮 PDF ファイルに変換することができません。そのような PDF ファイルを高压縮 PDF ファイルに変換する場合には、以下のチェックボックスにチェックマークを付けます。

画像以外の操作を無視する (初期状態で有効)	パスやテキストなど画像以外のオブジェクトを持つページを含む PDF ファイルについて、これらのオブジェクトを無視（削除）して高压縮 PDF 変換処理を行います。このオプションが有効な場合、Office 文書などから作成された画像以外が含まれる PDF ファイルも処理対象となるので、注意が必要です。
複数画像の操作を許可する	ページ上に複数の画像を持つページを含む PDF ファイルについて、高压縮 PDF 変換処理を許可します。

ダウンサンプリング

対象となる画像の解像度 (dpi の値) が、以下の表にある値を超えたときに行うダウンサンプリングの方法と元の画像に対する縮小率 (50~100%) を指定します。

《ダウンサンプリングを行う解像度のしきい値表》

カラーモデル	しきい値
カラー	150dpi
グレースケール	200dpi
白黒	250dpi

ダウンサンプリングを行う解像度のしきい値

ダウンサンプリングの方法	説明
行わない	ダウンサンプリングを行いません。
バイリニア法	サンプル領域のピクセルを平均化し、領域全体を指定解像度の平均ピクセルカラーに置き換えます。
バイキューピック法	加重平均を用いてピクセルカラーを決定します。複雑な計算を行うため、時間を要しますが、情報の損失が少なく自然な画像が得られます。
ニアレストネイバー法	サンプル領域の中心のピクセルを選択し、領域全体を選択したカラーに置き換えます。ダウンサンプルよりも短時間で処理できますが、生成される画像はより粗いものになります。

画像処理

対象となる画像の前景（文字の部分）と背景部分を分離する処理を行います。

輝度のしきい値	画像処理の際、画像の前景と背景を分離する輝度のしきい値を指定します。この値が大きいほど、前景（文字の部分）と判断される領域が増えます。
背景の JPEG 品質	画像処理によって分離された背景画像の品質を設定します。

開き方設定

PDF Server によって出力される PDF ファイルについて、Acrobat の文書プロパティ「開き方の設定」で設定可能な、初期表示の内容、ウィンドウオプション、ユーザーインターフェイスオプションを設定します。



「開き方設定」画面

注意

Acrobat/Adobe Reader 以外の PDF 閲覧ソフトで表示する場合には、ここで設定した開き方のオプションが機能しない場合があります。

開き方を設定する

PDF ファイルの開き方を設定する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

初期表示

PDF ファイルを開いたときにどのように Acrobat のワークエリアで開かれるかを設定します。

表示状態

Acrobat 画面の表示状態を設定します。

ページのみ	文書ウィンドウだけが表示される様に設定します。
しおりとページ	しおりパレットと文書ウィンドウが表示される様に設定します。
サムネールとページ	サムネールパレットと文書ウィンドウが表示される様に設定します。
全画面表示で開く	このオプションを選択すると文書ウィンドウが最大化され、ディスプレイモニタ全体に表示されます。この時、メニューバー、ツールバー及びウィンドウコントロールは表示されません。

ページ番号

PDF ファイルを開いたときに表示するページのページ番号を入力します。

倍率

ページの表示倍率を設定します。

デフォルト	処理対象が PDF ファイルの場合には、入力された PDF ファイルに設定されている倍率を維持し、そのままの状態で出力します。処理対象が画像ファイルの場合には、倍率は設定されず、『未設定』の状態となります。この PDF ファイルを表示する場合、閲覧に用いるソフトウェアの環境設定でデフォルトに設定されている倍率でページが表示されることになります。Office 文書等、製品付属の PDF ドライバを用いて作成される PDF ファイルの場合、PDF ドライバの設定『開き方』で、「デフォルト」以外の倍率が指定されていると指定されている設定が有効になります。
25~1600%	コンボボックスで指定されている倍率 (%) でページを表示します。
全体表示	ページ全体が文書ウィンドウに表示されるように表示します。
幅に合わせる	ページが文書ウィンドウの幅に合わせて表示されるようにします。
描画領域の幅に合わせる	テキストとグラフィック領域が文書ウィンドウの幅に合わせて表示されるようにします。

ページレイアウト

文書ウィンドウに表示されるページのレイアウトを設定します。

デフォルト	処理対象が PDF ファイルの場合には、入力された PDF ファイルに設定されているページレイアウトを維持し、そのままの状態で出力します。処理対象が画像ファイルの場合には、ページレイアウトは設定されず、『未設定』の状態となります。この PDF ファイルを表示する場合、閲覧に用いるソフトウェアの環境設定でデフォルトに設定されているページレイアウトで表示されることになります。Office 文書等、製品付属の PDF ドライバを用いて作成される PDF ファイルの場合、PDF ドライバの設定『開き方』で、「デフォルト」以外のレイアウトが指定されていると指定されているレイアウト設定が有効になります。
単一ページ	一度に文書の 1 ページ分だけを表示します。
連続	ページを縦一列に連続して表示します。
見開きページ	2 ページを横に並べて見開き表示します。

ウィンドウオプション

PDF ファイルを開いた時に、ウィンドウの表示がどのように調整されるかを設定します。オプション全てが選択されていない状態の場合には、閲覧に利用するソフトウェアのデフォルト設定にしたがって表示されます。

ページにウィンドウ サイズを合わせる	このオプションを選択すると、開いた PDF ファイルのページの大きさに合わせて、文書ウィンドウのサイズが調整されます。
ウィンドウを画面中央 に配置	このオプションを選択すると、文書ウィンドウをディスプレイモニタの中央に配置します。
文書タイトルを表示	ウィンドウのタイトルバーに表示する PDF ファイル名の代わりに文書情報フィールド「タイトル」の内容を表示します。

ユーザインターフェイスオプション

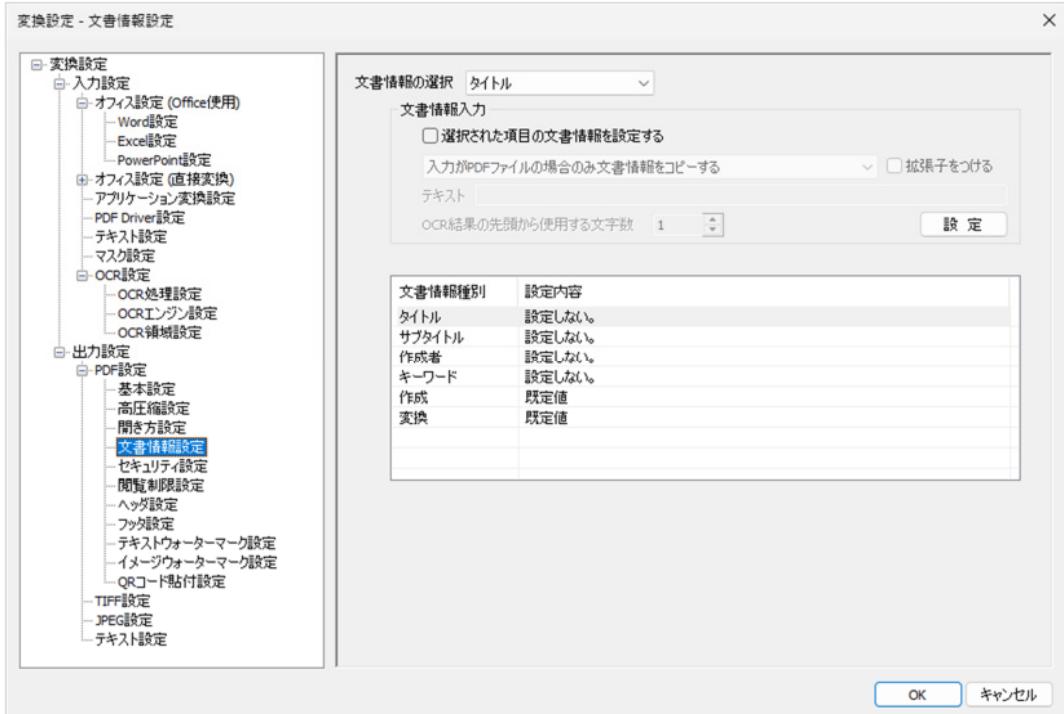
画面に表示されるユーザインターフェイスオプションの表示／非表示を設定します。初期状態では、このオプションは全て選択されていません。

メニューバーを 非表示	このオプションを選択すると閲覧ソフトのメニューバーを非表示にします。
----------------	------------------------------------

ウィンドウ コントロールを 非表示	このオプションを選択するとウィンドウコントロール（ナビゲーションパレットやスクロールバー、ステータスバー）を非表示にします。
ツールバーを 非表示	このオプションを選択するとツールバーを非表示にします。

文書情報設定

PDF Server が出力する PDF ファイルに設定する文書情報の内容を指定します。



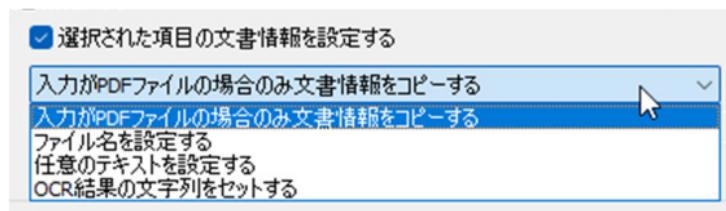
「文書情報設定」画面

作成と変換について

出力する PDF ファイルの文書情報項目「作成」、「変換」を「設定しない」場合、出力される PDF ファイルの文書情報項目のそれぞれの規定値として、「Antenna House PDF Server V4」、「Antenna House PDF Software」が設定されます。

以下の手順に従って、出力する PDF ファイルに文書情報を設定します。初期状態では、文書情報は設定されません。

1. コンボボックス「文書情報の選択」から、設定する項目を選択した後、チェックボックス「選択された項目の文書情報を設定する」にチェックマークを付けます。設定可能な PDF の文書情報の項目は、タイトル、サブタイトル、作成者、キーワード、作成、変換です。
2. チェックボックス「選択された項目の文書情報を設定する」下のコンボボックスを用いて、文書情報設定オプションを選択します。



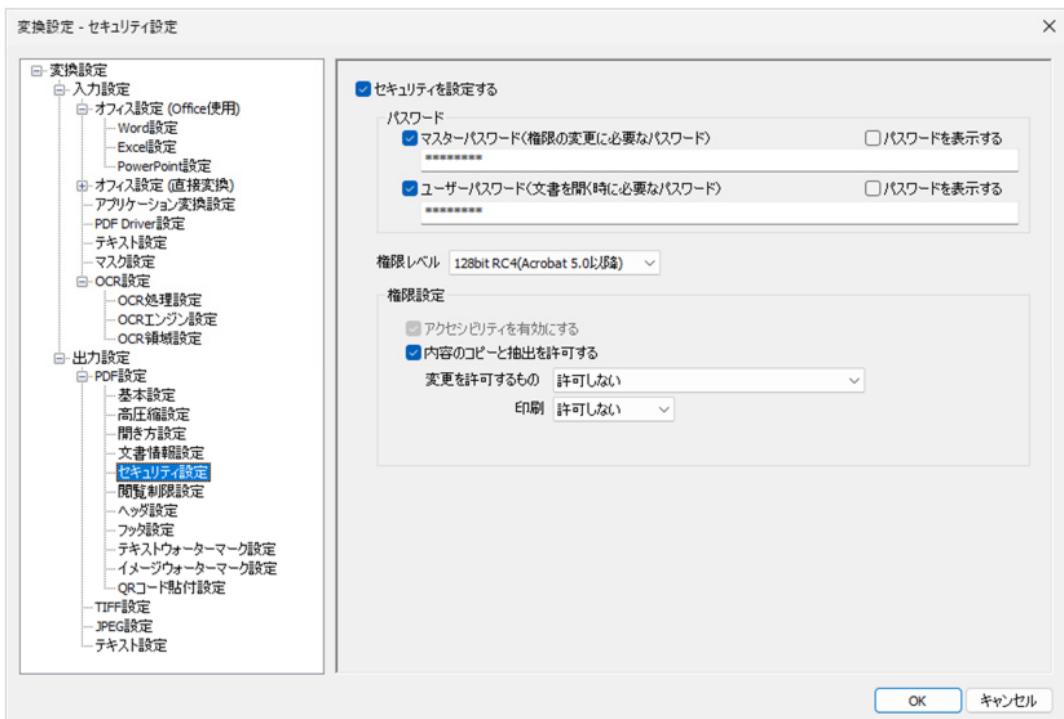
入力ファイルが PDF の場合、文書情報をコピーする	処理対象となるファイルが PDF の場合、対象ファイルの文書情報をコピーします。対象ファイルが、PDF 以外の場合、タイトル、サブタイトル、作成者、キーワードについては、空欄となり何も設定しません。また、ファイルを結合して出力する場合、結合対象となるファイルが、PDF でこれに文書情報が設定されている際にのみコピーされます。
ファイル名を設定	処理対象となるファイルの名前を文書情報に設定します。このとき、ファイル名として対象ファイルの拡張子を含める場合には、コンボボックス右のチェックボックス「拡張子を付ける」にチェックマークを付けます。
任意のテキストを設定する	テキストボックスに入力した文字列を文書情報に設定します。
OCR 結果の文字列をセットする (タイトルのみ)	OCR 処理によって得られたテキストの先頭から指定した文字数の文字列を文書情報の「タイトル」フィールドに設定します。

注意

- 文書情報を元ファイルからコピーする場合、結合されたファイルの最初のページにあたる元の PDF ファイルに文書情報が設定されている必要があります。結合時の最初のページの元ファイルが PDF 以外のファイルであったり、文書情報の設定がない PDF ファイルの場合はコピーされず、その文書情報項目は空白となります。
- オプション「OCR 結果の文字列をセットする（タイトルのみ）」は、「タイトル」以外のフィールドでは利用できません。

セキュリティ設定

PDF Server が 出力する PDF ファイルのセキュリティ設定を行います。
セキュリティを設定することにより、ファイルの印刷、編集などファイルへのアクセスを制限することができます。



「セキュリティ設定」画面

パスワードについて

PDF ファイルにユーザーパスワード／マスターパスワードの両方が設定されている場合には、どちらのパスワードを使ってもファイルを開くことができます。ユーザーパスワードを使ってファイルを開くと、セキュリティの制限は一時的に解除されます。

セキュリティを設定する場合には、マスターパスワードを必ず設定しなければなりません。マスターパスワードを指定しないとファイルを開いたユーザーが自由にセキュリティ設定を解除／変更できるためです。

出力する PDF ファイルにセキュリティを設定する場合には、「**セキュリティを設定する**」チェックボックスにチェックマークを付けます。なお、初期状態ではセキュリティは設定されません。

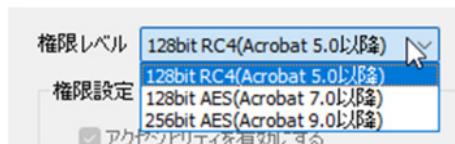
パスワード

PDF ファイルにアクセスするために必要なパスワードの設定を行います。

権限とパスワードの変更に必要なパスワード	PDF ファイルのセキュリティ設定を変更するために必要なマスターパスワードを設定する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。マスターパスワードが設定された PDF ファイルは、パスワードを入力しないと権限の変更を行うことができなくなります。
マスターパスワード	PDF ファイルのセキュリティ設定を変更するために必要なマスターパスワードを入力します。チェックボックス「権限とパスワードの変更に必要なパスワード」が選択されている時だけ入力することができます。また、マスターパスワードには、ユーザーパスワードと同じ文字列を設定することはできません。
文書を開く為に必要なパスワード	PDF ファイルを開くために必要なユーザーパスワードを設定する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。ユーザーパスワードが設定された PDF ファイルは、パスワードを入力しないと開くことができなくなります。
ユーザーパスワード	PDF ファイルを開くために必要なユーザーパスワードを入力します。チェックボックス「文書を開くために必要なパスワード」にチェックマークが付いている時だけ入力することができます。また、ユーザーパスワードには、マスターパスワードと同じ文字列を設定することはできません。
パスワードを表示する	チェックボックス「パスワードを表示する」が選択されていないと、ユーザー/マスター/パスワードフィールドに入力する文字は全て「*」で表示されます。

権限レベル

PDF ファイルの暗号レベルを設定します。設定する暗号化レベルにより以下で設定できる権限の内容が変化します。



権限レベルと PDF バージョン

セキュリティ設定の権限レベルによって PDF Server によって出力される PDF バージョンが変化する場合があります。

権限レベル	出力される PDF のバージョン	対応する Acrobat のバージョン
128-bit RC4	1.5	Acrobat 5.0 以降
128-bit AES	1.6	Acrobat 7.0 以降
256-bit AES	1.7	Acrobat 9.0 以降

但し、入力される PDF ファイルの PDF バージョンが、設定する権限レベルの PDF バージョンより大きい場合には、入力される PDF ファイルの PDF バージョンが維持されます。特に入力ファイルが PDF2.0 の場合、出力ファイルも PDF2.0 になります。

128-bit RC4 (Acrobat5.x 以降)

アクセシビリティを有効にする

アクセシビリティ機能のサポートが必要な文書内容の使用が許可されます。

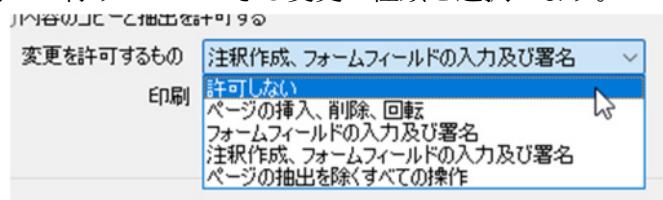
チェックボックス「内容のコピーと抽出を許可」がチェックされている場合には、このオプションは利用できません。

内容のコピーと抽出を許可

PDF ファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存することができます。また、このオプションを選択すると「アクセシビリティを有効にする」が選択できなくなります。

変更を許可するもの

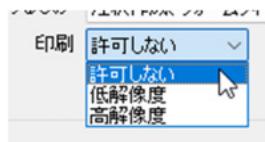
PDF ファイルに対して行うことができる変更の種類を選択します。



許可しない	ファイルに対するどのような変更も行えません。
ページの挿入、削除、回転	ページの挿入、削除、回転のみが行えます。
フォームフィールドの入力および署名	署名とフォームへの入力のみが行えます。
注釈作成、フォームフィールドの入力および署名	上記オプションで許可された内容に加え、注釈の作成が行えます。
ページの抽出を除くすべての操作	PDF ファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存すること、および PDF ファイルの印刷以外のすべての操作が行えます。

印刷

PDF ファイルの印刷レベルを設定します。



許可しない	PDF ファイルの印刷を禁止します。PDF ファイルを印刷することができません。
低解像度	文書を印刷する時の解像度が 150dpi に制限されます。このオプションを選択した場合、全てのページがビットマップ画像として出力されるので、印刷速度が遅くなります。
高解像度	任意の解像度で印刷することができます。PostScript や高品質の印刷機能をサポートするプリンタ／イメージセッターを使った出力を行うことができます。

128-bit AES (Acrobat 7.x 以降)/256-bit AES (Acrobat 9.x 以降)

セキュリティレベルは、128-bit RC4 より更に高くなりますが、暗号の解読により複雑な計算が必要なため、ファイルを開くのにより多くの時間を要します。128-bit AES、256-bit AES の暗号化レベルを設定したファイルは、それぞれ Ver.7、Ver.9 以降の Acrobat/Adobe Reader としか互換性がありません。

MEMO

以下のセキュリティオプションの内容は、128-bit RC4 の場合と同じです。

アクセシビリティを有効にする

アクセシビリティ機能のサポートが必要な文書内容の使用が許可されます。

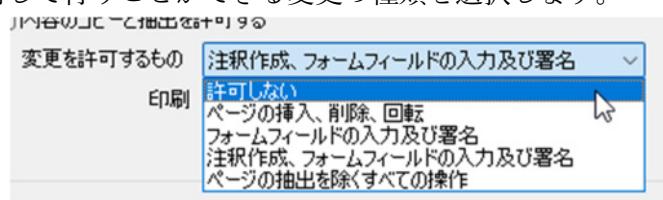
チェックボックス「内容のコピーと抽出を許可」がチェックされている場合には、このオプションは利用できません。

内容のコピーと抽出を許可

PDF ファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存することができます。また、このオプションを選択すると「アクセシビリティを有効にする」が選択できなくなります。

変更を許可するもの

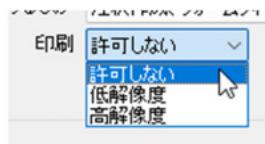
PDF ファイルに対して行うことができる変更の種類を選択します。



許可しない	ファイルに対するどのような変更も行えません。
ページの挿入、削除、回転	ページの挿入、削除、回転のみが行えます。
フォームフィールドの入力 および署名	署名とフォームへの入力のみが行えます。
注釈作成、フォームフィールドの入力および署名	上記オプションで許可された内容に加え、注釈の作成が行えます。
ページの抽出を除くすべての操作	PDF ファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存すること、および PDF ファイルの印刷以外のすべての操作が行えます。

印刷

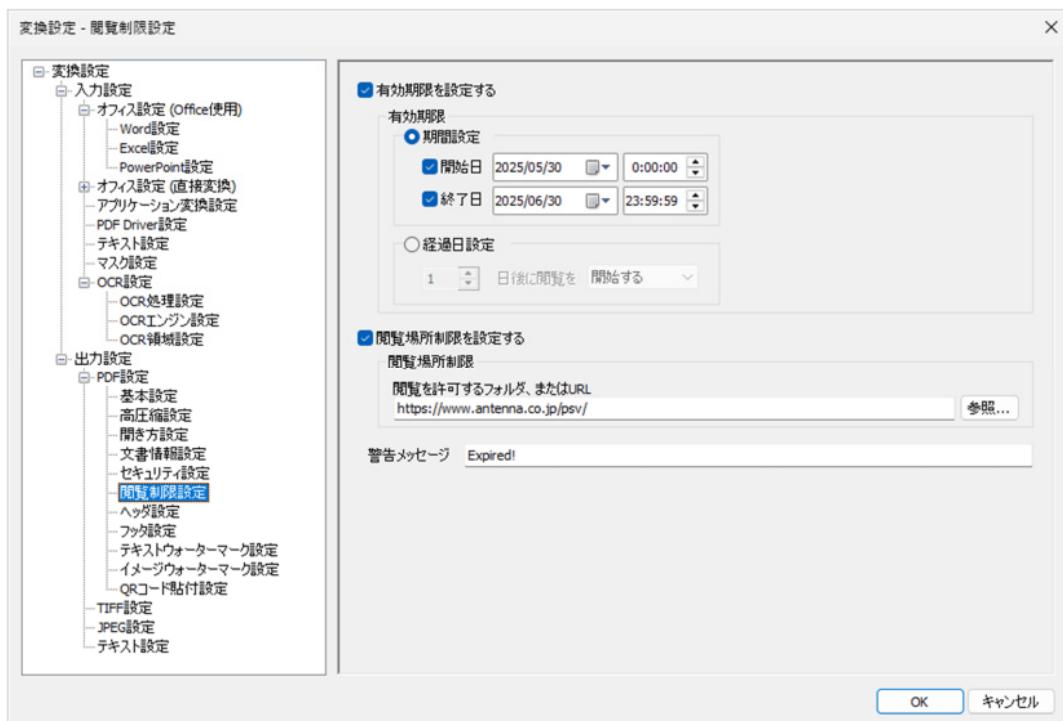
PDF ファイルの印刷レベルを設定します。



許可しない	PDF ファイルの印刷を禁止します。PDF ファイルを印刷することができません。
低解像度	文書を印刷する時の解像度が 150dpi に制限されます。このオプションを選択した場合、全てのページがビットマップ画像として出力されるので、印刷速度が遅くなります。
高解像度	任意の解像度で印刷することができます。PostScript や高品質の印刷機能をサポートするプリンタ／イメージセッターを使った出力を行うことができます。

閲覧制限設定

PDF Server が output する PDF ファイルに有効期限 (閲覧可能な期間) やファイルの保存場所などについての制限を設定します。この機能を利用することにより、指定した期間以外の日に閲覧しようとファイルを開いたときや、指定した保存場所から移動されたファイルを開いた時に警告メッセージを表示するとともに、ページ内容を覆い隠すことができます。
(見積書／展示会・セミナーなどの案内など) 内容に有効期限があるような書類を配布するときに便利な機能です。



「閲覧制限設定」画面

注意

「閲覧制限設定」機能は、セキュリティのためのものではありません。ファイルを設定されている期間以外に開いたときなど、予め設定した条件が有効なものではないことを明確にするためのものです。

本機能は、Acrobat JavaScript によって実現されています。

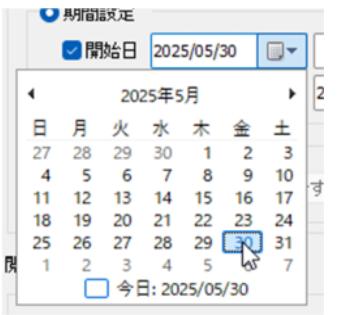
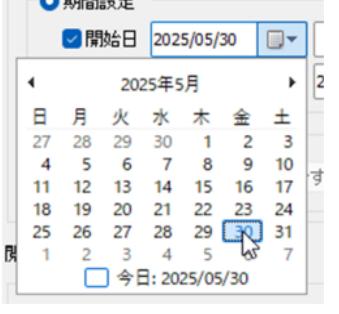
PDF ファイルを閲覧するソフトには、Acrobat JavaScript をサポートしていないものがあり、そのような閲覧ソフトでは「閲覧制限設定」機能は正しく機能しません。

有効期限を設定する

出力する PDF ファイルに有効期限を設定場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。なお、初期状態では有効期限は設定されません。

有効期限

PDF ファイルの閲覧可能期間の開始日、終了日のいずれか、または両方を指定します。

開始日	PDF ファイルの閲覧可能期間の開始日を設定します。このオプションは、作成した PDF ファイルを指定した日付以前に開いたとき、その内容が無効であることを知らせたい場合に用います。日付設定のコンボボックスの  をクリックすると日付設定用のカレンダーを表示して日付を設定することができます。	
終了日	PDF ファイルの閲覧可能期間の終了日を設定します。このオプションは、作成した PDF ファイルを指定した日付以降に開いたとき、その内容が無効であることを知らせたい場合に用います。日付設定のコンボボックスの  をクリックすると日付設定用のカレンダーを表示して日付を設定することができます。	

経過日設定

PDF ファイルの閲覧可能期間の開始、または終了日のいずれかをファイルを保存した日からの経過日数で設定します。

閲覧場所制限を設定する

出力する PDF ファイルが閲覧可能な保存場所を設定する場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

閲覧を許可するフォルダ、 または URL

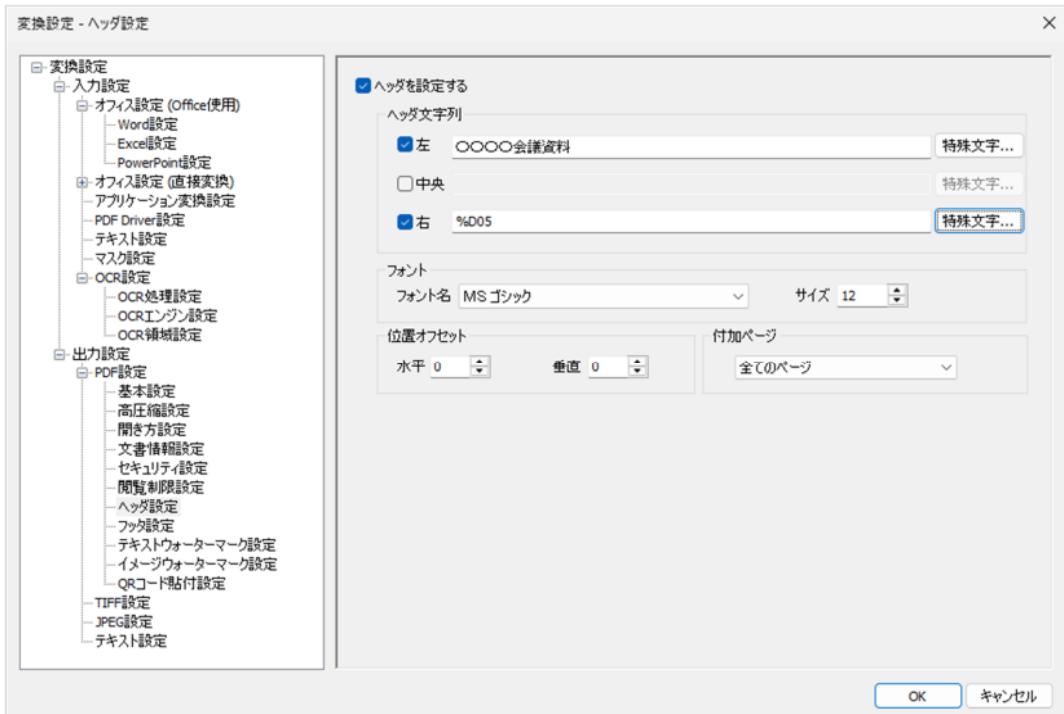
PDF ファイルの保存場所となるフォルダ／URL をフルパスで指定します。フォルダの場合には、フィールド右の「参照...」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて指定することもできます。

重要

「閲覧許可するフォルダ、または URL」でファイルパス／URL に日本語（全角文字、半角カタカナ）が含まれていると正常に動作しません。必ず、半角英数字（英数記法）で設定して下さい。

ヘッダ設定

PDF Server が出力する PDF ファイルの指定したページにヘッダを付加することができます。



「ヘッダ設定」画面

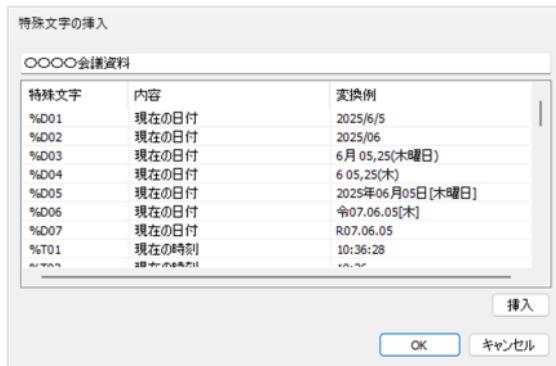
注意

ヘッダは文書中に専用の領域を確保しません。そのため、ヘッダ埋め込み位置に文章やイメージが存在した場合、その上に表示されます。

出力する PDF ファイルにヘッダを設定する場合には、「ヘッダを設定する」チェックボックスにチェックマークを付け、必要な設定を行います。なお、初期状態ではこのチェックボックスにチェックマークは付いていません。

ヘッダ文字列

ヘッダはページ上端の“左”、“中央”、“右”的 3箇所に設定できます。ヘッダ位置のチェックボックスにチェックマークを付けた後、チェックボックス左のフィールドにヘッダとして設定する文字列を入力します。また、各フィールド右の「**特殊文字…**」ボタンをクリックして表示されるダイアログを用いて、コンピュータや出力ファイルから得た情報を自動的にヘッダに埋め込むことができる特殊文字を挿入することができます。特殊文字についての詳細は巻末にある「リファレンス」の「ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字」の項を参照して下さい。



「特殊文字の挿入」画面の例

左	用紙の左端に入力した文字列を埋め込みます。文字列は左揃えで配置されます。
中央	用紙の中央に入力した文字列を埋め込みます。文字列は中央揃えで配置されます。
右	用紙の右端に入力した文字列を埋め込みます。文字列は右揃えで配置されます。

フォント

ヘッダに使用するフォントとそのサイズを設定します。

フォント名	ヘッダとして埋め込む文字のフォントを指定します。初期状態では「MS ゴシック」が選択されています。
サイズ	ヘッダとして埋め込む文字のサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8~72 で、初期状態では、12 ポイントに設定されています。

位置オフセット

ヘッダを埋め込む位置をページの端からのオフセット値 (mm) で指定します。

水平	用紙端から、ヘッダ文字列“左”、“右”のテキストブロックそれぞれの左、または右端までの距離をmm単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080~5,080 で、初期状態では、0 mmに指定されています。
垂直	用紙上端からすべてのヘッダ文字列のテキストブロックの上端までの距離をmm単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080~5,080 で、初期状態では、0 mmに設定されています。

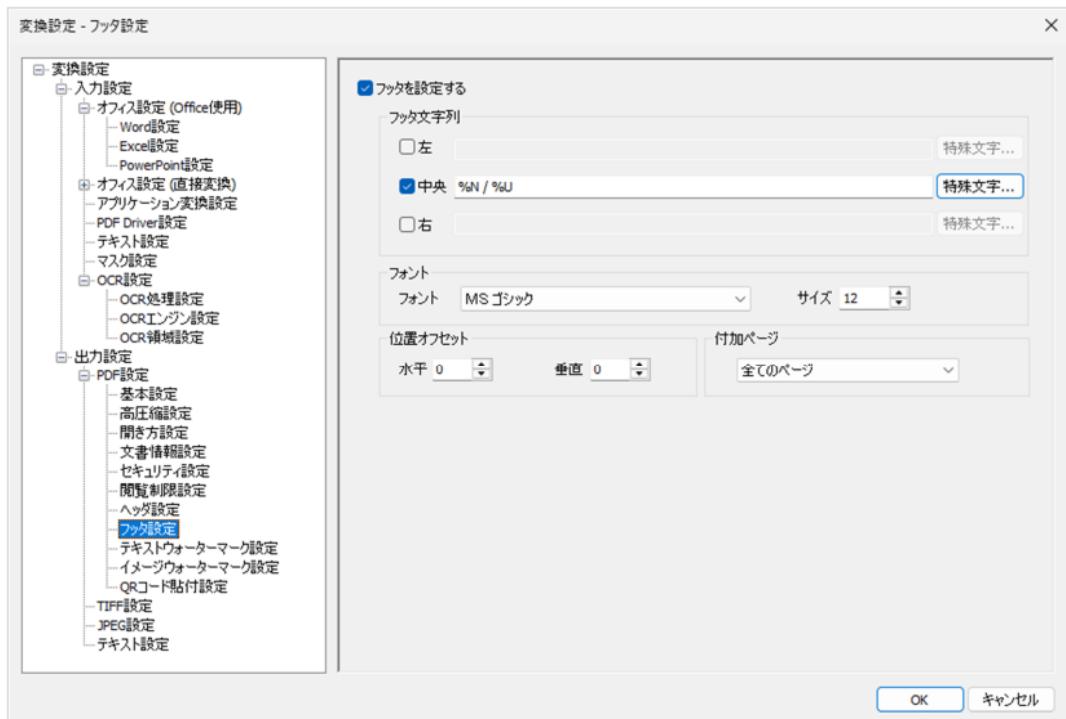
付加ページ

ヘッダを埋め込む際にその対象となるページを指定します。初期状態では、すべてのページに埋め込むように設定されています。

全てのページ	上記の設定にしたがってすべてのページにヘッダを埋め込みます。
奇数ページのみ	上記の設定にしたがって奇数ページのみにヘッダを埋め込みます。
偶数ページのみ	上記の設定にしたがって偶数ページのみにヘッダを埋め込みます。

フッタ設定

PDF Server が出力する PDF ファイルの指定したページにフッタを付加することができます。



「フッタ設定」画面

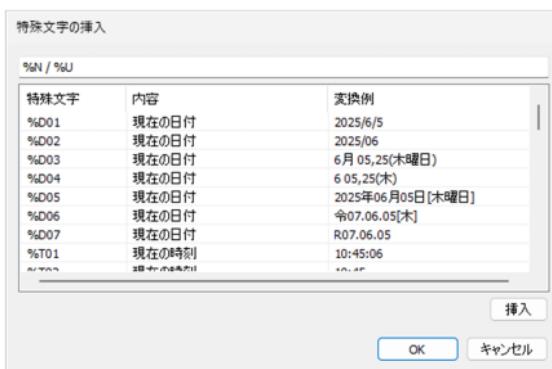
注意

フッタは文書中に専用の領域を確保しません。そのため、フッタ埋め込み位置に文章やイメージが存在した場合、その上に表示されます。

出力する PDF ファイルにヘッダを設定する場合には、「フッタを設定する」チェックボックスにチェックマークを付け、必要な設定を行います。なお、初期状態ではこのチェックボックスにチェックマークは付いていません。

フッタ文字列

フッタはページ下端の“左”、“中央”、“右”の3箇所に設定できます。フッタ位置のチェックボックスにチェックマークを付けた後、チェックボックス左のフィールドにフッタとして設定する文字列を入力します。また、各フィールド右の「**特殊文字...**」ボタンをクリックして表示されるダイアログを用いて、コンピュータや出力ファイルから得た情報を自動的にフッタに埋め込むことができる特殊文字を挿入することができます。特殊文字についての詳細は巻末にある「リファレンス」の「ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字」の項を参照して下さい。



「特殊文字の挿入」画面の例

左	用紙の左端に入力した文字列を埋め込みます。文字列は左揃えで配置されます。
中央	用紙の中央に入力した文字列を埋め込みます。文字列は中央揃えで配置されます。
右	用紙の右端に入力した文字列を埋め込みます。文字列は右揃えで配置されます。

フォント

フッタに使用するフォントとそのサイズを設定します。

フォント名	フッタとして埋め込む文字のフォントを指定します。初期状態では「MSゴシック」が選択されています。
サイズ	フッタとして埋め込む文字のサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8~72で、初期状態では、12 ポイントに設定されています。

位置オフセット

フッタを埋め込む位置をページの端からのオフセット値 (mm) で指定します。

水平 用紙端から、フッタ文字列“左”、“右”のテキストブロックそれぞれの左、または右端までの距離をmm単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080～5,080 で、初期状態では、0 mmに指定されています。

垂直 用紙下端からすべてのフッタ文字列のテキストブロックの下端までの距離をmm単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080～5,080 で、初期状態では、0 mmに設定されています。

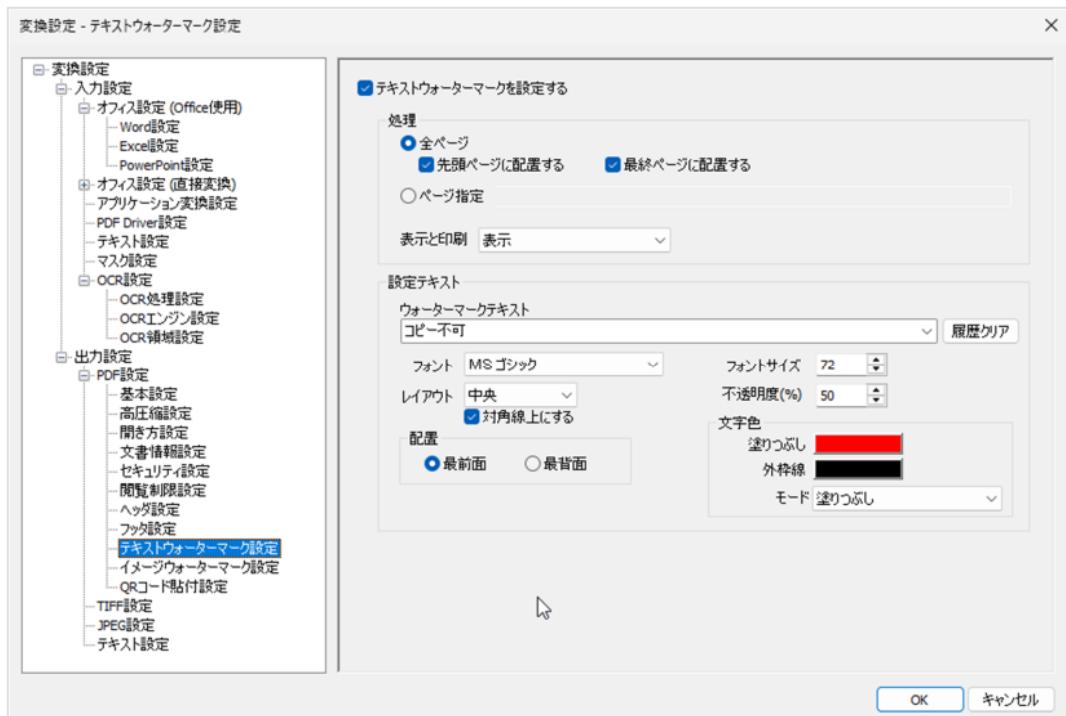
付加ページ

フッタを埋め込む際にその対象となるページを指定します。初期状態では、すべてのページに埋め込むように設定されています。

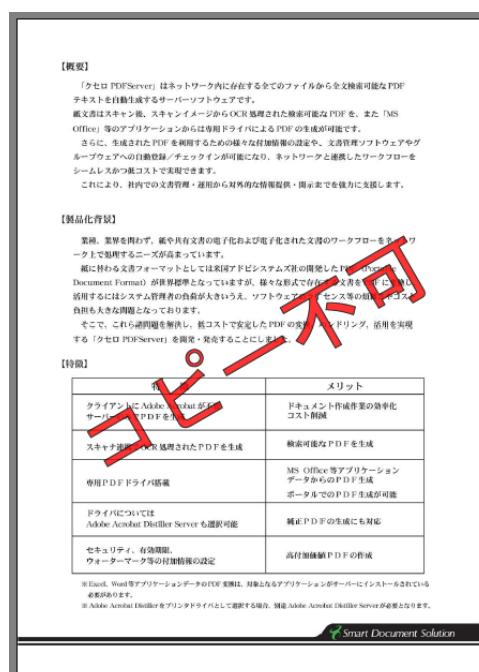
全てのページ	上記の設定にしたがってすべてのページにフッタを埋め込みます。
奇数ページのみ	上記の設定にしたがって奇数ページのみにフッタを埋め込みます。
偶数ページのみ	上記の設定にしたがって偶数ページのみにフッタを埋め込みます。

テキストウォーターマーク設定

出力する PDF ファイルのページ上に任意の文字列をウォーターマーク（透かし）として埋め込むために必要な設定を行います。



「テキストウォーターマーク設定」画面



「テキストウォーターマークの例」

テキストウォーターマークを設定する場合には、チェックボックス「**テキストウォーターマークを設定する**」にチェックマークを付けます。なお、初期状態では、このチェックボックスにチェックマークは付いていません。

NOTE

テキスト、イメージウォーターマーク双方を埋め込み、その位置が重なった場合、テキストウォーターマークはイメージウォーターマークの上に重ねて表示されます。

処理

テキストウォーターマークを設定する対象となるページの指定とウォーターマークの表示と印刷についてのオプション設定を行います。

全ページ	出力する PDF ファイルのすべてのページにテキストウォーターマークを設定します。先頭／最終ページに配置したくない場合には、それについてチェックボックス「先頭ページに配置する」／「最終ページに配置する」のチェックマークを外します。
ページ指定	<p>出力する PDF ファイルの指定したページにだけにテキストウォーターマークを設定します。設定対象となるページは、ラジオボタン右のフィールドに以下の規則にしたがって先頭ページを「0」とした半角数字と記号を用いて設定します。複数のページ範囲をカンマ (,) で区切って指定することができます。</p> <p>範囲指定の方法</p> <p>3 ページから 5 ページまで 2-5 1 ページのみ 0 例： 1, 5-10, 20-25</p> <p>上の例では、2 ページ、6～11 ページ、21～26 ページを対象としてテキストウォーターマークを設定します。</p>

表示と印刷

埋め込んだテキストウォーターマークの表示、印刷についてのオプションをこのコンボボックスを用いて設定します。

表示	ウォーターマークの表示／印刷を行います。
非表示	ウォーターマークの表示／印刷を行いません。
表示／印刷しない	ウォーターマークを表示しますが、印刷しません。
非表示／印刷する	ウォーターマークを表示しませんが、印刷します。

設定テキスト

ウォーターマークとして設定する文字列、また、これに用いるフォント／フォントサイズ／色などについての設定を行います。PDF Server がウォーターマークとして埋め込むことができるテキストの文字数は、半角で最大 52 文字まで、全角で最大 26 文字までです。

ウォーターマーク テキスト	このフィールドにウォーターマークとして設定する文字列を入力します。過去にフィールドに入力された履歴を消去する場合は、フィールド右の「履歴クリア」ボタンをクリックします。
フォント	ウォーターマークとして設定する文字列に設定するフォントを指定します。
フォントサイズ	ウォーターマークとして設定する文字列のフォントサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8～999 で、初期状態では 72 ポイントに設定されています。
レイアウト	ウォーターマークとして設定する文字列の位置を指定します。また文字列を対角線上に傾けて設定する場合には、チェックボックス「対角線上にする」をチェックします。
不透明度	ウォーターマークとして設定する文字列の不透明度（%）を指定します。不透明度が、0 %、または 100% に設定されている場合、それぞれ完全に透明、不透明に設定されていることを示します。初期状態では 50% に設定されています。 なお、半透明なウォーターマークは、Acrobat 5.0 以降でなければ表示できません。Acrobat 4.0 以前では、不透明度が、0 %（完全に透明）以外に設定されているウォーターマークは、すべて不透明なウォーターマークとして表示されます。

配置

テキストウォーターマークの配置位置（Z オーダー）を選択します。初期状態では、最前面に配置するように設定されています。

最前面	テキストウォーターマークを最前面に配置します。
最背面	テキストウォーターマークを最背面に配置します。

文字色

テキストウォーターマークの描画モードを選択します。初期状態では、塗りつぶしモードに設定されています。以下にそれぞれのサンプルを示します。

塗りつぶし	文字を指定した色で塗りつぶして描画します。	 塗りつぶしの例
外枠線	文字のアウトラインを指定した色で描画します。	 外枠線の例
塗りつぶし +外枠線	上記の2つをあわせて描画するモードです	 塗りつぶし+外枠線の例

文字色（塗りつぶし）

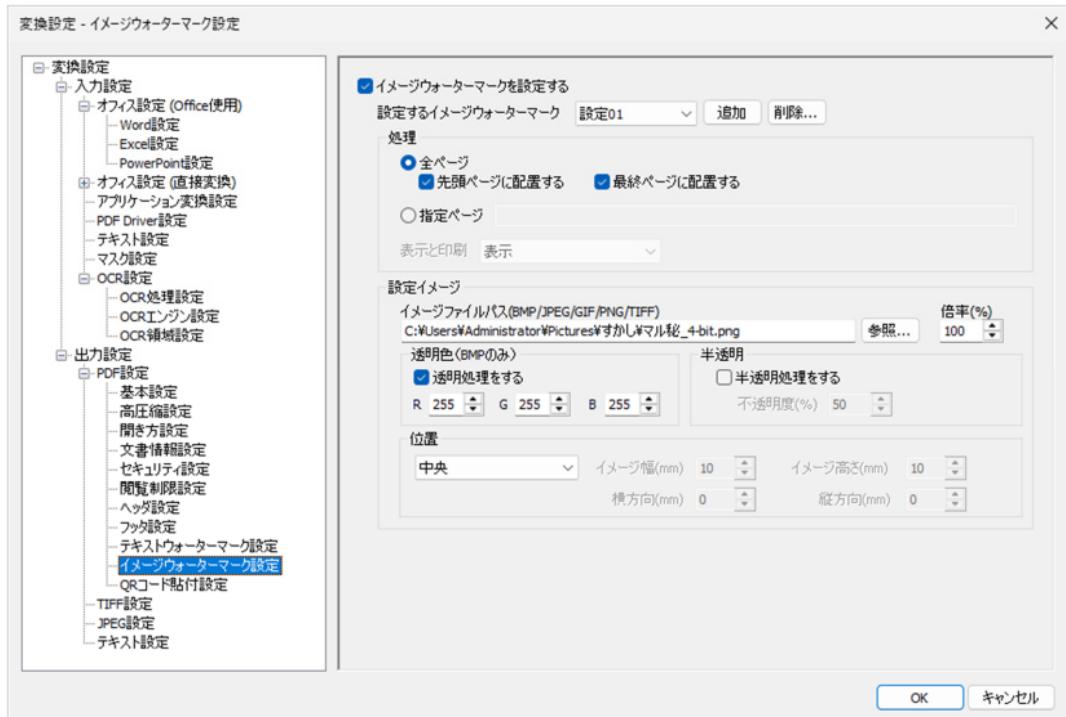
このボタンをクリックして表示される「色の設定」ダイアログを使って設定するテキストウォーターマークを塗りつぶす色を設定します。なお、ボタンの色がテキストウォーターマークの色を表します。初期状態では、赤に設定されています。

文字色（外枠線）

このボタンをクリックして表示される「色の設定」ダイアログを使って設定するテキストウォーターマークのアウトラインの色を設定します。なお、ボタンの色がテキストウォーターマークのアウトラインの色を表します。初期状態では、赤に設定されています。

イメージウォーターマーク設定

出力する PDF ファイルのページ上に指定した Windows BMP/JPEG/GIF/PNG/TIFF ファイルをウォーターマーク（透かし）として埋め込むために必要な設定を行います。



「イメージウォーターマーク設定」画面

NOTE

テキスト、イメージウォーターマーク双方を埋め込み、その位置が重なった場合、テキストウォーターマークはイメージウォーターマークの上に重ねて表示されます。



イメージウォーターマークの例

イメージウォーターマークを設定する場合には、チェックボックス「**イメージウォーターマークを設定する**」にチェックマークを付けます。なお、初期状態では、このチェックボックスにチェックマークは付いていません。

「設定するイメージウォータマーク」リスト

このコンボボックスを用いて、以前登録したイメージウォータマークを呼び出します。

「追加」ボタン

現在のイメージウォータマーク設定画面の内容で、イメージウォータマーク設定を登録します。(設定名を指定することはできません。)

「削除…」ボタン

現在選択されているイメージウォータマーク設定の登録内容をリセットします。

处理

イメージウォーターマークを設定する対象となるページの指定とウォーターマークの表示と印刷についてのオプション設定を行います。

全ページ	出力する PDF ファイルのすべてのページにイメージウォーターマークを設定します。先頭／最終ページに配置したくない場合には、それについてチェックボックス「先頭ページに配置する」／「最終ページに配置する」のチェックマークを外します。
------	---

指定ページ

出力する PDF ファイルの指定したページにだけにイメージウォーターマークを設定します。設定対象となるページは、ラジオボタン右のフィールドに以下の規則にしたがって先頭ページを「0」とした半角数字と記号を用いて設定します。複数のページ範囲をカンマ (,) で区切って指定することもできます。

範囲指定の方法

3 ページから 6 ページまで -5

1 ページのみ 0

例： 1, 5-10, 20-25

上の例では、2 ページ、6～11 ページ、21～26 ページを対象としてイメージウォーターマークを設定します。

表示と印刷

埋め込んだイメージウォーターマークの表示、印刷についてのオプションをこのコンボボックスを用いて設定します。

NOTE

「透明色 (BMP のみ)」のチェックボックス、「透明処理をする」にチェックマークを付けると「表示と印刷」設定が、「表示 (表示／印刷)」に設定されます。

表示	ウォーターマークの表示／印刷を行います。
非表示	ウォーターマークの表示／印刷を行いません。
表示／印刷しない	ウォーターマークを表示しますが、印刷しません。
非表示／印刷する	ウォーターマークを表示しませんが、印刷します。

設定イメージ

ウォーターマークとして用いる画像ファイルの指定、ページ上の設定位置、またこれに関する透明色の設定などを行います。

イメージファイルパス

イメージウォーターマークとして使用する Windows BMP/JPEG/GIF/PNG/TIFF ファイルのフルパスを直接このフィールドに入力するか、フィールド右にある「参照…」ボタンをクリックして開く「ビットマップファイルの選択」ダイアログを用いて設定します。

倍率(%)

ページ上でのウォーターマークのサイズを変更したい場合は、このフィールドに倍率(%)を指定します。

透明色(BMP のみ)

イメージウォーターマークとして使用する Windows BMP ファイル中の指定した色 (RGB) を透明色に設定します。透明色に設定された色を持つすべての画素が透明に設定されます。初期状態では、白 (R:255, G:255, B:255) が透明色となるように設定されています。

NOTE

「透明色 (BMP のみ)」のチェックボックス、「透明処理をする」にチェックマークを付けると

1. 「表示と印刷」設定が、「表示 (表示／印刷)」に設定されます。
2. 「位置」設定で、「並べて」を選択できません。

透明処理をする

画像ファイルに透明処理を行ってウォーターマークとして埋め込みます。

半透明

設定するイメージウォーターマークの半透明合成処理についてのオプションを設定します。

NOTE

半透明なウォーターマークは、Acrobat 5.0 以降でなければ表示できません。Acrobat 4.0 以前では、不透明度が、0 % (完全に透明) 以外に設定されているウォーターマークは、すべて不透明なウォーターマークとして表示されます。

半透明処理をする

画像ファイルを半透明なウォータマークとして設定します。このオプションを選択した場合には、「不透明度」フィールドで不透明度（%）を設定します。不透明度 0 %、100% は、それぞれ完全に透明な状態、完全に不透明な状態を示します。なお、初期状態では、100%（完全に不透明）に設定されています。

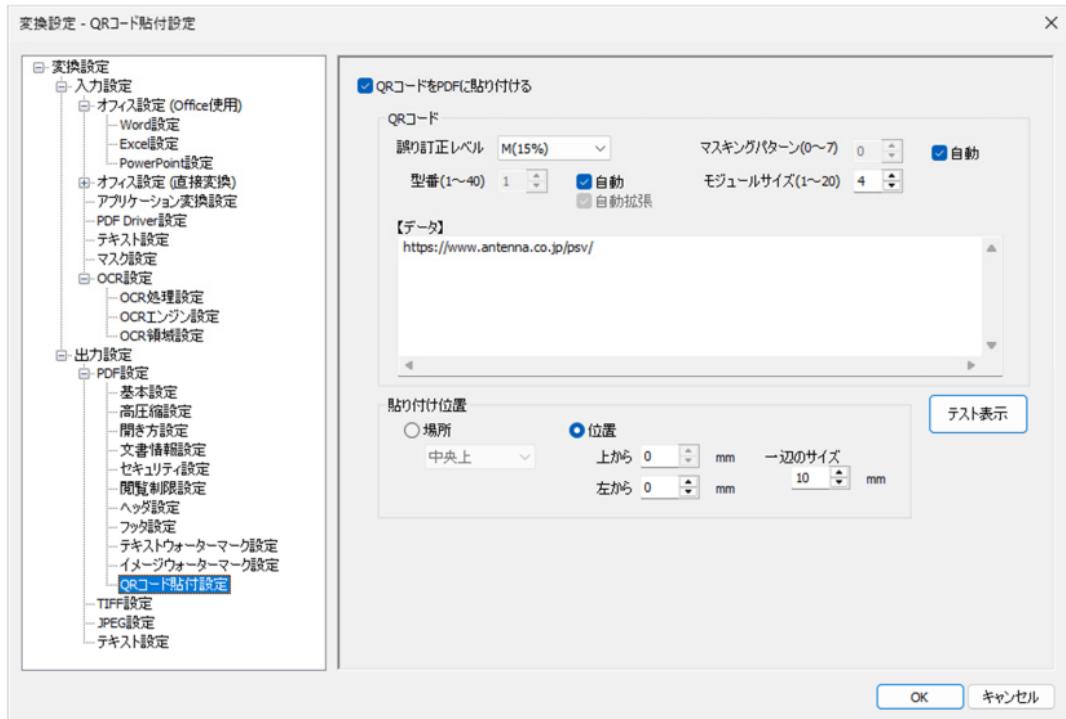
位置

イメージウォーターマークを配置するページ上の位置を設定します。初期状態では、ページ中央に配置するように設定されています。

位置を指定する	ウォーターマークとして使用する画像ファイルを配置する位置と画像の大きさをコンボボックス右のフィールドで指定します。
並べて	ウォーターマークとして使用する画像ファイルをタイル状に並べて合成します。
全体	ウォーターマークとして使用する画像ファイルをページの大きさに拡大・縮小（元画像の縦横比は保たれません）して合成します。このオプションを選択した場合には、「サイズ」で指定した画像サイズは適用されません。
中央	ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの中心を合わせて合成します。
左上	ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの左上端を合わせて合成します。
右上	ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの右上端を合わせて合成します。
左下	ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの左下端を合わせて合成します。
右下	ウォーターマークとして使用する BMP ファイルとページの右下端を合わせて合成します。

QR コード貼付設定

PDF Server が output する PDF ファイルの先頭ページに QR コードを貼り付けて出力します。



「QR コード貼付設定」ダイアログ

出力する PDF ファイルに QR コードを貼り付ける場合には、「QR コードを出力 PDF に貼り付ける」チェックボックスにチェックマークを付けます。なお、初期状態では QR コードを貼り付けません。

QR コード

QR コードに変換するデータ、また QR コードのオプション設定を行います。

誤り訂正レベル

QR コードは、コードが汚れていたり破損していても、データ復元機能を有しており、誤り訂正レベルによってその訂正能力を設定します。

誤り訂正レベル	誤り訂正能力
L	約 7%
M	約 15%
Q	約 25%
H	約 30%

誤り訂正レベルを上げれば、誤り訂正能力が向上すると同時にデータ量が増えるためコードのサイズが大きくなります。

型番

貼り付ける QR コードの型番（バージョン）を設定します。設定可能な値の範囲は、1～40 です。また「自動」を選択した場合には、出力データに合わせて最適なバージョンを選択します。チェックボックス「自動拡張」にチェックマークを付けると指定した型番の QR コードにデータが収まりきれない場合、自動的に指定した型番より大きな QR コードを貼り付けます。

マスキングパターン

読み取り精度を保つため、QR コード全体に白と黒の部分が配置されるようにマスキング処理が行われます。ここでは、この処理に用いるパターンを 0～7 の数値で指定します。「自動」を選択した場合には、最適なマスキングパターンを選択して QR コードを生成します。

モジュールサイズ

貼り付ける QR コードの大きさを 1～20 の数値で設定します。初期状態では、「4」が選択されています。

【データ】

QR コードとして貼り付けるテキストをこのフィールドに入力します。このデータとして、ヘッダ／フッタに使用できる特殊文字を利用することも可能です。

「テスト表示」ボタン

QR コードエリアの設定で【出力データ】フィールドの内容を QR コードに変換したサンプルを「QR コード表示」ウィンドウに表示します。



「QR コード表示」ウィンドウ

NOTE

「QR コード表示」ウィンドウを閉じないと他の設定画面に移動したり、変換設定ウィンドウを閉じることができません。

貼り付け位置

QR コードを出力する PDF ファイルに貼り付ける位置を設定します。

場所

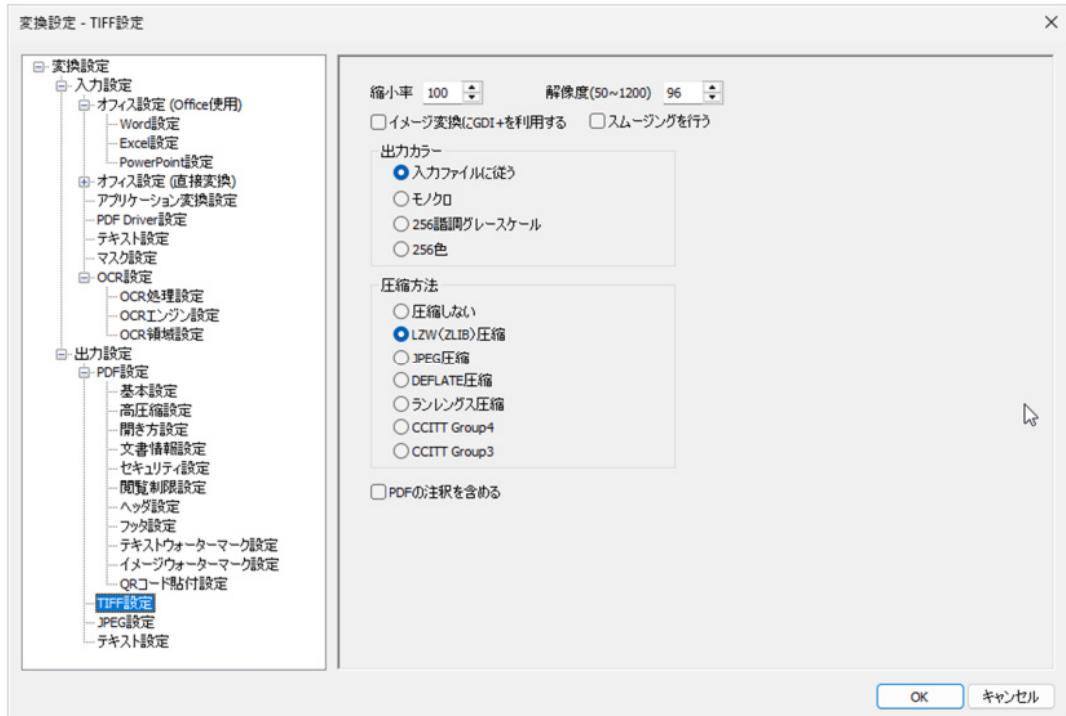
QR コードを貼り付ける場所を PDF ファイルの先頭ページの左上／中央上／右上の 3箇所から 1 つを選択します。

位置

QR コードを貼り付ける位置を PDF ファイルの先頭ページの上端／左端から、QR コード左上隅までの距離、QR コードの一辺のサイズで設定します。

TIFF 設定

PDF Server によって TIFF ファイルを出力する際のオプション設定を行います。



「TIFF 設定」画面

縮小率	画像の縮小率を%単位で指定します。
解像度	出力する TIFF ファイルの解像度（単位：dpi）を指定します。
イメージ変換に GDI+ を利用する	画像変換に GDI+を利用する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
スムージングを行う	画像出力する際に PDF ファイル内の画像に対してスムージング処理を行います。PDF ファイル内の画像が消えてしまう/黒く塗りつぶされてしまうなど正常に画像に変換されない場合にスムージングを行うことで現象を回避できることがあります。
出力カラー	カラーの TIFF ファイルを出力する際の変換オプションを設定します。初期状態では、「入力ファイルに従う」に設定されています。

入力ファイルに従う	入力ファイルと同じカラーモデルの画像として出力します。
モノクロ	モノクロ 2 値画像として出力します。
256 階調グレースケール	8bit(256 階調)のグレースケール画像に変換して出力します。
256 色	256 色のインデックスカラー画像として出力します。

出力カラーオプション

圧縮方法

出力する TIFF ファイルの圧縮方法を設定します。初期状態では、「**LZW(ZLIB)圧縮**」に設定されています。なお、本製品がサポートしている圧縮方法は以下の通りです。

圧縮しない

LZW(ZLIB)圧縮

JPEG 圧縮

DEFLATE 圧縮

ランレンジス圧縮

CCITT Group 3

CCITT Group 4

JPEG 設定

PDF Server によって JPEG ファイルを出力する際のオプション設定を行います。



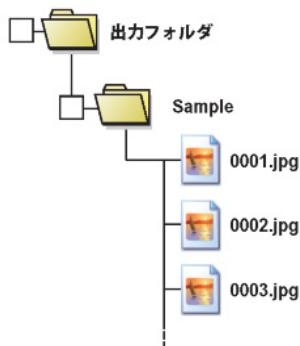
「JPEG 設定」画面

縮小率	画像の縮小率を%単位で指定します。
変換品質	画像変換時の JPEG の品質を設定します。
解像度	出力するファイルの解像度（単位：dpi）を指定します。
イメージ変換に GDI+を利用する	画像変換に GDI+を利用する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
スムージングを行う	画像出力する際に PDF ファイル内の画像に対してスムージング処理を行います。PDF ファイル内の画像が消えてしまう/黒く塗りつぶされてしまうなど正常に画像に変換されない場合にスムージングを行うことで現象を回避することができます。
出力カラー	カラーの JPEG ファイルを出力する際の画像変換オプションを設定します。初期状態では、「入力ファイルに従う」に設定されています。

入力ファイルに従う	入力ファイルと同じ色数の画像として出力します。
モノクロ	画像の色数をモノクロ 2 値に変換します。
256 階調グレースケール	画像の色数を 8bit (256 階調) のグレースケールに変換します。
256 色	画像の色数を 256 色に変換します。

出力カラーオプション

ファイル名のフォルダを作成し、その中にページ番号をファイル名にして保存する
 出力フォルダ内に「出力ファイル設定」で設定したファイル名として設定される文字列を名前としたフォルダを作成し、そのフォルダ内にファイル名をページ番号とした JPEG ファイルを出力します。



出力フォルダの構成例

また、このとき、ページ番号を示す文字列のゼロ詰め桁数を指定することができます。

PDF の注釈を含める

PDF ファイルのページ上に設定されているテキスト／描画マークアップ注釈を含めて画像に出力します。

テキスト設定

PDF ファイルに OCR 处理によって得られたテキストが含まれる場合、PDF ファイルに含まれるテキストをテキストファイルとして出力する際のオプション設定を行います。



「テキスト設定」画面

1 ファイルに全ページのテキストを出力する	PDF ファイルから抽出された全ページのデータを 1 つのテキストファイルに出力します。
1 ページずつ別ファイルに出力する	PDF ファイルから抽出された複数ページのデータを、1 ページ毎に出力します。出力されるファイル名は「ファイル名」 + 「_ (アンダーバー)」 + 「ページ番号」 + 「.txt」となります。
付加する連番のゼロ詰め桁数	これは、1 ページずつ別ファイルに出力する際にファイル名の「ページ番号」について、ゼロ詰め設定する場合に用いるオプションです。ファイル名のゼロ詰めを行う桁数を 1 ~ 10 の範囲の数値で設定します。

出力項目 (PDF 文書情報)	テキストの抽出処理対象となる PDF ファイルの文書情報を出力するテキストファイルに追加する場合に用います。テキストファイルに出力したい PDF ファイルの文書情報の項目を、チェックボックスを使って選択します。出力できる PDF ファイルの文書情報は以下の通りです。 タイトル サブタイトル 作成者 キーワード 作成 変換 作成日 更新日 バージョン ページ数 ファイル名 ファイルサイズ
----------------------------	---

PDF Server V4.0 コマンド GUI 【プロフェッショナル／コマンドライン版のみ】

コマンドプログラムと関係する「PDF Server 設定」とコマンドラインプログラムの動作テストを GUI (グラフィック・ユーザー・インターフェイス) で簡単に行うことができる Windows プログラムです。

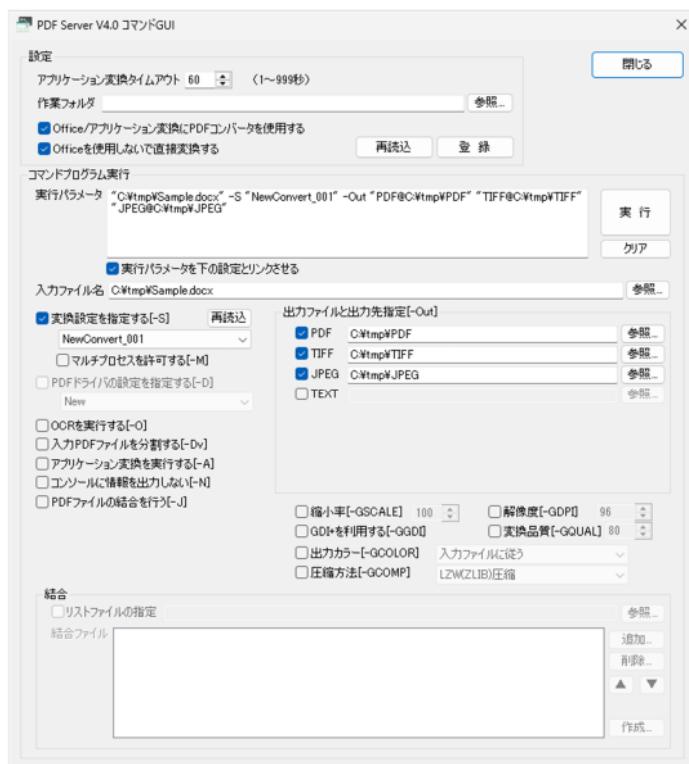
PDF Server V4.0 コマンド GUI を起動する

次の方法で PDF Server V4.0 コマンド GUI を起動します。

1. Windows の「スタート」メニューを使用する。「スタート」→「すべてのプログラム」→「Antenna House PDF Server 4.0」→「PDFServer V4.0 コマンド」
2. 【コマンドライン版のみ】デスクトップ上のショートカットアイコン「PDFServer V4.0 コマンド」をダブルクリックする。

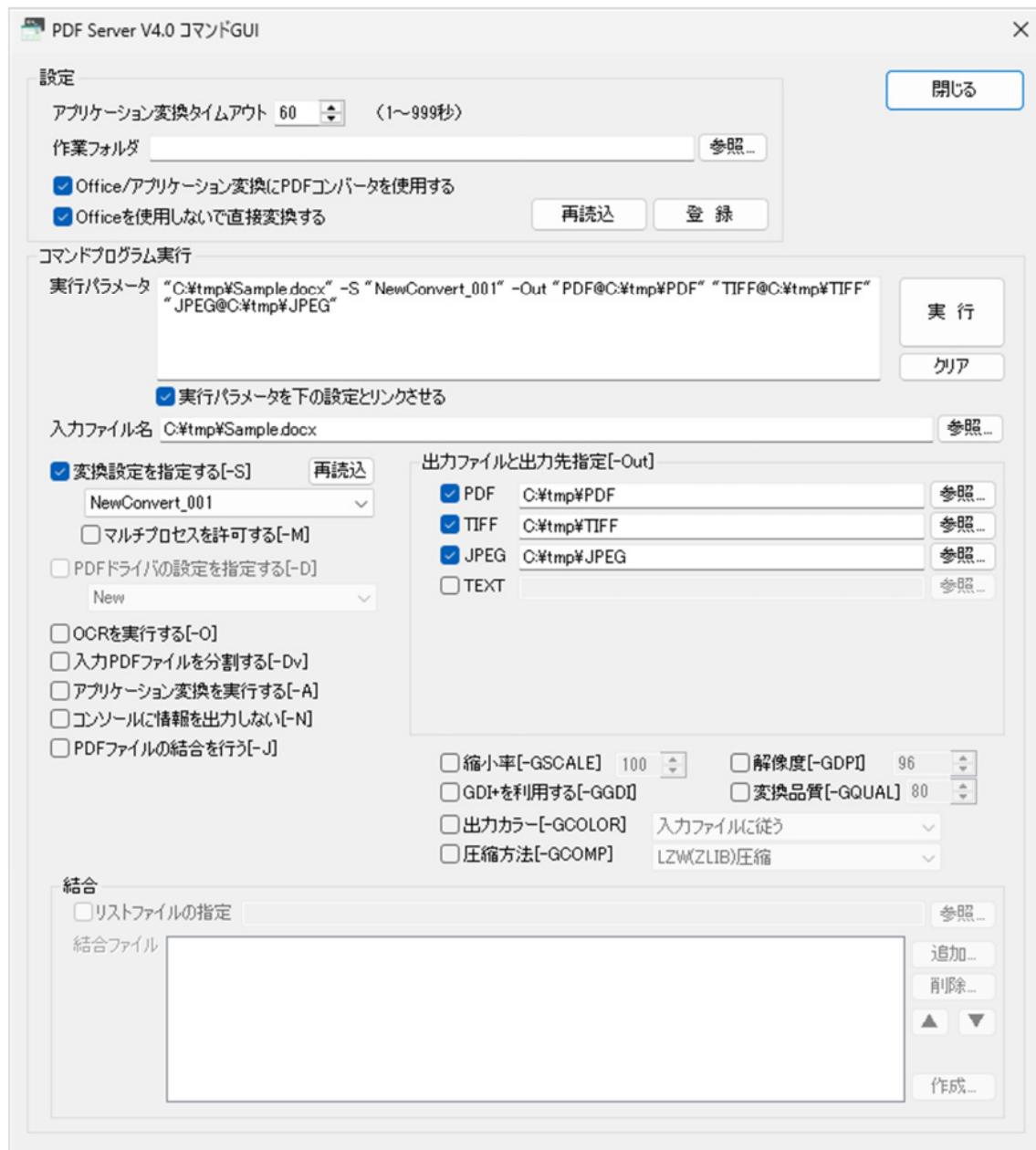


「PDFServer V4.0 コマンド」のショートカットアイコン



「Antenna House PDF Server V4.0 コマンド」ウィンドウ

Antenna House PDF Server V4.0 コマンド ウィンドウについて



「Antenna House PDF Server V4.0 コマンド」 ウィンドウ

設定

このエリアを用いて、PDF Server の共通設定情報「PDF Server 設定」のコマンドプログラムに関連のある項目のみについての設定を行います。

アプリケーション変換タイムアウト

PC にインストールされている Microsoft Office を用いた Office 文書の PDF 変換やアプリケーション文書ファイルの PDF 変換は、対象となる文書ファイルを開き、製品に付属の PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」を用いて印刷することで実現しています。この印刷処理を実行する際、非常に時間がかかるなどの理由により、PDF Server の処理が停滞することがあります。これを避けるためにアプリケーション文書変換のタイムアウト時間を秒単位で設定します。設定可能な値の範囲は、1～65535 で、初期状態では、60 秒に設定されています。

作業フォルダ	PDF Server が、文書の変換等の作業を行う際に作成する中間ファイルなどを保存するフォルダのフルパスを指定します。 デフォルトでは、"C:\ProgramData\pdfserver4\work" に設定されています。
Office/アプリケーション変換に PDF コンバータを使用する	このオプションを有効にすると MS-Office (Word、Excel、PowerPoint) 文書ファイルの PDF 変換とアプリケーション文書の PDF 変換に「PDF コンバータ」を使用します。 「PDF コンバータ」が常駐していない状態でこのオプションを有効にすると MS-Office 文書変換／アプリケーション文書変換に失敗しますので、利用する際にはスタートメニューなどから「PDF コンバータ」を起動するなどして、「PDF コンバータ」を常駐させておく必要があります。
Office を使用しないで直接変換する	弊社独自技術 Office Server Document Converter (OSDC) を用い、Microsoft Office を使用することなく Office 文書を直接 PDF ファイルに変換します。このオプションを選択した場合、Office 文書は、変換設定「オフィス設定 (Office 使用)」ではなく、「オフィス設定 (直接設定)」にしたがって PDF ファイルに変換します。
再読み込み	PDF Server の環境設定情報「PDF Server 設定」を改めて読み込み直します。

登録	「設定」エリアに現在入力されている内容を PDF Server の環境設定情報「PDF Server 設定」に保存します。
-----------	---

コマンドプログラム実行

このエリアを用いて、パラメータを設定して、コマンドプログラムを実行します。

実行パラメータ	このフィールドにコマンドスイッチとそのパラメータを入力します。
「実行」ボタン	「実行パラメータ」フィールドの内容を引数としてコマンドラインを実行します。実行すると「AH PDF Server V4.0 コマンド 実行コンソール」ウィンドウが開き、処理状況が表示されます。処理が終了すると戻り値とコンソール出力情報が出力されます。また、このウィンドウは処理の実行中に閉じることが出来ません。《「AH PDF Server V4.0 コマンド 実行コンソール」ウィンドウ》「AH PDF Server V4.0 コマンド 実行コンソール」ウィンドウ
「クリア」ボタン	画面下部の設定項目の設定内容を初期化します。オプション「実行パラメータを下の設定とリンクさせる」が選択されている場合には、「実行パラメータ」フィールドの内容も初期化されます。
実行パラメータを下の設定とリンクさせる	このオプションを有効にすると画面下部の各種設定項目フィールドの設定内容に合わせて「実行パラメータ」フィールド内の対応するパラメータの値が更新されます。このオプションが無効な場合には、設定項目の設定内容を変更しても、「実行パラメータ」フィールドの内容には反映されません。
入力ファイル名	処理対象となる入力ファイルのフルパス

以下に設定項目とそれに対応するコマンドスイッチについて簡単な説明を示します。各項目の設定内容の詳細については、「PDF Server をコマンドで利用するには」の項を参照して下さい。

設定項目	対応するコマンドスイッチ	概要
変換設定を指定する	-S	変換に用いる「PDF Server」の「変換設定」を指定します。

設定項目	対応するコマンド スイッチ	概要
PDF ドライバの設定 を指定する	-D	入力ファイルが Office 文書や画像以外のアプ リケーション文書ファイルの場合に PDF 変換 に用いる「PDF Driver」の「印刷設定」を指定 します。
OCR を実行する	-O	入力ファイルが画像、または PDF ファイルの 場合に OCR 処理を実行します。
入力 PDF ファイル を分割する	-Dv	入力ファイルが PDF ファイルの場合、ページ ごとに独立した PDF ファイルに分割して出力 します。このオプションを選択した場合、「コン ソールに情報を出力しない」以外の設定項目は 無効となります。
アプリケーション変 換を実行する	-A	入力ファイルが画像ファイル以外の場合、入力 ファイルの拡張子に関連付けられているアプ リケーションによるアプリケーション変換を 実行します。
コンソールに情報を 出力しない	-N	画面に何も表示することなくコマンドを実行 します。
PDF ファイルの結合 を行う	-J	「結合」エリアでの設定に従って、複数の PDF ファイルを結合します。このオプションを選択 した場合、「コンソールに情報を出力しない」以 外の設定項目は無効となります。
出力ファイルと出力 先指定	-Out	このエリアで出力するファイル形式と出力先 フォルダのフルパスを指定します。
縮小率	-Gscale	出力される画像ファイルの縮小率を % 単位で 指定します。
解像度	-Gdpi	出力される画像の解像度を dpi 単位で指定しま す。
GDI+を利用する	-Ggdi	このオプションを有効にすると GDI+を利用 して PDF ファイルから画像ファイルに変換し ます。
変換品質	-Gqual	出力される JPEG ファイルの品質を % 単位で指 定します。

設定項目	対応するコマンド スイッチ	概要
出力カラー	-Gcolor	TIFF ファイルを出力する際のカラー モデルを指定します。
圧縮方法	-Gcomp	TIFF ファイルを出力する際の圧縮方法を指定します。
結合エリア	—	このエリアで、結合対象となる PDF ファイルの指定、もしくは結合対象となる PDF ファイルを記録した「結合設定ファイル」を作成し、指定します。

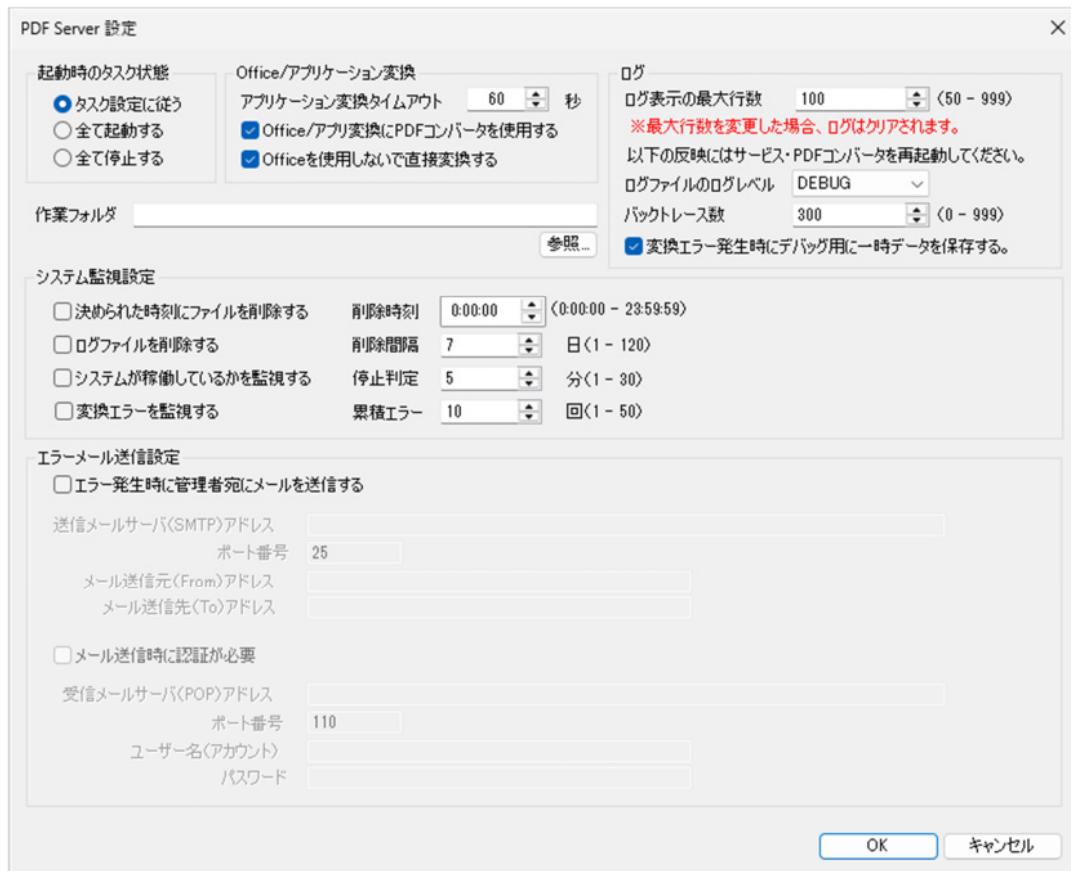


リストファイルを指定	このオプションを有効にして、結合対象ファイルを記録したテキストファイル「結合設定ファイル」のフルパスを指定します。このフィールド右の「参照」ボタンをクリックするとリストファイルを選択するために「開く」ダイアログを表示します。
結合ファイルリスト	結合対象となる PDF ファイルをリスト右の追加／削除ボタンを用いてこのリストに登録し、▲▼ボタンを使って上下の順番を変更します。リストに登録されている PDF ファイルは上から順に結合されます。
作成	結合ファイルリストに登録されている内容を「結合設定ファイル」として保存するために「名前をつけて保存」ダイアログを表示します。保存すると同時に作成した「結合設定ファイル」をリストファイルとして指定することも可能です。

PDF Server の共通設定

PDF Server V4 コントロールセンターを起動した直後のタスクの状態や、エラーが発生した際の報告メールの送信など、PDF Server の管理／運用に関わる設定を行うことができます。

PDF Server の設定は、PDF Server V4 コントロールセンターウィンドウの「設定…」ボタンをクリックして表示される「PDF Server 設定」ダイアログを用いて行います。なお、この画面で設定した情報は、PDF Server が保存されているフォルダ（インストール時に変更していない場合、「C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V4」にあるファイル「Pdftserver.ini」）に保存されます。



「PDF Server 設定」ダイアログ

起動時のタスク状態

PDF Server V4 コントロールセンター起動時のタスクの状態を設定します。

タスク設定に従う	前回 PDF Server V4 コントロールセンターを終了させた時のタスクの状態を設定します。
全て起動する	PDF Server V4 コントロールセンターを起動すると同時に登録されているすべてのタスクを開始します。
全て停止する	登録されているすべてのタスクを停止した状態で PDF Server V4 コントロールセンターを起動します。このオプションを選択した場合、管理者がコントロールセンターウィンドウを用い、手動でタスクを開始する必要があります。

Office/アプリケーション変換

アプリケーション変換タイムアウト

PCにインストールされている Microsoft Office を用いた Office 文書の PDF 変換やアプリケーション文書ファイルの PDF 変換は、対象となる文書ファイルを開き、製品に付属の PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」を用いて印刷することで実現しています。この印刷処理を実行する際、非常に時間がかかるなどの理由により、PDF Server の処理が停滞することがあります。これを避けるためにアプリケーション文書変換のタイムアウト時間を秒単位で設定します。設定可能な値の範囲は、**1～65535** で、初期状態では、**60秒**に設定されています。

Office/アプリ変換に PDF コンバータを使用する

PCにインストールされている Microsoft Office/アプリケーションを用いた Microsoft Office/アプリケーション文書ファイルの PDF ファイルへの変換に「PDF コンバータ」を使用します。なお、「PDF コンバータ」が常駐していない状態でこのオプションを有効にすると MS-Office/アプリケーション変換に失敗します。(このオプションが無効の場合、「PDF コンバータ」を用いずに MS-Office/アプリケーション変換を行います。)

このオプションは、PDF Server V4 のすべてのエディションで利用できますが、サービスを利用したフォルダ監視を行う場合にこのオプションが無効だと、別途 MS-Office の DCOM やサービスのアカウントについての設定が必要となり、アプリケーション変換がうまくできなくなります。これらについての十分な知識をお持ちでない場合には、このオプションを有効にすることを強くお薦めします。

Office を使用しないで直接変換する

弊社独自技術 Office Server Document Converter (OSDC) を用い、Microsoft Office を使用することなく Office 文書を直接 PDF ファイルに変換します。このオプションを選択した場合、Office 文書は、変換設定「オフィス設定 (Office 使用)」ではなく、「**オフィス設定 (直接設定)**」にしたがって PDF ファイルに変換します。

ログ

ログ表示の最大行数

PDF Server V4 コントロールセンターのログペインに表示する最新ログの最大行数を指定します。設定可能な値の範囲は、**50～999** で、初期状態には、**100 行** に設定されています。なお、最大行数を変更した場合、現在ログペインに表示されているログはクリアされます。

ログファイルのログレベル

PDF Server が出力するログレベルを指定します。

レベル	内容
INFO	基本的な情報だけを含んだ簡単なログを出力します。
DEBUG	デバックの助けとなる少々詳しい情報を含んだログを出力します。
TRACE	詳細な処理内容についての情報を含んだログを出力します。 上記のログに比べて大量のログが出力され、且つ製品の動作が遅くなりますので、常用されることをお勧めしません。異常発生時の情報収集の際にご利用ください。

バットトレース数

エラー発生時のバットトレース数を設定します。設定可能な値の範囲は、**0～999** で、初期状態には、**300** に設定されています。

変換エラー発生時にデバッグ用に一次データを保存する

このチェックボックスにチェックすると、変換エラーが発生した際、デバッグ用に変換に関する一時データ（タスク設定/変換設定ファイル、変換対象ファイルなど）をインストールフォルダ内の「log\backup」フォルダ内に保存します。

発生した変換エラーごとに、「[タスク名]_ジョブ ID」形式のフォルダが作成され、以下の情報が保存されます。

- ・入力ファイル
- ・PDFServer 設定／タスク設定／変換設定
- ・変換の中間データ
- ・システム情報：ファイル名「sysinfo.txt」
- ・ログファイルの抜粋

※ ジョブ ID は 1 回のタスクの実行を区別するための XXXX-YYYY 形式の文字列です。

作業フォルダ

PDF Server が、文書の変換等の作業を行う際に作成する中間ファイルなどを保存するフォルダを指定します。デフォルトでは、“`C:\ProgramData\pdfserver4\work`”に設定されています。

システム監視設定

決められた時刻にファイルを削除する

監視タスクの成功/失敗時に変換処理後の入力ファイルを指定フォルダへ移動する設定や、無効/除外ファイルとして指定フォルダに移動する設定で運用する場合、これらのファイルを削除しない限りこれらのフォルダ内のファイルは増え続け、最後にはディスクの空き容量不足を生じることになります。このオプションは、毎日指定した時刻に登録されているすべてのタスクについて、以下の画面で設定されている移動先フォルダに存在する全ファイルをゴミ箱に移動することなく削除します。

- ・「入力ファイル設定」タブ画面の処理成功時の移動先フォルダ
- ・「入力ファイル設定」タブ画面の処理失敗時の移動先フォルダ
- ・「無効／除外設定」タブ画面の無効／除外ファイルの移動先フォルダ

ログファイルを削除する

PDF Server は監視動作中に、その処理の内容に応じたログファイルをインストールフォルダにある「log」フォルダに出力します。初期状態では、ログファイルが自動的に削除されないため、利用している環境によってはディスクの空き容量不足を生じる場合があります。このオプションは、毎午前 2 時に「log」フォルダをチェックし、指定した日数より古いログファイルをゴミ箱に移動することなく削除します。設定可能な値の範囲は、1~120 日で、初期状態では、7 日に設定されています。

ログ出力機能は、PDF Server の監視動作専用に設計されています。ログは、コマンドラインで動作させる際にも出力されますが、その内容の一部が欠けた状態で記録されるなど、システムの状態によっては内容が不正確な場合があります。

システムが稼動しているかを監視する

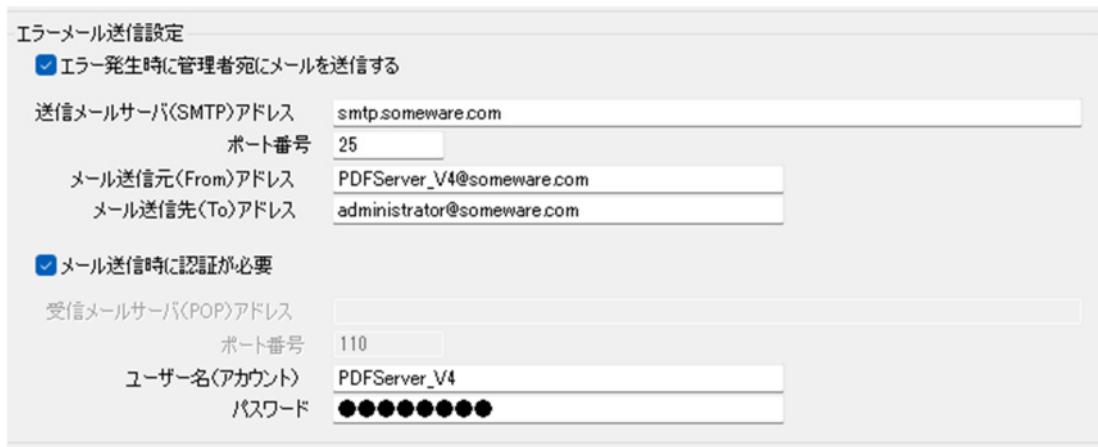
PDF Server サービスの動作を監視し、指定した時間（分）その状況に変化がない場合、システムが停止しているものと見なしログに記録します。また、同時にエラーメール送信設定がなされている場合には、管理者宛にメールを送信します。設定可能な値の範囲は、1~30 で、初期状態では、5 分に設定されています。

変換エラーを監視する

指定した回数連続して変換エラーを生じた場合、異常が発生しているものと見なし、これをログに記録します。また、同時にエラーメール送信設定がなされている場合には、管理者宛にメールを送信します。設定可能な値の範囲は、1~50 で、初期状態では、10 回に設定されています。

エラーメール送信設定

システムに関するエラーや、Office 文書を変換する際に変換エラーが発生した場合にログに記録すると同時に管理者宛にエラー報告メールを送信することができます。エラーメールを送信する場合には、チェックボックス「**エラー発生時に管理者宛にメールを送信する**」にチェックマークを付けます。なお、初期状態では、このチェックボックスにチェックマークは付いていません。



送信メールサーバ (SMTP) アドレスとポート番号

メールの送信に使用する SMTP サーバのアドレス、またはホスト名と通信に使用するポート番号をそれぞれのフィールドに入力します。ポート番号については、初期状態で、“25”に設定されています。

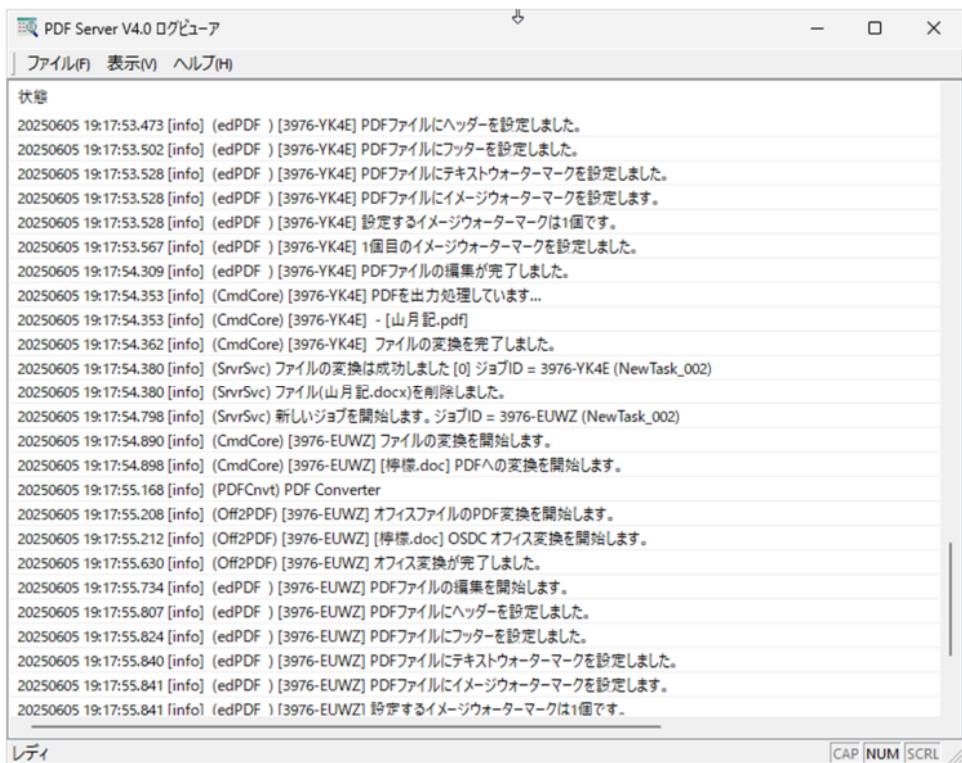
メール送信元 (From) アドレス	メール送信元のメールアドレスを入力します。
メール送信先 (To) アドレス	メール送信先のメールアドレスを入力します。
メール送信時に認証が必要	メール送信の際に送信メールサーバ (SMTP) との認証が必要な場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。
ユーザー名	POP サーバに接続するためのユーザー名を入力します。
パスワード	POP サーバに接続するためのパスワードを入力します。

PDF Server のログ

PDF Server では、トラブルが発生した際の原因究明する際の情報とするため、その動作についてのイベント情報をログファイルとして自動的に記録します。

次の手順に従って、ログを表示します。

1. [スタート]メニュー → [すべてのプログラム] → [Antenna House PDF Server V4.0] → [ログビューア] を選択して、「PDF Server V4.0 ログビューア」ウィンドウを表示します。ウィンドウには、現在作業中のタスクについての最新ログ（最大 999 行）が表示されます。



The screenshot shows the 'PDF Server V4.0 ログビューア' window. The window title is 'PDF Server V4.0 ログビューア'. The menu bar includes 'ファイル(F)', '表示(V)', and 'ヘルプ(H)'. The main area is titled '状態' (Status) and displays a log of events. The log entries are as follows:

```
20250605 19:17:53.473 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] PDFファイルにヘッダーを設定しました。
20250605 19:17:53.502 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] PDFファイルにフッターを設定しました。
20250605 19:17:53.528 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] PDFファイルにテキストウォーターマークを設定しました。
20250605 19:17:53.528 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] PDFファイルにイメージウォーターマークを設定します。
20250605 19:17:53.528 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] 設定するイメージウォーターマークは1個です。
20250605 19:17:53.567 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] 1個目のイメージウォーターマークを設定しました。
20250605 19:17:54.309 [info] (edPDF ) [3976-YK4E] PDFファイルの収集が完了しました。
20250605 19:17:54.353 [info] (CmdCore) [3976-YK4E] PDFを出力処理しています...
20250605 19:17:54.353 [info] (CmdCore) [3976-YK4E] - [山月記.pdf]
20250605 19:17:54.362 [info] (CmdCore) [3976-YK4E] ファイルの変換を完了しました。
20250605 19:17:54.380 [info] (SrvrSvc) ファイルの変換は成功しました [0] ジョブID = 3976-YK4E (NewTask_002)
20250605 19:17:54.380 [info] (SrvrSvc) ファイル(山月記.docx)を削除しました。
20250605 19:17:54.798 [info] (SrvrSvc) 新しいジョブを開始します。ジョブID = 3976-EUWZ (NewTask_002)
20250605 19:17:54.890 [info] (CmdCore) [3976-EUWZ] ファイルの変換を開始します。
20250605 19:17:54.898 [info] (CmdCore) [3976-EUWZ] [檜櫻.doc] PDFへの変換を開始します。
20250605 19:17:55.168 [info] (PDFCnvt) PDF Converter
20250605 19:17:55.208 [info] (Off2PDF) [3976-EUWZ] オフィスファイルのPDF変換を開始します。
20250605 19:17:55.212 [info] (Off2PDF) [3976-EUWZ] [檜櫻.doc] OSDC オフィス変換を開始します。
20250605 19:17:55.630 [info] (Off2PDF) [3976-EUWZ] オフィス変換が完了しました。
20250605 19:17:55.734 [info] (edPDF ) [3976-EUWZ] PDFファイルの収集を開始します。
20250605 19:17:55.807 [info] (edPDF ) [3976-EUWZ] PDFファイルにヘッダーを設定しました。
20250605 19:17:55.824 [info] (edPDF ) [3976-EUWZ] PDFファイルにフッターを設定しました。
20250605 19:17:55.840 [info] (edPDF ) [3976-EUWZ] PDFファイルにテキストウォーターマークを設定しました。
20250605 19:17:55.841 [info] (edPDF ) [3976-EUWZ] PDFファイルにイメージウォーターマークを設定します。
20250605 19:17:55.841 [info] (edPDF ) [3976-EUWZ] 設定するイメージウォーターマークは1個です。
```

「PDF Server V4.0 ログビューア」ウィンドウ

ログビューアの各行には、左から「日付」、「時刻」、「ログレベル」、「ログ」の順に出力されます。

PDF コンバーターを使ったダイアログ自動応答

PDF Server が、Office／アプリケーション文書の PDF ファイルへの変換処理を行っているとき、その文書ファイルに関連付けられているアプリケーションによってはユーザーによる応答が必要なダイアログやメッセージが表示される場合があります。通常、この様な状態に陥ると表示されたダイアログに応答があるまで次の処理に進むことができないため、処理対象がアプリケーション文書の場合にはタイムアウトが発生して処理に失敗し、オフィス文書の場合にはダイアログに応答があるまで待機し、処理が停滞します。

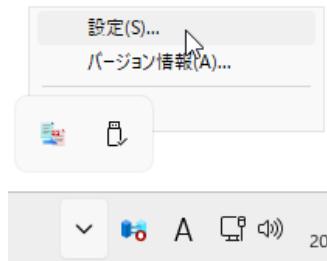
PDF Server ではタスク実行時に表示されるダイアログに対して、あらかじめ設定したボタンを自動的にクリックして応答することで、タスク処理を継続させることができます。

注意

アプリケーションが表示するダイアログによっては、ダイアログ自動応答機能では応答できないものがあります。

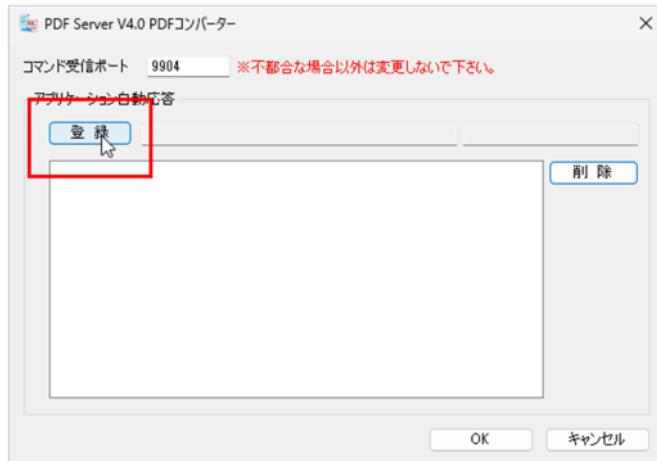
ダイアログ自動応答への登録方法

1. タスクに割り当てる変換設定の「アプリケーション変換設定」について、変換対象となる文書ファイルの拡張子を登録します。
2. 自動応答させるダイアログを表示します。変換対象となる適当な文書ファイルを開き、Ctrl + P を押下するなどして、「印刷」ダイアログを表示します。
3. タスクトレイの PDF コンバーターアイコンを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「設定…」を選択し、「PDF コンバーター設定」ダイアログを開きます。



4. 手順 2 で表示した「印刷」ダイアログ中の「印刷」、「キャンセル」など応答対象となるボタンがクリックできるようにそれぞれのダイアログの表示位置を調整します。

5. 「PDF コンバーター設定」ダイアログの「登録」ボタンをクリックします。

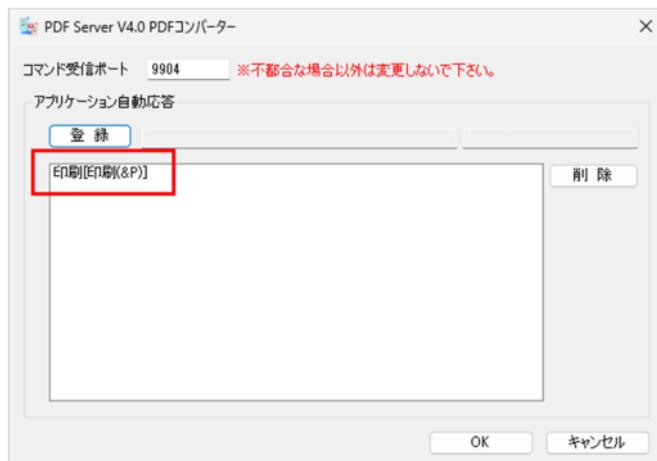


6. マウスカーソルの形状が、矢印から下図のように変化します。この状態で自動応答させたいダイアログ中のボタンをクリックします。



上の図の例では、「印刷」ダイアログの「印刷」ボタンをクリックしています。

7. 「印刷」ダイアログで選択されていたプリンタを使って印刷処理が実行されます。
8. 「PDF コンバーター設定」ダイアログに戻るとリストにクリックしたダイアログのタイトルとボタン名が登録されます。登録名は「ダイアログのタイトル名 [ボタン名]」となります。



9. 登録した応答設定を削除したい場合はリストから該当項目をクリックして選択した後、「削除」ボタンをクリックします。
10. 登録内容に問題がなければ、「OK」ボタンをクリックして設定を保存すると同時に「PDF コンバーター設定」ダイアログを閉じます。「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定を破棄した後、「PDF コンバーター設定」ダイアログを閉じます。

PDF スプリッタ 【プロフェッショナル/スタンダード版のみ】

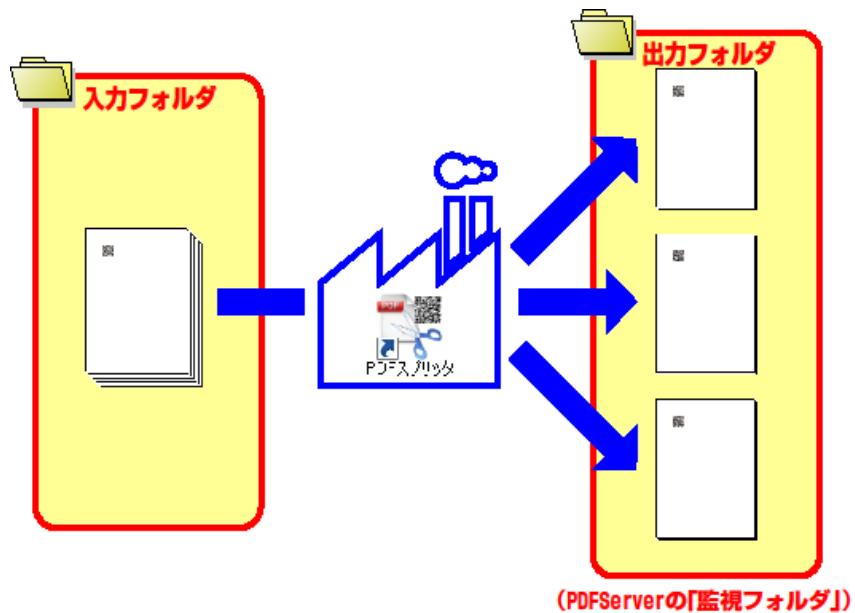
「PDF スプリッタ」は、PDF ファイル中の QR コードを区切りとして、複数の PDF ファイルに分割する PDF Server 用の支援ソフトウェアです。

※「PDF スプリッタ」は、コマンドライン版には付属していません。

PDF スプリッタの概要

「PDF スプリッタ」は、PDF ファイルをページ上にある PDF Server に準拠した QR コードを認識し、複数の PDF ファイルに分割するフォルダ監視型の PDF Server 用支援ソフトウェアです。

イメージスキャナなどを使って一括して取り込んで作成した PDF ファイルを文書ごとに独立した PDF ファイルに分割し PDF Server の監視フォルダに投入する際に利用することができます。



注意

- 「PDF スプリッタ」は、常駐ソフトウェアです。設定が完了している場合には、起動すると PDF スプリッタ設定画面を表示せず、タスクトレイにソフトウェアが起動していることを示すアイコンを表示します。
- PDF スプリッタは、PDF ファイルの各ページを一旦画像に変換して、QR コード認識処理を行った後、分割処理を行います。対象となる PDF ファイルのページサイズが大きかったり、高解像度でスキャンされた PDF ファイルの場合には、処理に必要なメモリの量が多くなるため、処理に時間を要します。

QR コードを認識して PDF ファイルを分割するには

以下の手順に従って、複数ページからなる PDF ファイルをページ上にある QR コードを認識し、複数の PDF ファイルに分割します。

「PDF スプリッタ」の起動

スタートメニューのすべてのプログラムの「Antenna House PDF Server V4.0」から「PDF スプリッタ」を選択するなどして起動します。



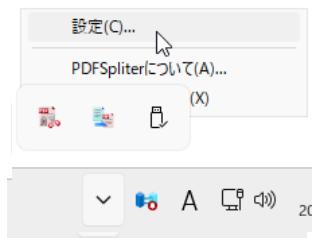
「PDF スプリッタ」を初めて起動した時など、なにも設定されていない場合には、以下に示す PDF スプリッタ設定画面が表示されます。



PDF スプリッタ-設定画面

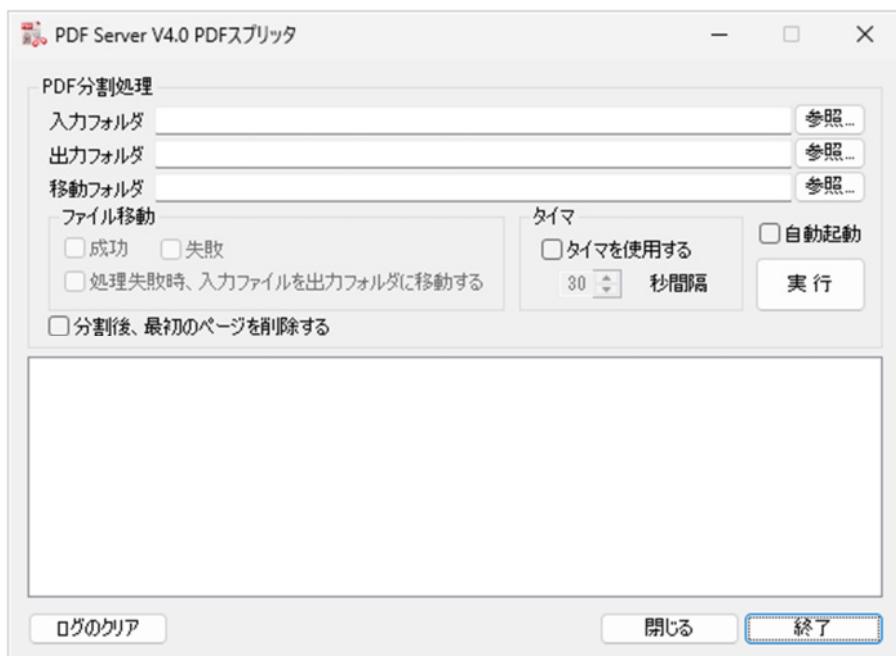
NOTE

PDF スプリッタは、設定後、起動すると設定画面を表示せずにタスクトレイに常駐します。そのような場合に PDF スプリッタの設定画面を開くには、タスクトレイのアイコンを右クリックして表示されるメニューから「設定」を選択します。



PDF スプリッタの設定

PDF スプリッタ設定画面を用いて、監視／出力フォルダなどの設定を行います。



PDF スプリッタ設定画面

入力フォルダ	分割対象となる PDF ファイルが保存されているフォルダです。フルパスを直接このフィールドに入力するか、フィールド右のボタン「参照…」をクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログボックスを用いて設定します。
出力フォルダ	分割した PDF ファイルを保存するフォルダです。入力フォルダと同様の方法で設定します。
移動フォルダ	分割処理を終えた PDF ファイルの移動先フォルダです。入力フォルダなどと同様の方法で設定します。 「移動フォルダ」を指定しない場合、または指定した「移動フォルダ」が存在しない場合には、分割対象となる PDF ファイルは削除されます。

ファイル移動

移動フォルダを設定したときのファイル処理後の対象ファイルの移動についてのオプション設定を行います。

成功	分割処理に成功した場合、移動フォルダ内に作成した「Success」フォルダに移動します。このオプションが選択されていない場合、成功時には入力ファイルは削除されます。
失敗	分割処理に失敗した場合、移動フォルダ内に作成した「Error」フォルダに移動します。このオプションが選択されていない場合、失敗時には入力ファイルは削除されます。
処理失敗時、入力ファイルを出力フォルダに移動する	分割処理に失敗した場合、移動フォルダ内に作成した「Error」フォルダではなく、出力フォルダに移動します。

タイマ

指定した入力フォルダを定期的に監視し、見つかった PDF ファイルについて分割処理を行うか否かを設定します。

タイマを使用する	このチェックボックスにチェックマークを付けると定期的に入力フォルダを監視し、見つかった PDF ファイルを分割します。
XX秒間隔	入力フォルダの内容をチェックする時間間隔です。指定できる値の範囲は、5 ~ 120 秒です。

自動起動

タイマ設定に応じて、PDF スプリッタを起動すると同時に分割処理を行います。

タイマを使用する場合	タイマ設定に従って、定期的に入力フォルダを監視し、PDF ファイルの分割処理を行います。
タイマを使用しない場合	起動直後に入力フォルダにある PDF ファイルを対象に 1 回だけ分割処理を行います。処理終了後は、待機状態となります。

実行／開始

このボタンをクリックして、フォルダ監視処理／分割処理を実行／開始します。また、処理中にはこのボタンの表記が「停止」に変化し、クリックしてフォルダ監視処理／分割処理を停止することができます。

分割後、最初のページを削除する

このチェックボックスにチェックマークを付けると分割して出力される PDF ファイルの先頭ページ (QR コードが存在するページ) を削除して出力します。

ログのクリア

画面下部のエリアに表示される動作ログをクリアします。なお、動作ログファイルは、PDF Server の「log」フォルダ内の「PDFSpliter」フォルダ内に保存されます。PDF Server インストール時にインストール先フォルダを変更しなかった場合には、以下のフォルダになります。

```
C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V4\log\PDFSpliter
```

閉じる

PDF スプリッタの設定画面を閉じます。再度、PDF スプリッタの設定画面を表示するには、タスクトレイの PDF スプリッタアイコンを右クリックして表示されるメニューから「設定…」を選択します。

終了

PDF スプリッタの設定画面を閉じ、PDF スプリッタを終了します。

ライセンス情報表示ツール

製品のサポートを受ける際、サポート窓口から PDF Server のシステムバージョン（Build 番号）についての情報の提供を求められることがあります。PDF Server のプロフェッショナル版など、コマンドライン版以外の場合には、コントロールセンターの「ヘルプ」メニューから「バージョン情報」を選択することで、簡単に確認することができます。

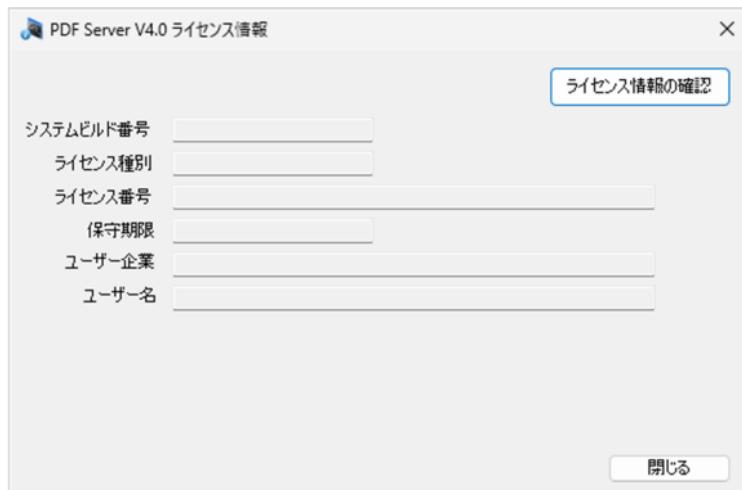
コマンドライン版の場合、コントロールセンターの代わりにシステム情報を確認するための専用ユーティリティ「AH PDF Server V4.0 バージョン情報」（Pdfs4LicenseInfo.exe）を用います。

使用方法は、以下の通りです。

1. デスクトップ上にあるショートカット「PDF Server V4.0 ライセンス情報」をダブルクリックするか、スタートメニューの「すべてのプログラム」>「Antenna House PDF Server V4.0」>「ライセンス情報」を選択して起動します。



PDF Server V4.0 ライセンス情報 ショートカットアイコン



「PDF Server V4.0 ライセンス情報」画面

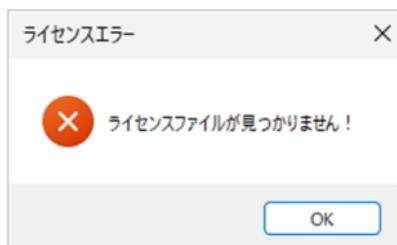
2. 画面上の「ライセンス情報の確認」ボタンをクリックして、現在インストールされている PDF Server の詳細なバージョン番号や、保守期限などについての情報を表示します。



「PDF Server V4 バージョン情報」画面

注意

環境によっては、管理者以外のユーザー権限で実行した場合、ライセンスが正しくインストールされていても、以下のエラーメッセージが表示され、ライセンス情報が取得できない場合があります。その場合には、製品のインストールフォルダに保存されているライセンス情報表示ツールを管理者として実行して利用してください。



トラブルシューティング

Q1. PDF Server コントロールセンターを起動するとウィンドウのタイトルに「評価版」と表示されます。これはなぜですか？

A1. 製品版のライセンスファイルがインストールされていないようです。製品をインストールした後、ライセンスファイルのインストールを行っていない場合、PDF Server は「評価版」として機能します。（「評価版」の PDF Server によって出力される PDF ファイルには、赤字で「AH PDF Server V4」という透かしがあります。）製品購入時、またはライセンス更新時に入手されたライセンスファイルをインストールしてください。

Q2. 付属の PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」を自分のコンピュータにインストールし、これを使って Office ファイルから PDF ファイルを作成すると出力される PDF ファイルに赤字で「Antenna House PDF Driver」という透かしがあります。同じ Office ファイルを PDF Server を使って PDF に変換した場合には、この透かしが入りません。これはなぜですか？

A2. 製品に付属の PDF ドライバは、PDF Server 専用となっております。お問い合わせにあるようにこれをプリンタとして選択し、印刷するとドライバは「評価版」として機能します。そのため、出力される PDF ファイルのすべてのページに評価版で出力されたことを示す「Antenna House PDF Driver」という透かしが設定されます。

Q3. 監視フォルダにファイルを入れても、ファイルが処理されません。なぜですか？

A3. 処理対象のタスクが開始しているか、確認してください。

対象となるファイルが、入力ファイル形式としてタスクに設定されていることを確認してください。なお、処理対象となるファイル形式は、以下の通りです。

【イメージファイル】BMP / TIFF (Multi-TIFF) / JPEG / PNG / JPEG2000

【アプリケーションファイル】PDF / Microsoft Word / Microsoft Excel / Microsoft PowerPoint / TEXT/XML/「アプリケーション変換設定」画面に登録されている拡張子のアプリケーション文書ファイル

対象となるファイルが、変換除外ファイル設定の対象となっていないか確認してください。

タスクに設定されている監視フォルダとして Windows ネットワーク共有フォルダが指定されている場合、このフォルダにアクセスできることを確認してください。

タスク開始後、タスクに設定されているインターバル（時間）が経過していることを確認してください。PDF Server は、タスクを開始と同時に監視フォルダをチェック

するわけではなく、タスクに設定されているインターバル時間が経過した後、初めてチェックします。

- Q4. しおりや文書情報などが設定してある PDF ファイルを処理させると、出力された PDF ファイルに元のしおりや文書情報が削除されることがあります。なぜですか？
- A4. PDF ファイルを処理する場合、対象となる PDF ファイルから、ファイルを構成するページを抽出し、これに処理を加えた後、オリジナルのファイルと同じページ構成の新しいファイルを作成します。その際、PDF Server による処理によって出力されるファイルには、元ファイルを構成するページとしおり／注釈／フォームはコピーされますが、これら以外の JavaScript や添付ファイルなどは抜け落ちる（削除される）ことになります。文書情報に関しては変換設定「文書情報設定」で「入力ファイルが PDF の場合、文書情報をコピーする」が設定されている場合は元ファイルから作成されるファイルに文書情報がコピーされます。但し、ファイル結合が設定されている場合は、出力されるファイルの先頭ページにあたる元ファイルの PDF の文書情報がコピーされるので、このファイルに文書情報が設定されていなければなりません。
- Q5. OCR 処理された PDF ファイルを開いてもその結果として生成されているはずのテキストが画面上に全く表示されません。なぜですか？
- A5. OCR 処理によって PDF ファイルに埋め込まれるテキストは、すべて「透明」（非表示）の状態で設定されます。PDF 閲覧ソフトのテキスト選択ツールで何も選択することができない場合には、OCR 処理によって全くテキストが抽出できなかったことを意味します。
- Q6. OCR 処理したのですが、文字を正しく読み取ってくれません。文字認識率を向上させるにはどうすればよいですか？
- A6. OCR 文字認識率は、原稿の状態、原稿の内容（手書きや、原稿が斜めになっている）、及び原稿をスキャンする時の設定条件などにより大きく変化します（本製品が搭載している OCR エンジンは、活字文書用です。従って、手書き文字はほとんど認識することができません）。文字認識率を向上させるために以下をお試しください。ただし、下記の事項を試したことによって向上する文字認識率には限度があることをあらかじめご了承ください。
1. 原稿をスキャンする解像度を変更する。
9 ～ 12 ポイント程度の大きさの文字の場合であれば、144 ～ 300 dpi 程度の解像度でスキャンします。600dpi など、より高い解像度でスキャンした場合、逆に認識率が低下する場合があります。

2. スキャン時のコントラストの設定を高めにする。
3. スキャン時の濃度設定を濃くする。
4. 原稿の傾きができるだけ少なくなるようにスキャンする。
5. カラー画像をモノクロ／グレースケール画像に変換する。
6. OCR エンジン設定の“解像度”オプションを変更する。
7. OCR エンジン設定の“傾き補正”、“回転補正”オプションを設定し、正立した状態で処理されるようにする。

Q7. 出力されたテキストファイルが白紙で出力されることがあります。なぜですか？

A7. OCR 認識文字列のないファイルの場合、テキストファイルの設定で文書情報の設定のオプションを設定していない時、白紙で出力されます。

Q8. “自動で回転補正を行う”を設定しても、意図しない方向に回転してしまうことがあります。なぜですか？

A8. この機能は、完全なものではなく、限度があることをあらかじめご了承ください。原稿の状態やスキャンした画像の内容により、誤認識が発生し、“自動回転補正”が正しく機能しない場合があります。その場合には、このオプションを解除し、回転方向を指示するか、回転する必要がない正立した原稿を投入してください。

Q9. 高圧縮 PDF 出力したファイルを Acrobat を使って印刷するとメモリが大量に消費され、印刷時間も非常に遅くなります。もっと早く印刷する方法はありませんか？

A9. 高圧縮 PDF ファイルは、その内容によっては非常に数多くのオブジェクトによってページを構成することができます。Acrobat がそのようなページを印刷する際には、大量のメモリを必要とし、時間を要します。これを避けるには、Acrobat の印刷ダイアログにあるボタン「詳細設定」をクリックして表示される「詳細設定」画面にあるオプション「画像として印刷」を指定します。これにより、印刷時間を短縮することができます。注意：印刷に用いるプリンタが、PostScript 対応の場合、このオプションを用いると高品質な印刷を行うことができません。

Q10. コンピュータを起動すると自動的に PDF Server を「開始」状態になるように設定することはできませんか？

A10. 製品インストール直後の状態では、PDF Server は手動で起動するように設定されています。これをコンピュータの起動と同時に開始させるには、Windows コントロールパネル「管理ツール」にある「サービス」を使って行います。管理ツールを使って、サービス「AH PDF Server V4 Service」の「スタートアップの状態」を「自動」に変更します。また、サービス開始と同時にタスクを開始するには、PDF Server コント

ロールセンターの「共通設定」—「起動時のタスク状態」で設定します。

Q11. コンピュータを起動するだけでログオンすることなく PDF Server による処理を行うことはできますか？

A11. PDF Driver を使用して PDF コンバーター経由で Office 文書やその他のアプリケーションの文書を PDF ファイルに変換する場合は、必ずログオンしなければなりません。

Q12. Office 文書の PDF 変換を行うのですが、コンピュータを常時ログオンした状態で運用することにセキュリティ面での不安があります。そこで、Windows の画面をロックした状態で運用しようと考えているのですが、そのような状態でも Office 文書の PDF 変換を行うことは可能でしょうか？

A12. 可能です。一度ログオンしてしまえば、画面をロックした状態でも Office 文書を PDF ファイルに変換することができます。

Q13. Office 文書の PDF 変換を行うのですが、変換に失敗してしまいます。

A13. 「タスクマネージャ」の「プロセス」タブ画面を表示し、製品付属の常駐アプリケーション「PDF コンバーター (PDFConverter.exe)」のプロセスが 1 つだけ動作していることを確認してください（動作中には、タスクトレイにアイコンが表示されます）。PDF コンバーターが、動作していない状態や複数の PDF コンバーターのプロセスが動作している状態では、Office 文書／アプリケーション文書を PDF ファイルに変換することができません。動作していないときには、Windows の「スタート」メニュー > 「すべてのプログラム」> 「スタートアップ」> 「PDF コンバーター」を選択してこれを起動してください。また、複数の PDF コンバーターのプロセスが動作している場合には、ログオンしているユーザー以外の PDF コンバーターのプロセスを終了してください。

Q14. MS Excel ファイルの全シートを PDF ファイルに変換する設定を行って処理させるのですが、エラーが発生し PDF ファイルが出力されません。

A14. 複数のワークシートを持つ Excel ファイルで、ワークシートとワークシートの間に空のワークシートが挟まっている場合、エラーを生じ PDF ファイルを出力することができません。お手数ですが、空のワークシートを削除するか、ワークシートの順番を変更し、空のワークシートを最後に移動してください。

Q15. MS Word ファイルに設定されている「変更履歴」や「コメント」が、PDF ファイルに出力されません。「変更履歴」や「コメント」がついた状態の PDF ファイルを作成することはできませんか？

A15. 「オフィス変換設定」の「Word」画面のチェックボックス「変更履歴／コメントを出力する」にチェックすることで、変更履歴／コメントを PDF ファイルに出力することができます。

Q16. 変換したファイルの出力先フォルダをローカルディスク上のフォルダから、ファイルサーバ上の共有フォルダに変更したところ、エラーが発生してファイルを出力できません。エクスプローラから、この共有フォルダへエラーを生じることなくファイルの読み書きができます。なにか、設定を間違えたのでしょうか？

A16. PDF Server は、通常のアプリケーションとは異なり、サービスアプリケーションです。そのため、ユーザーがエクスプローラでファイルを操作するのとは異なり、PDF Server が動作している PC のローカルアカウントによってファイルを操作しています。また、サービスの様にシステムに常駐するようなソフトウェアを介して、システム内部からの攻撃を防御する為、セキュリティ監査のチェックが、厳しくなっています。これは、Microsoft のセキュリティポリシーによるものです。ネットワークドライブを監視／出力フォルダとして用いる場合には、上で説明したセキュリティポリシーを変更する必要があります。セキュリティポリシーの変更は、システム内部からの攻撃を可能とする変更を行うため、セキュリティの面からお勧めできません。このことを十分理解した上、設定を行ってください。

1. PDF Server を動作させる「Administrator」以外の管理者権限を持つアカウントを用意します。
2. 手順 1 で用意したアカウントに対してパスワードを設定します。
3. 手順 1 で用意したアカウントでサービスとしてログオンできるように設定します。その手順は、以下の通り。
 - (ア) コントロールパネル「管理ツール」内にある管理コンソール「ローカルセキュリティポリシー」を開きます。
 - (イ) 「ローカルポリシー」>「ユーザー権利の割り当て」を選択して画面右に表示されるリストにある「サービスとしてログオン」をダブルクリックして開きます。
 - (ウ) 表示される画面の「ローカルセキュリティの設定」タブ画面にあるボタン「ユーザーまたはグループの追加」をクリックして表示される画面を使って、手順 1 で用意したアカウントを追加します。
4. PDF Server のサービス (AH PDF Server V4 Service) の実行権限を手順 1 で用意したユーザーに与えます。その手順は、以下の通り。
 - (ア) コントロールパネル「管理ツール」内にある管理コンソール「サービス」を開きます。

- (イ) サービス「AH PDF Server V4 Service」をダブルクリックして開きます。
- (ウ) 「ログイン」タブをクリックして表示される画面を使って、ログオンアカウントを設定します。
5. ネットワークドライブを所有する PC（サーバ）にも手順 1 で設定したログインユーザとパスワードを設定します。通常、この状態であればネットワークドライブをアクセスする際にユーザ名とパスワードの入力を求められる事なくアクセス出来ると思います。もし、アクセスできない場合には、上記のいずれかの設定が間違っている可能性がありますので、再度確認して下さい。
- なお、「Administrator」は、特別なアカウントなのでこれを使用することは避けてください。

- Q17. ネットワークドライブ上のフォルダを入力（監視）/出力フォルダにそれぞれ指定すると、監視動作でエラーが発生します。
- A17. ネットワークドライブ上のフォルダを入力（監視）／出力フォルダに指定する場合には、UNC 形式（¥¥コンピューター名¥共有フォルダ名）で指定して下さい。
- Q18. マニュアルの記述に従って PDF コンバーターをタスクスケジューラに登録したのですが、ログオンしてもすぐには PDF コンバーターが起動しません。PDF コンバータをログオンしてすぐに起動させるにはどうすればよいですか？
- A18. これは、タスクスケジューラから起動されるプロセスの基本優先度が「通常以下」となることが原因です。御利用の環境によっては、インストールされているソフトウェアの優先度により、PDF コンバーターの起動に時間を要する場合があります。タスクスケジューラには、タスクの優先度を編集するための設定項目がないため、以下の方法によってタスクの編集・設定を行います。
1. マニュアルの記述にしたがい、タスクスケジューラを使って PDF コンバーターを起動するタスクを設定します。
 2. 作成したタスクを XML ファイルとしてエクスポートすると同時にこれを削除します。
 3. エクスポートした XML ファイルをメモ帳など、適当なテキストエディタを用いて編集します。編集箇所は、<Task> → <Settings> → <Priority> にある値です。（例の場合には「7」になります。）基本優先度を「通常」に設定するには<Priority>の値を「7」から「6」に変更した後、上書き保存します。
 4. 手順 3 で保存した XML ファイルをインポートします。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<Task version="1.2" xmlns="http://schemas.microsoft.com/...">
:
<Settings>
:
<Priority>7</Priority>
</Settings>
:
</Task>

```

XML ファイルの例

なお、Priority の値とプロセスの基本優先度の関係は以下の通りです。

Priority	基本優先度
0	リアルタイム
1	高
3	通常以上
6	通常
7	通常以下
9	低

注意

優先度の設定には十分注意してください。優先度を“0(リアルタイム)”に設定すると PDF コンバータのプロセスが全ての CPU リソースを占有することになるため、他のプロセスが遅くなる可能性があります。また、優先度を上げすぎるとシステム全体の安定性に影響を及ぼす可能性があります。

参考： TaskSettings.Priority プロパティ

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/taskschd/tasksettings-priority>

付録

- [ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字](#)
- [PDF Server の対応画像形式について](#)
- [PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 8.0」の印刷設定](#)

ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字

ヘッダ／フッタに設定できる、現在の日付／ファイル名／ページ番号等と置き換えられる特殊文字列の書式について説明します。特殊文字列は、以下の書式から成る半角英数字の文字列で表されます。

%+設定項目（英大文字） + フォーマットオプション

「PDF Server」で用意されている特殊文字列は以下の通りです。

特に日付／時刻を表す項目では、それぞれに用意されているオプション番号によって表示形式を指定することができます。日付及び、時刻のオプションについては次項を参照して下さい。

記号	設定内容	オプション番号
%D	現在の日付	01～07
%T	現在の時刻	01～05
%F	PDF ファイル名	01 拡張子あり 02 拡張子なし
%N	現在のページ番号	
%U	PDF ファイルの総ページ数	
%L	PDF 文書情報:タイトル	
%B	PDF 文書情報:サブタイトル	
%A	PDF 文書情報:作成者	
%K	PDF 文書情報:キーワード	
%C	PDF 文書情報:作成	
%P	PDF 文書情報:PDF 変換	
%E	PDF 文書情報:作成日付	01～07
%G	PDF 文書情報:作成時刻	01～05
%M	PDF 文書情報:更新日付	01～07
%R	PDF 文書情報:更新時刻	01～05

MEMO

ヘッダ／フッタに設定する文字列中に "%" を使用するには、"%%" と入力します。

日付のフォーマットオプションについて

日付の表示形式のオプションとして、以下にあげる 7 種類が用意されています。

オプション	設定例
01	2025/5/14
02	2025/05
03	5 月 14, 25 (水曜日)
04	5, 14, 25 (水)
05	2025 年 5 月 14 日[水曜日]
06	令 07.05.14[水]
07	R07.05.14

時刻のフォーマットオプションについて

時刻の表示形式のオプションとして、以下にあげる 5 種類が用意されています。

オプション	設定例
01	15:08:45
02	15:08
03	3:08 pm
04	03:08 PM
05	午後 03 時 08 分 45 秒

PDF Server の対応画像形式について

以下に PDF Server が対応している (PDF ファイルに変換可能な) 画像ファイルについての情報を示します。BMP/JPEG/JPEG2000/PNG/TIFF であっても、以下のリストに含まれないフォーマットである場合、PDF ファイルに変換できないなどの現象が生じることがあります。

	Color Depth (bit)	Color Model	圧縮方法
BMP	24/8/4/1	RGB/Grayscale	RLE
JPEG	24	RGB/Grayscale	—
JPEG2000	24	RGB/Grayscale	—
PNG	24	RGB	—
	8/4	Index Color	
	1	Black & White	
TIFF	32	CMYK	JPEG/LZW/Packbits/ZIP
	24	RGB	
		Lab	
	8/4	Index Color	LZW/Packbits/ZIP
	8	Grayscale	
	1	Black & White	G3/G4/RLE

対応画像の表

PDF 生成仮想プリンタ ドライバ 「Antenna House PDF Driver 8.0」 の 印刷設定

「Antenna House PDF Driver 8.0」は、Office 文書ファイルやアプリケーション文書ファイルを PDF ファイルとして出力するために使用する仮想プリンタドライバソフトウェアです。

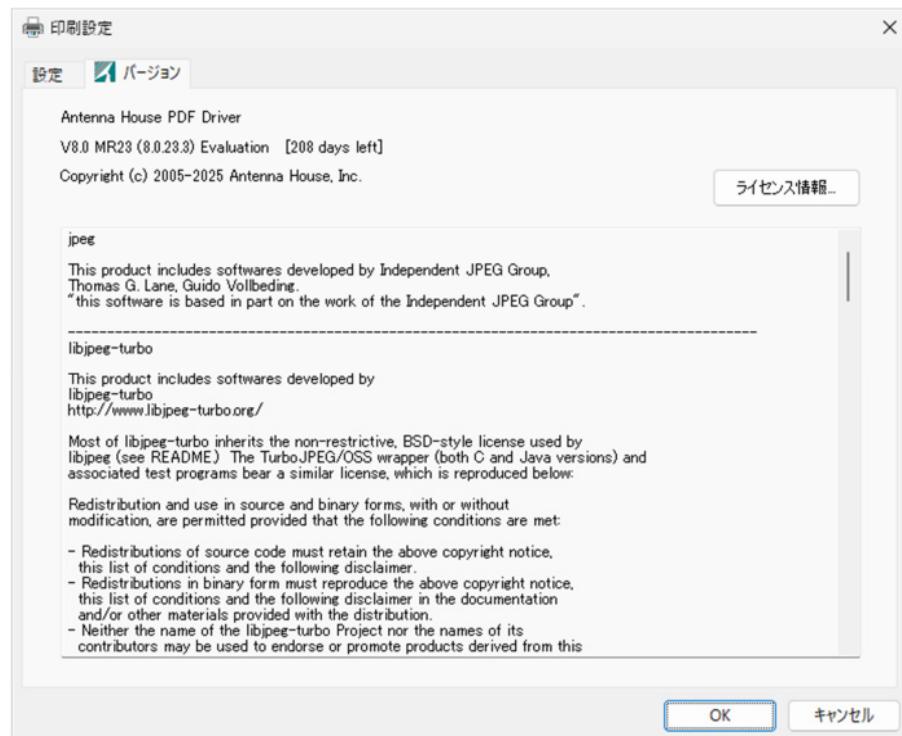
ここでは、「Antenna House PDF Driver 8.0」を用いて、文書ファイルを PDF ファイルとして保存する際の「印刷設定」について説明します。

「印刷設定」は、「変換設定」の「PDF Driver 設定」画面にある「設定」ボタンをクリックして表示される「Antenna House PDF Driver 8.0 の印刷設定」ダイアログボックスを用いて行います。



「Antenna House PDF Driver 8.0 の印刷設定」ダイアログボックス

「バージョン」タブ画面には、プリンタドライバのバージョン情報が表示されます。



バージョン情報画面

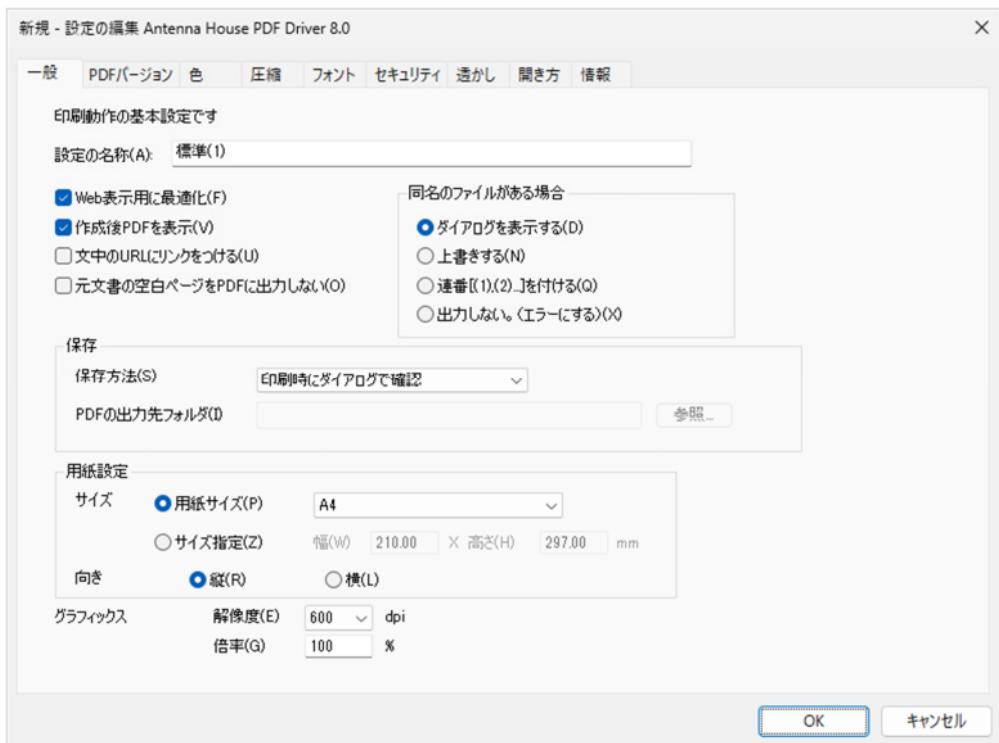
Antenna House PDF Driver 8.0 の印刷設定について

「設定」ダイアログボックスを使って、出力される PDF ファイルの用紙サイズ、ページの向き、セキュリティオプションなど、出力する PDF ファイルに付いての設定を行います。

次の手順で、「設定」ダイアログボックスを表示します：

「印刷」ダイアログボックスの「プロパティ」ボタンをクリックする等して、「Antenna House PDF Driver 8.0 の印刷設定」ダイアログボックスを開きます。

リストから編集したい設定を選択した後、編集ボタンをクリックするか、新規ボタンをクリックして、「設定」ダイアログボックスを開きます。



「Antenna House PDF Driver 設定」ダイアログボックス（「一般」画面）

このダイアログボックスのそれぞれのタブの画面を用いて設定できる項目は、以下の通りです。

一般	印刷設定の名称、出力する PDF ファイルの用紙サイズ／ページの向き／画像解像度、ファイルの保存先／保存方法についての設定を行います。
----	---

PDF バージョン	出力する PDF ファイルのバージョン、PDF/A や PDF/X で出力する際のプロファイル、仕上がり／裁ち落としサイズの設定を行います。
色	出力する PDF ファイルの色に関する設定を行います。
圧縮	PDF ファイルの圧縮に関する設定を行います。
フォント	PDF ファイルへのフォント埋め込みについての設定を行います。
セキュリティ	パスワード等、PDF ファイルに設定するセキュリティオプションについての設定を行います。
透かし	ページ上に設定する透かし（ウォータマーク）についての設定を行います。
開き方	PDF ファイルを開いたときの状態（開き方）の設定を行います。
情報	PDF ファイルに埋め込む文書情報（メタデータ）についての設定を行います。

一般



この画面を用いて、印刷設定の名称、出力される PDF ファイルの保存先／保存方法などについての設定を行います。

Web 表示用に最適化

作成した PDF ファイルをバイトサービングに対応した Web サーバで公開する際、Web サーバからページ単位でダウンロード（バイトサービング）できるよう最適化（リニアライズ）処理を行って出力します。

作成後 PDF を表示

PDF ファイル出力後、出力した PDF ファイルを Adobe Reader など、コンピュータにインストールされている拡張子「PDF」に関連付けられているアプリケーションを使って開きます。

なお、PDF Server を用いた PDF 変換を実施する際、このオプションを設定しても機能しません。（作成後、PDF ファイルは表示されません。）

文中の URL にリンクをつける

PDF ファイルの作成対象となる文書中に、「<http://>」、または、「<https://>」で始まる文字列を検出した場合、出力する PDF ファイル中の該当箇所に URL リンクを設定します。URL 文字列の中に改行が含まれたり、文字間が離れているなど、文書の内容、また印刷に用いるアプリケーションによっては、URL リンクが正しく設定されない場合があります。

元文書の空白ページを PDF に出力しない

Microsoft Word／Microsoft Excel／一太郎文書から PDF ファイルを出力する場合、その文書にある空白ページを PDF ファイルに出力しません。なお、ここで言う空白ページとは、以下のものを指します。

Word/一太郎	改行／空白文字以外の文字、画像、オートシェイプ、表、ヘッダ／フッタ、ページ番号、改ページのどれもが存在しないページ
Excel	図形／画像、改行／空白文字以外の文字、罫線／色の指定、ヘッダ／フッタ、ページ番号のどれもが存在しないページ

この機能を Microsoft Office 専用アドインを用いて PDF ファイルを作成する際に用いると、出力した PDF ファイル中のしおりやハイパーリンクの飛び先ページが正しく機能しなくなることがあります。

同名のファイルがある場合

PDF ファイルの出力先フォルダに既に同名の PDF ファイルが存在する場合の処理を設定します。

ダイアログを表示する	画面中程の「保存方法」で指定されている「PDF の出力先 フォルダ」に同名の PDF ファイルが存在する場合、上書きするか否かを確認するメッセージが表示されます。この確認メッセージに対し「いいえ」で応答すると、「名前を付けて保存」ダイアログが表示され別名を付けて保存することができます。
上書きする	警告ダイアログなどを表示することなく無条件に上書き保存します。当然のことながら、このオプションを有効にした場合、出力先フォルダにある既存の同名の PDF ファイルは失われてしまいますので、ご注意ください。

連番「(1),(2)…」を付ける	<p>画面中程の「保存方法」で出力先フォルダを指定している場合には、警告ダイアログなどを表示することなく出力ファイル名に連番を付与して新たな PDF ファイルとして保存します。例えば、既に出力先フォルダに「Sample.pdf」が存在しているときに同名の文書ファイルを印刷すると、出力される PDF ファイル名は「Sample(1).pdf」となります。</p> <p>画面中ほどに「保存方法」で「印刷時にダイアログで確認」を指定している場合、表示される「名前を付けて保存」ダイアログの「ファイル名」に表示される初期値が「Sample(1).pdf」のように連番が付与された名称となります。</p>
出力しない。(エラーにする)	<p>既に出力先フォルダに同名の PDF ファイルが存在する場合は、PDF ファイルの出力をに行いません。なお、PDF Server を用いた PDF 変換を実施する際、このオプションを設定しても機能しません。(PDF Server のタスク設定、「出力ファイル設定」画面のファイル名設定に従った処理がなされます。)</p>

保存

出力される PDF ファイルの保存方法を設定します。なお、PDF Server を用いた PDF 変換を実施する際、この設定ではなく PDF Server のタスク設定、「出力ファイル設定」画面のファイル名設定に従った処理がなされます。)

印刷時にダイアログで確認	<p>PDF ファイルの出力時に「名前を付けて保存」ダイアログボックスを表示し、出力される PDF ファイルのファイル名／保存場所を選択できるようにします。</p>
出力先フォルダを指定する	<p>フィールド「PDF の出力先フォルダ」で指定されているパスを出力される PDF ファイルの保存先フォルダに指定します。</p>

PDF の出力先フォルダ

このフィールドに直接出力される PDF ファイルの保存先フォルダのフルパスを入力するか、フィールド右の「参照」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログボックスを用いて保存先フォルダを指定します。

用紙設定

「メモ帳」など、用紙サイズやページの向きを設定する機能を持たないアプリケーションから PDF ファイルを出力する際の用紙サイズ／ページの向きを設定します。出力する用紙サイズの幅／高さ（mm 単位）を指定した場合には、ページの向きを設定することはできません。

グラフィックス

プリンタのグラフィックスの解像度と倍率を指定します。

解像度

プリンタの解像度を設定します。この設定により 1 ページ全体に表示できる画像のピクセル数が変化します。解像度が高くなるにつれ、処理時間が長くなり、出力される PDF ファイルのファイルサイズが大きくなる場合があります。

解像度の単位、dpi (dots per inch) とは、1 インチ (25.4mm) の長さをいくつの点（ピクセル）で表現するかを示すものです。この数値が大きいほど、データ量は大きくなりますが、きめ細かな表現をすることができます

倍率

プリンタの倍率を設定します。この設定により元文書の出力倍率が変化します。

注意：用紙サイズと解像度

プリンタが出力するときのピクセル数は、「用紙サイズ（インチ換算）×解像度」で決まります。この値が非常に大きくなる設定を行うと印刷が行われず PDF ファイルが出力されない場合があります。そのような場合は、用紙サイズを小さくするか、解像度に低い値を設定してください。設定値の目安は、「用紙サイズ（縦）×解像度」、「用紙サイズ（横）×解像度」が 16-bit の上限である「65,535」より小さな値です。

参考：

3,600dpi の場合には約 460mm、600dpi の場合には約 2,750mm が上限値となります。

PDF バージョン



この画面を使って、出力される PDF ファイルの PDF バージョンについての設定を行います。

MEMO

「PDF のバージョン」で、PDF1.6 以降のバージョンを選択した状態でセキュリティの設定を行うと自動的に出力される PDF ファイルの暗号化方式として AES 暗号化方式が採用されます。

PDF のバージョン

Antenna House PDF Driver 8.0 が output する PDF のバージョンを設定します。

PDF のバージョン	備考
1.3	Adobe Acrobat 4.x 以降に対応
1.4	Adobe Acrobat 5.x 以降に対応
1.5	Adobe Acrobat 6.x 以降に対応
1.6	Adobe Acrobat 7.x 以降に対応

PDF のバージョン	備考
1.7 (初期設定値)	Adobe Acrobat 8.x 以降に対応
2.0	Adobe Acrobat DC (2019) 以降に対応
PDF/A-1b	ISO 19005-1 のレベル B に準拠した PDF/A-1b(PDF 1.4)の PDF ファイルを出力します。
PDF/A-2b	ISO 19005-1 のレベル B に準拠した PDF/A-2b(PDF 1.7)の PDF ファイルを出力します。
PDF/X-1a:2001	PDF/X-1a:2001 に準拠した PDF ファイルを出力します。
PDF/X-1a:2003	PDF/X-1a:2003 に準拠した PDF ファイルを出力します。
PDF/X-3:2002	PDF/X-3:2002 に準拠した PDF ファイルを出力します。
PDF/X-3:2003	PDF/X-3:2003 に準拠した PDF ファイルを出力します。
PDF/X-4:2008	PDF/X-4:2008 に準拠した PDF ファイルを出力します。

注意

- PDF Server のアプリケーション／オフィス変換によって PDF/A-1b、PDF/X を出力するには、変換に用いる変換設定の「PDF Driver 設定」のチェックボックス「出力 PDF ファイルに出力設定の PDF 設定を適用しない」にチェックマークを付ける必要があります。
- PDF Ver.1.3 を指定した場合、Acrobat Reader Ver.4.x 以降で表示できる PDF ファイルを出力します。このとき、出力される PDF ファイル中の Microsoft Office のオートシェイプの半透明に該当する部分などが、正しく表示できない場合があります。
- Antenna House PDF Driver 8.0 は、ISO 19005-1 のレベル B に準拠した仕様である「PDF/A-1b」の出力に対応しています。これと、ISO 19005-1 に準拠した仕様「PDF/A-1a」との違いは以下の通りです。

	PDF/A-1a	PDF/A-1b
フォントはすべて埋め込まなければならない	○	○
タグ付けされていなければならない	○	×
XMP 準拠のメタデータを含んでいなければならない	○	○
暗号化してはならない	○	○
LZW 圧縮してはならない	○	○

	PDF/A-1a	PDF/A-1b
透明な画像を含んではならない	○	○
外部コンテンツを参照してはならない	○	○
JavaScript を含んではならない	○	○

- Antenna House PDF Driver 8.0 は、ISO 19005-2 のレベル B に準拠した仕様である「PDF/A-2b」の出力に対応しています。「PDF/A-1b」の仕様に加えて「PDF/A-2b」で追加された仕様は以下の通りです。

	PDF/A-1b	PDF/A-2b
JPEG2000 圧縮してもよい	×	○
透明オブジェクトを含んでもよい	×	○
PDF/A 準拠の添付コンテンツを含んでもよい	×	○
オプショナルコンテンツ（レイヤー）を含んでもよい	×	○

- Antenna House PDF Driver 8.0 は、ISO 15930 で規定された仕様である「PDF/X-1a:2001」、「PDF/X-1a:2003」、「PDF/X-3:2002」、「PDF/X-3:2003」、「PDF/X-4:2008」の出力に対応しています。

	PDF/X-4:2008	PDF/X-3:2003	PDF/X-3:2002	PDF/X-1a:2003	PDF/X-1a:2001
相当する PDF バージョン	1.3	1.4	1.3	1.4	1.6
文書情報の「タイトル」	必須	必須	必須	必須	必須
CMYK／スポットカラーの使用	×	×	○	○	○
グレースケールの使用	○	○	○	○	○
RGB の使用	×	×	○	○	○
出力インテントが指定されていなければならぬ	○	○	○	○	○

出力インテントとして指定された ICC プロファイルを埋め込まなければならない	×	×	○	○	○
フォントは全て埋め込まなければならない	○	○	○	○	○
暗号化してはならない	○	○	○	○	○
透明のサポート	×	×	○	○	○
外部コンテンツを参照してはならない	○	○	○	○	○
アクションや JavaScript を含んではならない	○	○	○	○	○
リンクや注釈などを含んではならない	○	○	○	○	○

PDF/A、PDF/X でエラーがあった場合に処理を打ち切る

文書中で用いられているすべてのフォントを埋め込めないなど、PDF/A、PDF/X に準拠した PDF ファイルの作成ができない場合に処理を打ち切ります。

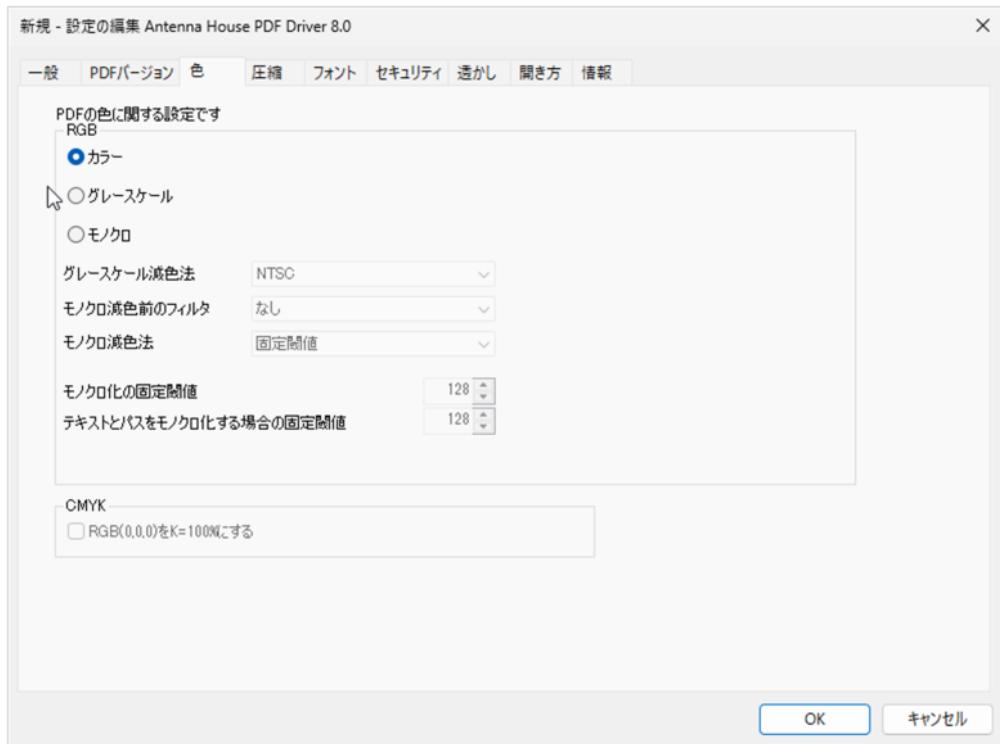
出力インテントのプロファイル

PDF のバージョンとして「PDF/A」、「PDF/X」を選択した場合に使用する ICC プロファイルを指定します。

仕上がりサイズ／裁ち落としサイズ

「PDF/A」、「PDF/X」を選択した場合に出力する PDF ファイルの仕上がりサイズ／裁ち落としサイズを設定します。用紙サイズからのオフセットの値は、ページ端からページ中心に向かう正の値で指定します。

色



この画面を使って、出力する PDF ファイルの色についての設定を行います。

RGB

カラーモデルが RGB についての設定をします。

カラー	元文書のカラー情報で PDF ファイルの出力を行います。
グレースケール	<p>グレースケールに変換して PDF 出力を行います。このオプションを選択する際には、カラーをグレースケールに変換するためのアルゴリズムを「グレースケール減色法」から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">「PDF バージョン」タブ画面で、「PDF のバージョン」として「PDF/A」、または「PDF/X」が指定されている場合、グレースケールへの変換は行われません。「透かし」タブ画面で、透かしの種類として「図」が、その際の画像ファイルとして「PDF ファイル」が指定されている場合、透かし部分のグレースケールへの変換は行われません。
モノクロ	<ul style="list-style-type: none">白黒 2 値（モノクロ）に変換して PDF 出力を行います。元文書がカラーの場合には、一旦グレースケールに減色した後に白黒 2 値に変換します。このオプションを選択する際には、「グレースケール減色法」、「モノクロ減色前のフィルタ」、「モノクロ減色法」、「モノクロ化の固定閾値」、「テキストとパスをモノクロ化する場合の固定閾値」のそれぞれ設定します。「PDF バージョン」タブ画面で、「PDF のバージョン」として「PDF/A」、または「PDF/X」が指定されている場合、モノクロへの変換は行われません。「透かし」タブ画面で、透かしの種類として「図」が、その際の画像ファイルとして「PDF ファイル」が指定されている場合、透かし部分のモノクロへの変換は行われません。

グレースケール減色法

カラーをグレースケールに減色する際に用いるアルゴリズムを指定します。

NTSC (初期値)	NTSC 係数による加重平均法
HDTV	HDTV 係数による加重平均と補正
RGB の平均	R (赤)、G (緑)、B (青) を足して 3 で割った単純平均

モノクロ減色前のフィルタ

モノクロ変換前に画像に対して行うノイズ除去方法のアルゴリズムを選択します。

なし (初期値)	フィルタ処理を行わない
メディアンフィルタ	周辺画素の中央値
ガウシアンフィルタ 3x3	フィルタサイズ 3×3 の重み付き平均
ガウシアンフィルタ 5x5	フィルタサイズ 5×5 の重み付き平均
ガウシアンフィルタ 7x7	フィルタサイズ 7×7 の重み付き平均

モノクロ減色法

グレースケールの元画像をモノクロ（白黒二値）に変換する場合のアルゴリズムを選択します。

固定閾値 (初期値)	元画像のすべての画素について、指定した閾値よりも明るい画素は白（明るさ「255」）に変換し、暗い画素は黒（明るさ「0」）に変換する。
判別分析法	画像の輝度ヒストグラムをある閾値で2つのクラスに分割したとき分離度という値が最大になる値を求め自動的に二値化を行う。

モノクロ化の固定閾値

「モノクロ減色法」の「固定閾値」の閾値を設定します。

設定可能な値の範囲： 0～255

初期値： 128

テキストとパスをモノクロ化する場合の固定閾値

テキストとパス（＝線や曲線など）をモノクロに変換する場合の閾値を設定します。指定した閾値よりも明るい場合は白（明るさ「255」）に変換し、暗い場合は黒（明るさ「0」）に変換します。

設定可能な値の範囲： 0～255

初期値： 128

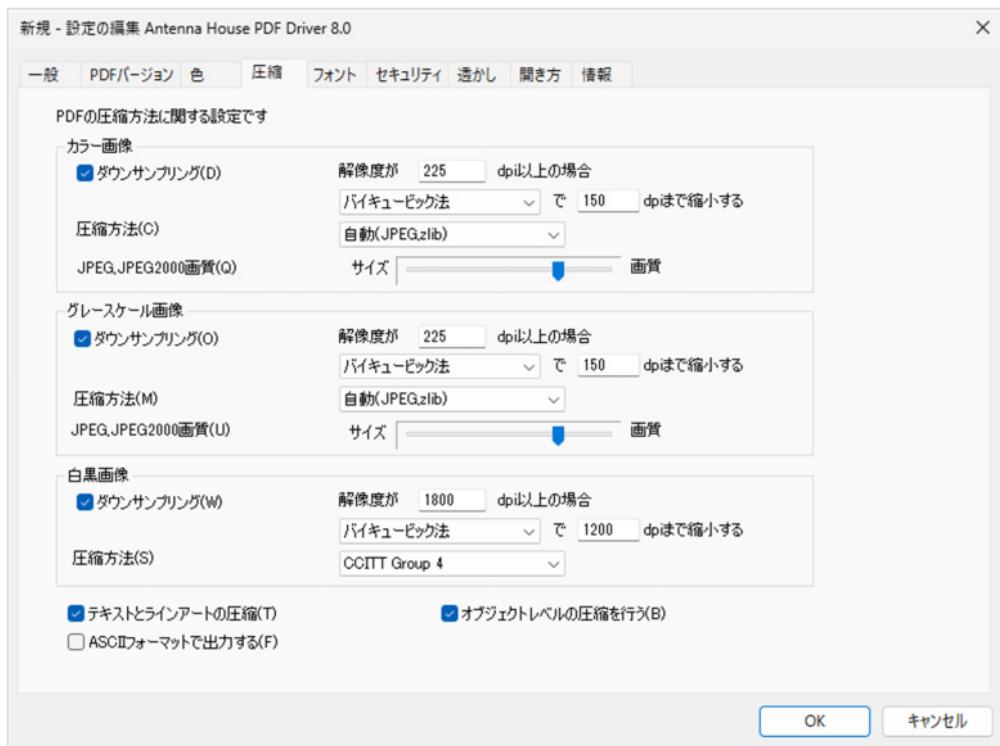
CMYK

RGB(0,0,0)を K=100%にする

この「PDF バージョン」タブ画面で、「PDF のバージョン」として PDF/A や PDF/X が指定されていて、その出力インテントの ICC プロファイルのカラー モデルが CMYK である場合、黒（RGB:0 0 0）を「K=100%」（CMYK:0 0 0 100）に置換して PDF ファイルを出力します。

この設定による変換が適用される対象は、テキストとパス（図形）です。画像はその対象となりません。画像は、出力インテントに指定された ICC プロファイルにしたがって変換されます。

圧縮



この画面を使って、PDF ファイル出力時の圧縮方法についての設定を行います。

ダウンサンプリング

以下のいずれかの方法で文書中にある指定した以上の解像度を持つカラー／グレースケール／白黒画像について、指定する解像度までダウンサンプリング（解像度変換）を行います。

バイリニア法	サンプル領域のピクセルを平均化し、領域全体を指定解像度の平均ピクセルカラーに置き換えます。
バイキュービック法	加重平均を用いてピクセルカラーを決定します。複雑な計算を行うため、時間を要しますが、情報の損失が少なく自然な画像が得られます。
ニアレストネイバー法	サンプル領域の中心のピクセルを選択し、領域全体を選択したカラーに置き換えます。ダウンサンプルよりも短時間で処理できますが、生成される画像はより粗いものになります。

圧縮方法

ページ上にある画像の圧縮方法を指定します。

カラーグレースケール画像

圧縮方法	説明
自動 (JPEG, zlib)	ページ上に存在するそれぞれの画像について、指定された画質で JPEG 圧縮と ZIP 圧縮の双方を行い、サイズが小さい方の圧縮方法を採用します。出力される PDF ファイルのサイズを小さくすることができますが、処理に時間を要します。
JPEG	指定された画質による JPEG 圧縮を行います。JPEG 圧縮は、写真など自然画向きの圧縮方法です。また、非可逆変換であるため、圧縮率を上げるほど画像の劣化が発生します。
zlib (ZIP)	ZLIB(ZIP)圧縮を行います。ZIP 圧縮は、Microsoft Office のオートシェイプ図形や画面スナップショット画像などインデックスカラー画像向きの圧縮形式です。また、可逆変換であるため、圧縮しても画像が劣化することはありません。
JPEG2000	指定された画質による JPEG2000 圧縮を行います。この方法は、出力する PDF のバージョンとして 1.5 以降を選択している場合に利用できます。JPEG 圧縮同様、この圧縮方法も非可逆変換です。JPEG 圧縮より複雑な処理を行うため JPEG 圧縮より時間を要しますが、JPEG 圧縮の場合よりも画像の劣化を抑えることが出来ます。 JPEG2000 による画像圧縮は、「PDF バージョン」タブ画面で PDF バージョンとして「PDF/X-4:2008」が選択されている場合には、選択することができません。
自動 (JPEG2000,zlib)	ページ上に存在するそれぞれの画像について、指定された画質で JPEG2000 圧縮と ZIP 圧縮の両方を行い、サイズが小さい方の圧縮方法を採用します。この方法は、出力する PDF のバージョンとして 1.5 以降を選択している場合に利用できます。JPEG2000 圧縮は、JPEG 圧縮より複雑な処理を行うため、自動 (JPEG) を指定した場合より更に時間を要します。

白黒画像

圧縮方法	説明
None	画像圧縮を行いません。
CCITT Group 3	CCITT Group 3 (G3 Fax) 圧縮を施します。
CCITT Group 4	CCITT Group 4(G4 Fax)圧縮を施します。
Run Length	Run Length (RLE) 圧縮を施します。
zlib(ZIP)	ZLIB (ZIP) 圧縮を施します。

テキストとラインアートの圧縮

PDF ファイル中のテキストやラインアート（線画）部分を ZIP 圧縮するか否かを設定します。通常、このオプションは選択した状態にします。

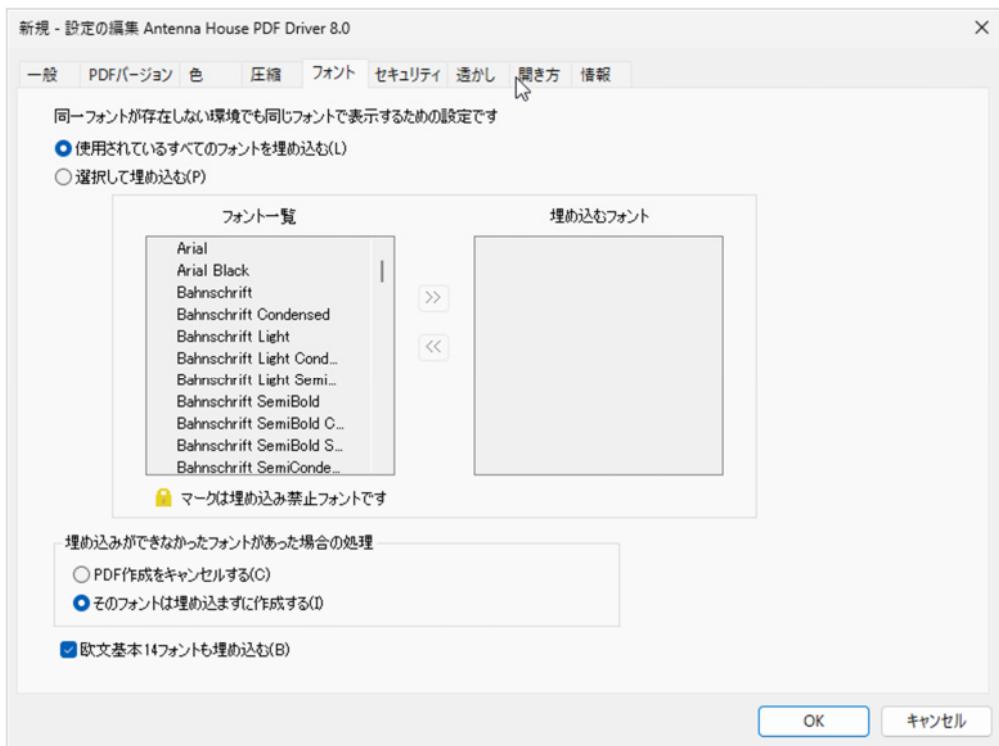
オブジェクトレベルの圧縮を行う

これは、出力する PDF のバージョンとして、1.5 以降を指定した場合に有効となるオプションです。PDF Ver.1.5 で用意された機能を利用して、よりファイルサイズを小さくすることができます。

ASCII フォーマットで出力する

PDF ファイル内の画像や圧縮されたテキストなど、PDF ファイル中のバイナリデータ部分を ASCII フォーマットの文字情報として出力します。出力されるファイルの内容をテキストエディタで確認できる反面、出力されるファイルサイズが大きくなります。通常、このオプションは、外した状態にしておきます。

フォント

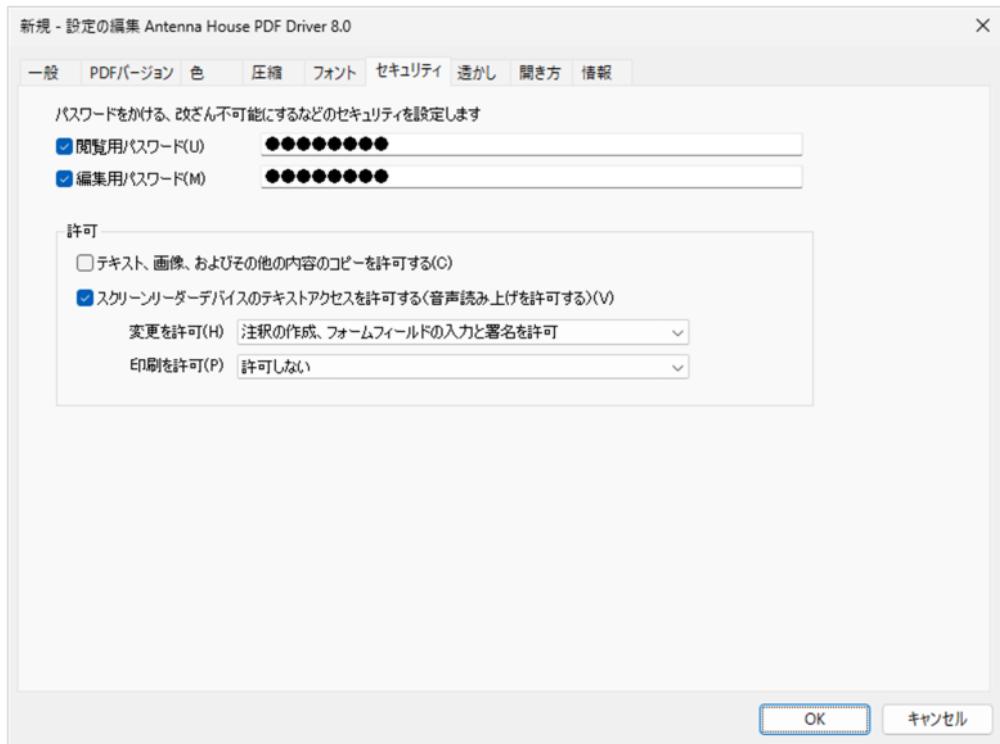


この画面を使って、Antenna House PDF Driver 8.0 が出力する PDF ファイルへのフォントの埋め込みに付いての設定を行います。

使用されているすべてのフォントを埋め込む	文書内で使用されている埋め込み可能なすべてのフォントを PDF ファイルに埋め込みます。
選択して埋め込む	選択した埋め込み可能なフォントだけを出力する PDF ファイルに埋め込みます。
フォント一覧	このリストにシステムにインストールされているすべてのフォントがリスト表示されます。フォント名の先頭に  が表示されているものは、埋め込みできないフォントであることを示しています。

埋め込むフォント	<p>出力される PDF ファイルに埋め込むフォントをリスト表示します。</p> <p>このリストにフォントを追加するには、「フォント一覧」リストにある対象となるフォントを選択した後、「>>」ボタンをクリックします。逆にリストから削除する場合には、「埋め込むフォント」リスト中の対象となるフォントを選択した後、「<<」ボタンをクリックします。</p>
埋め込みができないフォントがあった場合の処理	<p>PDF 作成をキャンセルする PDF ファイルの作成を中止します。</p> <p>そのフォントは埋め込まずに作成する 埋め込み可能なフォントだけを埋め込んで、PDF ファイルを作成します。</p>
欧文基本 14 フォントも埋め込む	<p>PDF には、フォントが埋め込まれていなくても、また閲覧環境にフォントがインストールされていなくても PDF ビューアで正しく表示される Type 1 フォント（欧文基本 14 フォント：Courier, Times, Helvetica, Symbol, Zapf Dingbats）があります。通常、これらのフォントについては、埋め込み指定がされていても埋め込まれませんが、他のフォントと同様に埋め込む必要がある場合には、このオプションを選択します。</p>

セキュリティ設定



この画面を使って、出力される PDF ファイルに設定されるパスワード／セキュリティオプションを設定します。

閲覧用パスワード（ユーザーパスワード）

PDF ファイルを開く時に必要なパスワードの設定を行います。パスワードを設定する際には、チェックボックス「閲覧用パスワード」にチェックマークを付けて行います。

注意

- 閲覧用パスワードには、半角英数字と記号からなる最大 32 文字の文字列を設定することができます。
- 閲覧用パスワードには、編集用パスワードと同じ文字列をパスワードとして設定することができません。

編集用パスワード（マスタパスワード）

PDF ファイルの編集や印刷を許可する範囲を設定するなどセキュリティ設定を変更する際に要求されるパスワードの設定を行います。パスワードを設定する際には、チェックボックス「編集用パスワード」にチェックマークを付けて行います。

注意

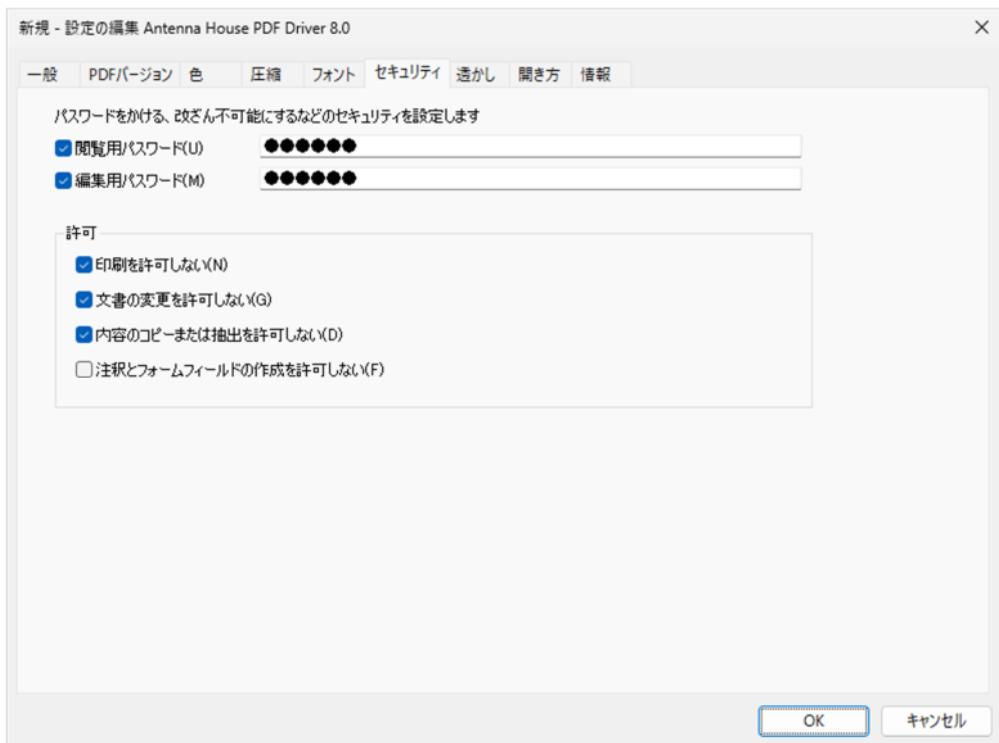
- ・ 編集用パスワードには、半角英数字と記号からなる最大 32 文字の文字列を設定することができます。
- ・ 編集用パスワードには、閲覧用パスワードと同じ文字列をパスワードとして設定することができません。

許可

このエリアに表示されるオプションを使ってセキュリティレベルに応じた権限を設定します。設定の詳細については、次項以降を参照してください。

出力する PDF のバージョンが PDF1.3 の場合の許可オプション

セキュリティ：出力される PDF のバージョンが PDF1.3 の場合



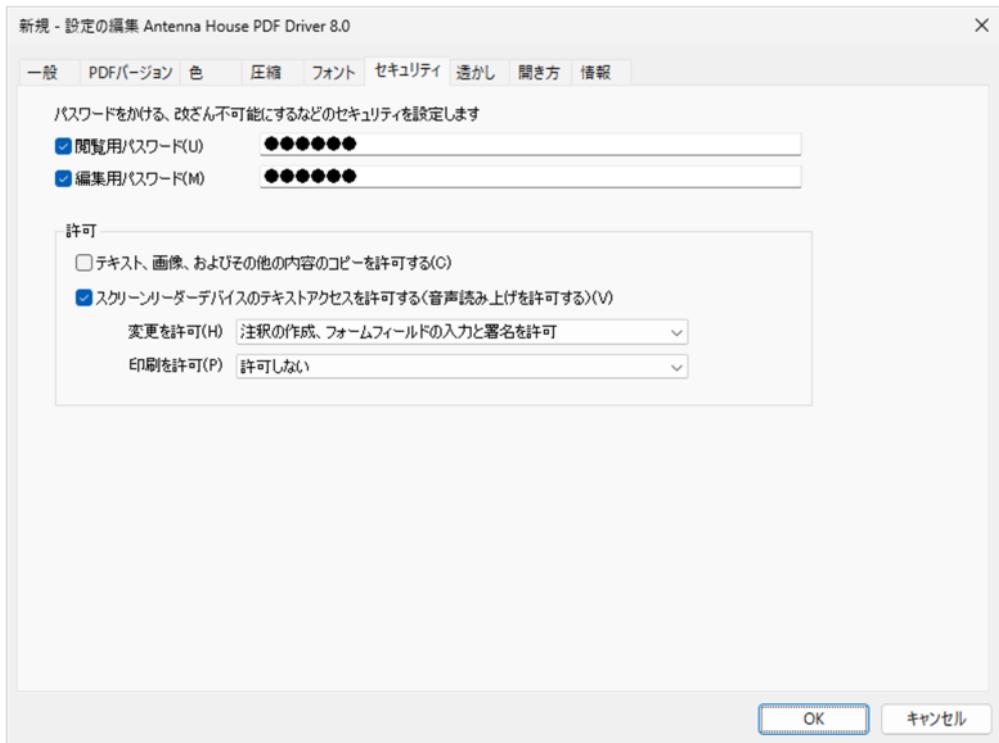
印刷を許可しない	このオプションを選択すると印刷することができなくなります。
文書の変更を許可しない	このオプションを選択するとしおりの追加／削除、リンクの設定、フォームフィールドの編集等、PDF ファイルを変更できなくなります。
内容のコピーまたは抽出を許可しない	このオプションを選択すると PDF ファイルから画像／テキストのクリップボードへのコピー／ファイルへの抽出ができなくなると同時にアクセシビリティ機能を利用できなくなります。

注釈とフォームフィールドの作成を許可しない

このオプションを選択すると PDF ファイルへの注釈の追加／変更、フォームフィールドの追加／変更ができなくなります。(フォームフィールドへの値の入力は可能です。)

出力する PDF のバージョンが PDF1.4 以降の場合の許可オプション

セキュリティ：出力される PDF のバージョンが PDF1.4 以降の場合



テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを許可する

このオプションを選択すると作成された PDF ファイルからのテキスト／画像の抽出／コピーを可能にします。

スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを許可する（音声読み上げを許可する）

このオプションを選択すると作成された PDF ファイル閲覧時のアクセシビリティ機能（スピーチ機能／表示調整機能／キーボードによるマウス代替機能等）を有効にします。

変更を許可

作成された PDF ファイルについて許可する編集操作を指定します。

許可しない	一切の変更を禁止します。(署名／フォームフィールドへの入力も行えません。)
フォームフィールドの入力と署名を許可	署名／フォームフィールドへの入力だけが行えます。
注釈の作成、フォームフィールドの入力と署名を許可	注釈の作成、署名／フォームフィールドへの入力だけが行えます。

ページの抽出を除くすべての操作を許可	ページの抽出と印刷以外の操作を行うことができます。
ページの挿入、削除、回転を許可	ページの挿入／削除／回転、しおり／サムネイルの作成を除いた変更を禁止します。
すべての操作を許可	すべての操作を許可します。

印刷を許可

作成された PDF ファイルを印刷する際の品質など、印刷に関わる制限を指定します。

許可しない	作成された PDF ファイルの印刷ができなくなります。
低解像度の印刷を許可	PDF ファイルを印刷する時の解像度が 150 dpi に制限されます。また、各ページがビットマップ画像として印刷されるため、印刷速度が遅くなります。
高解像度の印刷を許可	印刷時の制限が何も設定されないため、任意の解像度で印刷することができます。PostScript プリンタを利用する場合には、高品質のベクトル印刷を行うことができます。

NOTE

「PDF バージョン」タブ画面の「PDF のバージョン」で選択されている PDF のバージョン番号に応じて、出力される PDF ファイルのセキュリティの暗号化レベルは以下のように決定します。

PDF バージョン	暗号化レベル
PDF1.3	40bit RC4
PDF1.4/1.5	128bit RC4
PDF1.6	128bit AES
PDF1.7	256bit AES Revision 5
PDF2.0	256bit AES Revision 6

透かし

この画面を使って、作成する PDF ファイルの各ページ上に画像、またはテキストによる透かし（ウォーターマーク）を設定します。



なし

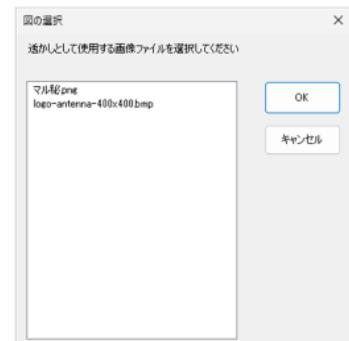
出力する PDF ファイルに透かしを設定しません。

図

あらかじめ Pictures フォルダに保存しておいた画像ファイル／PDF ファイルの先頭ページを透かしとして出力する PDF ファイルの各ページに設定します。透かしとして使用可能な画像ファイルの形式は、BMP/GIF/JPEG/PNG/TIFF です。Picture フォルダは、通常以下のパスに存在します。C:\Program Files\Antenna House\PDF Driver 8.0\Pictures

図の選択

このボタンをクリックすると、Pictures フォルダに保存されている透かし用画像を選択するために「図の選択」ダイアログを表示します。画像を選択するとそのファイル名がボタン右のフィールドに表示されます。



倍率

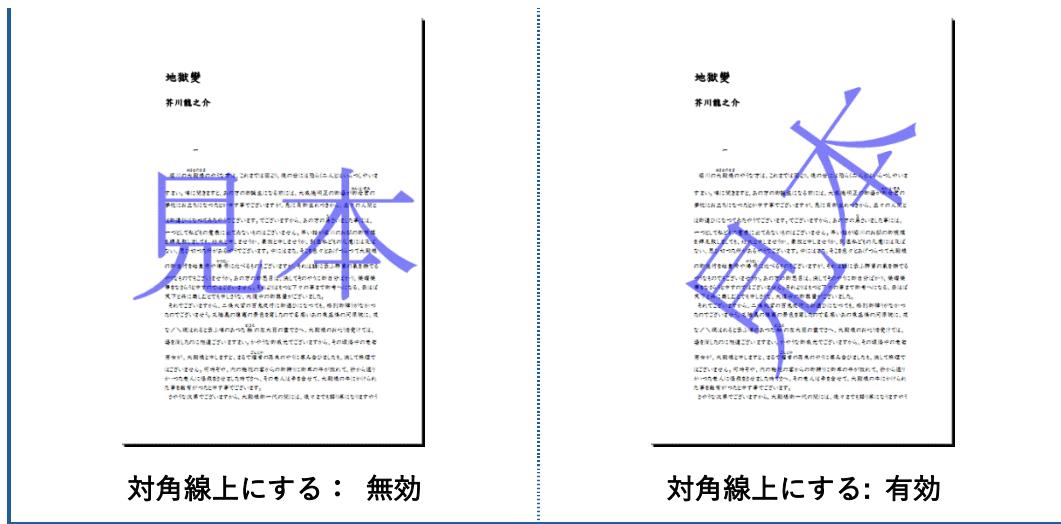
透かしとして設定する画像の拡大／縮小率を設定します。

自動	画像の幅、または高さをページの幅、または高さと一致する倍率に拡大／縮小して透かしとして設定します。
500%	500%に拡大した画像を透かしとして設定します。
200%	200%に拡大した画像を透かしとして設定します。
150%	150%に拡大した画像を透かしとして設定します。
100%	拡大／縮小をせず、そのままの画像を透かしとして設定します。
50%	50%に縮小した画像を透かしとして設定します。

テキスト

ラジオボタン右のコンボボックスに入力した文字列を透かしとして出力する PDF ファイルの各ページにフォント／文字の色／フォントサイズを指定して設定します。

フォント	透かしに使用するフォントを選択します。
サイズ	透かしに使用するフォントサイズをポイント単位で指定します。自動を指定した場合には、文字列全体が、ページの幅、または対角線の長さいっぱいに表示されるようなフォントサイズに設定されます。
対角線上にする	標準状態では、テキストによる透かしは、水平方向に配置されますが、ページの対角線に沿って透かしを設定する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。



※ チェックボックス「対角線上にする」は、レイアウト設定で、水平・垂直方向ともに中央に設定したときだけ設定することができます。

レイアウト

ページ上に配置する透かしの位置を設定します。

配置

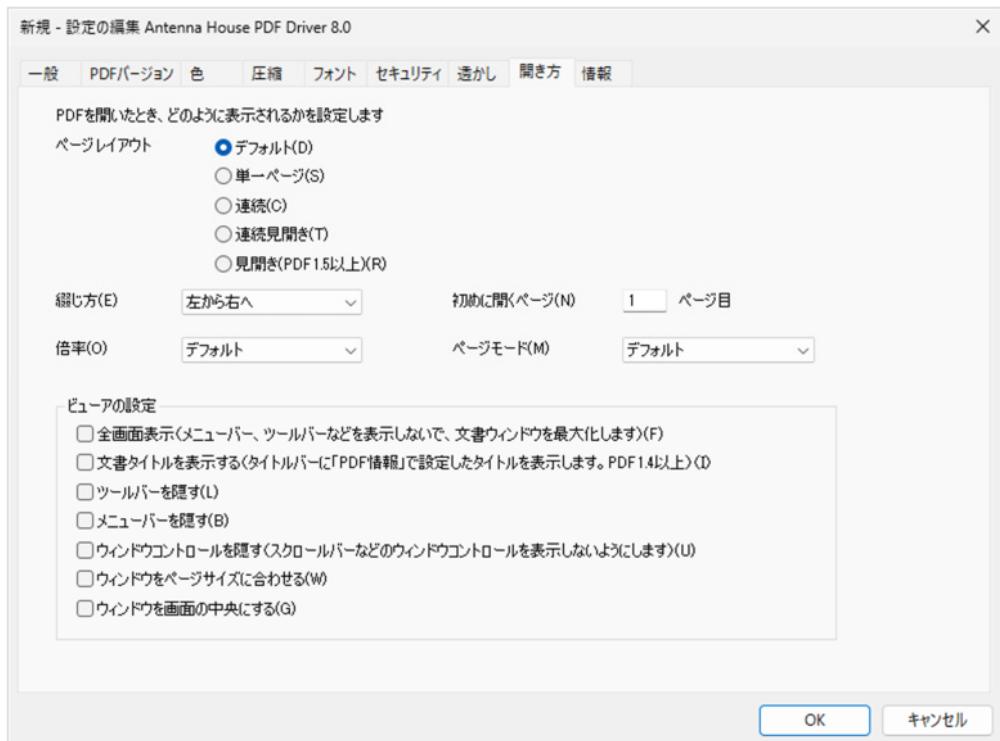
透かしとなるレイヤーをページの最前面に配置するか、最背面に配置するかを設定します。

透明度

透かしの透明度を設定します。このオプションを利用するには、「PDF バージョン」タブ画面で、PDF のバージョンとして、1.4 以降を選択している必要があります。

開き方

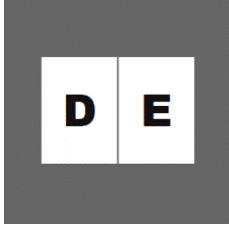
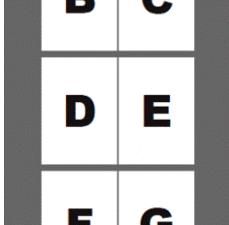
この画面を使って、出力された PDF ファイルを開いたときの表示状態の設定を行います。



ページレイアウト

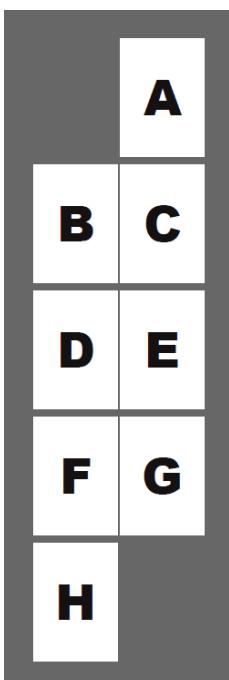
ページの表示方法を設定します。

デフォルト		PDF 閲覧ソフトの初期設定に従ったレイアウトでページを表示します。
単一		1 ページごと表示します。
連続		単一ページを連続表示します。

見開き		左右 2 ページを見開き表示します。
連続見開き		見開きページを連続表示します。

綴じ方

出力される PDF ファイルを右綴じにするか、左綴じにするかを設定します。

	右から左へ（右綴じ）		左から右へ（左綴じ）
--	------------	---	------------

はじめに開くページ

PDF 閲覧ソフトで開く時に最初に表示されるページを指定します。

倍率

PDF 閲覧ソフトで開く時のページの表示倍率を指定します。

デフォルト	PDF 閲覧ソフトの初期設定に従った倍率でページを表示します。
全体表示	ページ全体が PDF 閲覧ソフトのページ表示域に表示できる倍率で表示します。
幅に合わせる	ページの幅が PDF 閲覧ソフトのページ表示域に収まる倍率で表示します。
高さに合わせる	ページの高さが PDF 閲覧ソフトのページ表示域に収まる倍率で表示します。
100%	ページを実寸 (100%) で表示します。

ページモード

PDF 閲覧ソフトで開く時、しおり／サムネイルなど、画面に表示されるパネルを指定します。

デフォルト	PDF 閲覧ソフトの初期設定に従ったページモードを表示します。
ページのみ	ページだけを表示します
しおりパネルとページ	しおりパネルとページを表示します
ページパネルとページ	ページ (サムネイル) パネルとページを表示します。

ビューアの設定

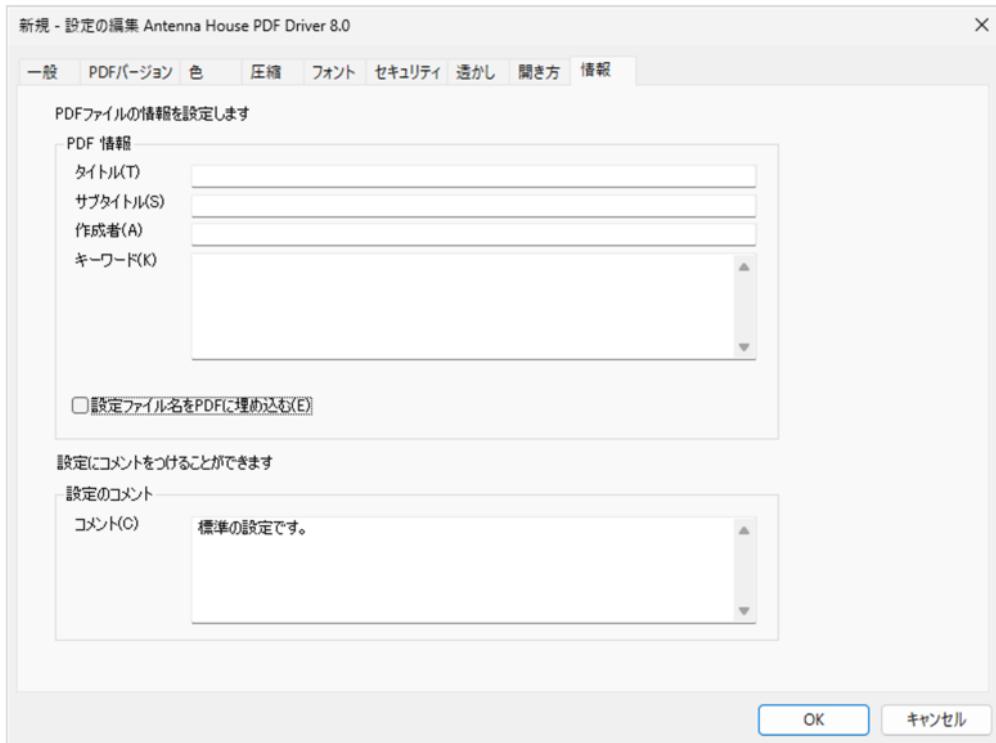
PDF 閲覧ソフトで開く時、PDF 閲覧ソフト (ビューア) のウィンドウなどの表示方法についての設定を行います。

全画面表示	ページを表示するウィンドウが最大化され、ページが画面全体に表示されます。この時、メニューバー、ツールバーおよびウィンドウコントロールは表示されません。
文書タイトルを表示する	ページを表示するウィンドウのタイトルバーに PDF ファイルの文書情報「タイトル」に記録されているタイトルが表示されます。このオプションが設定されていない場合には、「タイトル」の代わりに文書のファイル名が表示されます。
ツールバーを隠す	PDF 閲覧ソフトのツールバーを隠します。

メニューバーを隠す	PDF 閲覧ソフトのメニューバーを隠します。
ウィンドウコントロールを隠す	スクロールバーなどのウィンドウコントロールを隠します。
ウィンドウをページサイズに合わせる	開いたページに合わせてページを表示するウィンドウのサイズを調整します。
ウィンドウを画面の中央にする	ページを表示するウィンドウを画面の中央に配置します。

情報

この画面を使って出力される PDF ファイルに設定する文書情報（タイトル／サブタイトル／作成者／キーワード）、また、「設定」ダイアログの「一般」タブ画面で印刷設定を選択したときに「設定内容」フィールドの先頭に表示される選択した印刷設定についてのコメントを設定します。



PDF 情報	文書情報（タイトル／サブタイトル／作成者／キーワード）の項目のそれについて設定可能な文字数の上限は、半角英数字で 255 文字（2 バイト文字の場合は 127 文字）までです。これを超える場合、上限となる文字数以降を切り落とし保存します。
設定ファイル名を PDF に埋め込む	このチェックボックスにチェックマークがついている場合、文書情報のカスタム領域内に「AHPD_SettingFileName」という独自のキーで設定ファイル名が埋め込まれます。
設定のコメント	保存される印刷設定ファイルには、その設定内容などの説明を自由に設定することができます。設定するコメントの内容は、出力する PDF ファイルには影響を与えません。

